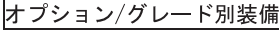
取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

PIXIS EPOCH

このたびは、トヨタ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は、ピクシス エポックの正しい取り扱いかたや、
お手入れの方法などについて説明しているほか、
車を操作するうえで必ず守っていただきたいこと、
また、万一のときの処置についても記載しています。
安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、
ご使用の前に必ずお読みください。

必読！ドライバーのみなさまへ

特に重要な事柄です。必ず読んでから操作、あるいは作業に取りかかってください。これらを守らないと思わぬけがや事故につながったり、車を損傷するおそれがあります。

安全についての表示マーク･その他の表示マーク

本文中に記載されているマークの意味は下記の通りです。

⚠警告	**ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。**
⚠注意	**ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。**
アドバイス	**機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。**
オプション/グレード別装備	**オプション、またはグレードなどにより、装備の有無の異なる項目です。**

ご愛車のために

- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、 車両型式やエンジン型式を確認したうえで操作を行ってください。 車両型式、エンジン型式は本書の「ご愛車に関するメモ」にあらかじめ記入しておくと便利です。
- 保証および点検･整備については、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますのでお読みください。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書を車に付けておいてください。
  - 車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
  - 本書は別冊の「メンテナンス ノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
  - ご不明な点は、ご購入先のトヨタ販売店（営業スタッフ）におたずねください。

ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、ネーム プレートをご覧ください。

ご 愛 車 の メ モ	
車名および型式	車名：
	型式：
車台番号	
エンジン型式	KF-　　型エンジン
総排気量	658cc
車体色（番号）	
トランスミッション	オートマチック トランスミッション

ネーム プレートは助手席側ドアを開けたところに貼り付けしてあります。

目　　　次

絵目次

外観

グレードの違い、注文装備も記載しています。

内装

グレードの違い、注文装備も記載しています。

インストルメント パネル

グレードの違い、注文装備も記載しています。

安全のためにぜひ守りましょう

必読！
ドライバーのみなさまへ

ご使用の前に、特に守っていただきたいこと、
知っておいていただきたいことをまとめています。

（灰色の枠）	警告に値する項目です
（白色の枠）	注意に値する項目です

走行する前に

お出かけの前に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

日常点検などをかかさず行ってください

安全で快適な運転をしていただくために、日常点検・定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。
点検・整備はメンテナンス ノートにしたがって実施してください。
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

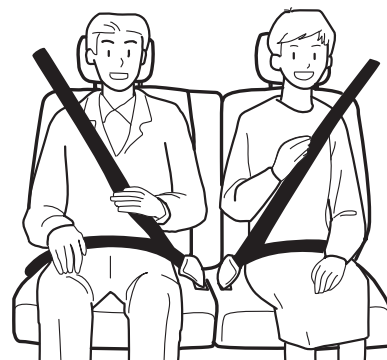
各部を正しく調整してください

シート、ミラー類の位置を正しく調整してください。

（シート→ 38 ページ）
（車体各部の調整→ 122 ページ）

シート ベルトはしっかりと着用してください

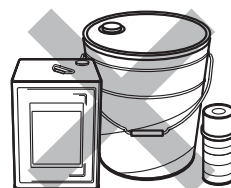
走行する前に必ず運転者、同乗者とも全員がシート ベルトを着用してください。
（リヤ シートでも必ずシート ベルトを着用してください。）
シート ベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。
必ず正しい着用方法を身に付けてください。

（正しい着用→ 45 ページ）

妊娠中の方もシート ベルトを着用してください

妊娠中の方も下記の要領でシート ベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シート ベルトの着用については、医師にご相談のうえ、注意事項を確認してください。

- 腰ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。腰ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。
- 肩ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用してください。肩ベルトを腹部にかけていると衝突したときなどに、腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。

危険物は持ち込まないでください

車内や荷室内には、ガソリン、灯油、シンナーなどの引火物の入った容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。

ペダル操作が確実に行える履き物を着用してください

安全な運転をしていただくために、ペダル操作が確実に行える履き物を着用してください。ペダル操作が確実に行えないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

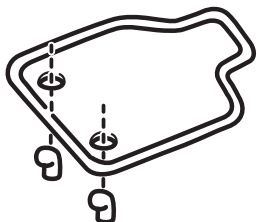
運転席足元に物を置かないでください

走行中に空缶などの動きやすい物を足元に置くと、ブレーキ ペダルの下に挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセル ペダルが戻らなくなるなどのおそれがあり危険です。

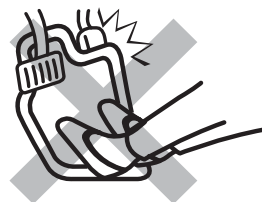
走行する前に

フロア マットは、この車（年式）専用の物をフロア カーペットの上にしっかりと固定して使用してください

運転席にフロア マットを敷くときは、下記のことをお守りください。お守りいただかないと、フロア マットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロア マットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロア マットを使用してください。
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。カーペットの穴は、トヨタ純正フロア マットのずれを防止するために使用する固定クリップ取り付け用です。固定フック（クリップ）の形状およびフロア マットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロア マット付属の取扱書をお読みください。

- 他のフロア マット類と重ねて使用しないでください。
- フロア マットを前後逆さまにしたり、裏返したりして使用しないでください。

運転する前に、下記のことを確認してください。

- フロア マットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行ってください。
- エンジンを停止状態にして、シフトレバーがⓅレンジの位置で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロア マットと干渉しないことを確認してください。

荷物を積み過ぎないでください

- 助手席やリヤ シートに荷物を積み重ねないでください。視界をさまたげたり、ブレーキをかけたときや旋回しているときに荷物が飛び出して体にあたるなどして、思わぬけがや事故につながるおそれがあり危険です。
- 重い荷物を積み過ぎないでください。車両や走行に悪い影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

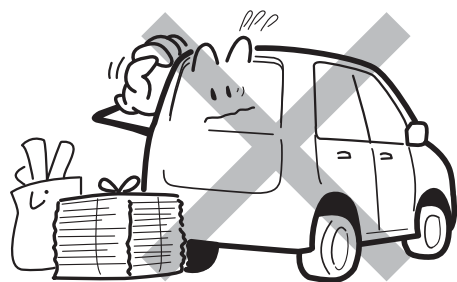
タイヤ空気圧の点検をしてください

タイヤ空気圧の点検は法的に義務付けられています。
タイヤ空気圧は、最低でも月に１回は点検を行ってください。
タイヤ空気圧が極端に低い状態のまま走行すると、偏摩耗や早期摩耗します。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤの点検については、別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

エンジンをかけるときは

エンジンをかけるときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

車両後方に可燃物がないことを確認してください

エンジン始動前に、車両後方や排気管の周りに可燃物（枯草・紙・木材など）がないか確認してください。可燃物があると排気管や排気ガスが高温になり、火災になるおそれがあり危険です。

オートマチック車の場合に注意していただきたいこと

駐車ブレーキをかけた状態でシフト レバーを必ずⓅレンジにして、ブレーキ ペダルをしっかり踏みエンジンを始動してください。

（エンジンのかけかた→ 173 ページ）

排気ガスには気を付けてください

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

換気の悪い場所（車庫など、周囲が閉鎖された場所）でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不十分になり、一酸化炭素中毒事故を起こす危険があります。

排気管はときどき点検してください。排気管の異常（腐食による穴や亀裂など）または排気音の異常などに気付いたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。そのまま走行すると排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。

車内に排気ガスが侵入してきたと感じたらすぐに換気をし、車内に新鮮な空気を入れてください。また、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

走行しているときは

走行しているときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

走行中はエンジンを止めないでください

走行中にエンジンを止めると、下記のような現象が起こるおそれがあります。

- ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるため、ブレーキの効きが悪くなり、事故につながるおそれがあり危険です。
- 各警告灯が作用しなくなります。
- ハンドル操作が重くなります。
- 触媒装置を損傷するおそれがあります。

万一、車が止まらなくなったときの非常時は、車両の緊急停止方法にしたがってください。

（車両を緊急停止するには→ 294 ページ）

下り坂ではエンジン ブレーキを併用してください

長い下り坂や急な下り坂をⒹレンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。
このようなときにフット ブレーキに頼ると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなり危険です。路面状態やスピードに応じてシフト レバーをⓈレンジまたは、Ⓑレンジに入れてエンジン ブレーキを併用しましょう。
その際には、急激なエンジン ブレーキ（シフト レバー操作）を避けてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。
また、ぬれた路面や、積雪路、凍結路などのスリップしやすい路面では、十分速度を落としてエンジン ブレーキを使用してください。

エンジン ブレーキ

エンジン ブレーキとは、走行中アクセル ペダルから足を離したときにかかるブレーキのことです。低速ギヤになるほどよく効きます。

走行しているときは

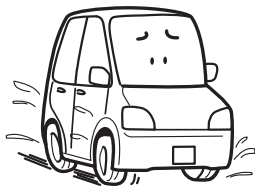
雨、風の強い日には走行に注意してください

雨や風の強い日は、スピードを控え目にしましょう。特に橋や土手の上、トンネルの出口、山の切通しの部分など、横風の発生しやすい場所では、ハンドルをしっかり持ち、スピードを落として走行してください。

冠水した道路を走行しないでください

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。
万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

洗車後や水たまりを走行したあとはブレーキの効きを確認してください

- ブレーキ パッドがぬれていると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキ ペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

スタック（立ち往生）などしたときにはタイヤを高速で回転させないでください

タイヤのバースト（破裂）、トランスミッションなどの損傷による思わぬ事故につながるおそれがあります。

（スタック（立ち往生）したとき
→ 254 ページ）

高速道路を走行するときに注意していただきたいこと

- 燃料、冷却水、エンジン オイルの量、タイヤの空気圧、摩耗状態などの点検は特に念入りに行ってください。
- 高速での急ブレーキは特に危険です。十分な車間距離を取って走行してください。
- 法定速度を守って走行してください。

正しいシート位置で走行してください

シートを倒した状態で人を乗せたまま走行しないでください。
また、リヤ シートの背もたれを前倒しした状態で荷室に人を乗せての走行もしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
人を乗せて走行するときは必ず通常のシート位置で走行してください。

（シート→ 38 ページ）

ブレーキ ペダルに足をのせたまま走行しないでください

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

ハンドルの中からの操作をしないでください

走行中にはハンドルの中に手を入れて、スイッチなどの操作をしないでください。ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

「急」の付く運転はしないでください

急激なハンドル操作、急発進、急加速、急ブレーキや急激なエンジン ブレーキなど「急」の付く運転はさけてください。

後退するときは子供や障害物に気を付けてください

ルーム ミラー、ドア ミラーなどでは確認しにくい死角があります。安全確認をしながらゆっくり後退してください。

窓から手や顔などを出さないでください

窓から身を乗り出したり、手や顔を絶対に出さないでください。思わぬけがをするおそれがあります。

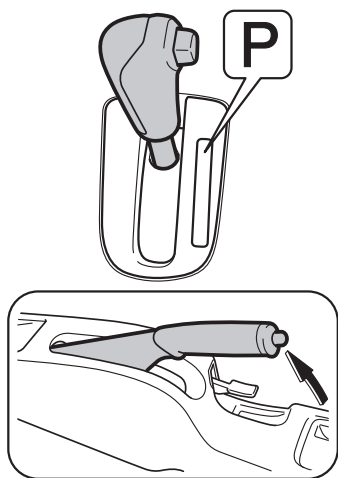
駐停車するときは

駐停車するときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

長時間駐車するときに注意していただきたいこと

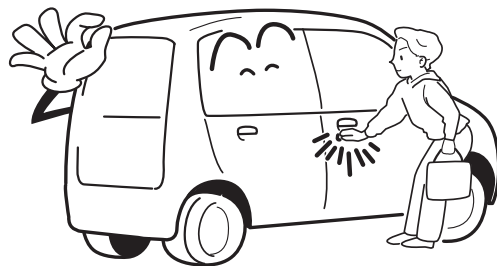
エンジンを必ず止めて駐車してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐停車のときは駐車ブレーキをかけてください

駐停車するときは、必ず駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをⓅレンジに入れます。坂道で駐車するときは、さらに輪止めを置いて駐車すると安全です。

燃えやすい物のそばに車を止めないでください

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物（枯草・紙・木材など）があると、火災になるおそれがあり危険です。車の後方に可燃物があるときは、車両後端を30cm以上離して止めてください。
隙間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあり危険です。また、可燃物（枯草・紙・木材など）の上で走行したり、車を止めたりしないでください。

車から離れるときに注意していただきたいこと

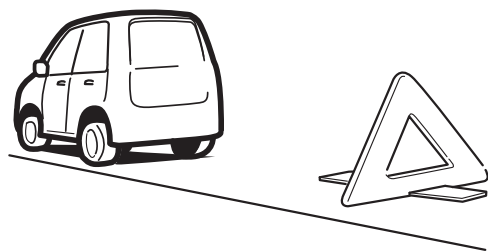
車から離れるときは、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、必ずドアを施錠してください。
車が動き出したり、車両盗難、貴重品盗難のおそれがあります。
また、お子さまのみを車内に残して車を離れないでください。炎天下での車内の温度は、想像以上に高くなり危険です。

仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

エンジンがかかった状態のままで仮眠すると、無意識にシフト レバーを動かしたり、アクセル ペダルを踏み込んだりして、車の不意な発進やエンジン過熱による火災など、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

また、排気管が損傷していた場合、風通しの良くない所や、風向きによっては排気ガスの侵入により、一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。

高速道路で停車するときに注意していただきたいこと

高速道路で、故障などのためやむを得ず停車するときは道路の端によせ、必ず停止表示板（停止表示灯）を置いてください。

万一のために停止表示板（停止表示灯）は車に常備しましょう。高速道路では停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務付けられています。

高温になっている場所には触れないでください

- 荷物の積み降ろし時などに、手や足がマフラーに触れないようにしてください。エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- タイヤ交換時などに、ディスク ホイールやブレーキ回りに触れないようにしてください。走行後のディスク ホイールやブレーキ回りは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

車が雪でおおわれたときに注意していただきたいこと

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

安全な燃料給油のために

**セルフ ガソリン スタンドなどで、お客様自身で燃料給油する場合に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいこと、特に注意していただきたいことをまとめています。
よくお読みになり、安全に給油を行ってください。**

必ず指定燃料をご使用ください

必ず、無鉛レギュラー ガソリン、または無鉛プレミアム ガソリンを使用してください。

給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。

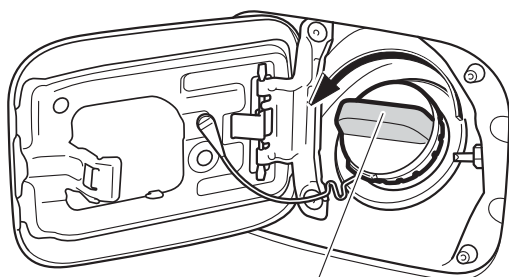
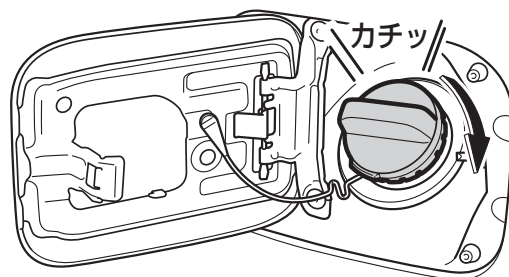
指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

燃料給油時には、必ず下記のことをお守りください

燃料は引火しやすいため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。必ず下記のことをお守りください。

- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど、火気を近付けないでください。

- フューエル キャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。
  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で引火するなどして、やけどのおそれがあり危険です。

- 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
- フューエル　キャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方お一人で行ってください。
- フューエル　キャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。

- フューエル　キャップを少しゆるめたときに「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
- 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布などでふき取ってください。
- こぼれた燃料が車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したままで放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。
- 給油口にほかの人を近付けないでください。
- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油機によっては、早期にオート　ストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリン　スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
- 給油終了後、フューエル　キャップを閉める場合「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。

- 純正品のフューエル　キャップ（指定）以外は使用しないでください。
- その他、ガソリン　スタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

燃料の気化ガスを吸わないようにしてください

燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、ご注意ください。

SRSエアバッグについて

SRSエアバッグのページも併せてお読みください。

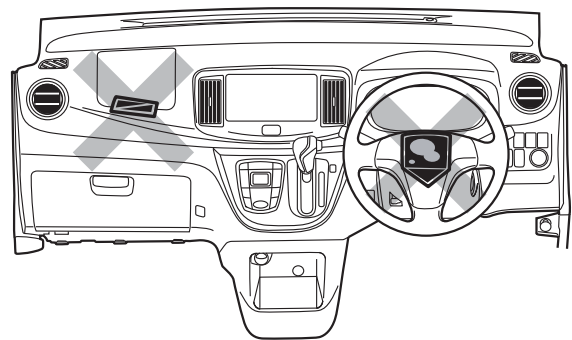
シート ベルトを着用してください

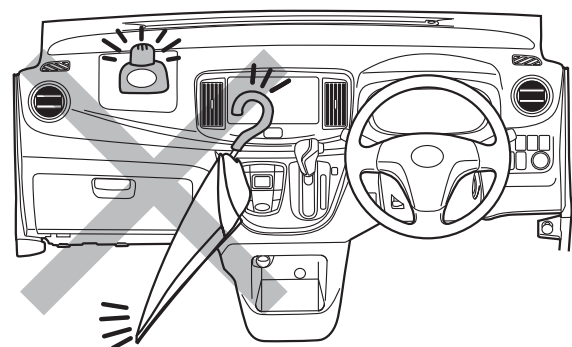
SRSエアバッグの効果を発揮させるため、必ずシート ベルトと併用してください。
SRSエアバッグはシート ベルトを補助するための装置でシート ベルトの代わりではありません。
いざというとき効果を発揮しないばかりでなく、重大な事故につながるおそれがあります。

修理、分解、取り外しをしないでください

修理、分解、取り外しなどをお客様自身で行わないでください。修理の際は、最寄りのトヨタ販売店にご連絡ください。

パッド部、インストルメント パネルにステッカーなどを貼らないでください

パッド部、インストルメント パネルにステッカーを貼ったりカバーでおおうと、いざというときSRSエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。

インストルメント パネルに物を置かないでください

インストルメント パネルの上に芳香剤など物を置いたり傘を立てかけたりしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で飛ばされたり、SRSエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。

走行中は正しいシート位置に座ってください

シートの前端に座ったり、ハンドルに近付きすぎたりしないでください。お子さまをインストルメント パネルの前に立たせたりしないでください。
また、インストルメント パネルにもたれかからないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRSサイド エアバッグ装着車について

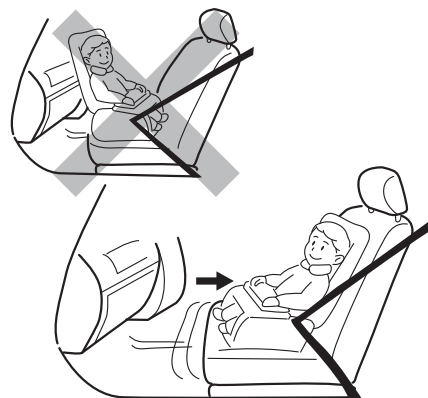
SRSサイド エアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがありますので、下記のことを守ってください。

- ドア近辺にもたれかからないでください。
- ドアやその周辺にカップ ホルダーなどを取り付けないでください。
- フロント シート側面のSRSサイド エアバッグ展開部をおおうとSRSサイド エアバッグが正常に作動しないおそれがありますので、フロント シートにSRSサイド エアバッグ専用のトヨタ純正のシート カバー以外は取り付けないでください。

（SRSサイド エアバッグ→ 69 ページ）

チャイルド シートは正しく取り付けてください

助手席にベビー シートを取り付けたり、チャイルド シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。
やむを得ず助手席にチャイルド シートを取り付けるときはSRSエアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
なお、取り付け可否については、必ずチャイルド シートの適用条件をご確認ください。

（SRSエアバッグ→ 63 ページ）

オートマチック車について

オートマチック車の運転のページも併せてお読みください。

オートマチック車の特性や操作上で注意していただきたいこと

オートマチック車には、いくつかの特性があります。思わぬ事故につながるおそれがありますので、正しく理解し、操作する習慣を身に付けてください。

クリープ現象

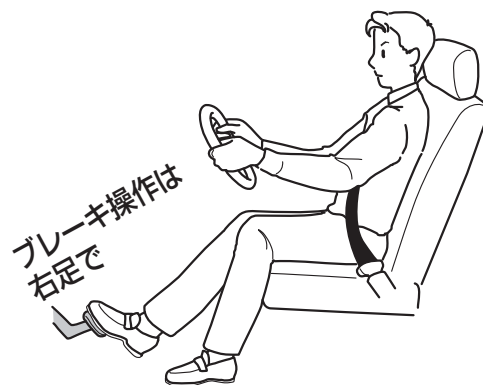
エンジンがかかっているとき、シフト レバーがⓅ、Ⓝレンジ以外の位置では、動力がつながった状態になり、アクセル ペダルを踏まなくてもゆっくりと車が動き出します。
停車中は平坦路であっても車が動かないようにブレーキ ペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

エンジンをかける前にペダルの位置を確認してください

ペダルの踏み間違えがないように、右足でアクセル ペダルおよびブレーキ ペダルの位置を確認し、必ずシフト レバーがⓅレンジの位置になっていることを確認してください。

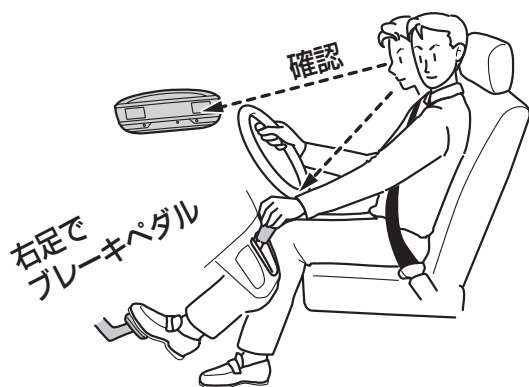
ブレーキ ペダルは右足で操作してください

ブレーキ ペダルはアクセル ペダルと同じ右足で操作する習慣を身に付けてください。左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

オートマチック車について

スタートするときはブレーキ ペダルを踏んだままシフト レバーを操作してください

シフト レバーがどの位置にあるかをシフト レバーまたはメーター内のインジケーターを必ず目で見て確認し、必ず右足でブレーキ ペダルをしっかりと踏んだままシフト レバーを操作してください。特にエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるためよりしっかりとブレーキ ペダルを踏んでください。

また、アクセル ペダルを踏んでのシフト レバー操作はしないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

（運転のしかた→ 180 ページ）

走行中はシフト レバーをⓃレンジの位置に入れないでください

走行中はシフト レバーをⓃレンジに入れると、エンジン ブレーキが全く効かず思わぬ事故の原因となります。

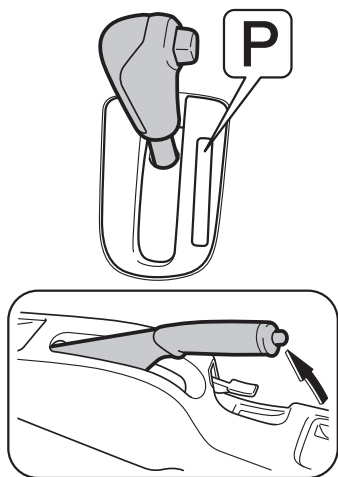
また、下り坂などでは必ず路面状態やスピードに応じてシフト レバーをⓈレンジまたは、Ⓑレンジに入れてエンジン ブレーキを使用してください。ブレーキ ペダルを踏み続けることはやめてください。

坂道などで注意していただきたいこと

坂道などでは、シフト レバーをⒹ、Ⓢレンジまたは Ⓑレンジに入れたまま惰性で後退したり、Ⓡレンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

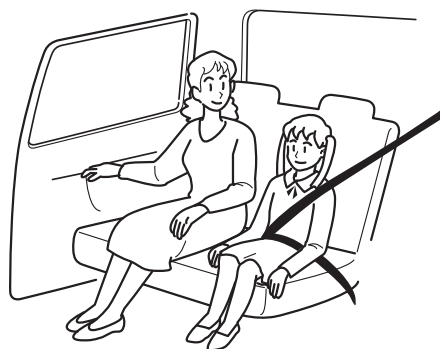
オートマチック車について

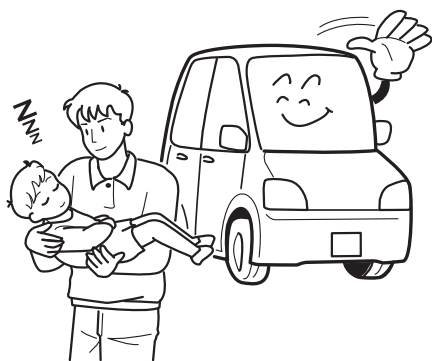
駐停車するときは

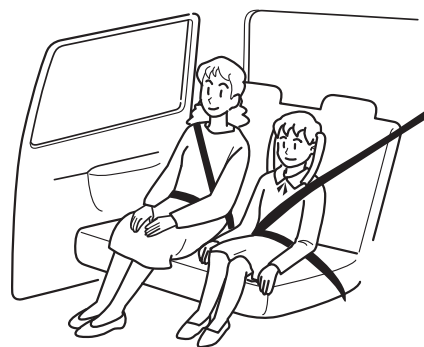
駐停車するときは、必ずシフト レバーを🅿レンジの位置にし、しっかりと駐車ブレーキをかけてください。
また、車が完全に停止するまでシフト レバーを🅿レンジには入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お子さまを乗せるときは

ドアの開閉は、大人が注意しながら操作してください

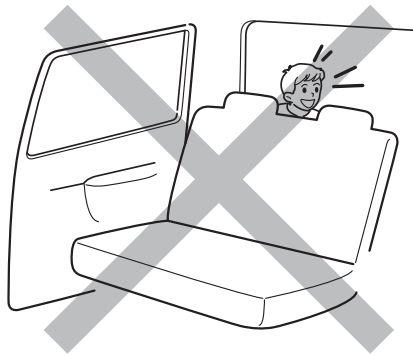
ドアを閉めるときなど、特にお子さまの手や足を挟まないよう注意しましょう。
開閉、施錠は大人が行い、安全のためにもチャイルド セーフティを使用してください。

（車体各部の開閉→ 84 ページ）

車を離れるときはお子さまも一緒に離れてください

お子さまのいたずらによる車の発進、火災など思わぬ事故が起こるおそれがあり危険です。また、炎天下での車内の温度は想像以上に高くなり、危険です。
必ずお子さまと一緒に車を離れてください。

お子さまは大人と一緒に後部座席にお座りください

助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、万一のとき、お子さまがインストルメント パネルに頭をぶつけたり、放り出されるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

お子さまを荷室に乗せたり、遊ばせないでください

荷室は、シートの状態にかかわらず人が乗る構造になっていないため、絶対にお子さまを乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、停車中であってもお子さまを荷室で遊ばせないでください。

お子さまにもシート ベルトを着用させてください

- お子さまにも必ずシート ベルトを着用させてください。急ブレーキ時など体が固定されず大変危険です。
また、お子さまをひざに抱いて走行しないでください。ひざの上でお子さまを抱いていても、衝突したときなど十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート ベルトが首やあごに当たる場合や腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルド シート、ジュニア シートを使用してください。
通常のシート ベルトでは衝突のとき首などに強い圧迫を受け、けがをするおそれがあり危険です。
また、ひとり座りのできない小さなお子さまはベビー シートを使用してください。
- ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートは、お子さまの年齢や体格に合わせて選んでください。

（チャイルド シート→ 50 ページ）

- ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートを取り付けたときは、確実に取り付けられていることを確認してください。取り付け要領は、それぞれのシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。
- お子さまを乗せていないときでもベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートは、しっかりとシートに取り付けるか、荷室へ収納してください。
  シートから取り外した状態で室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員や物などに当たるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リヤ シートの左右席に、ISO* FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカー対応のチャイルド シートを取り付けることができます。

（チャイルド シートの固定のしかた → 57 ページ）

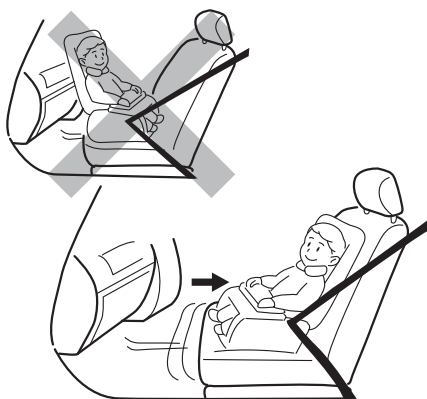
シート ベルトでお子さまを遊ばせないでください

お子さまをシート ベルトで遊ばせないでください。万一シート ベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
誤ってそのような状態になってしまい、シート ベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシート ベルトを切断してください。

* ISOはInternational Organization for Standardization（国際標準化機構）の略

お子さまを乗せるときは

チャイルド シートは正しく取り付けてください

助手席にベビー シートを取り付けたり、チャイルド シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。
やむを得ず助手席にチャイルド シートを取り付けるときはSRSエアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
なお、取り付け可否については、必ずチャイルド シートの適用条件をご確認ください。

パワー ウインドはお子さまに操作させないでください

パワー ウインドは大変強い力で開閉しますので、開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
パワー ウインドON-OFFスイッチを“OFF”にすると、運転席ウインド ガラス以外は開閉できなくなります。お子さまを乗せているときは、パワー ウインドON-OFFスイッチを“OFF”にしてください。

お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう

走行中に限らず、お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう。思わぬけがをするおそれがあります。

お車を長持ちさせるには

点検整備を行いましょう

車は日頃の管理が大切です。安全、快適にご使用いただくため、必ず実施してください。

- 日常点検
- 新車時点検
- 定期点検
- 定期交換部品の交換整備

これらの点検整備は法令で定められているものと、トヨタが推奨するものに基づいています。
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

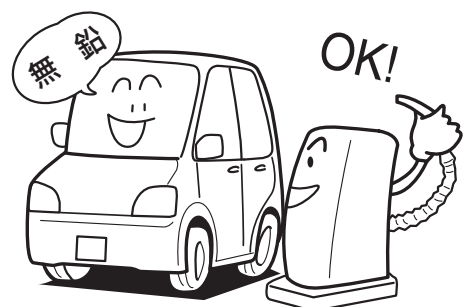
海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは

海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路などを走行したあとは、早めに洗車をしてください。特に車体の下回り、足回りは念入りに洗車してください。洗車をせずに放置すると腐食の原因となります。
腐食が進行すると、ブレーキや燃料、オイル、エアコンなどの配管類からの液漏れ、ガス漏れにつながるおそれがありますので、早めの洗車とともに定期的な点検整備を実施してください。

エンジン冷却水温が低い間は、エンジンに負担のかかる運転をさけてください

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をさけた運転でエンジンを暖機させてください。暖機不足の状態で、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をすると、エンジンに悪い影響をあたえたり、触媒装置の損傷の原因になるおそれがあります。
- 暖機は水温表示灯が消灯すれば十分です。

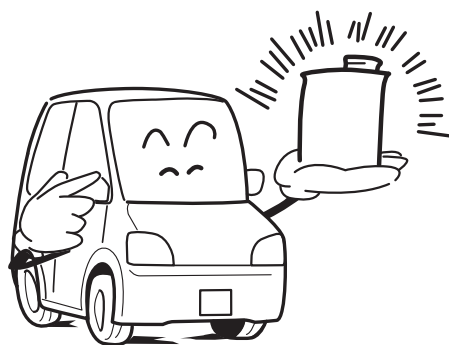
無鉛ガソリンのみ使用してください

必ず、無鉛レギュラー ガソリン、または無鉛プレミアム ガソリンを使用してください。
給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

お車を長持ちさせるには

車の改造や自己流の調整はしないでください

- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。正常な性能を発揮できなかったり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- ガラス面に、着色フィルムやステッカーなどを貼り付けないでください。運転のさまたげになり危険です。特にフロント ガラスおよびフロント ドア左右のガラスへの貼り付けは法令で禁止されています。
- タイヤを交換するときは、指定以外の物を装着しないでください。また、ホイール、ホイール取り付けナットを交換するときは、この車専用以外の物を装着しないでください。性能や機能に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 無線機やトヨタ純正部品以外の電装品などの取り付け、取り扱い方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店にご相談ください。
- バッテリー端子にトヨタ純正部品以外の電装品やアース線を直接つなげないでください。バッテリーあがりや火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お客様自身でのハンドルの取り外しはしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと誤作動につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

純正部品を使いましょう

部品を交換する場合は「トヨタ純正部品」のご使用をおすすめします。

こんなときは

警告灯が点灯、点滅したとき

警告灯類が異常を知らせたとき、そのまま走行すると危険な場合があります。安全な場所に停車し、正しい処置を行ってください。

（警告灯→ 145 ページ）

オーバー ヒートしたとき

水温警告灯が赤色に点滅・点灯して、警告ブザーが鳴ったときは、オーバー ヒートが考えられます。そのときボンネットから蒸気が出ている場合は、絶対にボンネットを開けないでください。
また、あわててラジエーター キャップを外さないでください。熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

（オーバー ヒートの処置→ 270 ページ）

エンストしたとき

エンストしたときは落ち着いて操作してください。
ブレーキの倍力装置やパワー ステアリング装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れてハンドルやブレーキを操作してください。

パンクしたとき

走行中にパンクやバースト（破裂）をしたときは、ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

（タイヤ パンク応急修理セット
→ 260 ページ）
（タイヤ交換→ 304 ページ）

床下に強い衝撃を感じたとき

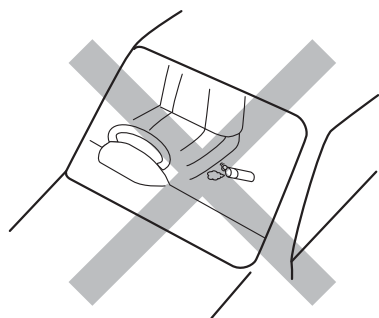
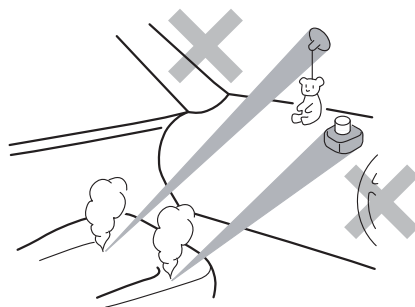
車体の床下に強い衝撃を感じたときは、すぐに安全な場所に車を停車し、下回りを点検してください。
ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などが見つかった場合はそのまま運転すると思わぬ事故につながるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

いつもと違うとき

地面に油や液の漏れたあとが残っているときや、異臭、異音、振動などに気付いたときは、車に異常のおそれがあります。このようなときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

こんなときは

車両の火災につながるおそれがあるため、下記の点に注意をしてください

- 車内（特にインストルメント パネルの上など）に、ライターなどの発火物や炭酸飲料を置かないでください。車内が高温になり火災や爆発につながるおそれがあり危険です。
- ライターを車内（グローブ ボックス内など）に放置したままにしないでください。荷物を押し込んだときや、シートを動かしたときに、ライターの操作部が誤作動し、火災になるおそれがあり危険です。

- ウインド ガラスには吸盤を付けないでください。また、インストルメント パネルの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。

- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインド ガラスを開けたまま放置しないでください。ドアやウインド ガラスを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。
- エンジン始動前にエンジン ルームに可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジン ルームに小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。
  また、走行中にエンジン ルームからこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

こんな点にも注意をしてください

- 炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを車内に放置したり、小物入れなどに入れたままにしないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレーム、耐熱性の低い物は、変形・ひび割れを起こすことがあります。
- 車内に飲み物をこぼしたり、雨水などがかからないよう注意してください。
インストルメント　パネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
万一、飲み物、雨水などがかかった場合は、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。
- インストルメント　パネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行時に動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者はハンズ　フリー以外の自動車電話や携帯電話などを走行中に使用しないでください。電話をかけるときや電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
ハンズ　フリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が使用するときは、安全な場所に停車してから使用してください。
- 運転者は走行中、テレビを見たり、カー　ナビゲーションを操作しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リヤ　シートの調整および収納状態から元に戻したときは必ずロックがかかったことを確認してください。ロックがかかっていないと、急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、荷室内の物が飛び出すなど、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド　パターン（溝模様）の物を装着してください。

車止めなどに注意をしてください

下記のような場合には、スポイラー、大型バンパーなどを損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある場所の通過

安全装備

車を運転するうえで乗員の安全を保護するための装備について説明しています。

■ シート

■ シート ベルト

■ お子さま専用シート

■ SRSエアバッグ

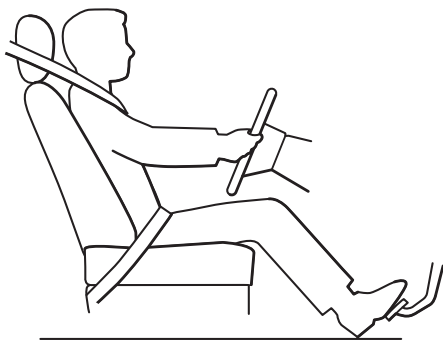
■ ABS

■ VSC&TRC

シート

正しい運転姿勢

安全な運転操作を行うため、正しい運転姿勢が取れるように、下記のことに注意してシートを調整してください。

- ペダル類が十分に踏み込めること
- 背もたれから背中を離すことなく、ハンドル操作ができること
- シート ベルトが正しく着用できること
- ヘッド レスト中央の高さが耳の後方になること

⚠警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対にしないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを必要以上に倒して走行しないでください。シート ベルトの性能が発揮されません。正しい運転姿勢を取りましょう。
- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい姿勢が取れないばかりか、衝突したときシート ベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  (シート ベルト→ 45 ページ)
- シートを調整するときは同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートの調整は、指や手を挟まないように十分に注意して行ってください。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟みけがをするおそれがあります。

フロント シート

⚠警告

SRSサイド エアバッグ装着車の場合

- フロント シートに専用のトヨタ純正用品以外を取り付けないでください。
  フロント シート側面のSRSサイド エアバッグ展開部をおおうとSRSサイド エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
  また、トヨタ純正シート カバー使用時には付属の取扱説明書をよく読んで正しく取り付けてください。
- フロント シート表皮の張り替えやフロント シートの取り付け、取り外し、修理などを行わないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。必ずトヨタ販売店にご相談ください。

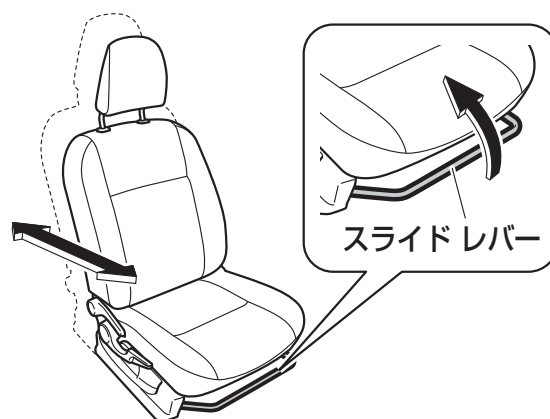
シート スライド調整

▼ 調整を行う前に

⚠警告

- スライド調整は必ず運転前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

▼ 調整方法

シート下のスライド レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。

リクライニング調整

▼ 調整を行う前に

⚠警告

- リクライニング調整は必ず運転前に行い、調整後は背もたれを軽くゆすり、背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと走行中に背もたれが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

▼ 調整方法

リクライニング レバーを引き上げながら背もたれの角度を調整します。

⚠警告

- リクライニング レバーを引き上げるときは背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。

▼ 背もたれを元に戻すときは

⚠警告

- 背もたれが急に戻るおそれがありますので、必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。

ヘッド レストの調整

▼ 調整を行う前に

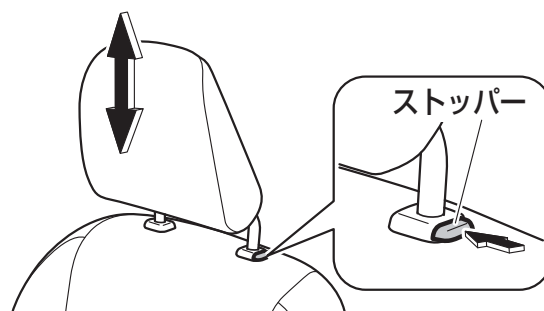
⚠警告

- ヘッド レストを外した状態で走行しないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、ヘッド レスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- ヘッド レストを前後逆に取り付けないでください。いざというとき、効果を発揮しません。

▼ 調整方法

そのまま持ち上げて調整します。

下げるときはストッパーを押しながら「カチッ」という音がする位置で固定してください。

取り外すときはストッパーを押しながら引き抜きます。

運転席シート リフター

オプション/グレード別装備

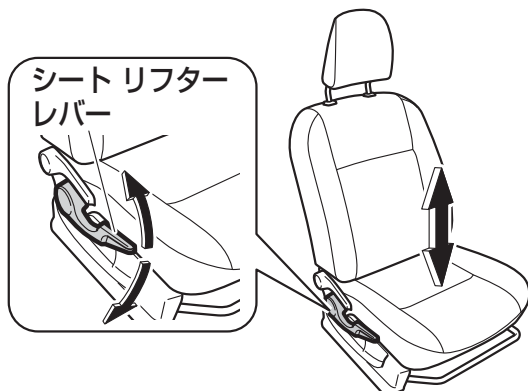
シート全体の高さ調整を行うことができます。

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- 調整は必ず運転前に行ってください。走行中に調整を行うと、シートが突然動き運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

▼ 調整方法

シート リフター レバーを引き上げるごとにシート全体が上昇し、押し下げるごとにシート全体が下降します。

リヤ シート

⚠警告

- 荷室には人を乗せないでください。人が乗る構造になっていないため、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷物はフロント シートの背もたれより高く積まないでください。後方視界のさまたげになるだけでなく、急ブレーキ時などに前方に荷物が投げ出され、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ヘッド レストの取り外し

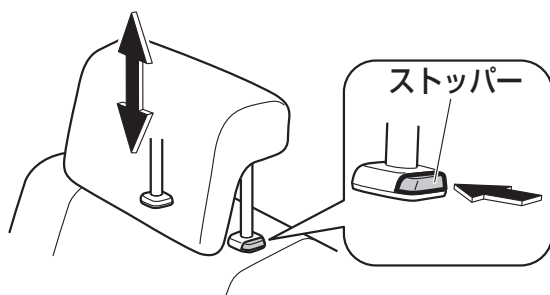
オプション/グレード別装備

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- ヘッド レスト装着車は、リヤ シートに人を乗せるときは、ヘッド レストを外したまま、または下げた状態のまま走行しないでください。衝突時などに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッド レストは必ず上げた状態で使用してください。
- ヘッド レストを前後逆に取り付けないでください。いざというとき、効果を発揮しません。

▼ 操作方法

取り外すときは、ストッパーを押しながら引き抜きます。取り付けるときは、「カチッ」という音がする位置で固定してください。

背もたれの前倒し

リヤ シートを操作することで、ラゲージルームを広くすることができます。

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを操作するとき、または元に戻すときは、手や足などを挟まないように注意してください。
- 倒した背もたれの上、または荷室に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

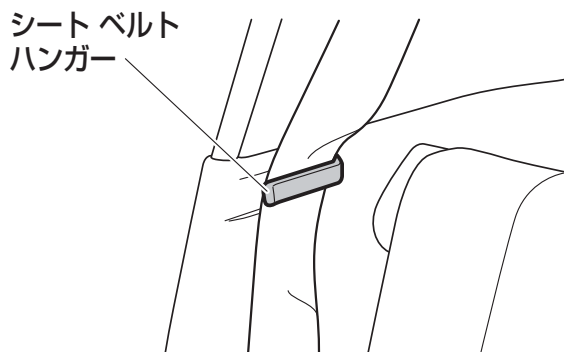
⚠注意

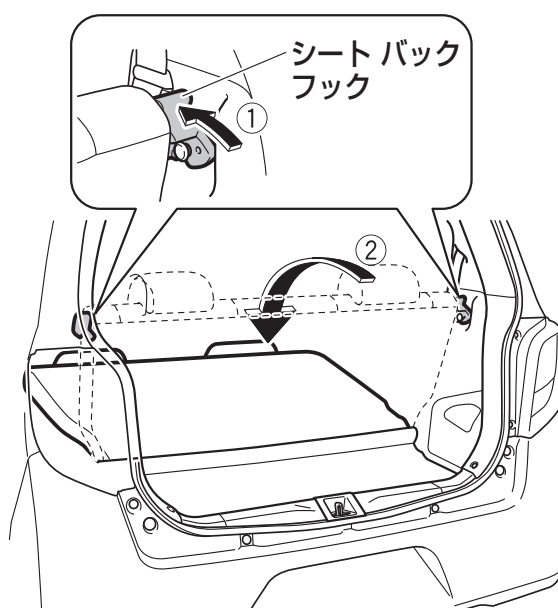
- 背もたれを前に倒すときは、背もたれが急に倒れるおそれがあります。必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。

アドバイス

- 背もたれを倒すとき、または倒した背もたれを元に戻すときは、シート ベルトがシートにかみ込むことを防ぐために、必ずシート ベルト ハンガーにシート ベルトをかけてから操作してください。

▼ 操作方法

1. かみ込み防止のため、シート ベルト ハンガーにシート ベルトをかけます。

2. 車両後側から左右両側のシート バック フックを同時に操作して、背もたれを前に倒します。

- ①シート バック フックを前側へ倒します。
- ②背もたれを前に倒します。

⚠警告

- シート バック フックを操作するときは、指を挟まないように注意してください。

▼ 元に戻すときは

背もたれを引き起こします。

⚠警告

- 背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと、急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、荷室内の物が飛び出すなど、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

シート アレンジ

フラット シートにするとき

▼ 操作を行う前に

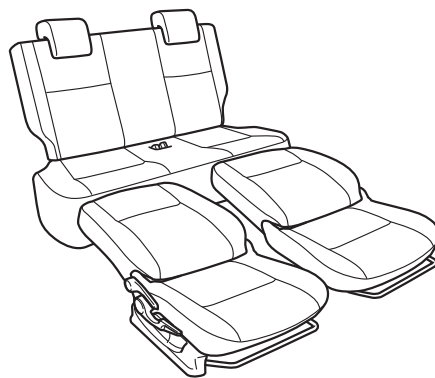
⚠警告

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- フラット シートにした状態で人を乗せたまま走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。

⚠注意

- フラット シートにした状態で、シートの上を走り回らないでください。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。シートを踏み外したり、シートの間に足を挟んだりしてけがをするおそれがあります。
- フラット シート状態は安全な場所に車を止めて休息するときに使用してください。

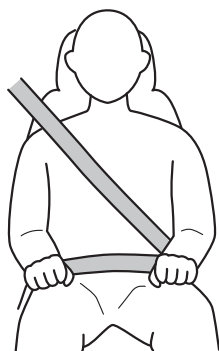
▼ 操作方法

1. フロント シートのヘッド レストを外します。
2. フロント シートを前方いっぱいまでスライドさせます。
3. フロント シートの背もたれをリヤ シートのクッションと同じ高さになるまで倒します。
4. フロント シートとリヤ シートのクッションの間に隙間ができないように、フロント シートをスライド調整します。

▼ 元に戻すときは

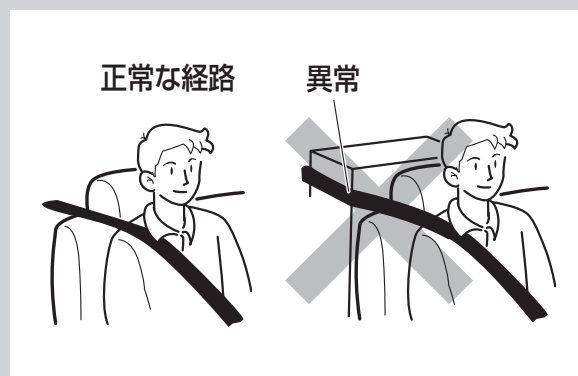
逆の手順で操作してください。

シート ベルト

正しい着用

運転者は車を運転する前に、下記のことに注意してシート ベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シート ベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。
シート ベルトの使用方法を十分に理解し、正しい取り扱いかたを身に付けてください。

- シートを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること
- シート ベルトにねじれがないこと
- シート ベルトが肩に十分かかっていること、また必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

⚠警告

- シート ベルトの着用は腹部をさけ、必ず腰骨の位置にしてください。衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、シート ベルトによりけがをするおそれがあります。
- シート ベルトの肩にかかる部分を脇の下に通して着用しないでください。シート ベルトが肩に十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されるおそれがあります。
- シート ベルトの経路をさまたげる荷物の積みかたはしないでください。衝突したときなどに効果が十分発揮されません。

- リヤ シート ベルトのシート ベルト ハンガーは背もたれを前に倒したときにシート ベルトを固定するための物です。シート ベルト着用時にはシート ベルト ハンガーから外して使用してください。
- お子さまにも必ずシート ベルトを着用させるか、チャイルド シートを使用してください。
  ひざの上でお子さまを抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。

シート ベルト

⚠警告

- シート ベルトは、それを着用するのに十分な大人の体格を持った人用に設計されています。
  - 1 人で座ることのできない乳幼児の場合はベビー シート（別売）を使用してください。
  - シート ベルトが首やあごに当たったり、腰骨にかからないような体の小さなお子さまの場合は、チャイルド シートやジュニア シート（別売）を使用してください。
    （チャイルド シート→ 50 ページ）
    （チャイルド シートの固定のしかた → 57 ページ）
- 妊娠中の方もシート ベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シート ベルトの着用については、医師に相談のうえ、注意事項を確認してください。
  - 腰ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。腰ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。
  - 肩ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用してください。肩ベルトを腹部にかけていると衝突したときなどに、腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。

⚠警告

- シート ベルトは 1 人用です。2 人以上で 1 本のシート ベルトを使用しないでください。衝突時にシート ベルトが正常に動かず、けがをするおそれがあります。

- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突時に体がシート ベルトの下にもぐり、ベルトが腰骨にかからず腹部にかかることになり、シート ベルトによりけがをするおそれがあります。
- ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しないでください。衝突したときなどシート ベルトの効果が発揮されません。
- シート ベルト使用時、洗濯ばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。衝突時など効果を発揮しなくなります。

⚠警告

- シート ベルトが汚れた場合は中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シート ベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシート ベルトの脱色や染色もやめてください。
- シート ベルトを着用した状態で万一事故にあった場合は、トヨタ販売店でシート ベルト一式を交換してください。シート ベルト自体が損傷している場合があり、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- 常にシート ベルトにほつれや、擦り切れなどの異常がないかを点検してください。異常がある状態で使用をすると衝突時に正常にはたらかず、性能を十分発揮できないおそれがありますので、トヨタ販売店で交換してください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。また、シート ベルトの改造や取り付け、取り外しをしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。

3点式シート ベルト

長さ調整の必要はありません。通常は体の動きに合わせて伸縮しますが、緊急時にはロックし、体を固定します。

▼着用するとき

1. 正しい運転姿勢が取れる位置にシートを調整します。
2. プレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。

⚠警告

- 肩部ベルトは、脇の下に通して着用しないでください。ベルトが十分肩にかかっていないと十分な効果を発揮しません。

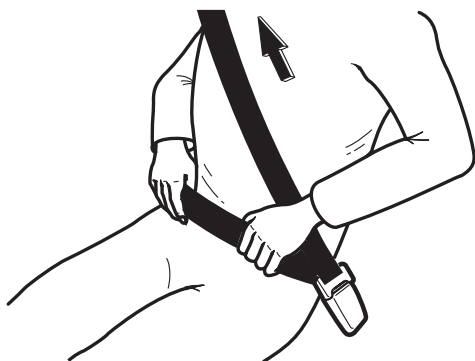
⚠注意

- プレートを差し込むとき、プレートでバックルを無理にこじらないでください。

アドバイス

- ベルトがロックし引き出せない場合は、ベルトをゆるめてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。
- 運転席シート ベルトは、シート ベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

（シート ベルト未装着警告灯 → 148 ページ）

3. 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引いて腰部に密着させます。

▼外すとき

バックルのボタンを押します。ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがないかを確認しながら、ベルトやプレートに手を添えてゆっくり戻します。

プリテンショナー& フォース リミッター機構付 シート ベルト

○フロント シート

⚠警告

- プリテンショナー&フォース リミッター機構付シート ベルトは絶対に取り外さないでください。また、分解、改造もしないでください。
- 下記のような場合は必ずトヨタ販売店にご相談ください。お客様自身で行うと、プリテンショナー機構が思いがけなく作動するおそれがあるほか、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - 車両前部を修理するとき
  - 廃車にするとき

プリテンショナー機構

前方からの強い衝撃を受けるとプリテンショナー機構が作動し、シート ベルトを瞬時に引き込み、上体をシートにしっかりと固定してシート ベルトやSRSエアバッグの効果をいっそう高めます。

⚠警告

- プリテンショナー機構付シート ベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのトヨタ販売店で交換してください。

アドバイス

- プリテンショナー機構はシート ベルトを着用していなくても前方からの強い衝撃を受けると作動します。

フォース リミッター機構

前方からの強い衝撃を受けた場合、シート ベルトにある一定以上の荷重がかかったときに作動し、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸部への衝撃を緩和します。

⚠警告

- フォース リミッター機構付シート ベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのトヨタ販売店で交換してください。

お子さま専用シート

チャイルド シート

シート ベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルド シートをご使用ください。

- お子さまの安全のため、チャイルド シートはリヤ シートに取り付けてください。
- 車両に固定するチャイルド シートには、シート ベルトで固定するタイプとISO[*1] FIX対応チャイルド シート固定バー&トップ テザー アンカーで固定するタイプがあります。

(チャイルド シートの固定のしかた → 57 ページ)

チャイルド シートの固定方法、および取り扱い方法は、各チャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みください。

アドバイス

- 満 6 歳未満のお子さまは、チャイルド シートの着用が法律で義務付けられています。
- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて適切なチャイルド シートを選んでください。
- 体が十分大きく、チャイルド シートが不必要なお子さまは、リヤ シートに乗せてシート ベルトを着用させてください。

アドバイス

チャイルド シートについて

- ここでは、ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートの総称として、「チャイルド シート」と呼んでいます。

(チャイルド シートの種類→ 51 ページ)

チャイルド シートの質量グループについて

ECE R44[*2] の基準に適合するチャイルド シートは、お子さまの体重により、5 種類の質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0^+	13kgまで
グループ I	9～18kg
グループ II	15～25kg
グループ III	22～36kg

*1 International Organization for Standardization (国際標準化機構)の略

*2 チャイルド シートに関する国際的な安全基準です。

チャイルド シートの種類

○ベビー シート

質量グループ 0、0⁺に相当します。

○チャイルド シート

質量グループ 0⁺、Ⅰに相当します。

○ジュニア シート

質量グループⅡ、Ⅲに相当します。

（チャイルド シートの質量グループについて→ 50 ページ）

チャイルド シートの選びかた

次の適合性一覧表から、各シート位置でどのチャイルド シートが使用できるかを選択してください。

アドバイス

- お子さまに適切なチャイルド シートについては、チャイルド シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

シート ベルトで取り付けるチャイルド シート適合性一覧表

質量グループ	座席位置	
	フロント シート	リヤ シート
	助手席	左右席
0（10kgまで）	×	U＊1
0^+（13kgまで）	×	U＊1
I（9～18kg）	UF	U＊1
II（15～25kg）	UF＊2	U＊2
III（22～36kg）	UF＊2	U＊2

●記号の説明

U ：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルド シートが取り付け可能です。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きチャイルド シートが取り付け可能です。

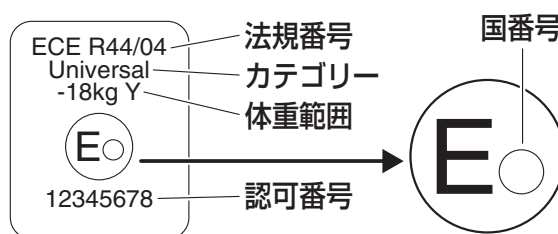
× ：チャイルド シートを取り付けることはできません。

＊1 チャイルド シートを後向きに取り付けるときは、チャイルド シートの上端部が前席背もたれに接するように前席の位置を調整してください。

＊2 チャイルド シートを取り付けるシートのヘッド レストを取り外してください。

表に記載されていないチャイルド シートを使用する場合は、チャイルド シート製造業者または販売業者にご相談ください。
チャイルド シートの装着に際しては、チャイルド シートの取扱説明書もご確認ください。

アドバイス

- チャイルド シートを購入される際は、質量グループに一致したものを選択してください。
- ECE R44 に適合している「U」と「UF」のチャイルド シートには、下記の認可ラベルが表示されています。
  - カテゴリーの「UNIVERSAL」は、汎用（ユニバーサル）チャイルド シートの認可であることを表します。

ISO* FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカーで取り付けるチャイルド シート適合性一覧表

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISO FIX位置
			リヤ シート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kgまで）	E	ISO/R1	IL
0^{+}（13kgまで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I（9～18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
II（15～25kg）		―	×
III（22～36kg）		―	×

●記号の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISO FIX対応の前向きチャイルド シートのみ取り付け可能です。

IL　：この質量グループでの使用を許可された下記「ISO FIX対応チャイルド シートのリスト」に示す準汎用カテゴリーのチャイルド シートのみ取り付け可能です。

×　：ISO FIX対応チャイルド シートを取り付けることはできません。

●ISO FIX対応チャイルド シートのリスト

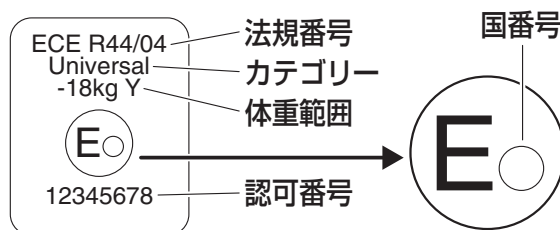
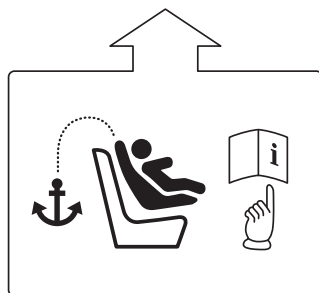
質量グループ	サイズ等級	固定具	ISO FIX対応チャイルド シート	カテゴリー
0（10kgまで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0^{+}（13kgまで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用

表に記載されていないチャイルド シートを使用する場合は、チャイルド シート製造業者または販売業者にご相談ください。
チャイルド シートの装着に際しては、チャイルド シートの取扱説明書もご確認ください。

* International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略

アドバイス

- この車のISO FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカーは、2006年 10 月 1 日施行の新保安基準に適合しています。
  これには、ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルド シートしか取り付けることができません。
- ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルド シートには、下記の認可ラベルが表示されています。（表示されているマークや文字は、製品により異なります。）
  - ISO FIX対応チャイルド シートであることを示す表示です。
    文字はサイズ等級を表します。

  - ECE R44 の認可マークです。
    汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルド シートは、カテゴリーに「UNIVERSAL」と表示されています。

  - ISO FIX対応トップ テザー アンカーの位置を示すマークです。
    トップ テザー アンカーの位置により、意匠は異なります。

- トヨタ純正の汎用（ユニバーサル）、および準汎用カテゴリーのチャイルド シートをご用意しています。ご購入、ご使用についてはトヨタ販売店にご相談ください。

アドバイス

- チャイルド シートを購入するときは、ISO FIXサイズ等級に一致したものをお選びください。

サイズ等級	固定具	仕様
A	ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルド シート
B	ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルド シート
B1	ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルド シート（B-ISO/F2と別形状のもの）
C	ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルド シート
D	ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルド シート
E	ISO/R1	後向き乳児用チャイルド シート
F	ISO/L1	左向き位置用チャイルド シート（キャリコット）
G	ISO/L2	右向き位置用チャイルド シート（キャリコット）

- キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビー シートのことです。詳しくはチャイルド シートの製造業者、または販売業者にご相談ください。

チャイルド シートの固定のしかた

⚠警告

- 急ブレーキや事故の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルト、またはチャイルド シートを使用してください。
  また、お子さまをひざの上で抱いて走行しないでください。衝突したときなどに、十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルド シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みの上、確実に取り付けて使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニア シートを使用しているときは、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

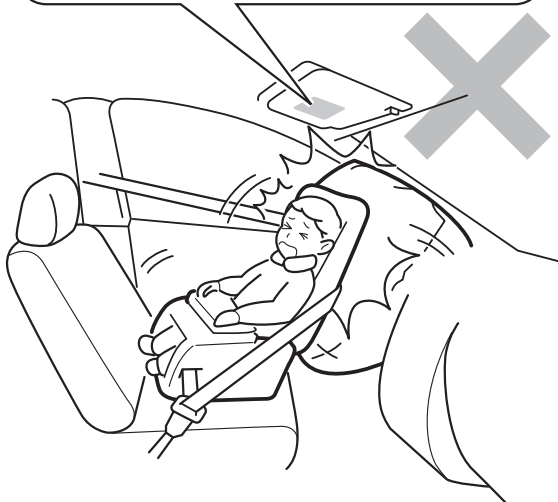
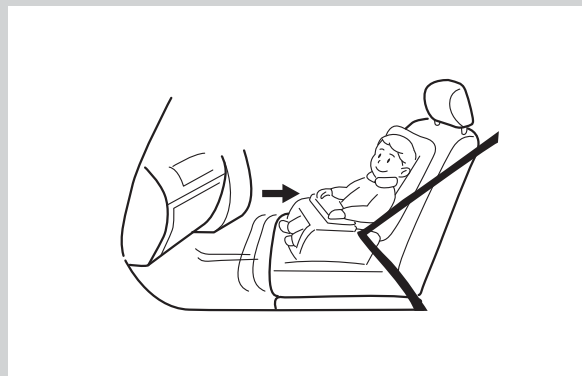
⚠警告

- お子さまをシート ベルトで遊ばせないでください。万一シート ベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、シート ベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシート ベルトを切断してください。
- シート ベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルド シートを取り付けたときは、チャイルド シートを軽くゆすり、確実に固定されているか確認してください。また、シートの調整をしないでください。
- チャイルド シートはお子さまを乗せていないときでも、確実にシートを固定しておいてください。また、ラゲージ ルームに収納するときも、容易に動かないように収納してください。ブレーキをかけたときなどに人や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お子さま専用シート

⚠警告

- 助手席にベビー シートを取り付けたり、チャイルド シートを後ろ向きに取り付けないでください。ベビー シート、チャイルド シートの背面が、SRSエアバッグに近すぎるため、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

- やむを得ず助手席にチャイルド シートを取り付けるときはSRSエアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
  なお、取り付け可否については、必ずチャイルド シートの適用条件をご確認ください。

チャイルド シートをリヤ シートに取り付けたときは

- 運転席とチャイルド シートが干渉し、正しい運転姿勢が確保できない場合は、リヤ シートの助手席側に取り付けてください。
  (正しい運転姿勢→ 38 ページ)

SRSサイド エアバッグ装着車

- チャイルド シートに座らせている場合でも、ドアやシート付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

- 標準装備のシート ベルトは大人用です。肩ベルトに首がかかるような小さなお子さまにはシート ベルトの着用はさけ、チャイルド シートの使用をおすすめします。取り付けはチャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
- シート ベルトに損傷をあたえないよう、取り付けにあたっては十分注意してください。

チャイルド シートを使用しないときは

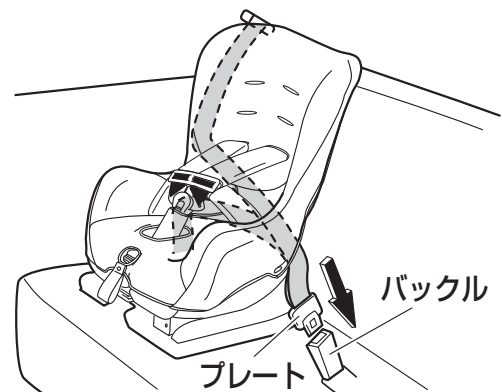
- チャイルド シートを長時間使用しない場合は、荷室に収納し、しっかりと固定しておくか、車両から外して保管してください。シートに取り付けたままにしておくと、シートが変色したり、型くずれするおそれがあります。

シート ベルトによる固定*

▼取り付けかた

1. チャイルド シートをリヤ シートに置きます。

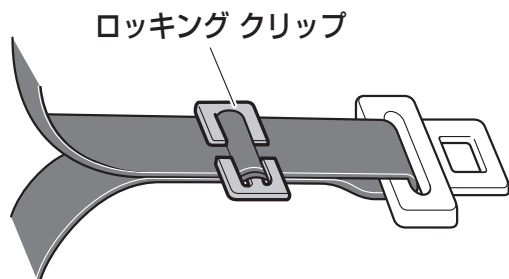
- ヘッド レスト装着車は、ヘッド レストにチャイルド シートが干渉する場合、ヘッド レストを「カチッ」という音がする位置まで引き上げるか、取り外して安全な場所に固定しておきます。

2. シート ベルトのプレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認してから、チャイルド シートの中に通します。

3. バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。

⚠注意

- プレートを差し込むとき、プレートでバックルを無理にこじらないでください。

* 固定のしかたは代表例です。
また、イラストは説明のための物であり、実際のチャイルド シートの形状とは異なります。

4. チャイルド シートにシート ベルトの固定装置が付いていない場合は、ロッキング クリップを使用して固定します。

アドバイス

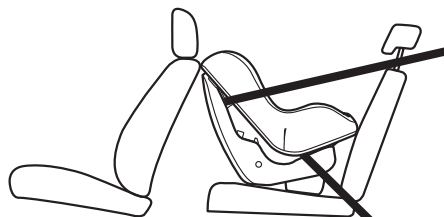
- ロッキング クリップの取り付けは、チャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
  また、ロッキング クリップの購入については、トヨタ販売店にご相談ください。

5. チャイルド シートを軽くゆすり、確実に固定されていることを確認してください。

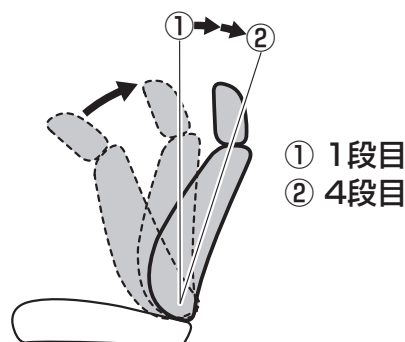
⚠警告

- チャイルド シートを固定したあと、シート ベルトでチャイルド シートがロックされていることを必ず確認してください。急ブレーキをかけたときや衝突したときに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

6. チャイルド シートを取り付けたシートの前席位置を調整します。

- 後向きのチャイルド シートを取り付けた場合は、チャイルド シートの上端部がフロント シートの背もたれに接するようにフロント シートの位置を調整してください。

アドバイス

助手席にチャイルド シートを取り付けるときは

- やむを得ず助手席にチャイルド シートを取り付けるときは、助手席シートを以下のように調整し、必ず前向きにチャイルド シートを取り付けてください。
  - シートを後方いっぱいまでスライドさせる
  - 背もたれをいったん前に倒し、①1 段目の固定位置に起こしてから、②4 段目の固定位置まで調整する

  - ヘッド レストにチャイルド シートが干渉するときは、ヘッド レストを最上段に固定するか、取り外して安全な場所に固定しておく

ISO FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザーアンカーによる固定

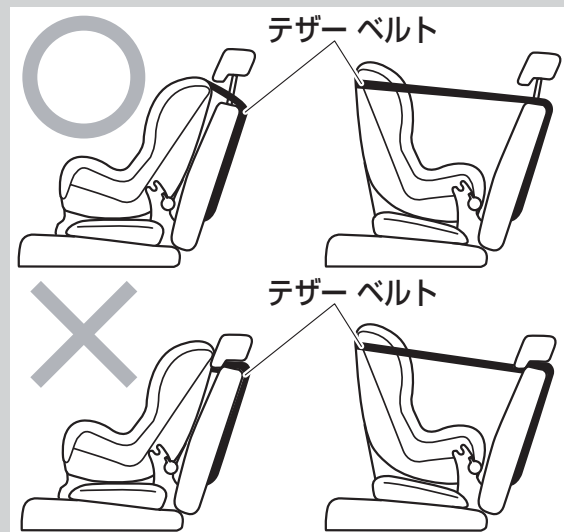
▼ チャイルド シートを取り付ける前に

⚠警告

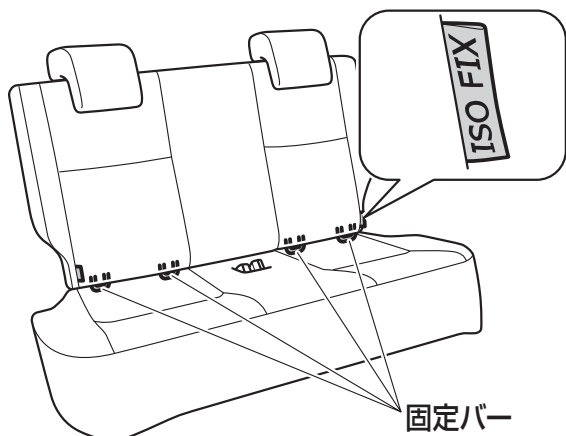
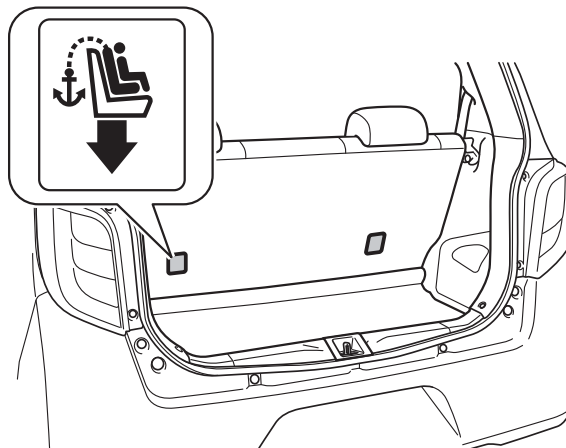
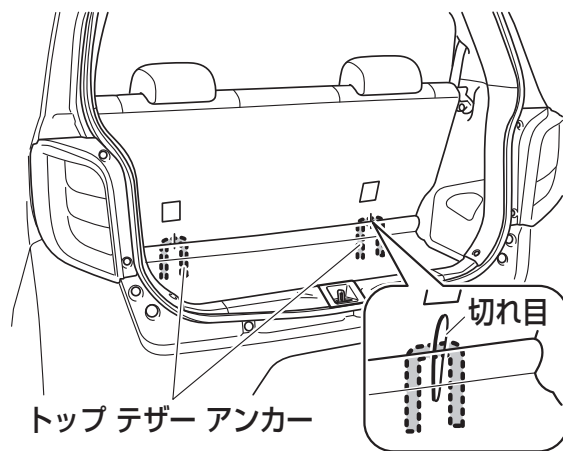
- チャイルド シートを取り付けるときは、ISO FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカー周辺に異物がないこと、シート ベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。
  異物やシート ベルトなどをかみ込むとチャイルド シートが固定されず、急ブレーキや衝突したときなどに飛ばされて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

ヘッド レスト付き車

- チャイルド シートのテザー ベルトがヘッド レストに干渉しないように、ヘッド レストを「カチッ」と音がする位置まで引き上げてからトップ テザー アンカーに固定してください。
  それでもヘッド レストに干渉する場合は、ヘッド レストを取り外して安全な場所に固定しておいてください。
  ヘッド レストを下げたままだと、テザー ベルトがヘッド レストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルド シートが動いて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

▼取り付けかた

1. ISO FIX対応チャイルド シート固定バー&トップ テザー アンカーの位置を確認します。

● 固定バーが装備されていることを示すタグがシートについています。

● トップ テザー アンカーを示すマークが背もたれ裏側にあります。

● 背もたれの切れ目から、トップ テザー アンカーの位置を確認します。

2. 適合するチャイルド シートの取り付け金具をISO FIX対応チャイルド シート固定バー&トップ テザー アンカーに連結して取り付けます。（取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書をよく読んでください。）

● ヘッド レスト装着車は、ヘッド レストにチャイルド シートやテザー ベルトが干渉する場合、ヘッド レストを「カチッ」という音がする位置まで引き上げるか、取り外して安全な場所に固定しておきます。

3. 取り付けたチャイルド シートを軽くゆすり、確実に取り付けられていることを確認します。

SRSエアバッグ

SRS*エアバッグ

SRSエアバッグは、車両前方からの強い衝撃により、センサーが一定以上の衝撃（重大な危害がおよぶような強い衝撃）を感知すると瞬時に膨らみます。

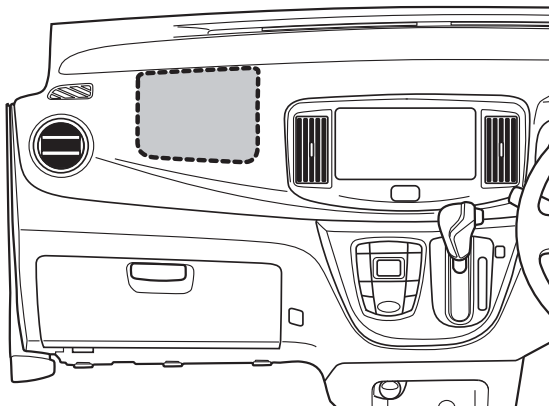
運転席SRSエアバッグ

シート ベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。

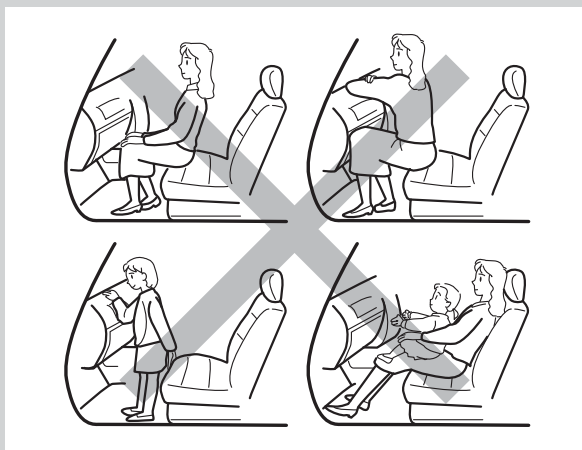
助手席SRSエアバッグ

シート ベルトで体を拘束するはたらきと併せて、助手席同乗者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。

* Supplemental Restraint System（サプリメンタル レストレイント システム）の略で、乗員保護補助装置の意味です。

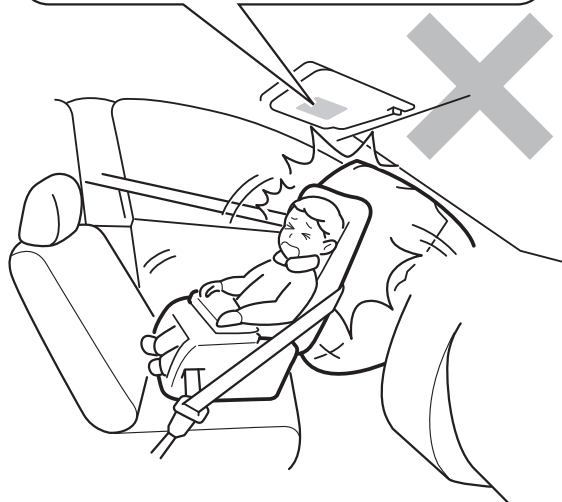
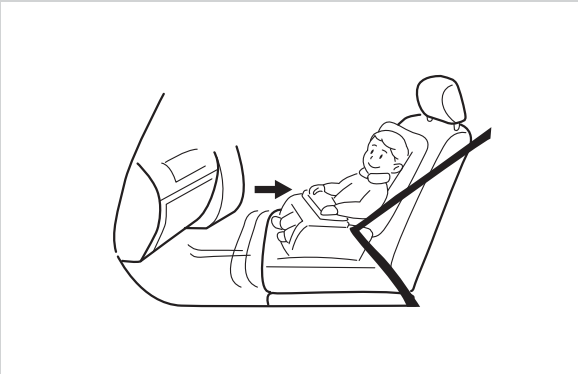
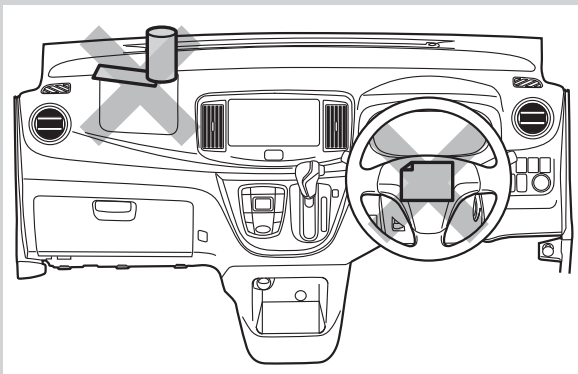
⚠警告

- シート ベルトは必ず着用してください。SRSエアバッグはシート ベルトを補助するための装置でシート ベルトの代わりではありません。
- シート ベルトを正しく着用してください。シート ベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時にSRSエアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
  （正しい着用→ 45 ページ）
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRSエアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないとSRSエアバッグの効果を発揮させることができません。また、運転席SRSエアバッグはハンドルに近付きすぎると、SRSエアバッグが膨らんだときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドル、インストルメント パネルは、絶対に取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。

⚠警告

- SRSエアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRSエアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのでやけどをするおそれがあります。
- 助手席SRSエアバッグについては必ず下記の注意事項をお守りください。
  - シートの前端に座ったり、インストルメント パネルにもたれかかったりしないでください。また、お子さまをインストルメント パネルの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。
    助手席SRSエアバッグは瞬時に車室内に大きく膨らみますので、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまはリヤ シートに座らせて、必ずシート ベルトを着用させてください。

⚠警告

- シート ベルトを正しく着用できない小さなお子さまは、ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートなどをリヤ シートに装着して使用してください。
- 助手席にベビー シートを取り付けたり、チャイルド シートを後ろ向きに取り付けないでください。ベビー シート、チャイルド シートの背面が、SRSエアバッグに近すぎるため、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

- やむを得ず助手席にチャイルド シートを取り付けるときはSRSエアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
  なお、取り付け可否については、必ずチャイルド シートの適用条件をご確認ください。

- SRSエアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かずSRSエアバッグが作動しないおそれがあります。
- インストルメント パネルの上にジュースや物を置かないでください。SRSエアバッグが膨らむときの衝撃でけがをするおそれがあります。

⚠警告

- ステアリング パッド、インストルメント パネルの上などSRSエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRSエアバッグの効力を十分に発揮させるため、下記の事項を必ず守ってください。
  - サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
  - 車両前部にグリル ガードなどを装着する場合は、最寄りのトヨタ販売店にご相談ください。
- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

⚠警告

- SRSエアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
  この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
  また、SRSエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 衝突時などに助手席SRSエアバッグが膨らむことによって、車両のフロントウインド ガラスが破損することがあります。
- SRSエアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずトヨタ販売店で交換してください。

⚠警告

- 下記のような場合は必ずトヨタ販売店にご相談ください。
  お客様自身で行うと、SRSエアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ハンドルを取り外すとき
  - 車両前部を修理するとき
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。
  SRSエアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSエアバッグが収納されているパット部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

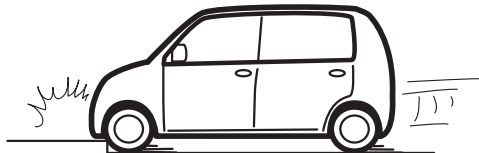
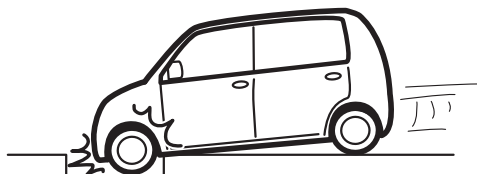
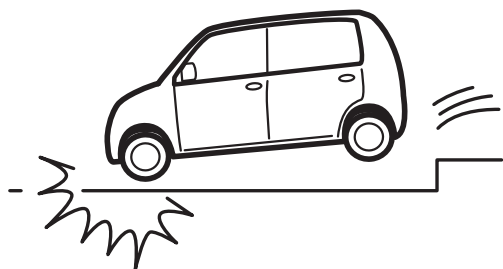
アドバイス

SRSサイド エアバッグ装着車の場合

- SRSエアバッグとSRSサイド エアバッグは、作動判定時における衝撃の方向が異なるため、下記のような作動をすることがあります。
  - SRSエアバッグのみ作動
  - SRSサイド エアバッグのみ作動

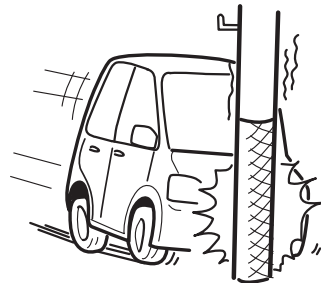
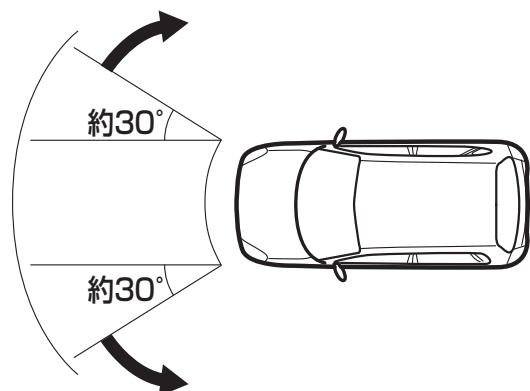
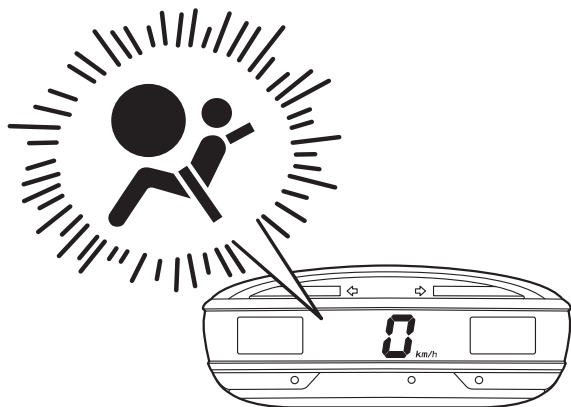
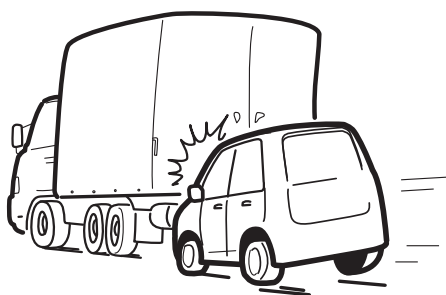
作動する場合

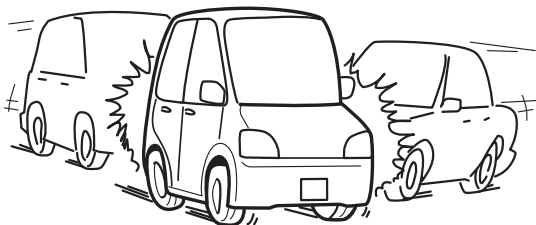
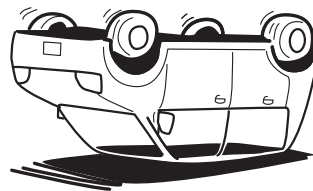
SRSエアバッグは車両前方からフロントバンパーに強い衝撃を受けたとき作動します。また、同時にプリテンショナー機構も作動します。
走行中に路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときは、まれにSRSエアバッグが作動することがあります。

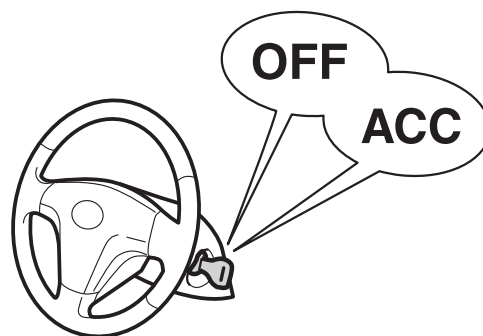
- 高速で縁石などに衝突したとき

- 深い穴や溝に落ち込んだとき

- ジャンプして地面に衝突したとき

作動しない場合

下記のように前方からの衝撃が弱い場合や、衝撃が車体により十分吸収された場合など、車両の損傷が大きくても作動しないことがあります。

- コンクリートの壁に約 20km/h以下の速度で正面衝突したとき

- 電柱などポール状の物に正面衝突したとき

- 前方約 30°以上の角度でコンクリートの壁やガード レールなどに衝突したとき

- SRSエアバッグ警告灯点灯時

- 大型トラックの後部荷台下にもぐり込んだとき

下記のようなときも作動しないことがあり効果を発揮しません。

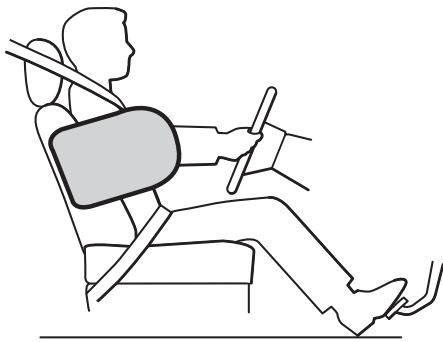
- 側面や後方から衝撃を受けたとき

- 車両が横転、転覆したとき

下記のようなときは、SRSエアバッグが作動しません。

- 電源が“OFF”、“ACC”のときに衝突したとき

SRS*サイド エアバッグ

オプション/グレード別装備

SRSサイド エアバッグは、車両側方からの強い衝撃により、センサーが一定以上の衝撃（重大な危害がおよぶような強い衝撃）を感知すると瞬時に膨らみ、シート ベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者や助手席同乗者の胸など、上体への衝撃をやわらげる装置です。

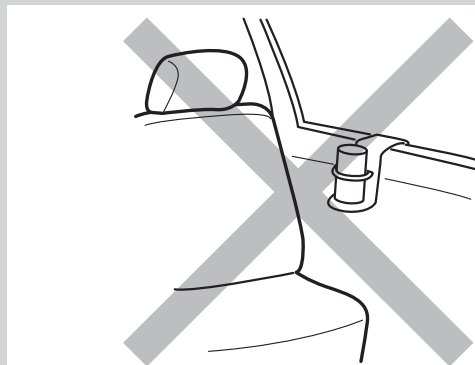
* Supplemental Restraint System（サプリメンタル レストレイント システム）の略で、乗員保護補助装置の意味です。

⚠警告

- シート ベルトは必ず着用してください。SRSサイド エアバッグはシート ベルトを補助するための装置でシート ベルトの代わりではありません。
- シート ベルトを正しく着用してください。シート ベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時にSRSサイド エアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
  （正しい着用→ 45 ページ）
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRSサイド エアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないとSRSサイド エアバッグの効果を発揮させることができません。また、ドア近辺にもたれかからないでください。SRSサイド エアバッグが膨らんだときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

- SRSサイド エアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRSサイド エアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのでやけどをするおそれがあります。
- お子さまはリヤ シートに座らせて、必ずシート ベルトを着用させてください。
- シート ベルトを正しく着用できない小さなお子さまは、ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートなどをリヤ シートに装着して使用してください。
- SRSサイド エアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かずSRSサイド エアバッグが作動しないおそれがあります。
- フロント シート表皮の張り替えをしたり、フロント シート、センター ピラー部を取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。必ず、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠警告

- フロント シートにSRSサイド エアバッグ専用のトヨタ純正シート カバー以外は取り付けないでください。フロント シート側面のSRSサイド エアバッグ展開部をおおうと、SRSサイド エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
- ドアやその周辺に専用のトヨタ純正用品以外を取り付けないでください。SRSサイド エアバッグが膨らんだときに飛ばされたり、SRSサイド エアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

- フロント シート側部などSRSサイド エアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRSサイド エアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRSサイド エアバッグの効力を十分に発揮させるため、下記の事項を必ず守ってください。
  - サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSサイド エアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
- 無線機の電波などは、SRSサイド エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- SRSサイド エアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSサイド エアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

⚠警告

- SRSサイド エアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
  この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
  また、SRSサイド エアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- SRSサイド エアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずトヨタ販売店で交換してください。
- 下記のような場合は必ずトヨタ販売店にご相談ください。
  お客様自身で行うと、SRSサイド エアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - シート、センター ピラー部を取り外すとき
  - 車両側部を修理するとき

⚠警告

- 車やSRSサイド エアバッグを廃棄するときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。SRSサイド エアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。

アドバイス

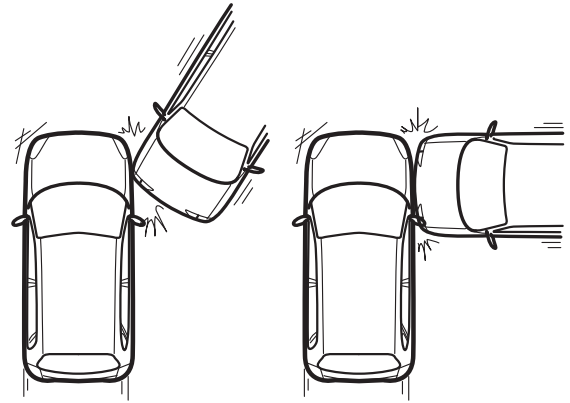
- SRSエアバッグとSRSサイド エアバッグは、作動判定時における衝撃の方向が異なるため、下記のような作動をすることがあります。
  - SRSエアバッグのみ作動
  - SRSサイド エアバッグのみ作動

作動する場合

SRSサイド エアバッグは車両側方から強い衝撃を受けたとき作動します。

作動しない場合

下記のような衝撃が弱いときには、作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から、あるいは客室部以外の側面に衝突されたとき

SRSエアバッグ警告灯

メーター内に警告されます。

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。

▼異常があると点灯するシステム

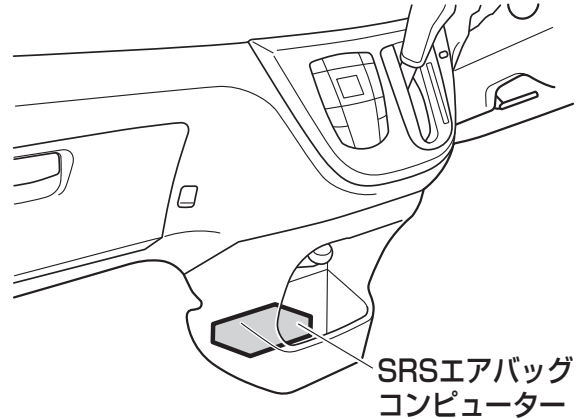
- SRSエアバッグ
  (SRSエアバッグ→ 63 ページ)
- SRSサイド エアバッグ
  (オプション/グレード別装備)
  (SRSサイド エアバッグ → 69 ページ)
- プリテンショナー機構
  (プリテンショナー機構 → 49 ページ)

⚠注意

点灯した場合

- 車両にできるだけショックをあたえずに走行し、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

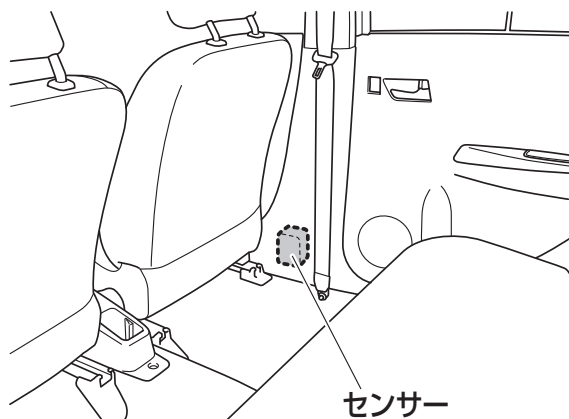
SRSエアバッグ コンピューター

SRSエアバッグを制御する装置です。

⚠警告

- SRSエアバッグ コンピューターは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
  SRSエアバッグ、SRSサイド エアバッグ(オプション/グレード別装備)が誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRSエアバッグ コンピューターには、水、ジュースなどをかけないように注意してください。
- SRSエアバッグ コンピューターおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。
- SRSエアバッグが一度作動すると再使用できません。トヨタ販売店で交換してください。

SRSサイド エアバッグ センサー

オプション/グレード別装備

SRSサイド エアバッグ センサーはフロント シート付近の車体左右両側に取り付けられています。

⚠警告

- SRSサイド エアバッグ センサーは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
  SRSサイド エアバッグが誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRSサイド エアバッグ センサーおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。

ABS

ABS*（EBD機能付）

急制動時や滑りやすい路面における制動時には、車輪がロックして方向安定性と操舵能力が低下することがあります。ABSは、このような状況下に発生する車輪ロックを防止して操舵能力を確保しようとする装置です。

▼ EBD

Electronic Brake force Distribution（電子制動力配分制御）の略で、車両の走行状態や積載状態に応じて最適な制動力配分を行う機能です。積載時のブレーキの効きを確保することができます。

*ABSは、Anti-lock Brake System（アンチロック ブレーキ システム）の略です。

⚠警告

- ABSを過信しないでください。ABSが作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 下記の場合などにはABSの付いていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあり、事故につながるおそれがあります。速度を控えて十分に車間距離を取ってください。
  - ジャリ道、新雪路を走行しているとき
  - タイヤ チェーンを装着しているとき
  - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
  - 凹凸道などの悪路を走行しているとき
  - タイヤ空気圧が適正空気圧より高いときに荒れた路面を走行したとき

アドバイス

- 低速（約 10km/h以下）では、ABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。
- 電源を“ON”にすると、メーター内のABS警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン始動後にABS警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジン ルームからモーターなどの音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしているときの音で、異常ではありません。
- 走行中にABS警告灯が点灯した場合、通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ABSの作動中および作動後は、ブレーキ ペダルが奥に入り込むことがあります。また、ABSが正常に作動しているときは、ブレーキ ペダルを踏むとペダルがこきざみに動き「カタカタ」と作動音がすることがありますが、システムの異常ではありません。
- 雨の日にマンホールのふた、橋の継ぎ目などの滑りやすい場所でブレーキペダルを踏むとABSが作動しやすくなります。
- 急ブレーキ時は、ブレーキ ペダルを強く踏み続けてください。ブレーキペダルをゆるめるとABSが効果を発揮できません。

アドバイス

- 急ブレーキ時にポンピング ブレーキ*はしないでください。ポンピング ブレーキをすると制動距離が長くなります。

* ブレーキ ペダルを数回に分けてこきざみに踏むブレーキのかけかた

VSC&TRC

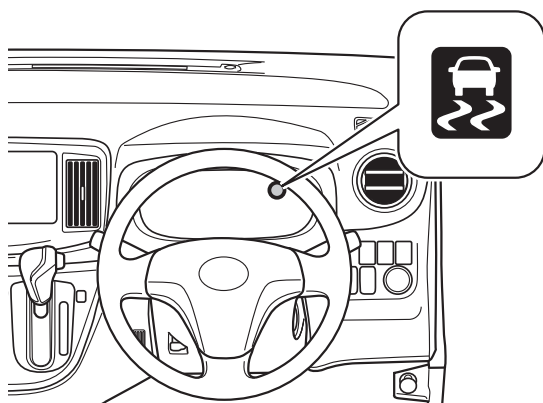
VSC*

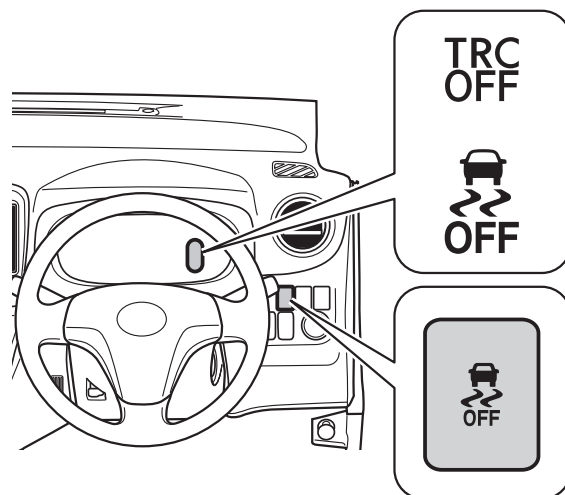
オプション/グレード別装備

VSCは、急激なハンドル操作や、滑りやすい路面での旋回時の横滑りなどを抑制するために、自動的にブレーキを制御して、車両の安定性を確保しようとするシステムです。

また緊急制動時など、ブレーキ ペダルが強く踏めずブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、ブレーキ力を増強するブレーキ介入機能を備えています。

- VSCが作動すると、スリップ インジケーターが点滅します。

（スリップ インジケーター → 144 ページ）

- VSC&TRC OFFスイッチを 3 秒以上押して、メーター内のTRC OFF表示灯とVSC OFF表示灯が点灯しているときは、VSC（TRCを含む）は作動しません。

（VSC&TRC OFFスイッチ→ 160 ページ）

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

（タイヤの点検→ 302 ページ）

* VSCは、Vehicle Stability Control（ビークル スタビリティ コントロール）の略です。

⚠警告

- VSCを過信しないでください。VSCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、スリップ インジケーターが点滅したときは、特に慎重に運転してください。
  （スリップ インジケーター → 144 ページ)
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッド パターンおよび摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着するとVSCが正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤ チェーンを装着したときなどにはVSCが正確に機能しないおそれがあります。

⚠注意

- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

アドバイス

- VSCは、車速が約 15km/hを超えると作動するようになります。
- VSC（TRCを含む）は、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。
- エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジン ルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

ブレーキ介入について

- VSCの“ON”・“OFF”に関わらず、緊急制動時などに作動します。
- ブレーキ ペダルを急速度で踏んだときに、ブレーキ介入機能が作動してブレーキが強くかかり、作動音とともにブレーキ ペダルが小刻みに動くことがありますが、異常ではありません。

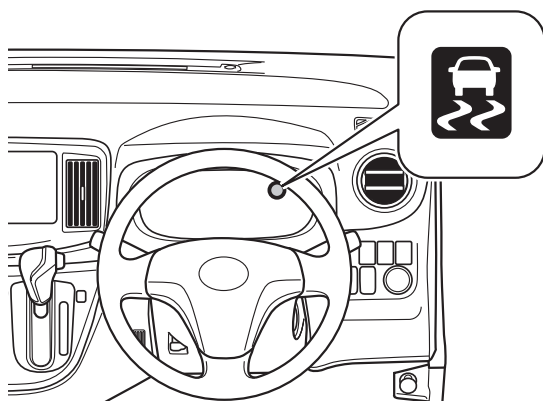
TRC*

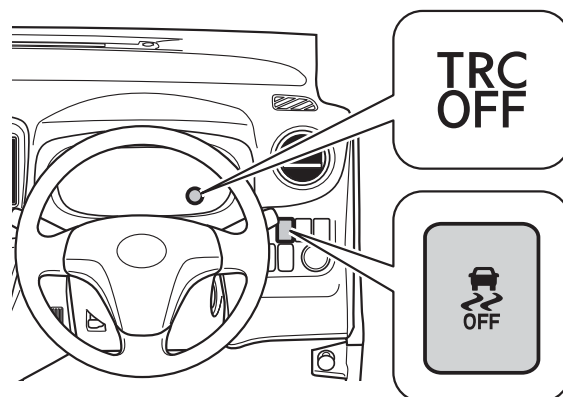
オプション/グレード別装備

○TRCのはたらき

滑りやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生じる駆動輪のホイール スピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

- 車輪がスリップし始めると、車輪速センサーからの情報で、コンピューターがスリップを感知し、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを抑制します。
- TRCが作動すると、スリップ インジケーターが点滅します。このとき、車両の振動を感じることがありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。

（スリップ インジケーター→ 144 ページ）

- VSC&TRC OFFスイッチを短押し（3秒以内）して、メーター内のTRC OFF表示灯が点灯しているときは、TRCは作動しません。

（VSC&TRC OFFスイッチ→ 160 ページ）

- ぬかるみや新雪路でのスタックからの脱出時などは、TRCが作動していると脱出しにくい場合があります。この場合、VSC&TRC OFFスイッチを操作することで、TRCを停止することができます。

（スタック（立ち往生）したとき→ 254 ページ）

○TRCのしくみ

タイヤのスリップは4輪に取り付けられたセンサーからの信号を比較し、駆動輪のいずれかの信号が他の車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけ、スリップを抑制します。

* TRCは、Traction Control（トラクション コントロール）の略です。

○TRCとタイヤの関係

TRCは、車輪に付いているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4 輪の中で 1 輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方が変わり、コンピューターがスリップと判断します。

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

(タイヤの点検→ 302 ページ)

⚠警告

- TRCを過信しないでください。TRCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、スリップ インジケーターが点滅したときは、特に慎重に運転してください。

(スリップ インジケーター → 144 ページ)

- タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッド パターンおよび摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着するとTRCが正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤ チェーンを装着したときなどにはTRCが正確に機能しないおそれがあります。

⚠注意

- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

アドバイス

- TRCは、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。
- エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジン ルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

車を運転する前に

車を運転する前に必要な各部の開閉、調整、点検について説明しています。

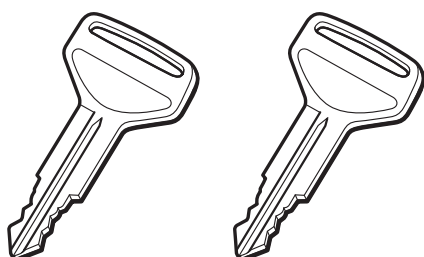
■ 車体各部の開閉

■ 車体各部の調整

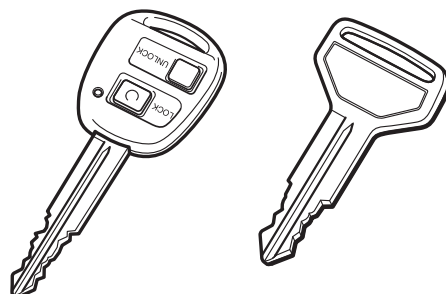
車体各部の開閉

キー

キーはエンジンの始動や停止のほかに、ドアの施錠、解錠など車を操作するためになくてはならない物です。大切に管理してください。

キーレス エントリー、キー フリーシステム装着車以外

アドバイス

- 1枚はスペア キーとして、いざというときのために予備として使用してください。

キーレス エントリー装着車

アドバイス

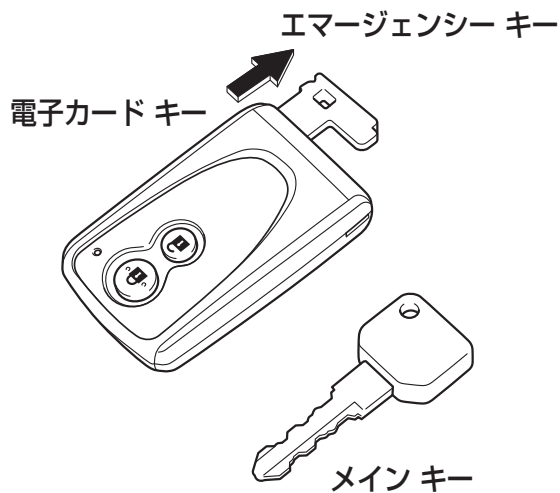
- スペア キーは、いざというときのために予備として使用してください。
- メイン キーは 4 枚まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはトヨタ販売店にご相談ください。

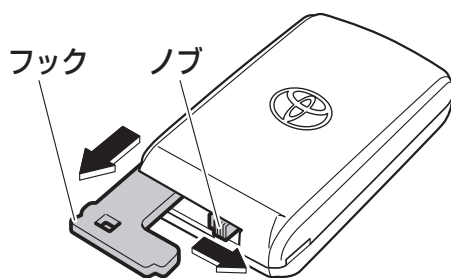
メイン キーの取り扱い

- メイン キーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因となりますので下記のことをお守りください。
  - 直射日光や高温下に放置しない
  - 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えない
  - 水にぬらしたり、ゴミ、ほこりなどが入らないようにする

航空機に乗るときは

- 航空機にメイン キーを持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

キー フリー システム装着車

○エマージェンシー キーの取り出しかた

電子カード キーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、電子カード キーから、エマージェンシー キーのフック部を引いて取り出します。

⚠注意

● エマージェンシー キーは必ず電子カード キーに格納し、メイン キーは、大切に保管しておいてください。電子カード キーは電池の消耗などにより、突然使用できなくなることがあります。

キーの取り扱い

● 電子カード キー・メイン キーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因になりますので、下記のことを守り、取り扱いには注意してください。
- 電子カード キーをズボンなどの後ろポケットに入れない
- 直射日光や高温下に放置しない
- 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えない
- 水にぬらさない
- 分解をしない
- 超音波洗浄機などにかけない
- 磁気を帯びたキー ホルダーなどを付けない

アドバイス

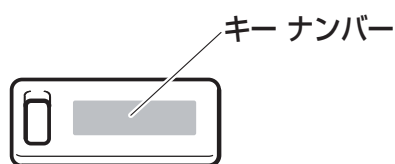
● 電子カード キーとメイン キーはそれぞれ最大 4 枚（合わせて８枚）まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはトヨタ販売店にご相談ください。

アドバイス

航空機に乗るときは

- 航空機に電子カード キーを持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

キー ナンバー プレート

お客様以外にキー ナンバーがわからないように、キーではなくプレートにキー ナンバーを打刻してあります。

- プレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
- 万一キーを紛失したときは、キー ナンバーをトヨタ販売店にご連絡いただければ、純正キーを作ることができます。

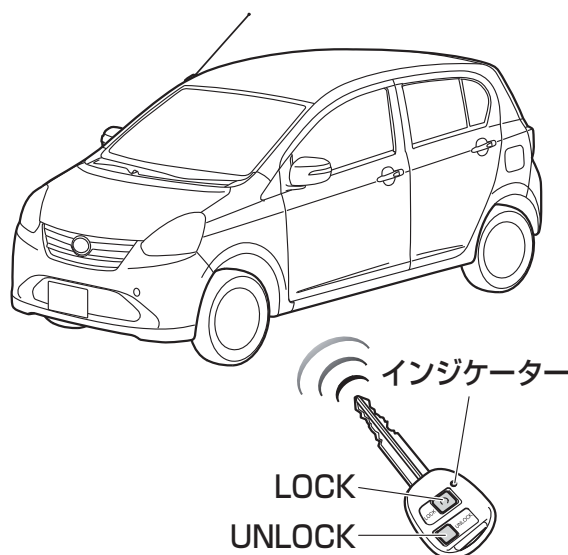
キーレス エントリー

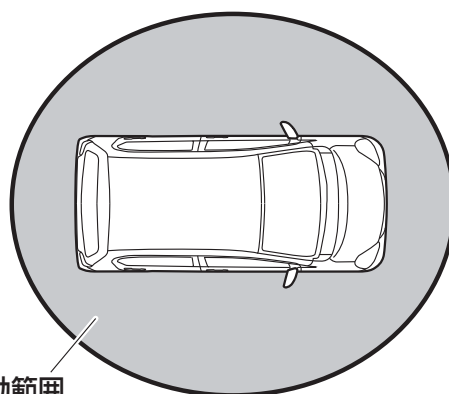
オプション/グレード別装備

メイン キーのボタンを押すことで、ドアの施錠、解錠ができます。

▼ 操作方法

ドアが施錠された状態で、メイン キーの“UNLOCK”ボタンを押すと、インジケーターが 1 回点滅し、すべてのドアは解錠されます。

“LOCK”ボタンを押すとインジケーターが 1 回点滅し、すべてのドアは施錠されます。

▼ 作動範囲

車両中心から周囲約 3m以内です。

アドバイス

- 車を離れるときは、ドア ハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。

施錠、解錠ができない状況

- キーがエンジン スイッチのキー挿入口に差し込まれているとき
- いずれかのドアが開いているとき

施錠、解錠ができないおそれのある状況

- メイン キーと車両中心の距離が約 3m 以上離れているとき
- 近くにTV塔や発電所、放送局など強い電波を発生する設備があるとき

電池の消耗について

- メイン キーの電池寿命は、1 日 10 回乗降時で約 2 年です。
- ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

（キーの電池交換→ 290 ページ）

自動ロック機能

- ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

作動完了の確認方法

非常点滅灯と室内照明により、キーレス エントリーの作動完了を確認することができます。

▼ 確認方法

ドアの施錠・解錠と連動して、非常点滅灯と室内照明（スイッチ付きはDOOR位置のとき）が下表の通り作動します。（アンサー バック）

これにより、キーレス エントリーの作動完了を確認してください。

作動	部位	アンサーバック
LOCK時	非常点滅灯	1回点滅
	室内照明	減光し、その後消灯
UNLOCK時	非常点滅灯	2回点滅
	室内照明	約15秒間点灯

アドバイス

- 非常点滅灯の点滅を停止、および室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

キー フリー システム*

オプション/グレード別装備

電子カード キーを所持するだけで、キーを取り出すことなく下記の操作ができます。

- ドアの施錠、解錠
  （キー フリー操作→ 91 ページ）
- エンジンの始動、停止（イモビライザー機能付）
  （エンジン スイッチ→ 163 ページ）
  （イモビライザー機能→ 170 ページ）

また、電子カード キーのボタンを操作して、ドアの施錠、解錠をすることができます。

（キーレス操作→ 92 ページ）

⚠注意

電池の消耗について

- 下記のような強い電波を発するおそれのある機器の近くや車内、または車両の近くに電子カード キーを置かないでください。電子カード キーが常時通信状態になり、電池が著しく消耗します。
  - テレビ
  - オーディオ
  - パソコン
  - ACアダプター
  - 携帯電話、コードレス電話
  - 充電器
  - 電気スタンド
  - 低周波治療器などの医療用電気機器
  - 液晶表示器
  - モーター類

* “キー フリー システム”はダイハツ工業株式会社の登録商標です。（使用許諾済）

アドバイス

電子カード キーの所持について

- 電子カード キーは必ず運転者が所持し、管理してください。
- 電子カード キーは、人体に影響しない程度の微弱な電波を使用しています。

システムが作動しないおそれのある状況

- 近くに下記のような強い電波を発生する設備があるとき
  - TV塔
  - 発電所
  - 放送局
  - 電光掲示板
  - ガソリン スタンド
  - コイン パーキング
- 無線機や携帯電話などの無線通信機器やポータブル オーディオ、または他車の電子カード キーと一緒に携行したとき
- 電子カード キー本体が金属製の物と接しているとき
- 電子カード キーの電池が消耗しているとき

アドバイス

電池の消耗について

- 電子カード キーの電池寿命は、1 日 10 回程度の乗降で約 2 年です。（電子カード キーは車両との通信のために常に受信動作をしているため電池を消費しています）
  ただし、電子カード キーのキーレス ボタン操作（ドアの施錠・解錠）の使用頻度が高い場合、または電子カード キーの保管状況によって著しく電池寿命が短くなるおそれがあります。
- 電子カード キーの電池の残量を確認できます。
  （電池の残量確認→ 290 ページ）
- ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。
  （キーの電池交換→ 290 ページ）

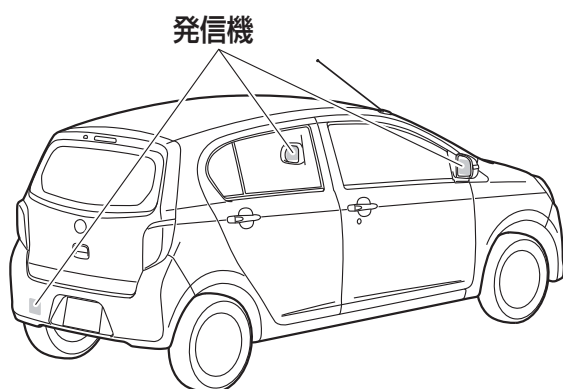
電子カード キーが使用できないときは

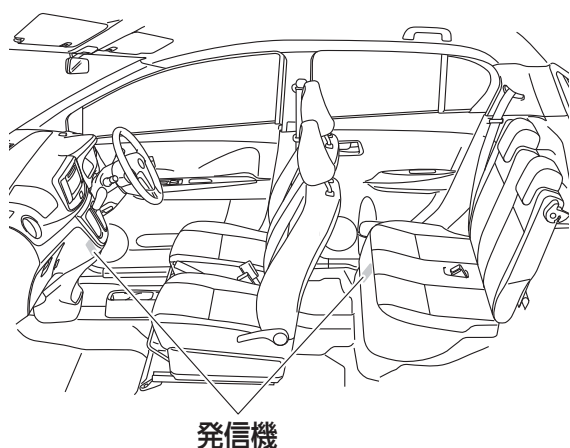
- 電池の消耗などにより電子カード キーが使用できないときは、エマージェンシー キー、またはメイン キーを使用してください。
  （電子カード キーが使用できないとき→ 286 ページ）

発信機

車両の発信機から発せられる電波を電子カード キーが感知することによって、キー フリー システムが作動します。

▼ 車室外発信機

ドア ミラー左右と助手席側リヤ バンパー付近にあります。（3 カ所）

▼ 車室内発信機

インストルメント パネル中央とリヤ シート中央付近にあります。（2 カ所）

⚠警告

植込み型心臓ペース メーカー、および植込み型除細動器を使用されている方へ

- 車室外発信機・車室内発信機から約 22 cm以内に近づかないようにしてください。ドア開閉時、各ドア アウター ハンドルのスイッチ操作時、エンジン始動時などに車両の発信機から発せられる電波により、植込み型心臓ペース メーカー、および植込み型除細動器の作動に影響をあたえるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペース メーカー、および植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用されている方は、電波による影響について、医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により、医療用電気機器の作動に影響をあたえるおそれがあります。

アドバイス

発信機の電波について

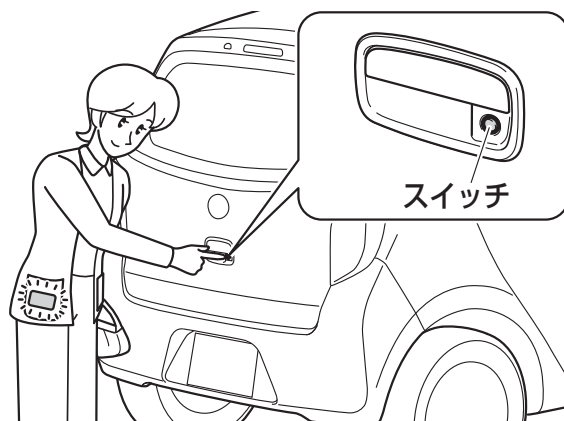
- 発信機から発する電波を停止（キー フリー システムを停止）させることもできます。詳しくは、最寄りのトヨタ販売店にご相談ください。
- 発信機から発する電波を停止させたときは、プッシュ ボタン スタート スイッチに電子カード キー、またはメイン キーを接触させなければエンジンを始動できません。（キーレス操作によるドアの施錠・解錠は行えます）（エンジンのかけかた→ 288 ページ）

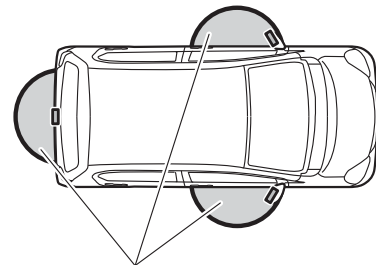
ドアの施錠、解錠

○キー フリー操作

電子カード キーを所持して作動範囲内に入り、フロント ドア アウター ハンドル、またはバック ドア アウター ハンドル下側のスイッチを押すと、すべてのドアが施錠、解錠されます。

フロント ドア

バック ドア

▼ 作動範囲

各フロント ドア アウター ハンドル、およびバック ドア アウター ハンドルから周囲約 80cm以内です。

作動範囲
ドア アウター ハンドル
から約80cm以内

⚠注意

- フロント ドア アウター ハンドル、またはバック ドアのスイッチは強い力で押したり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

アドバイス

- 車を離れるときは、ドア ハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。
- 施錠、解錠するときは、フロント ドア アウター ハンドル、またはバック ドアのスイッチを確実に押して施錠・解錠されたことを確認してください。スイッチを早押しした場合、施錠・解錠がされないことがあります。

作動範囲について

- 周囲の状況により、作動範囲が変化することがあります。
- 電子カード キーを所持している人が作動範囲にいるときは、所持していない人でも、同じ作動範囲での施錠・解錠が可能です。

アドバイス

施錠・解錠ができない状況

- 電源が“ACC”、または“ON”のとき
- いずれかのドアが開いているとき

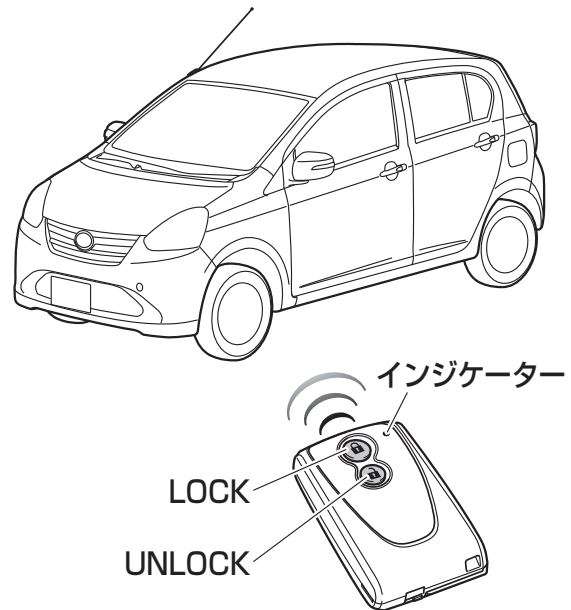
施錠・解錠ができないおそれのある状況

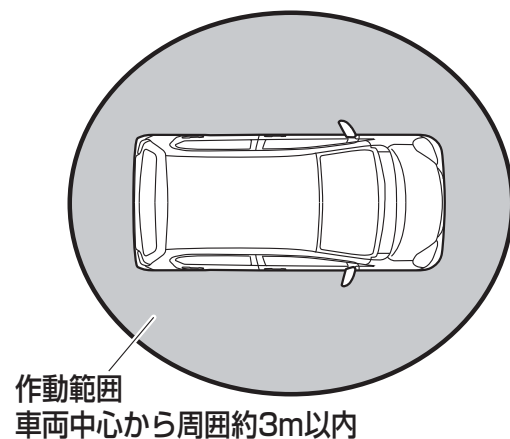
- 電子カード キーの所持のしかたにより、キー フリー操作をしても施錠・解錠がされない場合があります。
- 下記のような場合は、電子カード キーが作動範囲にあっても、正常に施錠・解錠がされない場合があります。
  - 電子カード キーをドア ガラスやドア ハンドルに近付けすぎたとき
  - 地面の近く、もしくは高い場所に電子カード キーがあるとき

自動ロック機能

- ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

○キーレス操作

ドアが施錠された状態で、電子カード キーの“UNLOCK”ボタンを押すと、インジケーターが 1 回点滅し、すべてのドアが解錠されます。
“LOCK”ボタンを押すとインジケーターが 1 回点滅し、すべてのドアが施錠されます。

▼ 作動範囲

車両中心から周囲約 3m以内です。

アドバイス

- 車を離れるときは、ドア ハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。

施錠・解錠ができない状況

- 電源が“ACC”、または“ON”のとき
- いずれかのドアが開いているとき

施錠・解錠ができないおそれのある状況

- 電子カード キーと車両中心の距離が約 3m以上離れているとき
- 近くにTV塔や発電所、放送局など強い電波を発生する設備があるとき

自動ロック機能

- ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

○作動完了の確認方法

非常点滅灯と室内照明とブザーにより、キー フリー操作・キーレス操作の作動完了を確認することができます。

▼確認方法

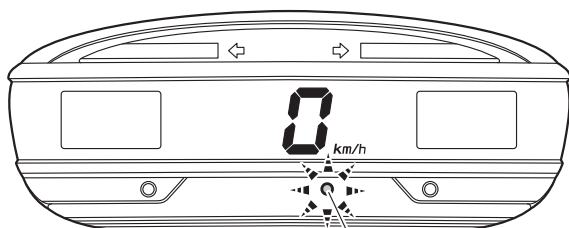
ドアの施錠・解錠と連動して、非常点滅灯と室内照明（スイッチ付きはDOOR位置のとき）とブザーが下表の通り作動します。（アンサー バック）
これにより、キー フリー操作・キーレス操作の作動完了を確認してください。

作動	部位	アンサーバック
LOCK時	非常点滅灯	1回点滅
	室内照明	減光し、その後消灯
	ブザー	1回
UNLOCK時	非常点滅灯	2回点滅
	室内照明	約15秒間点灯
	ブザー	2回

アドバイス

- 非常点滅灯の点滅を停止、および室内照明の点灯時間とブザーの音量を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

警告ブザー、メーター表示による警告

キー フリー システムでは、誤操作や車両の盗難を防ぐために、警告ブザーとセキュリティ インジケーターで警告を行います。

○電子カード キー持ち出し警告

電源が“ACC”、または“ON”のときに、いずれかのドアを開けて電子カード キーを車外に持ち出してドアを閉めると、車内で「ピピピピピ」、車外で「ピッピッピッ」と警告ブザーが鳴るとともに、セキュリティ インジケーターが高速点滅し、車内に電子カード キーがないことを警告します。

▼ 対処方法

電子カード キーを所持して乗車してください。

⚠注意

- 電子カード キーを車外に置いたまま、運転席ドアを一度開けてから閉めたときも、同様の警告が行われます。

アドバイス

- 窓から電子カード キーを車外に持ち出したときは警告は行われません。

○電源切り忘れ警告

- 電源が“ACC”のときに、運転席ドアを開けると、車内で「ピッピッピッ…」と警告ブザーが鳴り続け、電源の切り忘れを警告します。

▼対処方法

電源を“OFF”にして、ドアを閉めてください。

- 電源が“ACC”、または“ON”のときに、フロント ドア アウター ハンドル、またはバック ドア アウター ハンドル下側のスイッチを押してドアを施錠しようとすると、車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、電源の切り忘れを警告します。

▼対処方法

電源を“OFF”にして、ドアを施錠してください。

○電子カード キー置き忘れ警告

車内に電子カード キーが放置された状態で、フロント ドア アウター ハンドル、またはバック ドア アウター ハンドル下側のスイッチを押してドアを施錠しようとすると、車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、電子カード キーの置き忘れを警告します。

▼対処方法

電子カード キーを所持して、ドアを施錠してください。

○半ドア警告

いずれかのドアが開いているときに、フロント ドア アウター ハンドル、またはバック ドア アウター ハンドル下側のスイッチを押すか、電子カード キーの“LOCK”ボタンを押して、ドアを施錠しようとすると、車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、ドアが開いていることを警告します。

▼対処方法

すべてのドアを閉めて、施錠してください。

◯電子カード キー閉じ込み警告

車内に電子カード キーが放置された状態で、下記の方法で施錠すると、車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、電子カード キーの閉じ込みを警告します。
同時にすべてのドアが解錠されます。

▼ 施錠方法

車内の運転席ドアのロック レバーを施錠方向に押し込み、運転席アウター ハンドルを引いたままドアを閉める。

▼ 対処方法

電子カード キーを所持して、ドアを施錠してください。

◯電子カード キー電池消耗警告

電源を“OFF”にしたときに、車内で「ピッピッピッ」と警告ブザーが鳴り、電子カード キーの電池の残量が少ないことを警告します。

▼ 対処方法

電子カード キーが使用できなくなる前に、新しい電池と交換をしてください。

（キーの電池交換→ 290 ページ）

◯ハンドル ロック未完了警告

運転席ドアが開いているときに、電源を“ON”から“OFF”にすると、車内で「ピッピッピッ…」と警告ブザーが鳴り続け、ハンドルがロックされていないことを警告します。

▼ 対処方法

運転席ドアを閉めてください。

○警告一覧

<table>
<tr><th colspan="2">警告ブザー</th><th rowspan="2">セキュリティインジケーター</th><th rowspan="2">何をしたときに鳴りましたか？</th><th rowspan="2">対処方法</th></tr>
<tr><th>車内</th><th>車外</th></tr>
<tr><td>ピピピピピ
（5回）</td><td>ピッピッピッ
（3回）</td><td>高速点滅</td><td>ドアを閉めたとき</td><td>電源が“ACC”、または“ON”のときに、電子カード キーを車外に持ち出しています。
電子カード キーを所持して乗車してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">—</td><td rowspan="5">ピーッ
（1回）</td><td rowspan="5">—</td><td rowspan="3">フロント ドア アウター ハンドル、またはバック ドア アウター ハンドル下側のスイッチを押したとき</td><td>電源が“ACC”、または“ON”になっています。
電源を“OFF”にして、ドアを施錠してください。</td></tr>
<tr><td>いずれかのドアが開いています。
すべてのドアを閉めて、施錠してください。</td></tr>
<tr><td>電子カード キーを車内に置き忘れています。
電子カード キーを所持して、ドアを施錠してください。</td></tr>
<tr><td>車内の運転席ドアのロック レバーを施錠方向に押し込み、運転席アウター ハンドルを引いたままドアを閉めて施錠したとき</td><td>電子カード キーを車内に置き忘れています。
電子カード キーを所持して、ドアを施錠してください。</td></tr>
<tr><td>電子カード キーの“LOCK”ボタンを押したとき</td><td>いずれかのドアが開いています。
すべてのドアを閉めて施錠してください。</td></tr>
<tr><td>ピッピッピッ
（3回）</td><td>—</td><td>—</td><td>電源を“OFF”にしたとき</td><td>電子カード キーの電池残量が少なくなっています。
新しい電池と交換をしてください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ピッピッピッ…
（連続）</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2">—</td><td>運転席ドアを開けたとき</td><td>電源が“ACC”になっています。
電源を“OFF”にして、ドアを閉めてください。</td></tr>
<tr><td>電源を“OFF”にしたとき</td><td>運転席ドアが開いているためハンドル ロックがされていません。
運転席ドアを閉めてください。</td></tr>
</table>

車体各部の開閉

ドアの開閉

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- ドアの開閉は確実に行ってください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながったり、運転者や同乗者、または荷物が車から投げ出されるおそれがあります。
- 走行中は絶対にドアを開けないでください。車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確認してください。いきなり開けると後続車にぶつかるおそれがあり危険です。風が強いときは特に注意してドアを開けてください。
- 車から離れるときは、必ずエンジンを止め施錠してください。無人で車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。
- お子さまに各ドアの開閉をさせたり、いたずらをさせないでください。思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

アドバイス

- ドアを施錠している場合でも、車を離れるときは貴重品などは車の中に置いたままにしないでください。

キーレス エントリーによる施錠、解錠

（キーレス エントリー
→ 86 ページ）

キー フリー システムによる施錠、解錠

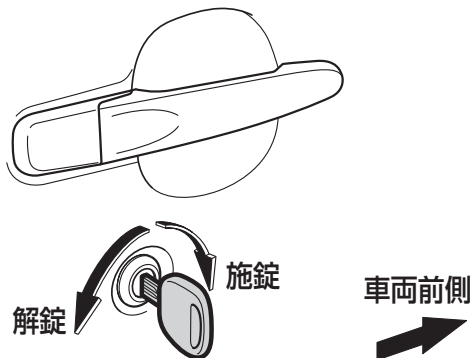
（キー フリー システム
→ 88 ページ）

車外からキーによる施錠、解錠

アドバイス

セキュリティ アラームがセットされている場合

- キーレス エントリー（またはキー フリー システムのキーレス操作・キー フリー操作）以外でドアを解錠してドアを開けると、セキュリティ アラームの警報が作動します。
  警報が作動した場合は、ただちに「警報の停止方法」の手順にしたがって、警報を停止させてください。
  （警報の停止方法→ 105 ページ）

キーを確実に差し込んでから回します。
キーを車両前側に回すと施錠され、後ろ側に回すと解錠されます。

アドバイス

- ドアのキー挿入口は助手席側には設定していません。

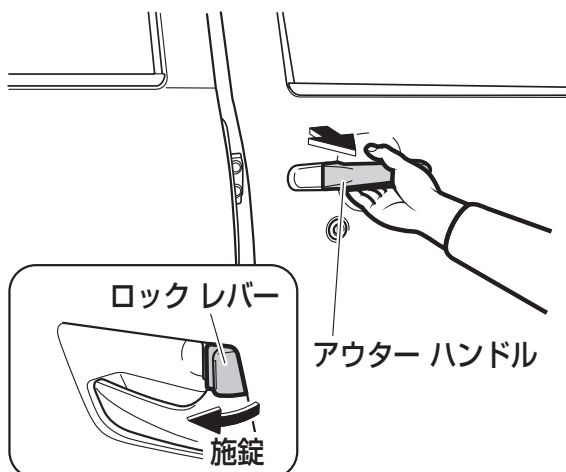
車外からキーを使用しない施錠

アドバイス

- キーを車内に置き忘れないようにしてください。不注意によりキーを車内に閉じ込めてしまう場合があります。
- キーを使用せずにドアを施錠するときにキーを手に持っていることを確認してからドアを閉める習慣を身に付ければ、車内にキーを閉じ込めてしまうことを防止できます。

○フロント ドア

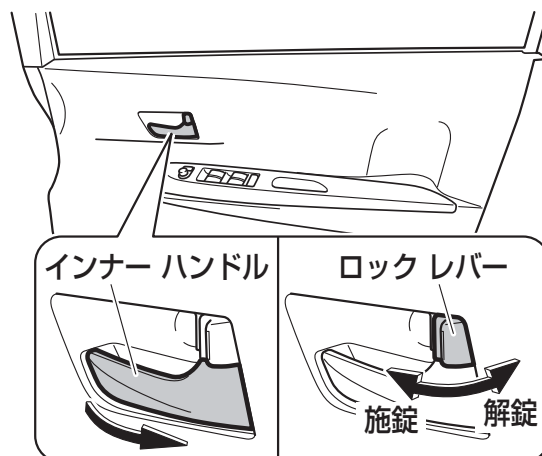
▼操作方法

ロック レバーを押し込み、アウター ハンドルを引いたままドアを閉めて施錠します。

○リヤ ドア

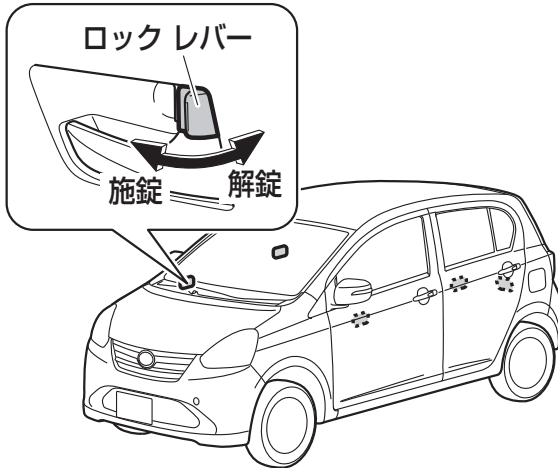
▼操作方法

ロック レバーを押し込み、ドアを閉めて施錠します。

車内からの施錠、解錠

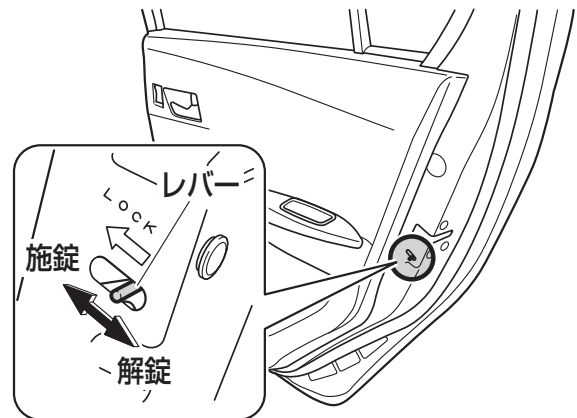
ロック レバーを押し込むと施錠できます。ロック レバーを手前に引くと解錠できインナー ハンドルを引くとドアが開きます。

○パワー　ドア　ロック

オプション/グレード別装備

運転席ドアのロック レバーを操作すると、連動して助手席ドア・左右リヤ ドア・バック ドアが施錠、解錠されます。

チャイルド　セーフティ

お子さまの安全のため、チャイルド セーフティを左右リヤ ドア後部に設けています。

▼操作方法

レバーを“施錠”側にしておくと車内のドア ハンドルを引いてもドアを開かなくすることができます。
ドアを開けるときは、車外のドア ハンドルで操作します。

⚠警告

- お子さまを後部座席に乗せるときは必ずチャイルド セーフティを使用してください。

キー抜き忘れ警告ブザー

プッシュ ボタン スタート装着車を除く

エンジン スイッチにキーが差し込まれているとき“LOCK”または“ACC”の位置で運転席のドアを開けるとブザー（断続音）が鳴り、キーの抜き忘れを警告します。

キー閉じ込み防止機能

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。
以下の状態で作動します。

キー フリー システム装着車以外

エンジン スイッチにキーが差し込まれているとき

キー フリー システム装着車

電源が“ACC”か“ON”のとき、または車内に電子カード キーがあるとき

▼キー閉じ込み防止機能が作動するとき

以下の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。（パワー ドア ロック装着車）

- 車内の運転席ドアのロック レバーを施錠方向に押し込み、運転席アウター ハンドルを引いたままドアを閉めたとき
- すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドア ロック レバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき

アドバイス

- 必ずキーを携帯していることを確認してから施錠してください。

キー フリー システム装着車

- 電子カード キーの状態（電池の消耗、車内での位置等）や周囲の電波状況により、キー閉じ込み防止機能が作動せず、施錠されることがあります。

セキュリティ アラーム

キーレス エントリー装着車

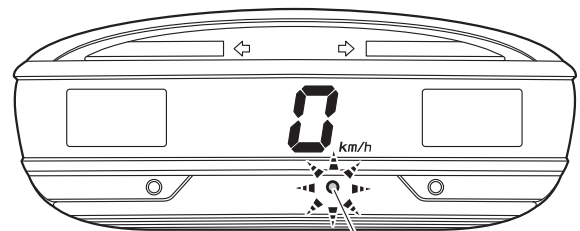
キー フリー システム装着車

セキュリティ アラームは、すべてのドアを閉め、キーレス エントリー（またはキー フリー システムのキーレス操作・キー フリー操作）でドアを施錠した場合に、盗難に対する警戒を開始します。
キーレス エントリー（またはキー フリー システムのキーレス操作・キー フリー操作）以外の操作でドアを開けると、警報を発して周囲に異常を知らせます。

アドバイス

- セキュリティ アラームは、周囲に異常を知らせる機能です。室内への侵入を防ぐ機能はありません。
- ほかの方にお車を貸したときや、セキュリティ アラームの作動について知らない方が運転するときは、セキュリティ アラームについて十分ご説明ください。
  セキュリティ アラームの作動について知らない方が操作を誤った場合、警報が作動し周辺への迷惑になります。
- たとえセキュリティ アラームをセットしていても、現金や貴重品は車内に放置しないでください。

セキュリティ アラームのセット方法

すべてのドアを閉め、キーレス エントリー（またはキー フリー システムのキーレス操作・キー フリー操作）でドアを施錠すると、セキュリティ インジケーターが点灯し、セットを開始します。
約 30 秒後にセットが終了し、セキュリティ アラームは警戒状態になります。
警戒中は、セキュリティ インジケーターが点滅します。

セキュリティ インジケーター

アドバイス

- キーレス エントリー（またはキー フリー システムのキーレス操作・キーフリー操作）以外の操作でドアを施錠した場合、セキュリティ アラームはセットされません。（キーレス エントリー・キー フリー システムの自動ロック機能で施錠された場合は、セットされます）
- セキュリティ インジケーターが点灯してから約 30 秒以内に下記の操作をした場合、セキュリティ アラームのセットは中断されます。
  - 運転席ドアを解錠したとき
  - ドアを開けたとき
  - キーレス エントリー装着車で、キーがエンジン スイッチのキー挿入口に差し込まれたとき
  - キー フリー システム装着車で、電源を“ON”にしたとき

キー フリー システム装着車の場合

- セキュリティ インジケーターは、イモビライザー機能と兼用しているため、セキュリティ アラームを解除しても、電源を“ACC”にするまで消灯しません。
  また、電源を“ACC”から“OFF”にすると点滅します。

警戒中の作動

警戒中にキーレス エントリー（またはキー フリー システムのキーレス操作・キー フリー操作）以外でドアを開けると、警報が作動します。（1 次警報）
この間、警報が解除されなかった場合、さらに警報が作動します。（2 次警報）

アドバイス

- 警報作動中にドアを閉めても、警報は停止しません。
- 警報終了後、ドアを閉めると、セキュリティ アラームが再び警戒状態になりますが、施錠はされません。お車を離れる際は確実に施錠してください。

○セキュリティ アラーム警報

▼1 次警報

- セキュリティ インジケーターが点滅
- 非常点滅灯が 10 秒間点滅
- 室内ブザーが 10 秒間断続して鳴る

▼2 次警報

- セキュリティ インジケーターが点滅
- 非常点滅灯が 30 秒間点滅
- 室内ブザーが 30 秒間断続して鳴る
- ホーンが 30 秒間断続して鳴る

セキュリティ アラームの解除方法

下記のいずれかの操作でセキュリティーアラームのセット（警戒状態）を解除できます。

- キーレス エントリー（またはキー フリー システムのキーレス操作・キーフリー操作）でドアを解錠する
- 電源を“ON”にする

アドバイス

- セキュリティ アラームは、車内に人が乗っているときや、ドア ウインド ガラスが開いているときにも作動します。セキュリティ アラームを誤作動させないために、車内に人が乗っているときや、ドア ウインド ガラスが開いているときは、セキュリティ アラームをセットしないでください。

警報の停止方法

下記のいずれかの操作で警報を停止できます。

キーレス エントリー装着車

- メイン キーの“LOCK”、または“UNLOCK”ボタンを押す
- エンジン スイッチを“ON”の位置にする

キー フリー システム装着車

- 電子カード キーの“LOCK”、または“UNLOCK”ボタンを押す
- 電子カード キーを所持して乗車する
- 電源を“ON”にする

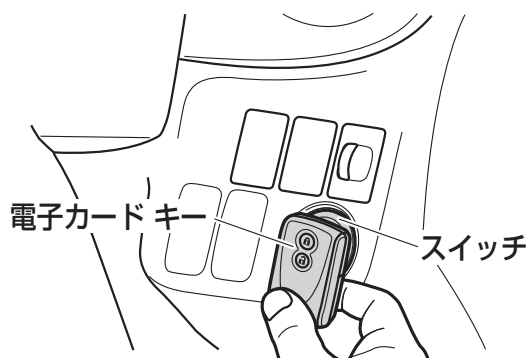
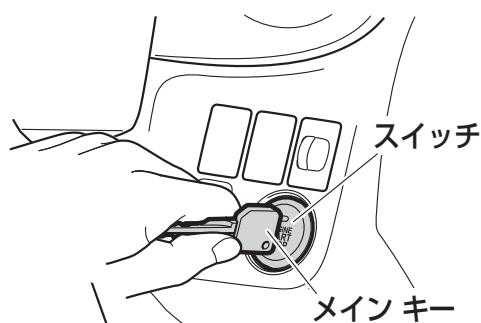
○電子カード キーが使用できないとき

電池切れなどにより、電子カード キーが使用できないときは、キーをプッシュ ボタン スタート スイッチに接触させて、警報を停止してください。

▼操作方法

1. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、キーを図のようにプッシュ ボタン スタート スイッチに接触させます。
   キーが認識されると、警報が停止します。

● 電子カード キーは、裏面のトヨタ マーク付近をスイッチの中心に接触させます。

電子カード キー

メイン キー

セキュリティ アラームの作動履歴の確認

セキュリティ アラームのセット中に警報（2 次警報まで作動した場合のみ）が作動したことを確認することができます。

▼確認方法

電源を“ON”にすると、室内ブザーが「ピーッピッ」と鳴り、2 次警報まで作動したことを知らせます。

アドバイス

● 作動履歴の確認は、2 次警報作動後、1 回のみ行うことができます。

セキュリティ アラームのメンテナンスについて

セキュリティ アラーム システムのメンテナンスは不要です。

⚠注意

● セキュリティ アラーム システムの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

バック ドア

▼ 操作を行う前に

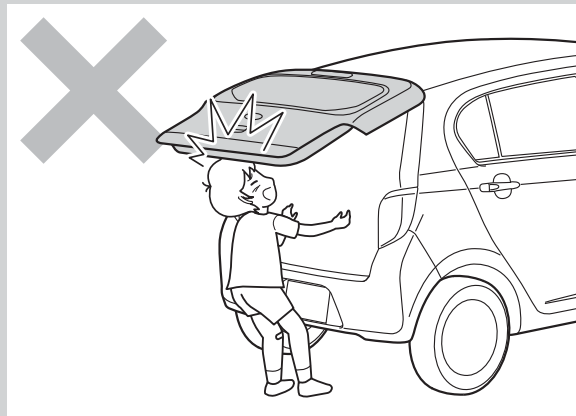
⚠警告

走行するときは

- 走行中はバック ドアを閉じてください。開けたまま走行すると、ドアが車外のものに当たったり、荷物が道路に落下したりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバック ドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前はバック ドアを軽くゆすり、ドアが確実に閉まっていることを確認してください。走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 荷室には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

お子さまを乗せているときは

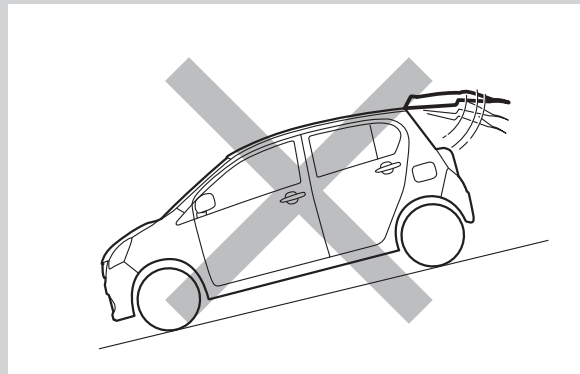
- お子さまにはバック ドアの開閉をさせないでください。不意にドアが動いたり、閉めるときに頭をぶつけたり、首や手を挟んだりするなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 荷室でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病になるなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

バック ドアを開閉するときは

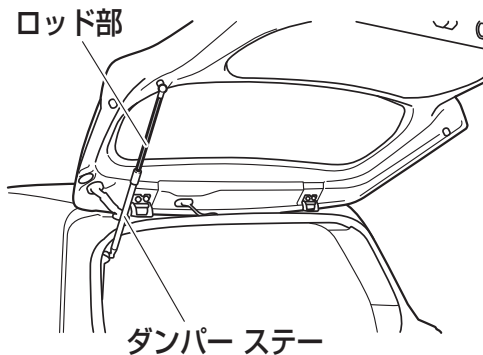
- バック ドアの開閉や荷物の出し入れをするときは、下記のことをお守りください。ドアで頭をぶつけたり、首や手を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - バック ドア周辺の安全を十分確認してください。
  - 周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
  - バック ドアのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
  - バック ドアは必ず全開で静止させてください。開け方が不十分だと、ドアが不意に閉まるおそれがあります。
  - バック ドアを閉めるときは自分や周りの人の指などを挟まないよう、十分に注意してください。
- 強風時の開閉には注意してください。風にあおられて、ドアが勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

⚠警告

- 傾斜地での開閉には注意してください。平坦な場所よりもバック ドアが開閉しにくかったり、急にドアが閉じたり開いたりするおそれがあります。ドアを開けたときは必ず全開で静止していることを確認してください。

- バック ドアを開ける前に、ドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでドアが閉まるおそれがあります。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするときは、排気管の後方に立たないでください。排気熱でやけどをするおそれがあります。
- バック ドアを支えているダンパー ステーを持ってドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、ステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バック ドアにトヨタ純正用品以外のアクセサリーを取り付けないでください。ドアの重量が極端に重くなると、開けた時にステーが支えきれなくなり、不意にドアが閉まるおそれがあります。

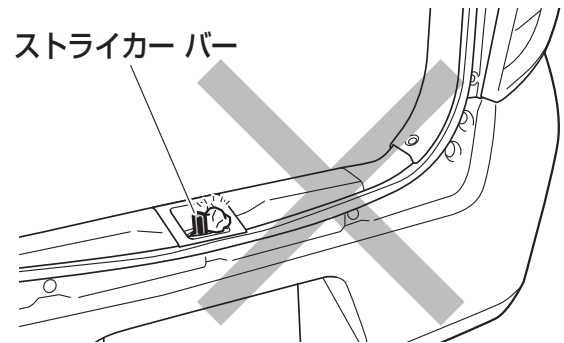
⚠注意

ダンパー ステーについて

- バック ドアには、ドアを支えるためのダンパー ステーが取り付けられています。ステーの破損や作動不良を防ぐため、下記のことをお守りください。
  - ステーに手をかけたり、横方向の力を加えたりしないでください。
  - ビニール片、ステッカー、粘着材などの異物をロッド部（メッキの棒部）に付着させないでください。

  - 繊維などの付着を防ぐため、ロッド部を軍手などで触らないでください。

⚠注意

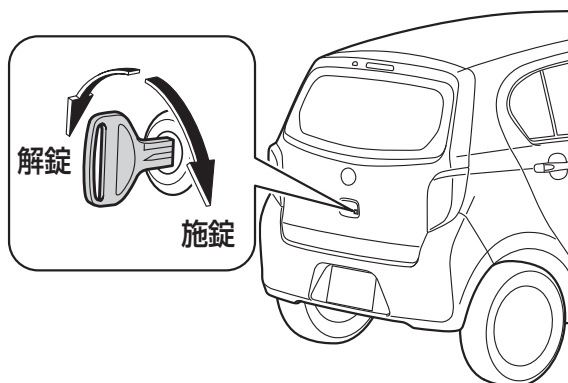
ストライカー バーについて

- バック ドアを閉めるときはストライカー バーに異物がかみ込まないようにしてください。
バーが破損し、バック ドアが閉まらなくなるおそれがあります。

車外からの施錠、解錠

キーレス エントリー装着車以外

キー フリー システム装着車以外

▼ 施錠方法

キーを差し込み、右に回すと施錠します。

▼ 解錠方法

キーを差し込み、左に回すと解錠します。

車内からの施錠、解錠

パワー ドア ロック装着車

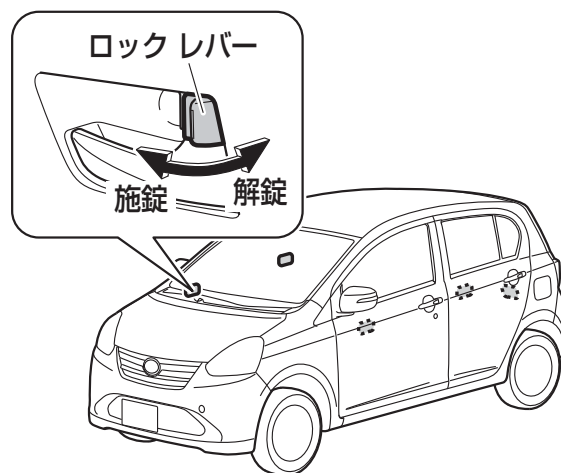
○バック ドア連動パワー ドア ロック

運転席ドアのロック レバーを操作すると、連動してバック ドアが施錠、解錠されます。このとき助手席ドア、リヤ ドアも同時に施錠、解錠されます。

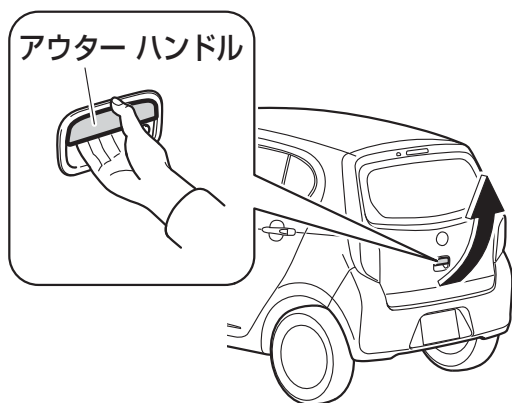
▼ 施錠方法

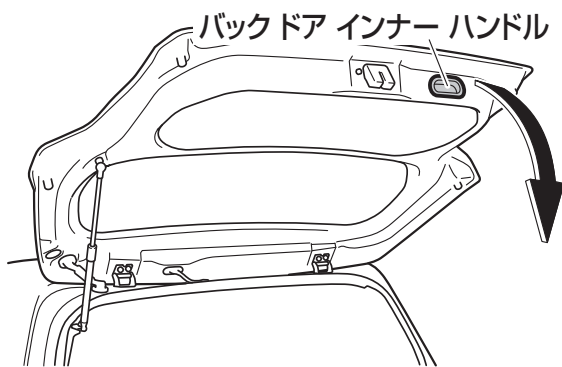
運転席ドアのロック レバーを押し込むと施錠できます。

▼ 解錠方法

運転席ドアのロック レバーを手前に引くと解錠できます。

バック ドアの開閉

▼ 開けるとき

解錠したあとでアウター ハンドルを引いて、バック ドアをゆっくりといっぱいまで持ち上げます。

▼ 閉めるとき

1. バック ドア インナー ハンドルを持ってバック ドアを途中までゆっくりと下げます。

⚠警告

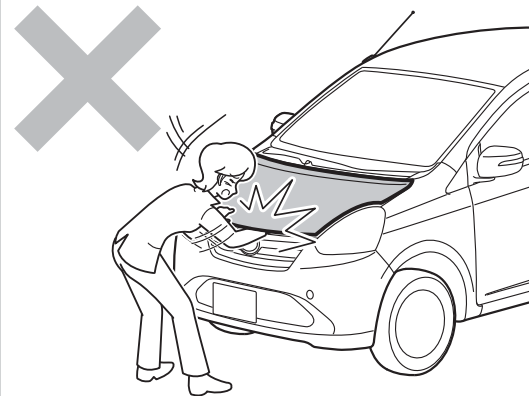
- バック ドア インナー ハンドルで直接バック ドアを閉めないでください。手や腕を挟み、けがをするおそれがあります。バック ドアは、必ず外から押して閉めてください。

2. ハンドルから手を離して、バック ドアを上から手で押さえつけるように閉めます。
3. 半ドアでないことを確認します。

ボンネット

▼ 操作を行う前に

⚠警告

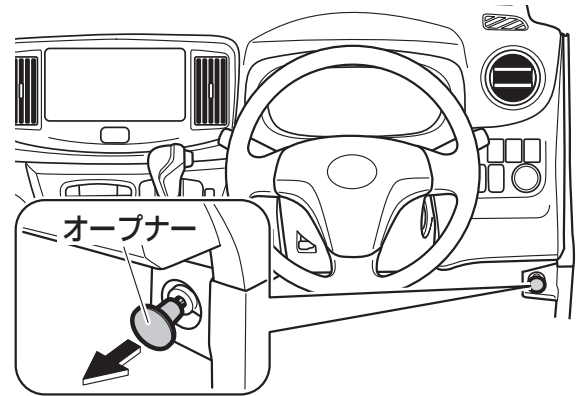
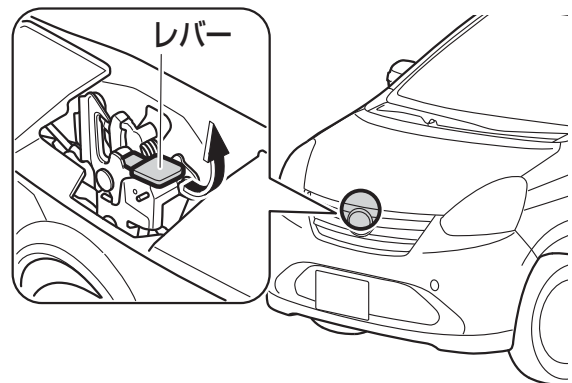
- エンジン ルームは大変高温になっていることがあるため、下記のことをお守りください。
  - やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
  - 点検したあとは、エンジン ルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジン ルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ボンネットを閉めたあとは、ボンネットが確実にロックしたことを確認してください。ボンネットが確実に閉まっていないと、走行中に突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。
- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

車体各部の開閉

⚠警告

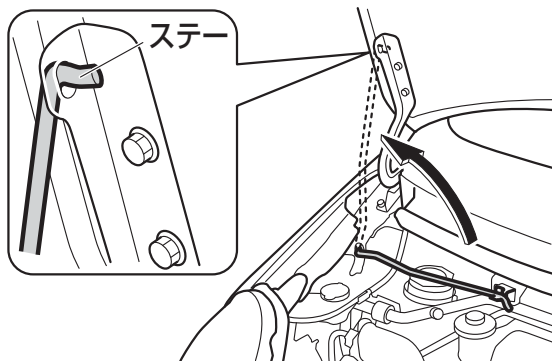
- ボンネットを開けているとき風にあおられるとステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。
- お子さまにボンネットの開閉はさせないでください。ボンネットは大変重く、開閉中うっかり手を離すと手などを挟むなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

開けかた

▼ 操作手順

1. インストルメント パネル右下のオープナーを手前に引くと、ボンネット前部が少し浮き上がります。

2. ボンネット前部中央にあるキャッチフックのレバーを矢印の方向に引き上げ、もう一方の手でボンネットを持ち上げます。

⚠警告

- エンジン回転中や停止後は、レバーが熱くなっていることがあります。やけどや思わぬ事故につながるおそれがありますので、レバーを持つ前に必ず確認してください。

3. ボンネットをステーで確実に支えます。

⚠警告

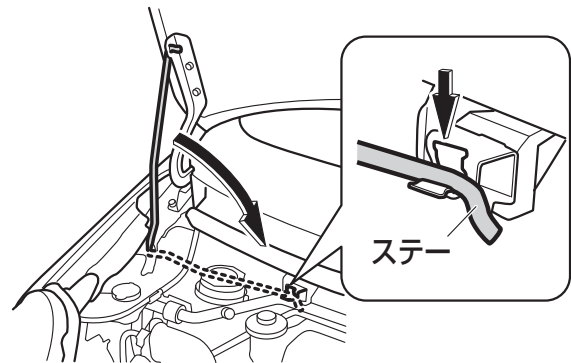
- エンジン回転中や停止直後は、ステーが熱くなっていることがあります。やけどや思わぬ事故につながるおそれがありますので、ステーを持つ前に必ず確認してください。
- ステーを確実に固定穴に差し込んでください。ステーが外れると大変危険です。

アドバイス

- ワイパーを起こしたままでボンネットを開けると、ワイパーがボンネットに当たり、傷付くことがあります。

閉めかた

▼ 操作手順

1. ボンネットを片手で支えて、ステーを元の位置へ戻します。

2. ボンネットを静かに下げ、手で押さえるようにして閉めます。

⚠注意

- ボンネットを閉めるとき、手で強く押さえすぎないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

フューエル リッド

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- 燃料は引火しやすいため、下記のことを守らないと火災につながり、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  - エンジンは必ず止めてください。
  - 車のドア、窓は閉めてください。
  - タバコを吸うなど、火気を近付けないでください。
  - フューエル キャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花が引火するなどして、やけどのおそれがあります。
  - フューエル キャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方お一人で行ってください。
  - 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
  - フューエル キャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。

⚠警告

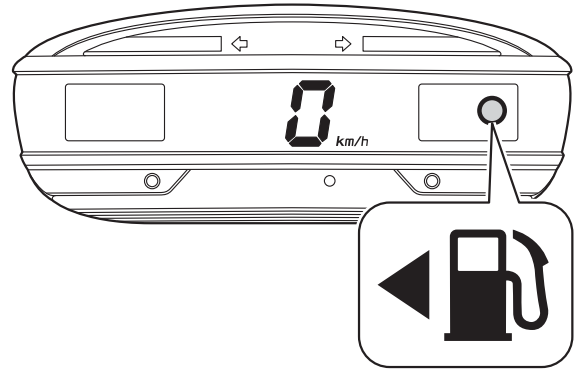
  - フューエル キャップを少しゆるめた時に「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
  - 給油口にほかの人を近付けないでください。
  - 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
  - 給油機によっては、早期にオート ストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリン スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
  - 給油終了後、フューエル キャップを閉める場合「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。
  - トヨタ純正フューエル キャップ（指定）以外は使用しないでください。燃料漏れなどを起こすおそれがあり危険です。
  - その他ガソリン スタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、燃料の気化ガスを吸わないようにご注意ください。

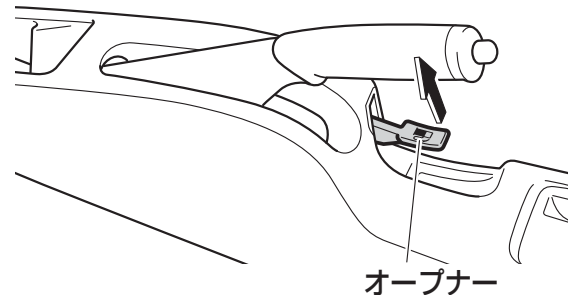
⚠注意

- 指定燃料は無鉛レギュラー ガソリン、または無鉛プレミアム ガソリンです。
  - 給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
  - 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま利用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。
- 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布きれなどでふき取ってください。
- こぼれた燃料が車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したままで放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。

フューエル リッドの開閉

アドバイス

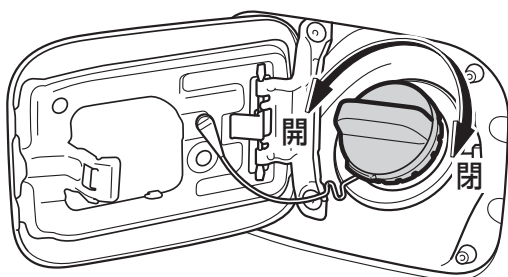
- メーター内にフューエル リッドの車両取り付け方向を示しています。

▼ 開けるとき

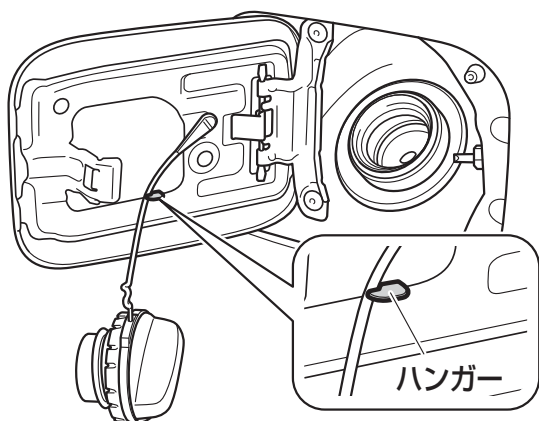
駐車ブレーキ レバー下側にあるオープナーを、矢印の方向に引き上げます。

▼ 閉めるとき

リッドを押して閉めます。

フューエル キャップの開閉

▼開けるとき

左に回して開けます。

▼給油するとき

外したフューエル キャップをフューエル リッド裏側にあるハンガーにかけておくことができます。

▼閉めるとき

「カチッ」という音が一度するまで、右に回して閉めます。

パワー ウインド

スイッチ操作により運転席、助手席、後席のウインドの開閉ができます。

▼操作を行う前に

⚠警告

- パワー ウインドは大変強い力で開閉しますので、開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないよう注意してください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- お子さまにパワー ウインドの操作をさせないでください。開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
  お子さまを乗せているときは、パワー ウインドON-OFFスイッチを“OFF”にしてください。

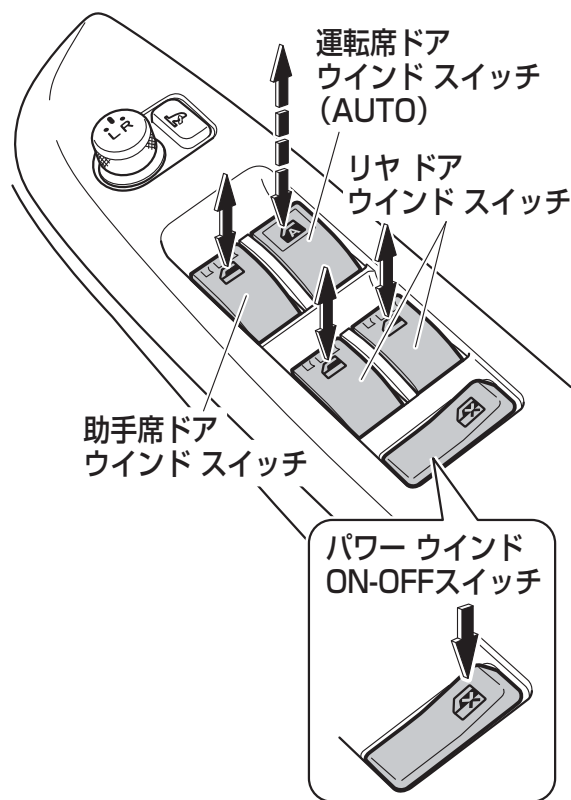
⚠注意

- 運転席スイッチとほかのスイッチを同時に逆方向へ動かさないでください。故障の原因となるおそれがあります。
- ウインドを完全に開閉した状態でスイッチを押し続けると故障の原因となりますので、操作完了後はすぐに手を離してください。
- パワー ウインドの開閉はなるべくエンジン回転中に行ってください。エンジン停止時に行うと、バッテリーあがりの原因になります。
- ガラスが凍りついて固着したような状態でウインド スイッチの“開”または“閉”を連続操作しないでください。故障の原因となります。

アドバイス

- 電源を“ON”にすると、運転席と助手席のウインド スイッチのマークが点灯します。

運転席ドア側スイッチ

電源が“ON”のとき、使用できます。

○運転席ドア ウインド スイッチ (AUTO)

▼操作方法

スイッチを軽く押し下げている間ウインド ガラスは開き、軽く引き上げている間ウインド ガラスは閉まります。

手を離すと、その位置で止まります。

「カチッ」と音がするまで押し下げる、または引き上げるとウインド ガラスは自動的に全開、全閉します。途中で止めるときは、軽く逆方向にスイッチを操作します。

▼電源“OFF”後作動機能

電源を“OFF”または“ACC”にしたあとでも、約 40 秒間は運転席ウインド ガラスを開閉できます。

◯助手席ドア ウインド スイッチ

▼操作方法

スイッチを押し下げている間ウインド ガラスは開き、引き上げている間ウインドガラスは閉まります。

手を離すと、その位置で止まります。

◯リヤ ドア ウインド スイッチ

▼操作方法

スイッチを押し下げている間ウインド ガラスは開き、引き上げている間ウインドガラスは閉まります。

手を離すと、その位置で止まります。

◯パワー ウインドON-OFF スイッチ

▼操作方法

スイッチの右側（マークの付いている方）を押すと“OFF”になり、運転席ウインド ガラス以外は操作できなくなります。

スイッチの左側（マークのない方）を押すと解除されます。

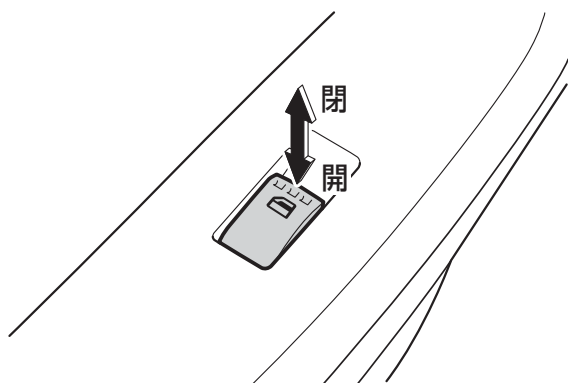
アドバイス

- **スイッチを押して“OFF”にすると、助手席ドア側スイッチのマークも消灯します。**

助手席ドア側スイッチ

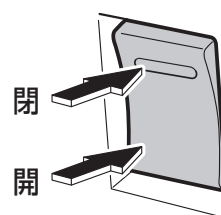
電源が“ON”のとき、使用できます。

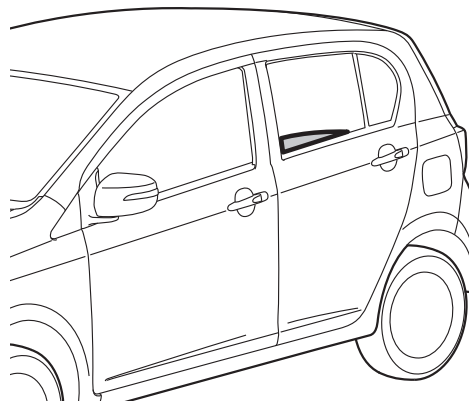
▼ 操作方法

スイッチを押し下げている間ウインド ガラスは開き、引き上げている間ウインドガラスは閉まります。
手を離すと、その位置で止まります。

リヤ ドア側スイッチ

電源が“ON”のとき、使用できます。

▼ 操作方法

スイッチの上側を押している間ウインドガラスは閉まり、スイッチの下側を押している間ウインド ガラスは開きます。
手を離すとその位置で止まります。

アドバイス

● 後席左右のドア ウインドは全開になりません。

挟み込み防止機構（運転席）

運転席ウインド ガラスを閉めるときに、窓枠とウインド ガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ウインド ガラスの上昇を停止し、自動的にウインド ガラスが下降します。

⚠警告

- 特に小さな物を挟み込んだとき、挟み込み防止機構が作動しないことがあります。

アドバイス

- 環境や走行条件により、異物を挟み込んだときと同じ衝撃がウインド ガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

運転席ドア ウインド ガラス が全閉しないときは

挟み込み防止機構が異常に作動してしまい、ウインド ガラスを全閉できないときは、運転席ドア ウインド スイッチで、下記の操作を行ってください。

▼ 操作方法

1. 車を停止し、電源を“ON”にします。
2. 運転席ドア ウインド スイッチを「カチッ」と音がするまで上に引き（自動全閉位置）、引き続けたままウインド ガラスを全閉にします。
3. 全閉後スイッチから手を離さず、さらに約 6 秒間スイッチを上に引き続けます。

アドバイス

- 操作中、スイッチから手を離したときは、もう一度はじめからやり直してください。
- 上記の操作を行ってもウインド ガラスが全閉しない場合はパワー ウインドの初期設定を行ってください。それでも反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
（初期設定→ 121 ページ）

初期設定

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、パワー ウインドの初期設定をしてください。
パワー ウインドの初期設定がされていないと、下記の機能は作動しません。

- 運転席ウインド ガラスの
  - 自動開閉機能
  - 挟み込み防止機構
  - 電源“OFF”後作動機能

▼ 操作手順

1. 電源を“ON”にします。
2. 運転席ドア ウインド スイッチを下に押し続け、ウインド ガラスを全開にします。
3. 運転席ドア ウインド スイッチを「カチッ」と音がするまで上に引き（自動全閉位置）、引き続けたままウインド ガラスを全閉にします。
4. 全閉後スイッチから手を離さず、さらに約２秒間スイッチを上に引き続けます。

車体各部の調整

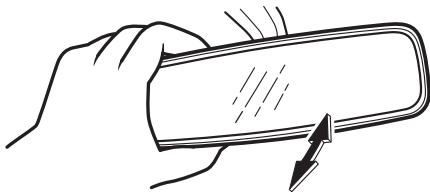
ルーム ミラー

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- 走行中は、ルーム ミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

▼ 調整のしかた

ルーム ミラー全体を動かして角度を調整します。

ドア ミラー

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- ミラーの操作を行う際は、ドアとミラーの間に手を挟まないように注意してください。
- ミラーを倒したまま走行しないでください。ミラーによる後方確認ができず事故につながるおそれがあり危険です。

手動式（鏡面可動タイプ）

オプション/グレード別装備

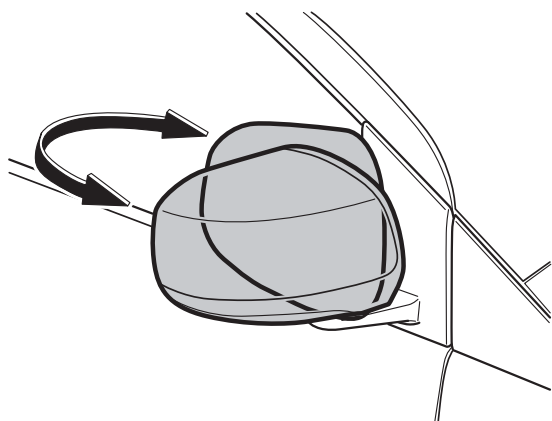
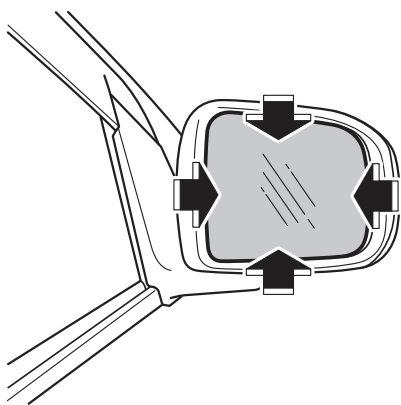
ミラーの格納、角度調整を手で行います。

▼ 格納のしかた

ミラーは後方に倒して格納することができます。走行するときは必ず元に戻してください。

▼ 調整のしかた

鏡面部分を押して角度を調整します。

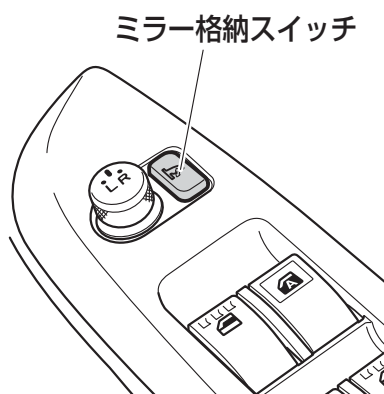
⚠警告

- 走行中は、ミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 汚れた手で調整しないでください。鏡面に油や汚れが付くと夜間など後方からのライトが乱反射し、視認が困難になるなどして大変危険です。

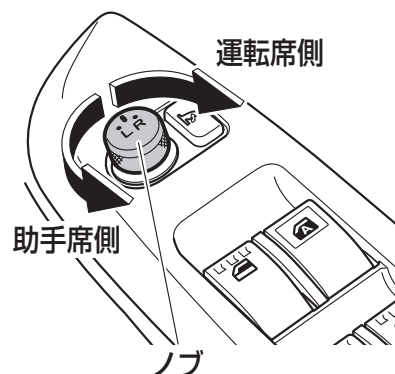
電動格納式

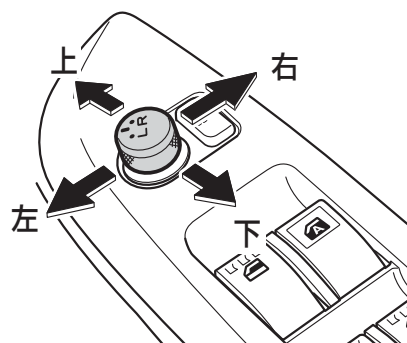
オプション/グレード別装備

ミラーの格納、角度調整をスイッチまたはノブの操作で行うことができます。
電源が“ACC”または“ON”のときに使用できます。

▼ 格納のしかた

ミラー格納スイッチを押すと、ミラーを格納することができます。もう一度押すと元に戻ります。走行するときは、必ず元に戻してください。

▼ 調整のしかた

1. ノブを調整する側にまわします。

2. ノブを動かして、ミラーの角度を調整します。

⚠警告

- 走行中は、ミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

- 調整するとき以外は、調整ノブを中立（中央）の位置に合わせておいてください。
- 調整ノブを中立（中央）の位置にすると操作することができません。

オート格納式ドア ミラー（キー フリー システム連動）

キー フリー システム装着車

ドアの施錠と連動して、ミラーが格納されます。

▼ 格納のしかた

フロント ドア アウター ハンドル、またはバック ドア アウター ハンドル下側のスイッチを押すか、電子カード キーの“LOCK”ボタンを押してドアを施錠します。

▼ 元に戻すときは

電源を“ACC”または“ON”にします。

⚠注意

- ミラーを元に戻すときは、ドア ミラー周辺に障害物がないことを確認してください。ドア ミラーが当たり、破損するおそれがあります。

アドバイス

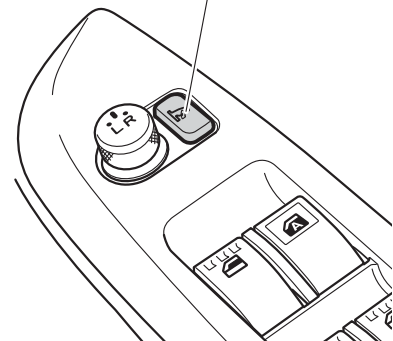
- 電源を“ON”にしたときのみ、ドア ミラーを元に戻すようにすることができます。（ミラー格納スイッチの操作も、電源を“ON”にしたときのみ可能になります。）トヨタ販売店にご相談ください。

○機能の停止・復帰方法

ドア ミラーのオート格納機能を停止することができます。

▼ 機能の停止方法

1. 電源を“OFF”にし、車幅灯を消灯します。
2. 電源を“ACC”にします。
   （ブレーキ ペダルを踏まずに、プッシュ ボタン スタート スイッチを 1 回押します）
3. “ACC”にしてから約 5 秒以内に、車幅灯を点灯・再度消灯します。
4. 消灯してから約 5 秒以内に、ミラー格納スイッチを押します。

- ブザーが 1 回鳴り、ドア ミラーのオート格納機能が停止します。

▼ 機能の復帰方法

機能の停止方法と同じ操作を行います。

- ブザーが 2 回鳴り、ドア ミラーのオート格納機能が復帰します。

アドバイス

- 操作を途中で中断したときは、もう一度はじめからやり直してください。
- 機能の復帰操作を行っても、ブザーが 1 回しか鳴らず復帰しない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

電動格納式ヒーテッドドア ミラー

オプション/グレード別装備

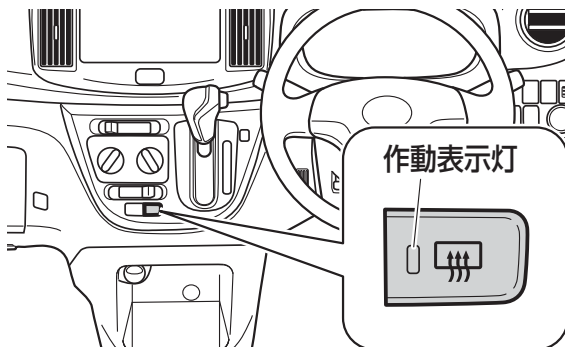
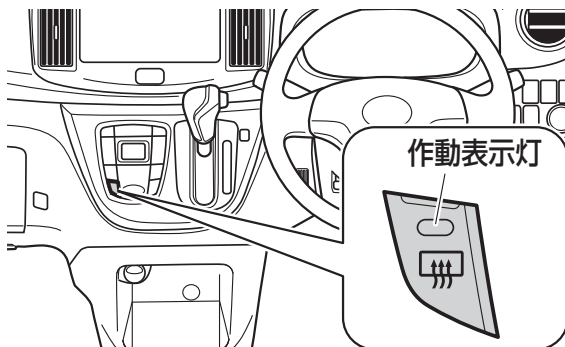
曇り取り機能を装備した電動格納式ドアミラーです。
雨天時などに、ドア ミラーが曇ったとき、ドア ミラーの曇りを取ることができます。
（電動格納式ドア ミラー→ 124 ページ）

▼ 操作方法

リヤ ウインド デフォッガー スイッチを押すと、作動表示灯が点灯し、ドア ミラーが暖められ曇りが取れます。
作動を停止するときは、リヤ ウインド デフォッガー スイッチをもう一度押してください。作動表示灯も消灯します。

マニュアル エアコン装着車

オート エアコン装着車

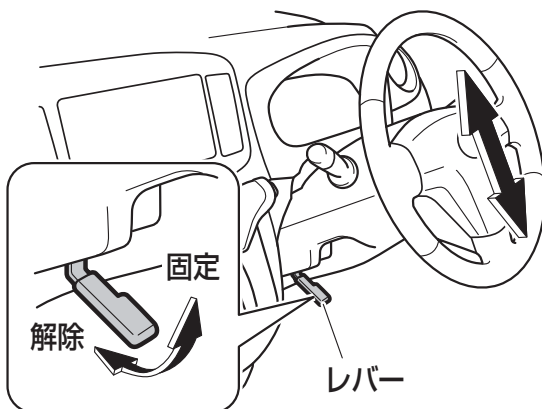
⚠注意

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因になります。

チルト ステアリング

オプション/グレード別装備

ハンドルの位置を調整することができます。

▼ 調整のしかた

レバーを押し下げ、ハンドルを上下に動かし適切な位置に調整します。その状態でレバーを引き上げると固定されます。

⚠警告

- 走行中はハンドル位置の調整をしないでください。調整中に運転を誤り思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。
- ハンドル位置の調整をしたあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドル位置が突然変わり、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

車を運転するにあたって

車を運転するうえでの各部のはたらき、装置の使いかた、運転の方法について説明しています。

■ メーターのはたらき

■ 表示灯、警告灯のはたらき

■ スイッチの使いかた

■ 運転装置の使いかた

■ エンジンのかけかた

■ オートマチック車の運転

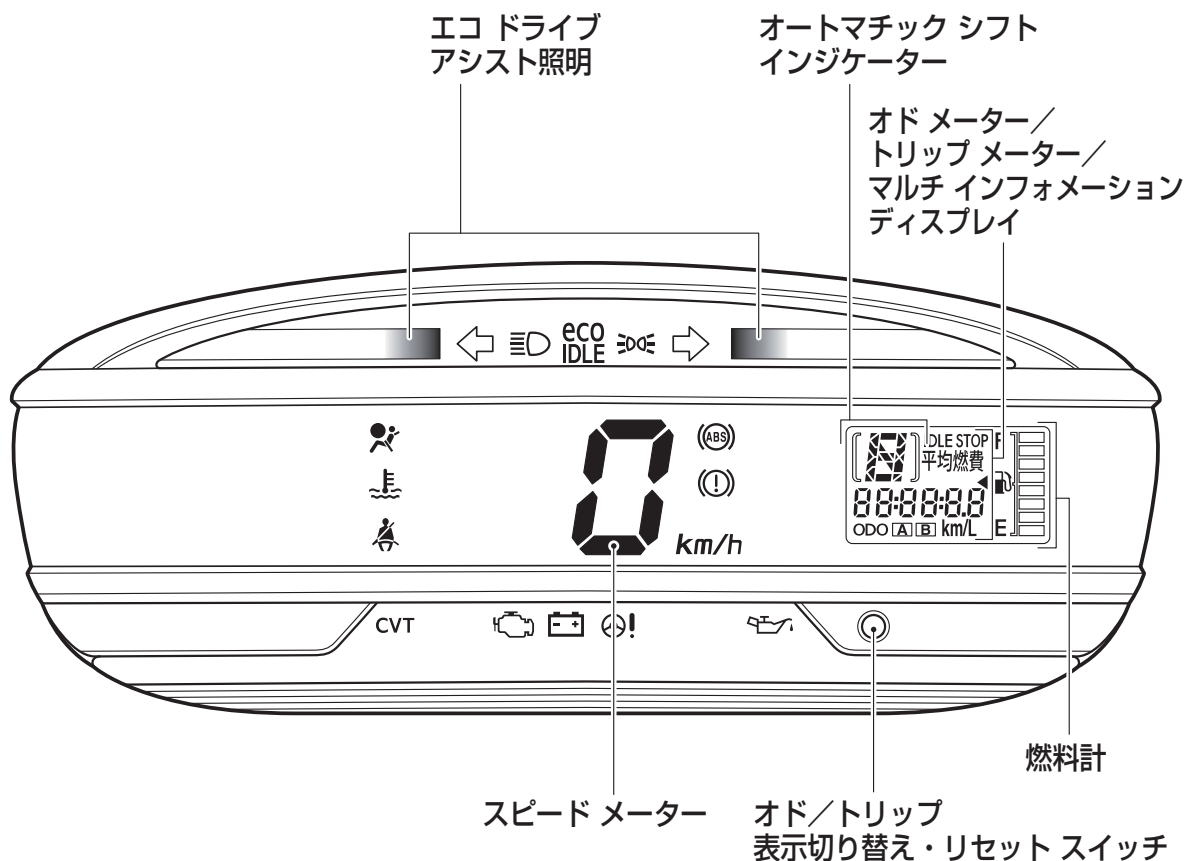
■ アイドリング ストップ システムの使いかた

■ エコ発電制御

メーターのはたらき

メーター

エコ ドライブ アシスト ディスプレイなし車

グレードの違い、オプションも含まれています。

◯メーター照明

- エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、車幅灯の点灯・消灯に関わらず点灯します。
- メーター照明が点灯しているときに車幅灯を点灯させると、メーター照明が減光します。

▼エコ ドライブ アシスト照明

- エンジン スイッチが“LOCK”または“ACC”の位置のとき、ドア連動機能により点灯・消灯します。

（ドア連動機能→ 238 ページ）

アドバイス

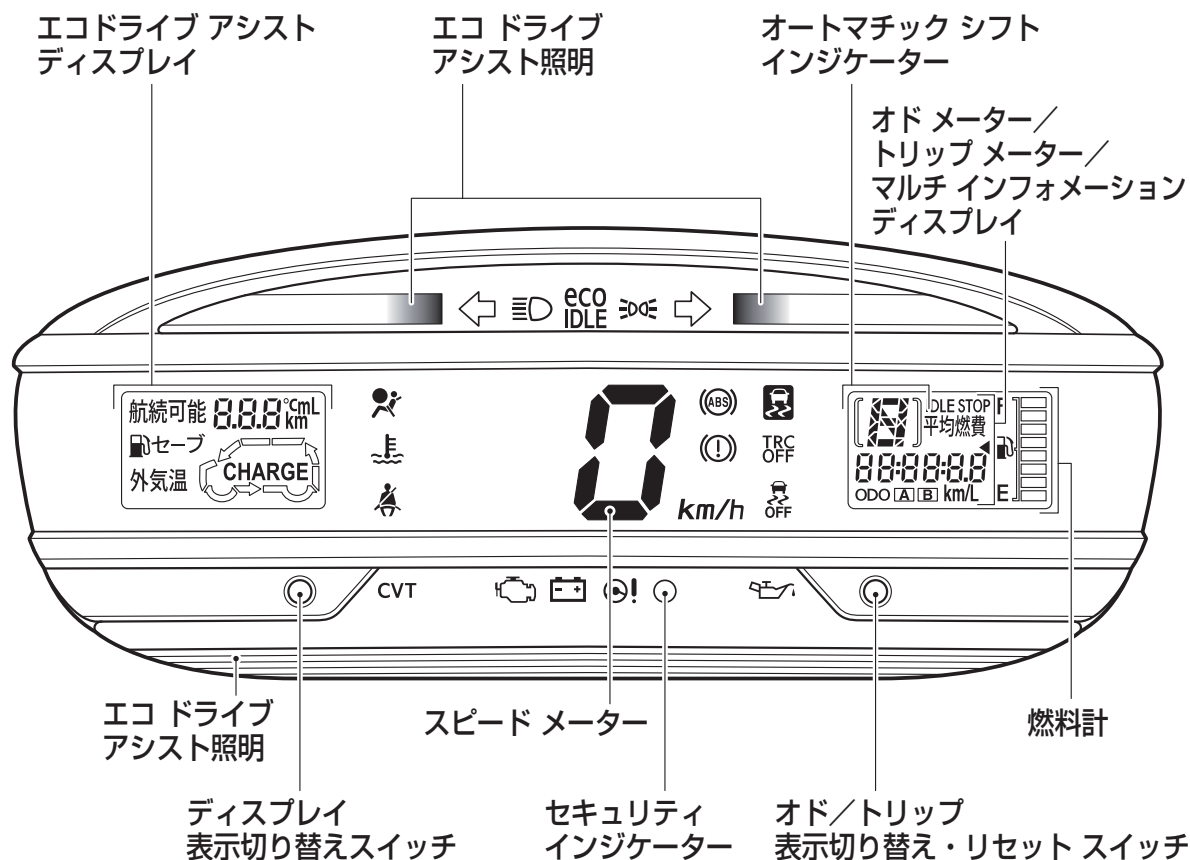
- ライトの点灯・消灯の確認は、テール インジケーターで行ってください。

（テール インジケーター→ 141 ページ）

- メーター照明の照度は調整することができます。また、車幅灯を点灯させたときに、減光しないようにすることもできます。

（照度調整→ 136 ページ）

エコ ドライブ アシスト ディスプレイ付き車

グレードの違い、オプションも含まれています。

○メーター照明

- 電源が“ON”のとき、車幅灯の点灯・消灯に関わらず点灯します。
- メーター照明が点灯しているときに車幅灯を点灯させると、メーター照明が減光します。

アドバイス

- ライトの点灯・消灯の確認は、テール インジケーターで行ってください。

（テール インジケーター→ 141 ページ）

- メーター照明の照度は調整することができます。また、車幅灯を点灯させたときに、減光しないようにすることもできます。

（照度調整→ 136 ページ）

メーターのはたらき

スピード メーター

走行速度をkm/h で表示します。

燃料計

電源が“ON”のとき、燃料残量を表示します。

燃料残量が 2 WD車は約 6ℓ、 4 WD車は約 5.5ℓ以下になると、燃料計の一番下の目盛りと燃料残量警告灯が点滅します。

(燃料残量警告灯→ 149 ページ)

⚠注意

燃料残量警告灯が点滅した場合

- ただちに燃料を補給してください。

オド メーター／トリップ メーター／マルチ インフォメーション ディスプレイ

電源が“ON”のとき、表示されます。

○オド メーター(積算距離計)

走行した総距離を表示します。

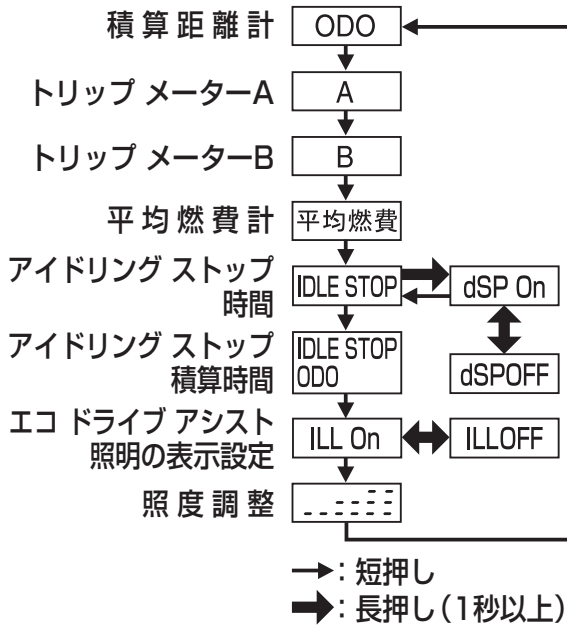
○トリップ メーター(区間距離計)

リセットした地点からの走行距離を表示します。

トリップ メーターは、同時に 2 つの区間の走行距離を表示することができます。

○オド／トリップ表示切り替え・
　リセット スイッチ

▼表示を切り替えるには

スイッチを押すごとに、表示が切り替わります。

▼トリップ メーター表示をリセットするには

リセットするトリップ メーター（AまたはB）を表示させ、スイッチを押し続けると、表示が“0.0”になります。

○平均燃費計

表示をリセットしてからの平均燃費を約10秒ごとに更新して表示します。

アドバイス

- 電源を“ON”にした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。
- 最大表示は、「99.9km/L」です。
- 表示を更新するときにデータが受信できない、または無効なデータを受信した場合は、ブランク表示になります。
- 給油後（約5ℓ以上を目安）、約2km/h以上の速度になると、自動でリセットされ（表示が「0.0km/L」になり）ます。自動でリセットされない場合は、平均燃費を表示させているときに、オド／トリップ表示切り替え・リセットスイッチを押し続けるとリセットされます。

○アイドリング ストップ時間

電源を“ON”にしてからのeco IDLEによるアイドリング ストップ時間を表示します。

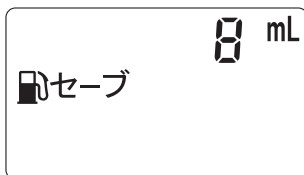
アドバイス

エコ ドライブ アシスト ディスプレイ付き車

- アイドリング ストップ時間の表示と連動して、エコ ドライブ アシスト ディスプレイに節約燃料が表示されます。

(節約燃料表示→ 138 ページ)

▼アイドリング ストップ時間表示のリセットについて

電源を“OFF”にすると、表示がリセットされます。リセット後、電源を“ON”にすると、表示が“00:00:00”になります。

▼アイドリング ストップ時間の自動表示について

アイドリング ストップ時間自動表示の設定が“dSP On”のとき、eco IDLEによるアイドリング ストップ中に、自動でアイドリング ストップ時間を表示します。

アドバイス

アイドリング ストップ時間自動表示を解除するには

- アイドリング ストップ時間を表示させ、オド／トリップ表示切り替え・リセット スイッチを約 1 秒以上押すと自動表示設定画面になります。さらに約 1 秒以上押すごとに“dSP On”、“dSP OFF”が切り替わります。

表示	eco IDLEによるアイドリング ストップ中の自動表示
dSP On	する
dSP OFF	しない

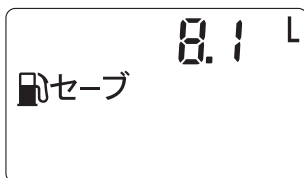
○アイドリング ストップ積算時間

表示をリセットしてからのeco IDLEによるアイドリング ストップ積算時間を表示します。

アドバイス

エコ ドライブ アシスト ディスプレイ付き車

- アイドリング ストップ積算時間表示と連動して、エコ ドライブ アシスト ディスプレイに節約燃料（積算）が表示されます。

（節約燃料表示（積算）→ 138 ページ）

▼アイドリング ストップ積算時間表示をリセットするには

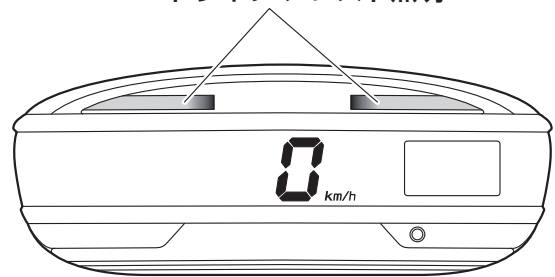
アイドリング ストップ積算時間を表示させ、オド／トリップ表示切り替え・リセット スイッチを押し続けると、表示が“00:00:00”になります。

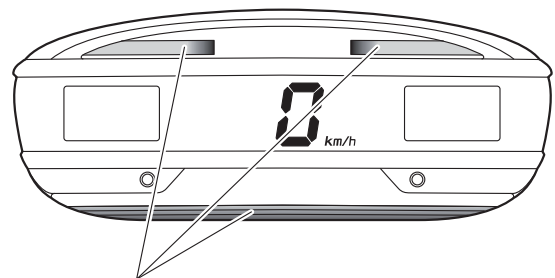
エコ ドライブ アシスト ディスプレイ付き車は、同時に節約燃料表示（積算）も、リセットされます。

○エコ ドライブ* アシスト照明の表示設定

ILL On（またはILL OFF）を表示させて、オド／トリップ表示切り替え・リセットスイッチを約 1 秒以上押し続けるごとに、“ILL On”、“ILL OFF”が切り替わります。

（エコ ドライブ アシスト照明 → 140 ページ）

エコ ドライブ アシスト ディスプレイなし車

表示	エコ ドライブ中の照明色変化
ILL On	橙色↔黄色↔緑色
ILL OFF	橙色のまま

エコ ドライブ アシスト ディスプレイ付き車

表示	エコ ドライブ中の照明色変化
ILL On	青色↔水色↔緑色
ILL OFF	青色のまま

* エコ ドライブ：二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転

○照度調整

照度調整表示中、オド／トリップ表示切り替え・リセット スイッチを約１秒以上押し続けている間、メーター照明の明るさが下表のように変わります。

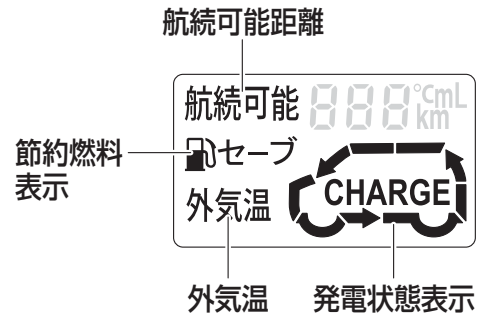
明るさ	表示	照度レベル
明るい		レベル1
↕		レベル2
		レベル3
暗い		レベル4

アドバイス

- 電源が“ON”のときに、照度調整を表示させることができます。
- “レベル 1”に設定すると、車幅灯を点灯させたときに、メーター照明が減光しません。

エコ ドライブ アシスト ディスプレイ

オプション/グレード別装備

電源が“ON”のときに表示します。

○ディスプレイ表示切り替えスイッチ

▼表示を切り替えるには

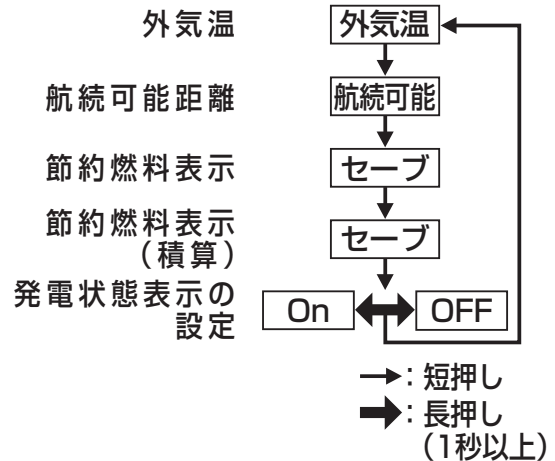
スイッチを押すごとに、表示が切り替わります。

▼切り替わりかた

○外気温

外気温度を表示します。

30℃
外気温

アドバイス

- ほかの計測装置により計測した外気温とは、異なることがあります。
- 電源を“ON”にした直後の表示は、ブランク表示です。
- 表示範囲は、「－30～50℃」です。
- 外気温度表示が 3℃以下になると、数字が点滅しますが、電源を“ON”にしたときに、すでに 3℃以下の表示の場合、点滅しません。
- 異常検出したときの表示は、「－－℃」です。
- 下記の場合は、正しい外気温が表示されないことがあります。
  - 停車しているときや低速走行しているとき
  - 外気温が急激に変化したとき（トンネルの出入り口付近など）
- 実際の外気温が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温表示が変動することがあります。

○航続可能距離

現在の燃料残量と過去の燃費から航続可能距離を算出します。

航続可能 123km

アドバイス

- 航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計が“E”に近付くか、燃料残量警告灯が点灯したら、早めに燃料を補給してください。
- 表示の更新時間は、運転状況（走行中・停車中）によって異なります。
- 新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
- 表示される航続可能距離は、過去の燃費をもとに計算しているため、運転方法・道路状況により増減することがあります。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
- 最大表示は、「999km」です。
- 異常検出したときは、しばらくブランク表示になることがあります。
- バッテリーとの接続が断たれたときは、学習した燃費はリセットされます。

○節約燃料表示
電源を“ON”にしてからの、eco IDLEによるアイドリング ストップ時に節約した燃料量を表示します。

アドバイス

- 「999mL」より大きくなると「1.0L」と表示されます。
  最大表示は、「99.9L」です。
- 節約燃料表示と連動して、マルチ インフォメーション ディスプレイにアイドリング ストップ時間が表示されます。

（アイドリング ストップ時間 → 134 ページ）

○節約燃料表示（積算）
表示をリセットしてからの、eco IDLEによるアイドリング ストップ時に節約した燃料量を表示します。

▼節約燃料表示（積算）をリセットするには
節約燃料（積算）の表示中、ディスプレイ表示切替スイッチを約１秒以上押し続けると、表示が「0mL」になります。
同時にアイドリング ストップ積算時間もリセットされます。

アドバイス

- 電源を“ON”にした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。
- 「999mL」より大きくなると「1.0L」と表示されます。
  最大表示は、「99.9L」です。
- 節約燃料表示（積算）と連動して、マルチ インフォメーション ディスプレイにアイドリング ストップ積算時間が表示されます。

（アイドリング ストップ積算時間 → 135 ページ）

○発電状態表示

エコ発電制御中、車マーク内に“CHARGE”が表示され、車マークの矢印が反時計回りに点灯します。

（エコ発電制御→ 197 ページ）

アドバイス

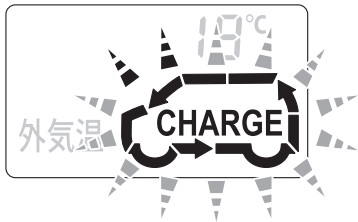
- 矢印の回転速度は、発電量に応じて 3 段階で変化し、発電量が大きいほど回転は速くなります。

▼発電状態の表示／非表示を切り替えるには

発電状態表示の設定画面を表示させ、ディスプレイ表示切り替えスイッチを約 1 秒以上押し続けるごとに“On”、“OFF”が切り替わります。

表示	発電状態表示の“CHARGE”と矢印回転点灯
On	する
OFF	しない

アドバイス

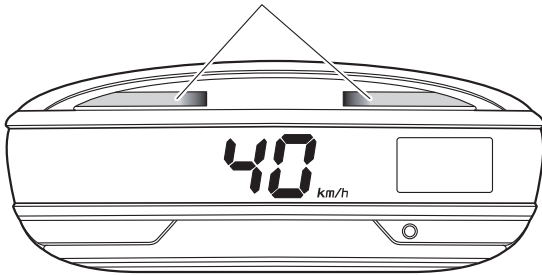
- 下記の場合は発電状態表示（“CHARGE”と矢印回転）が点灯しません。
  - eco IDLEによるアイドリング ストップ中
  - エンジン冷却水温が低いとき

アドバイス

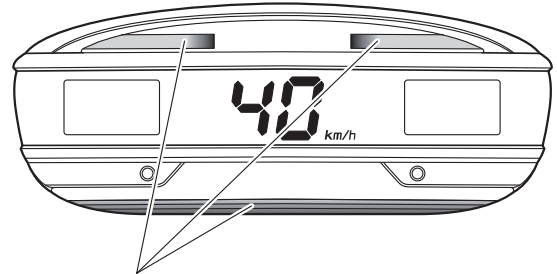
- 下記の場合は発電状態表示（“CHARGE”と矢印回転）が点灯しないことがあります。
  - エアコンを使用しているとき
  - ヘッド ランプが点灯しているとき

エコ ドライブ アシスト照明

エコ ドライブ アシスト照明の設定が“ILL On”のときに、走行状態に応じてエコ ドライブ（二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転）の度合いを判定し、エコ ドライブ アシスト照明が変化します。

- 電源を“ON”にすると数秒間、緑色に点灯します。
- 走行速度にあったアクセル ペダルの操作でエコ運転をしていると、エコ ドライブ アシスト照明が下図のように変化します。

エコ ドライブ アシスト ディスプレイなし車

エコ運転度合	照明色			エコ運転度合
	橙色	黄色	緑色	
低	←		→	高

エコ ドライブ アシスト ディスプレイ付き車

エコ運転度合	照明色			エコ運転度合
	青色	水色	緑色	
低	←		→	高

（エコ ドライブ アシスト照明の表示設定→ 135 ページ）

アドバイス

- eco IDLEによるアイドリング ストップ中は緑色になります。

（eco IDLE（エコ アイドル）→ 186 ページ）

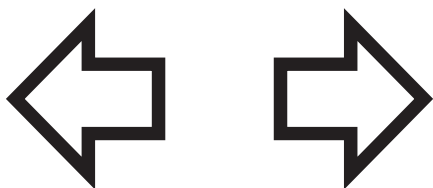
表示灯、警告灯のはたらき

表示灯

車両のさまざまな状態をメーター内に表示します。

⚠警告

- 表示灯によっては、点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
この場合、それぞれの表示灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 点灯操作を行っても、表示灯が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

方向指示表示灯・非常点滅表示灯

○方向指示表示灯
電源が“ON”で、方向指示灯を点滅させると、同時に点滅します。

○非常点滅表示灯
電源に関係なく、非常点滅灯を点滅させると、同時に点滅します。

アドバイス

点滅する間隔が異常に速くなった場合
- 方向指示灯（非常点滅灯）の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッド ランプ上向き表示灯

電源に関係なく、ヘッド ランプを上向きの状態にすると点灯します。

テール インジケーター

電源に関係なく、車幅灯が点灯しているときに点灯します。

水温表示灯（緑色）

- 電源が“ON”で、エンジン冷却水温が低いとき、緑色に点灯します。
- 電源が“ON”で、暖機を十分続けていても、水温センサー等に異常があると点滅、または点灯したままになります。

⚠注意

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

暖機を十分続けていても緑色に点滅・点灯したままの場合

- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

エンジン冷却水温が異常に高いときは

- 水温警告灯としてはたらき、赤色に点滅・点灯します。

（水温警告灯（赤色）→ 147 ページ）

セキュリティ インジケーター

キー フリー システム装着車

- 電源を“ACC”から“OFF”にして、イモビライザー機能を作動させると点滅します。
- 電源を“OFF”から“ACC”にして、イモビライザー機能を解除すると消灯します。

（イモビライザー機能→ 170 ページ）

⚠注意

- 電子カード キーによりエンジンを始動した場合、電源が“ACC”、または“ON”で、下記のことを行うと、表示灯が高速で点滅し、警告ブザー（室内は「ピピピピピ」、室外は「ピッピッピッ」という音）が鳴ることで、電子カード キーの持ち出しを警告します。

（警告ブザー、メーター表示による警告 → 94 ページ）

  - いずれかのドアを一度開けて、電子カード キーを車室内発信機の作動範囲外に移動させ、ドアを閉めたとき。

（作動範囲→ 166 ページ）

- また、電子カード キーを車室内発信機の作動範囲外に置いたまま、運転席ドアを一度開けてから閉めたときも、同様の警告が行われます。

アドバイス

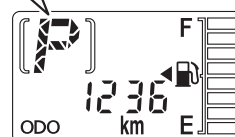
- セキュリティ インジケーターはセキュリティ アラームと兼用しているため、キー フリー操作・キーレス操作によりドアを施錠すると、約 30 秒間点灯にかわります。
  また、セキュリティ アラームが解除されていない場合は、電源を“ACC”にしても消灯しない場合があります。

プッシュ ボタン スタート スイッチを押すと、高速で点滅した場合

- 電子カード キーが車室内発信機の作動範囲外にあることが考えられます。
  運転者は電子カード キーを身に付けてください。
  それでも消灯しない場合、電池が消耗しているおそれがあります。早めに電池を交換してください。
  （キーの電池交換→ 290 ページ）

キーレス エントリー装着車

（セキュリティ　アラーム
→ 103 ページ）

オートマチック シフト インジケーター

- 電源が“ON”のとき、使用中のシフト レバーの位置が点灯します。
- Ⓡレンジにすると、“[ ]”が点滅します。

TRC OFF表示灯

VSC&TRC装着車

TRC
OFF

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VSC&TRC OFFスイッチを短押し（3秒以内）すると、TRCが作動停止状態となり点灯します。

（VSC&TRC OFFスイッチ→ 160 ページ）

VSC OFF表示灯

VSC&TRC装着車

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VSC&TRC OFFスイッチを 3 秒以上押すと、VSC（TRCを含む）が作動停止状態となり点灯します。

（VSC&TRC OFFスイッチ→ 160 ページ）

スリップ インジケーター

VSC&TRC装着車

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、下記のシステムが作動した場合に点滅します。

▼点滅するシステム

- VSC

（VSC→ 77 ページ）

- TRC

（TRC→ 79 ページ）

⚠注意

- 電源を“ON”にしても点灯しないとき、または点灯したままの場合は、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

（VSC＆TRC警告灯→ 150 ページ）

- スリップ インジケーターが点滅した場合は、VSC、またはTRCが作動していますので特に慎重に運転してください。

eco IDLE表示灯

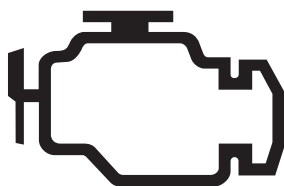
（eco IDLE表示灯／警告灯
→ 193 ページ）

警告灯

さまざまなシステムの異常や、安全運転に関わる項目をメーター内に警告します。

⚠警告

- 警告灯が点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
  この場合、それぞれの警告灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 電源を“ON”にしても警告灯が点灯（または点滅）しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯

- 電源を“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン電子制御システムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠注意

点灯・点滅した場合

- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

油圧警告灯

- 電源を“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン内部を潤滑しているエンジン オイルの圧力に異常があると点灯します。

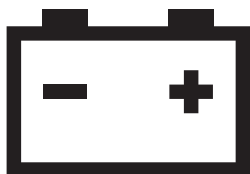
⚠注意

点灯した場合

- そのまま走行すると、エンジンが故障するおそれがあります。
  ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。

アドバイス

- 油圧警告灯は、オイル量を示すものではありません。オイル量の点検は、オイル レベル ゲージで行ってください。（オイル量の点検方法は、別冊の「メンテナンス ノート」参照）

充電警告灯

- 電源を“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、充電系統に異常（ベルトののび、損傷など）があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- エンジン始動後に警告灯がしばらく点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。

ブレーキ警告灯

- 電源を“ON”にすると点灯し、駐車ブレーキを完全に解除すると消灯します。
- 電源が“ON”で、下記の場合に点灯します。

▼点灯理由

- 駐車ブレーキが完全に解除されていないとき
- ブレーキ液の液量が不足しているとき
- EBD制御に異常があるとき

▼駐車ブレーキが解除されている場合

電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

○警告ブザー

駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h以上で走行すると、ブザーが鳴ります。

駐車ブレーキを解除すると、ブザーが鳴りやみます。

⚠警告

エンジン回転中、駐車ブレーキを解除しても、点灯したまま消灯しない場合

- ブレーキ液量の不足が考えられます。
  この場合、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。
  効きが悪いときは、ブレーキ ペダルを強く踏み、ただちに安全な場所に停車して、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS警告灯と同時に点灯した場合

- 強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
  ただちに安全な場所に停車して、トヨタ販売店にご連絡ください。

⚠注意

- 制動時、常に異音（キーキー音など）が発生するときは、ブレーキ パッドの摩耗が考えられます。
  ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

水温警告灯（赤色）

- 電源を“ON”にすると赤色に点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、エンジン冷却水温が異常に高くなると赤色に点滅し、その後、さらに水温が高くなると点灯に変わります。

⚠注意

赤色に点滅・点灯した場合

- エンジン冷却水温の異常な上昇によるオーバー ヒートが考えられます。
  ただちに安全な場所に停車して、処置を行ってください。
  （オーバー ヒートの処置 → 270 ページ）

アドバイス

エンジン冷却水温が低いときは

- 水温表示灯としてはたらき、緑色に点灯します。
  （水温表示灯（緑色）→ 142 ページ）

○警告ブザー

エンジン冷却水温の異常な上昇により、警告灯が赤色点滅、または赤色点灯しているときは、ブザーが鳴ります。

アドバイス

- ブザーは警告灯が赤色点滅時は断続的に鳴り、警告灯が赤色点灯に変わると同時に連続音に変わります。

オートマチック トランスミッション警告灯

CVT

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、オートマチック トランスミッション システムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠注意

点灯・点滅した場合
- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

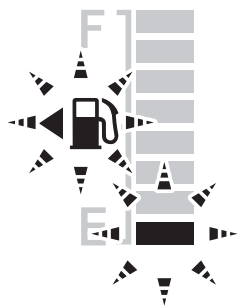
シート ベルト未装着警告灯（運転席）

- 電源が“ON”で、運転席側シート ベルトを装着していないと点滅します。
- シート ベルトを着用すると消灯します。

○警告ブザー
シート ベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

アドバイス

- 1 度警告ブザーが鳴ると、たとえ約 20km/h以下で走行しても、約 2 分間鳴り続けますので、走行するときは必ずシート ベルトを着用してください。
- ブザーが鳴り始めてから、約 30 秒後に断続音の速さが変わります。

燃料残量警告灯

電源が“ON”のとき、燃料残量が２WD車は約 6ℓ、４WD車は約 5.5ℓ以下になると、燃料計の一番下の目盛りと燃料残量警告灯が点滅し、さらに燃料が少なくなると点滅が速くなります。

⚠注意

点滅した場合

- ただちに燃料を補給してください。

アドバイス

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点滅することがあります。

ABS警告灯

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、ABSに異常があると点灯します。

⚠警告

ブレーキ警告灯と同時に点灯した場合

- ABSに異常があるだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
  ただちに安全な場所に停車して、トヨタ販売店にご連絡ください。

⚠注意

点灯した場合

- 通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、トヨタ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- エンジン始動後に警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯、警告灯のはたらき

SRSエアバッグ警告灯

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。

▼異常があると点灯するシステム

- SRSエアバッグ
  （SRSエアバッグ→ 63 ページ）
- SRSサイド エアバッグ
  （オプション/グレード別装備）
  （SRSサイド エアバッグ → 69 ページ）
- プリテンショナー機構
  （プリテンショナー機構 → 49 ページ）

⚠注意

点灯した場合

- 車両にできるだけショックをあたえずに走行し、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

VSC＆TRC警告灯

VSC&TRC装着車

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。

▼異常があると点灯するシステム

- VSC
  （VSC→ 77 ページ）
- TRC
  （TRC→ 79 ページ）

⚠注意

点灯した場合

- 通常走行に支障はありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

点滅した場合

- VSC、またはTRCが作動しています。
  （スリップ インジケーター → 144 ページ）

電動パワー ステアリング警告灯

- 電源を“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると数秒後に消灯します。
- エンジンが回転中で、電動パワー ステアリング システムに異常があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠注意

- 停車中や微低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけたまま保持すると、モーターやコンピューターの過熱を防止するため、パワー ステアリング制御が制限され、ハンドル操作が重くなります。
  この場合、しばらくハンドル操作を控えてください。
  ハンドル操作をしないまま約 10 分が経過すると、通常の重さに戻ります。

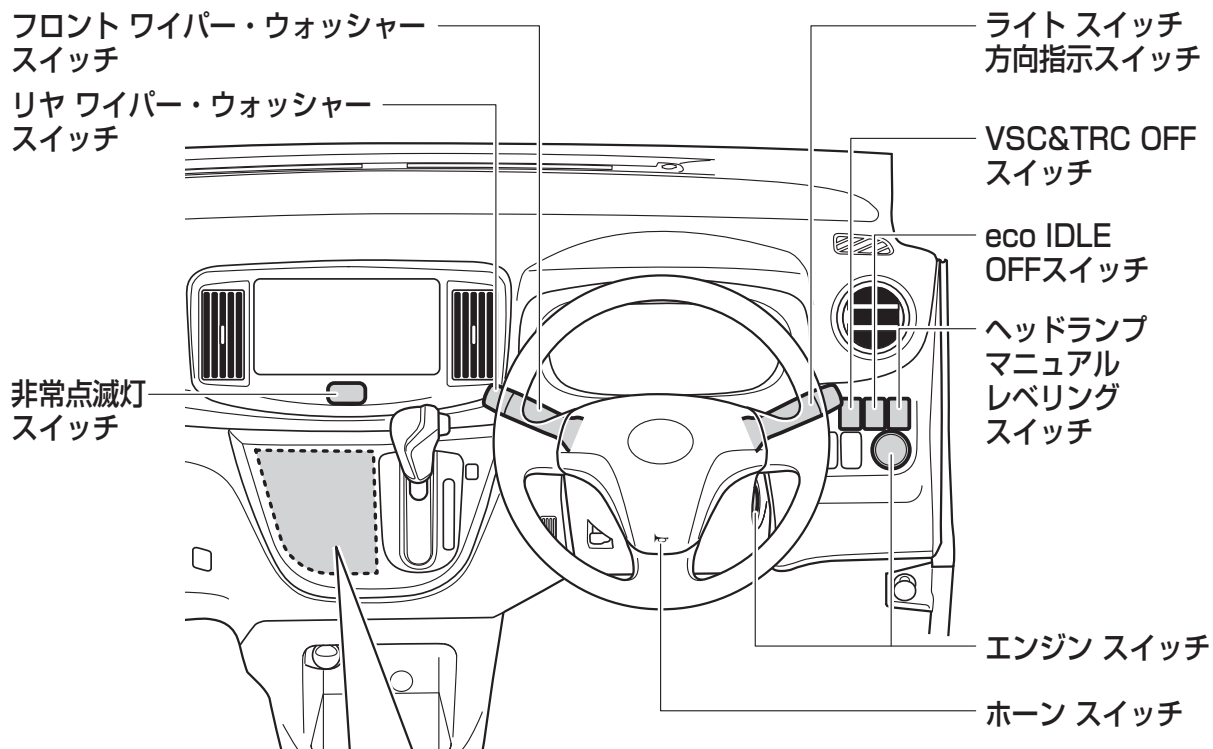
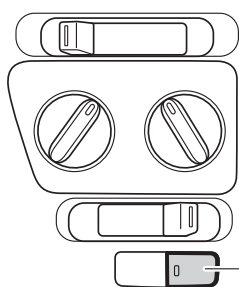
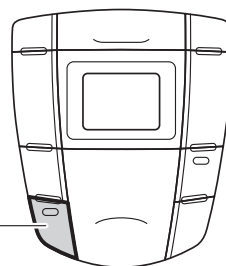
アドバイス

- ハンドル操作を行ったとき、モーター音（「ウィーン」という音）が聞こえることがあります。
  これは、パワー ステアリング モーターが作動しているときの音で、異常ではありません。

スイッチの使いかた

スイッチの名称

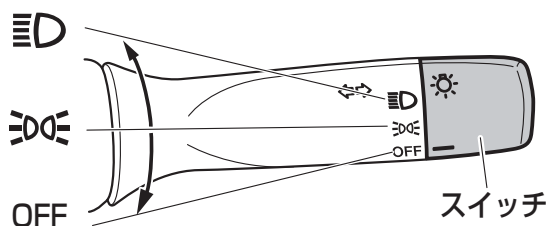
グレードの違い、オプションも含まれています。

フロント ワイパー・ウォッシャー スイッチ
リヤ ワイパー・ウォッシャー スイッチ
非常点滅灯スイッチ
ライト スイッチ
方向指示スイッチ
VSC&TRC OFF スイッチ
eco IDLE OFFスイッチ
ヘッドランプ マニュアル レベリング スイッチ
エンジン スイッチ
ホーン スイッチ

マニュアル エアコン装着車
リヤ ウインド デフォッガー スイッチ

オート エアコン装着車
リヤ ウインド デフォッガー スイッチ

ライト スイッチ

ライトの点灯

▼ 操作方法

スイッチを回すと、下表のライト類が点灯します。

ライト ＼ スイッチ位置	前照灯	車幅灯 番号灯 尾灯
OFF	ー	ー
≡DC≡	ー	点灯
≣D	点灯	点灯

⚠注意

- エンジンを停止した状態で長時間ライト類を点灯させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

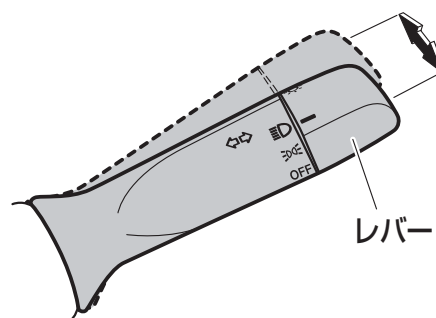
ライトの消灯

▼ 操作方法

スイッチを“OFF”の位置にします。

ヘッド ランプの切り替え

▼ 操作方法

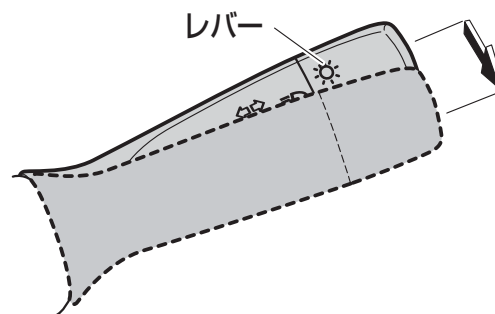
ライト スイッチが“≣D ”の位置のときレバーを押すと、前照灯が上向き（ハイ ビーム）になり、戻すと下向き（ロー ビーム）になります。

⚠注意

- 対向車のあるときや市街地走行のときは、対向車や通行人の迷惑となり危険ですので前照灯を下向きにして走行してください。

▼ 一時的に使用する場合

アドバイス

- 前照灯が上向きのときは使用できません。

レバーを手前に引いている間、前照灯が上向きに点灯します。

ライト消し忘れ警告ブザー

ライトを点灯したままで、運転席のドアを開けると、ブザー（連続音）が鳴りライトの消し忘れを知らせます。

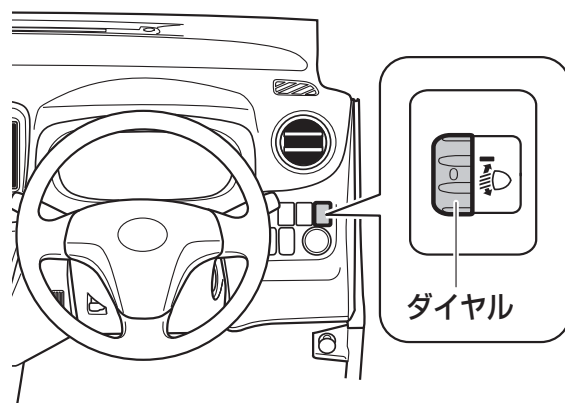
アドバイス

- 電源が“ON”のときは、ブザーは鳴りません。

ヘッド ランプ マニュアルレベリング スイッチ

ヘッド ランプが点灯しているときに使用できます。
乗員数や積載量によって車両の姿勢が変化し、ヘッド ランプの光軸（光の照らす方向）が上に向いた場合、ダイヤルを回すことで光軸を下向きに調整することができます。
通常はダイヤルを“0”（光軸が一番上向きの位置）で使用します。

▼ 操作方法

ダイヤルを回転させると、ヘッド ランプの光軸が上下に変わります。
ダイヤルの数字が大きいほど下向きになります。

アドバイス

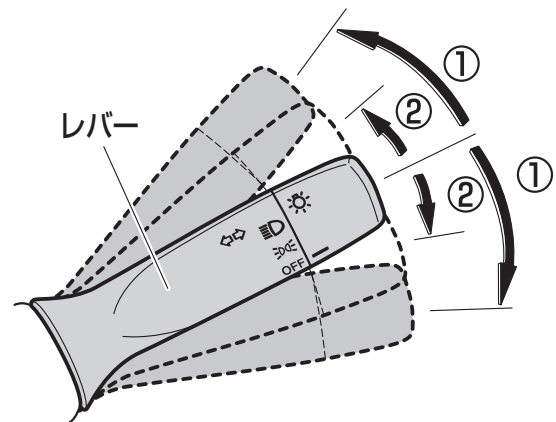
- 乗員数などに応じて、下表を目安にダイヤルを調整してください。

乗車や荷室の積載状況	ダイヤル位置	
	2WD	4WD
運転席のみ乗車時	0	0
運転席と助手席に乗車時	0	0
4名乗車時	1.5	1.5
4名乗車で荷室満載時	3.5	3
運転席のみ乗車で荷室満載時	4.5	3.5

- 乗員や荷物を降ろしたあとは、ダイヤルを“0”に戻してください。
- 車検などで光軸の調整をするときは、ダイヤルを“0”にしてから行ってください。

方向指示スイッチ

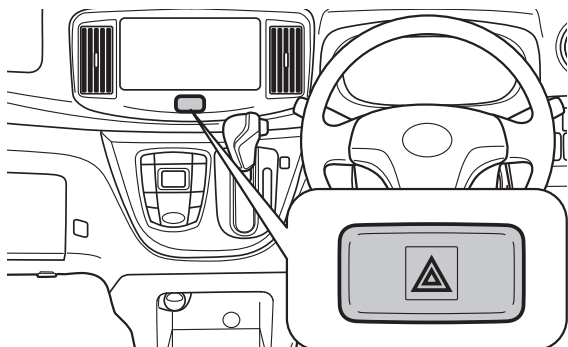
▼ 操作方法

レバーを①の位置まで上下に操作すると、方向指示灯およびメーター内の方向指示表示灯が点滅します。レバーはハンドルを戻すと自動的に戻ります。車線変更などのときには、レバーを②の位置まで軽く上下に押すと点滅し、手を離すと消灯します。

アドバイス

- ハンドルの切れ角が小さいと、レバーが自動的に戻らないときがあります。手で戻してください。
- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

非常点滅灯スイッチ

▼操作方法

スイッチを押すと左右の方向指示灯が点滅します。もう一度押すと元に戻ります。

⚠注意

- 故障などの非常時に、やむを得ず路上駐車するとき以外はむやみに使用しないでください。
- 使用後はスイッチを確実に戻してください。スイッチを戻さないと方向指示灯がはたらきません。
- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因となります。

ワイパー･ウォッシャースイッチ

⚠警告

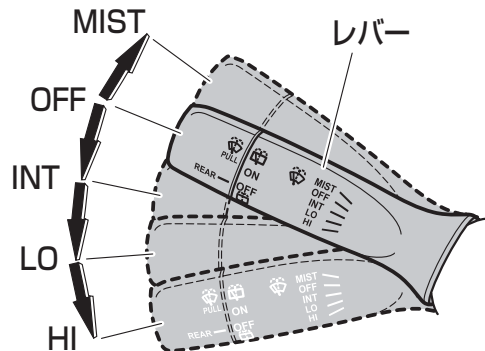
- 寒冷時は、ガラスが暖まるまで、ウォッシャー液を吹き付けないでください。吹き付けられた液が凍結し、視界をさまたげることがありますので、先にガラス面を暖めてください。

⚠注意

- 空ぶきはガラス面に傷を付けますので、ウォッシャー液を噴射させてからワイパーを作動させてください。
- フロント ワイパー アームを起こすときは、必ず運転席側のワイパー アームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパー アームから戻してください。
- 寒冷時、または長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパー ゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。張り付いたまま作動させるとワイパー モーターが損傷し、故障の原因になります。
- 積雪などの障害物によりワイパーが途中で止まってしまうときは、障害物を取り除いてからワイパーを作動させてください。無理に作動させるとワイパー モーターに負担がかかり故障の原因となります。
- ウォッシャー液を連続して 20 秒以上噴射させないでください。またウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを作動させないでください。モーターに負担がかかり故障の原因となります。

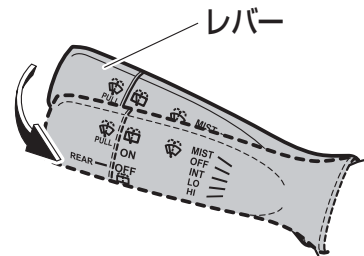
フロント

電源が“ON”のとき使用できます。

○ワイパーの使いかた
レバーを下げると、ワイパーが作動します。

MIST	一時作動
OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速作動
HI	高速作動

アドバイス

- MIST（一時作動）はレバーを“OFF”から押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すと“OFF”に戻ります。

○ウォッシャー液の噴射
レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。

アドバイス

- フロント ウォッシャーを作動させると連動してフロント ワイパーが低速作動します。

○車速感応式フロント ワイパー
オプション/グレード別装備
レバーを“INT”の位置（間欠作動）にしたとき、車速に応じてワイパーが作動します。

アドバイス

- 間欠作動中は、車速が速くなると車速に応じて間隔が速くなります。
- 機能を停止することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

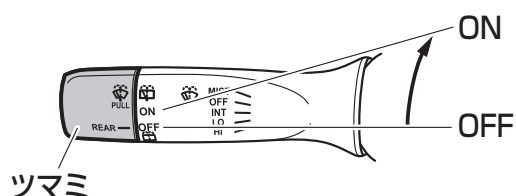
リヤ

オプション/グレード別装備

電源が"ON"のとき使用できます。

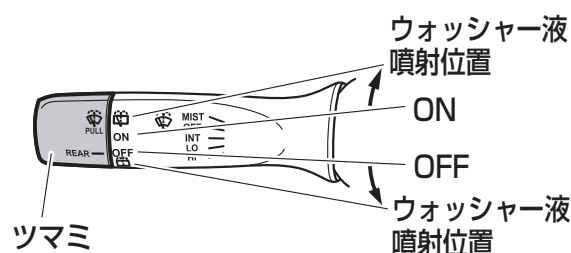
○ワイパーの使いかた

ツマミを"ON"の位置に回すと、リヤ ワイパーが作動します。

- 約 4 秒間低速作動し、その後、間欠作動します。

アドバイス

- 下記のように、間欠作動の機能を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
  - 間欠作動の間隔を変更する
  - 間欠作動の機能を停止し、低速作動のみ続けるようにする

○ウォッシャー液の噴射

リヤ ワイパー作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、ツマミを"ON"の位置から上側の"ウォッシャー液噴射位置"に回します。
また、ツマミを"OFF"の位置から下側の"ウォッシャー液噴射位置"に回しても噴射します。

アドバイス

- 上側の"ウォッシャー液噴射位置"に回すと、連動してリヤ ワイパーが低速作動します。

○リバース連動リヤ ワイパー

フロント ワイパーが作動中、または作動後約 10 秒以内に、シフト レバーをⓇにすると、リヤ ワイパーが数回作動します。

アドバイス

- 下記の場合、シフト レバーをⓇにしても、リヤ ワイパーは作動しません。
  - フロント ワイパーが作動後、約 10 秒以上経過しているとき
  - フロント ウォッシャーを作動させてから約 10 秒以内のとき
- 機能を停止することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

リヤ ウインド デフォッガー スイッチ

リヤ ウインド ガラスの曇りを取るときに使用します。

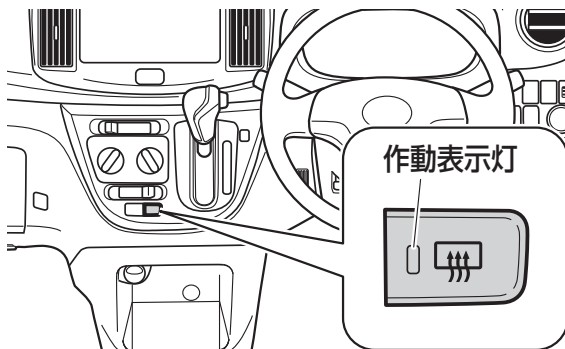
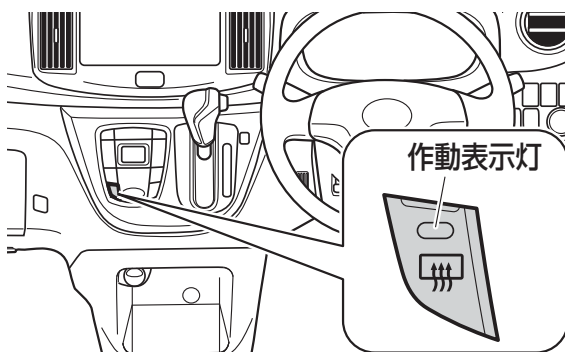
▼ 操作方法

スイッチを押すと作動表示灯が点灯し、リヤ ウインド ガラスと、電動格納式ヒーテッド ドア ミラー装着車はドア ミラーが暖められ曇りが取れます。

作動を停止するときは、スイッチをもう一度押してください。作動表示灯も消灯します。

マニュアル エアコン装着車

オート エアコン装着車

⚠注意

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因になります。
- リヤ ウインド ガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。

アドバイス

オート エアコン装着車

- スイッチを押すと、約 15 分～60 分後に自動的に作動が停止します。
  （外気温や車両の走行状態によって作動時間が異なります）

VSC&TRC OFFスイッチ

オプション/グレード別装備

VSCやTRCは新雪路、深雪路、砂地等からの脱出には適さない場合があります。このようなときはVSC&TRC OFFスイッチを押してVSCとTRCを“OFF”にします。

（VSC&TRC→ 77 ページ）

⚠警告

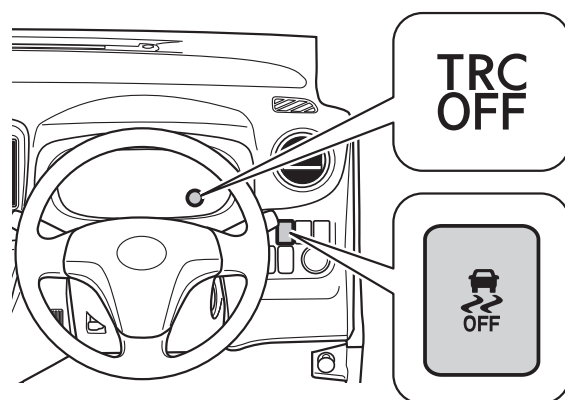
- VSCやTRCは自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
  そのため、必要なとき以外はVSCやTRCを作動停止状態にしないでください。VSCやTRCを作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

アドバイス

- VSCやTRCを作動停止にした場合でも、エンジンを始動するたびに自動的にVSCとTRCは作動可能状態に戻ります。
- TRCのみ作動を停止している場合は、車速が高くなるとTRCは作動を再開します。ただし、VSCとTRCの作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

○TRCを“OFF”にする場合

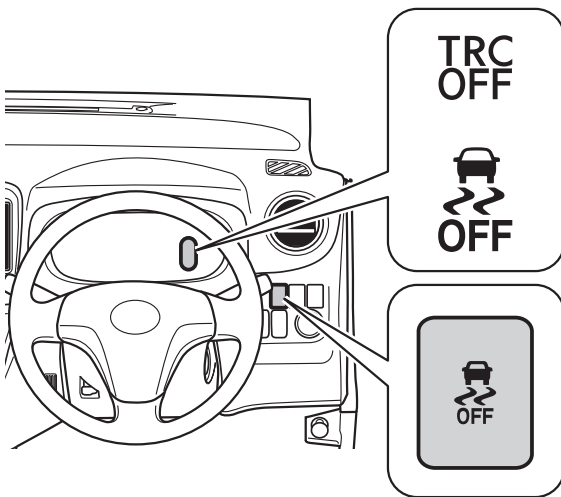
▼操作方法

電源が“ON”のとき、VSC&TRC OFFスイッチを短押し（3 秒以内）すると、TRCが“OFF”になり、メーター内のTRC OFF表示灯が点灯します。
作動可能状態に戻すときは、スイッチをもう一度押してください。TRC OFF表示灯が消灯します。

○TRCとVSCを“OFF”にする場合

▼操作方法

電源が“ON”で車両が停止しているとき、VSC&TRC OFFスイッチを 3 秒以上押すと、VSC（TRCを含む）が“OFF”になり、メーター内のTRC OFF表示灯とVSC OFF表示灯が点灯します。
作動可能状態に戻すときは、スイッチをもう一度押してください。TRC OFF表示灯とVSC OFF表示灯が消灯します。

eco IDLE OFFスイッチ

（eco IDLE OFFスイッチ
→ 194 ページ）

ホーン スイッチ

ハンドルの📯マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

アドバイス

- 緊急時、非常時以外は、むやみに使用しないでください。

運転装置の使いかた

エンジン スイッチ

⚠警告

- エンジン始動時は、必ず運転席に座ってエンジンをかけてください。窓越しからエンジンをかけると車が急に動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中は、エンジン スイッチにさわらないでください。誤って操作し、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

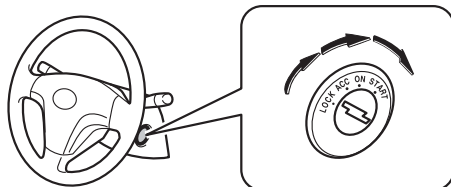
エンジンをかけるときやオーディオを聞くときなどに使用します。

⚠注意

- エンジンを止めた状態で、電源を“ON”または“ACC”にしたまま長時間放置しないでください。バッテリーあがりの原因になります。

キー差し込みタイプ

キー フリー システム装着車以外

挿入口にキーを差し込んで回し、エンジンの始動、停止を行います。

位置	はたらき
LOCK	・電源“OFF”エンジン停止 キーを抜き差しする位置です。キーを抜くとハンドルがロックされます。
ACC	・電源“ACC”エンジン停止 オーディオが聞ける位置です。
ON	・電源“ON”エンジン停止 すべての電装品が使用できます。 ・電源“ON”エンジン回転 通常走行中の位置です。
START	・電源“ON”エンジン始動 エンジンを始動するときの位置です。手を離すと自動的に“ON”の位置に戻ります。

⚠注意

- エンジン始動後は、すぐにキーから手を離してください。“START”の位置にしたままでいると、エンジンを損傷するおそれがあります。

アドバイス

- キーは確実にエンジン スイッチに差し込んで操作してください。

ハンドル ロックを解除するには

- キーが“LOCK”から“ACC”の位置に軽く回らないときは、ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。

プッシュ ボタン スタート スイッチ

キー フリー システム装着車

⚠警告

- 走行中、エンストなどで車両が滑走状態になったときは、安全な状態で車両が停止するまで、ドアを開けないでください。ドアを開けるとハンドル ロックが作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  安全な場所に停車させたあと、ただちに、トヨタ販売店にご連絡ください。
- 炎天下で長時間車両を放置すると、スイッチの表面が熱くなる場合がありますので、やけどをしないように気をつけてください。

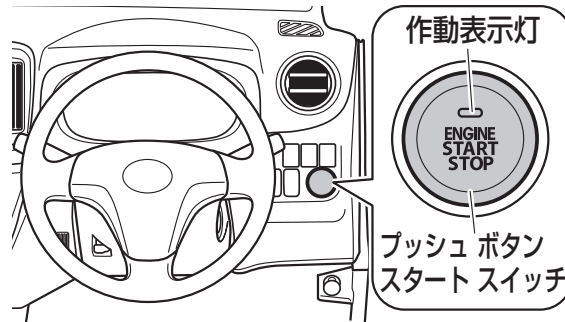
⚠注意

- スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、ただちに、トヨタ販売店にご連絡ください。
- スイッチを油などのついた手でさわらないようにしてください。
- スイッチに飲み物などをこぼさないでください。万一、こぼした場合は、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。
- 車幅灯を点灯させても、スイッチの照明が点灯しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

⚠注意

- 車両は常に電源の状態（“ACC”または“ON”）を記憶しているため、車両のバッテリーを再接続したときは、電源が絶たれる前の電源の状態に復帰します。修理などで車両のバッテリーを外すときは、必ず電源を“OFF”にしてから行ってください。
  車両のバッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前の電源の状態がわからないときは、一度電源を“OFF”にしてください。
- 車両のバッテリー脱着後、すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約 10 秒以上待ってからエンジンを始動してください。
- シフト レバーがⓅレンジのとき、電源が“ACC”のまま約 1 時間放置すると、バッテリーあがり防止のため、自動的に電源が“OFF”になります。

発信機から発する電波を電子カード キーが感知することによって、電源のロックが解除され、エンジンの始動、停止を行うことができます。

- 電子カード キーを所持して車室内発信機の作動範囲に入ると、プッシュ ボタン スタート スイッチを押して、電源を“OFF”から“ACC”にすることができます。

電源の状態	作動表示灯の色	エンジンの状態	はたらき
OFF	消灯	停止	ハンドルがロックされ、キー フリー システムの通信を開始します。
ACC	橙色	停止	オーディオが聞ける状態です。
ON	橙色	停止	すべての電装品が使用できます。
ON	消灯	回転中	通常走行中の状態です。

⚠注意

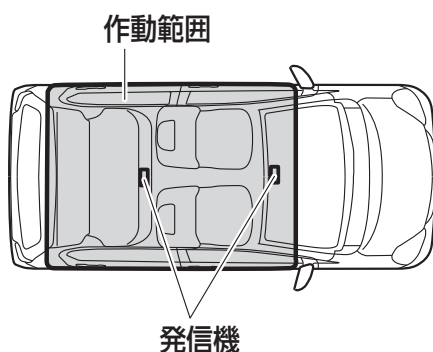
- プッシュ ボタン スタート スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。いったん電源を “OFF”にすると、エンジンを再始動できなくなることがありますので、ただちに、トヨタ販売店にご連絡ください。

アドバイス

ハンドル ロックを解除するには

- エンジンの始動操作をしたときに、プッシュ ボタン スタート スイッチの作動表示灯が緑色に点滅したときは、ハンドル ロックが解除されていないため、エンジンの始動ができません。
  ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

○作動範囲

車室内です。

⚠注意

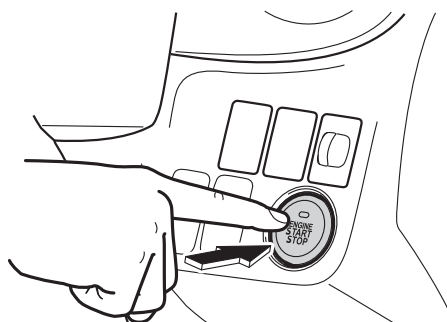
- エンジン始動後に電子カード キーを車外に持ち出さないでください。持ち出したままエンジンを停止すると、電子カード キーが車内に無いためにエンジンの再始動ができなくなります。特にドアを閉めたまま窓から電子カード キーを持ち出した場合は、持ち出しの警告ブザーが鳴らないので注意してください。

（セキュリティ インジケーター → 142 ページ）

アドバイス

- インストルメント パネルの上や中（グローブ ボックス内など）・荷室・ドア ポケット内など、電波を感知しない場所があります。
- 車外でもドアやドア ハンドルに近付きすぎた場合は、エンジン始動が可能になることがあります。

○電源の切り替え

1. 電子カード キーを携帯し、運転席に座ります。
2. ブレーキ ペダルを踏まずに、スイッチを押します。
   スイッチを押すごとに電源が「OFF→ACC→ON→OFF」の順に切り替わります。

- ブレーキ ペダルを踏んでいないときは、エンジンは始動しません。
- 車両が停止していないときは、電源を“ON”から“OFF”にしないでください。
- 電源を“ACC”にするとセキュリティ インジケーターが消灯します。

（セキュリティ インジケーター → 142 ページ）

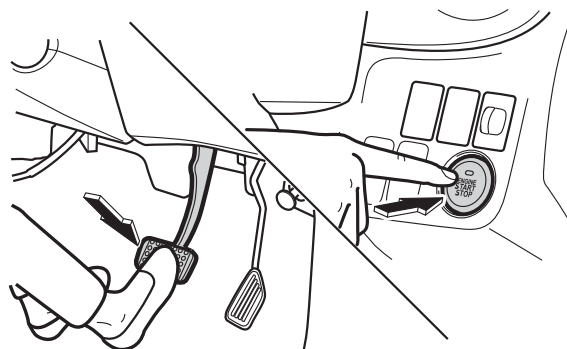
⚠注意

- スイッチを押したとき、セキュリティ インジケーターが消灯せず、高速で点滅したときは、電子カード キーが作動範囲外にある可能性があります。電子カード キーを確認してください。
- 車両のバッテリーがあがっている場合ハンドル ロックが作動しません。

アドバイス

- 電源が“ACC”または“ON”のときは、作動表示灯が橙色に点灯します。
- スイッチを早押しした場合、電源が切り替わらないことがあります。目的の電源の状態になるまで、1 回ずつ確実に押してください。
- 電源が“ACC”のときに運転席ドアを開けると、ブザー（断続音）が鳴り、電源の切り忘れを警告します。
- 運転席ドアが開いているときに、電源を“ON”から“OFF”にするとハンドル ロックが作動しません。
  このとき、警告ブザー（断続音）が鳴り、ハンドルがロックされていないことを警告します。運転席ドアを閉めて、警告ブザーを停止させてください。

○エンジンの始動

1. 電子カード キーを携帯し、運転席に座ります。
2. ブレーキ ペダルをしっかり踏みます。
   スイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。
3. ブレーキ ペダルを踏みながら、スイッチを押します。

- ブレーキ ペダルを踏んでいないときは、エンジンは始動しません。
- エンジンを始動するとセキュリティ インジケーターが消灯します。
  （セキュリティ インジケーター → 142 ページ）
- エンジンを始動すると、作動表示灯は消灯します。
- ブレーキ ペダルを踏みながらスイッチを押せば、どの電源の状態からでもエンジンを始動することができます。

アドバイス

- エンジンが始動しない場合、ブレーキ ペダルを踏まずにスイッチを押して、一度電源を“OFF”にしたあと、再度ブレーキ ペダルを踏みながら、もう一度スイッチを押してください。
- エンジンの始動と停止を短い間隔で繰り返した直後は、エンジンが始動できない場合があります。この場合は約 10 秒以上待ってから、再びエンジンの始動操作を行ってください。
- スイッチを早押しした場合、エンジンが始動・停止しないことがあります。
- 電源が“ACC”のときに運転席ドアを開けると、ブザー（断続音）が鳴り、電源の切り忘れを警告します。

ハンドル ロックを解除するには

- エンジン始動操作をしたときに、エンジンが始動せずに、スイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ハンドルの負担により、ハンドル ロックが解除されていません。ハンドルを左右に動かしながら、ブレーキ ペダルを踏み、スイッチを押し直してください。

○エンジンの停止

車両を完全に停止させ、シフト レバーをⓅレンジにし、スイッチを押します。

- 電源が“OFF”になり、エンジンが停止します。

⚠警告

- 下記の操作を行うと、走行中でもエンジンが止まります。ただし、緊急時以外は走行中にプッシュ ボタン スタート スイッチの操作をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  - プッシュ ボタン スタート スイッチを 3 秒以上押し続ける
  - プッシュ ボタン スタート スイッチを 3 回以上連打する

⚠注意

- シフト レバーがⓅレンジ以外のとき、エンジンを停止させないでください。シフト レバーがⓅレンジ以外でエンジンを停止した場合、電源が“ACC”になるため、そのまま放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。

アドバイス

- シフト レバーがⓅレンジ以外でスイッチを押すと、電源は“ACC”になります。シフト レバーをⓅレンジにして、電源を“OFF”にしてください。

アドバイス

- 運転席ドアが開いているときに、電源を“ON”から“OFF”にするとハンドル ロックが作動しません。
  このとき、警告ブザー（断続音）が鳴り、ハンドルがロックされていないことを警告します。運転席ドアを閉めて、警告ブザーを停止させてください。

○電池の消耗などにより、電子カード キーが使用できないとき

プッシュ ボタン スタート スイッチに電子カード キー、またはメイン キーを接触させることで、電源を“ON”にすることができます。

（電子カード キーが使用できないとき → 286 ページ）

キー インター ロック

キー フリー システム装着車以外

誤操作防止のため、シフト レバーがⓅレンジ以外のときに、エンジン スイッチが“LOCK”の位置まで回らないようにする装置です。

▼ 操作方法

エンジン スイッチを“ACC”から“LOCK”の位置にするときは、シフト レバーをⓅレンジにしてから行います。

アドバイス

- シフト レバーがⓅレンジ以外では、キーは“LOCK”位置まで回すことができないため、キーを抜くことができません。

イモビライザー機能

キー フリー システム装着車

車両の盗難防止のため、電子カード キーおよびメイン キーには信号発信機が内蔵されており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンの始動ができません。

▼操作方法

- 電源を“OFF”にすると、イモビライザー機能が作動し、セキュリティ インジケーターが点滅します。
  （セキュリティ インジケーター → 142 ページ）
- 電源を“OFF”から“ACC”にすると、イモビライザー機能が解除され、セキュリティ インジケーターが消灯します。

アドバイス

- セキュリティ インジケーターはセキュリティ アラームと兼用しているため、キー フリー操作・キーレス操作によりドアを施錠すると、約 30 秒間点灯にかわります。
  また、セキュリティ アラームが解除されていない場合は、電源を“ACC”にしても消灯しない場合があります。
- 電子カード キー、メイン キーに登録された信号はキーごとに異なります。

駐車ブレーキ

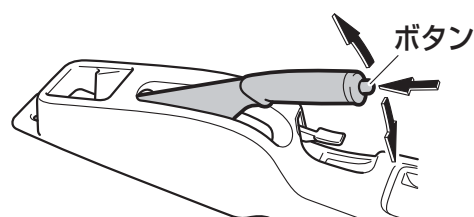
⚠注意

- 走行するときは、駐車ブレーキを完全に解除してください。また、ブレーキ警告灯が消灯していることを必ず確認してください。
  駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが熱を持ち、ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼かけるとき

- ボタンを押さずにレバーをいっぱいまで引き上げます。
- 電源が“ON”のときは、ブレーキ警告灯が点灯します。

▼解除するとき

- レバーを軽く引き上げながらボタンを押し、レバーを確実に戻します。
- 電源が“ON”のときは、ブレーキ警告灯が消灯します。

アドバイス

- 駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h以上で走行すると、警告ブザーが鳴ります。
  （ブレーキ警告灯→ 146 ページ）

坂道に駐車するとき

▼ 操作方法

坂道に駐車するときは、駐車ブレーキをかけるとともに、シフト レバーをⓅレンジに入れます。さらに輪止めもしてください。

4 WD車

オプション/グレード別装備

⚠警告

- 4WD車はどのような所でも走れる万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転に心がけてください。
  また、オフロード走行や、ラリー走行を目的とした車ではありません。タイヤがはまり込むような深い砂地、海水、水たまりなどに乗り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。
  万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 4WD車は雪道や水たまりなどの滑りやすい路面ですぐれた走行性能を発揮しますが、極端な急ブレーキ、急ハンドルはさけて、十分に余裕を持って走行してください。

万一脱輪したときは

- いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

Vフレックス フル タイム 4 WD

アドバイス

- Vフレックス フル タイム 4 WDは、2WDと 4WDを切り替えるモード切り替えスイッチはありません。また 4WD表示灯もありません。

4WD車のタイヤ交換

4WD車は 4 つのタイヤに駆動力がかかるため、タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。
タイヤの状態には細心の注意をしてタイヤの点検は忘れずに行ってください。

⚠警告

- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると、車両の安定性が損なわれたり、制動距離が長くなるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、ABSが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ交換をするときは、4 輪とも同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、および同一トレッド パターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- タイヤ空気圧の点検は最低でも月に 1 回行ってください。空気圧が指定値よりはずれていたり、4 輪のタイヤの空気圧の差が大きいと、駆動系部品に重大な損傷をあたえる原因となります。（タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）

アドバイス

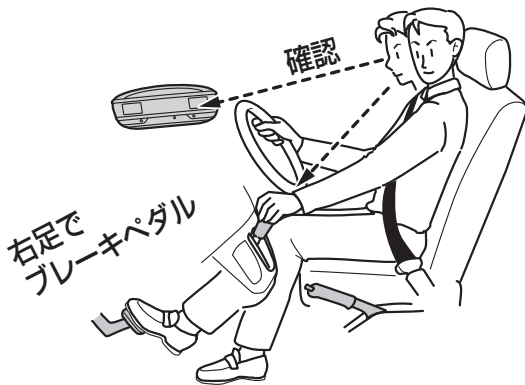
- タイヤのローテーションは 5,000kmごとに行ってください。タイヤ間で摩耗差があると車の性能が十分に発揮できません。
- タイヤ チェーンは必ず前輪に装着してください。

エンジンのかけかた

オートマチック車

エンジン始動の準備

▼ 操作方法

1. 駐車ブレーキをかけ、シフト レバーがPレンジの位置にあることを確認します。
2. ペダル類が確実に踏め、ハンドル操作が楽にできるようにシートの位置を調整します。
3. アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルを右足で踏み位置を確認します。

エンジンをかけるとき

▼ 操作方法

プッシュ ボタン スタート装着車を除く

1. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、エンジン スイッチを“START”の位置まで回します。

プッシュ ボタン スタート装着車

1. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、スイッチを押します。
（プッシュ ボタン スタート スイッチ → 164 ページ）

⚠警告

● エンジン始動時は、必ず運転席に座ってエンジンをかけてください。窓越しからエンジンをかけると車が急に動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

● エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

アドバイス

- エンジンの始動性を良くするためにライト、リヤ ウインド デフォッガー、ヒーター ファンなどのスイッチは“OFF”にしてください。
- エンジン始動後は、各警告灯が消灯するのを確認してください。（ただしブレーキ警告灯は除きます）
- エンジン始動後は、自動制御装置のはたらきによりエンジン回転が高くなりますが、暖機完了後、自動的にアイドリング回転に下がります。
- プッシュ ボタン スタート装着車で電子カード キーを使用してエンジン始動する場合、通信エラーなどでエンジンの始動ができないことがあります。このときは、ブレーキ ペダルを踏まずにスイッチを押して、一度電源を“OFF”にしたあと、再度ブレーキ ペダルを踏みながら、もう一度スイッチを押してください。

○イージー スタート サポート

イージー スタート サポートはエンジン始動操作を補助するシステムです。
エンジンが始動するまでの間、自動的にスターターを回す時間を延長します。エンジン スイッチを“START”の位置で保持する（プッシュ ボタン スタート装着車はスイッチを押し続ける）必要はありません。

アドバイス

- イージー スタート サポート作動中にエンジン始動を中止したいときは、エンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”の位置（プッシュ ボタン スタート装着車は電源を“ACC”または“OFF”）にしてください。
- バッテリーあがりを防ぐため、イージー スタート サポート作動中に始動操作が中断されることがあります。

エンジンを止めるとき

▼操作方法

プッシュ ボタン スタート装着車を除く

エンジンを止めるときは、アイドリング回転にしてからエンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”の位置にします。

プッシュ ボタン スタート装着車

エンジンを止めるときは、アイドリング回転にしてからスイッチを押します。

（プッシュ ボタン スタート スイッチ → 164 ページ）

オートマチック車の運転

オートマチック車

オートマチック車は、ギヤ チェンジやクラッチ ペダルの操作から解放され、運転は大変楽になりますが、いくつかの特性があります。オートマチック車の運転の基本を理解し、正しく操作する習慣を身に付けてください。

オートマチック車の特性

○クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフト レバーがⓅ、Ⓝレンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセル ペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象のことをいいます。

⚠警告

- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がり（アイドル アップ）、クリープ現象が強くなります。その際、ブレーキ ペダルの踏みごたえに変化がでることがありますので、ブレーキ ペダルはしっかりと踏んでください。
- 停車中は、平坦時であっても車が動かないように、ブレーキ ペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

アドバイス

- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセル ペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。

シフト レバー

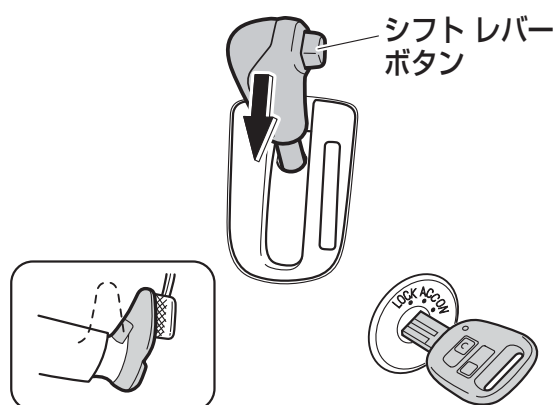
シフト レバーの操作は確実に行ってください。

○シフト ロック装置

誤操作防止のため、シフト ロック装置が付いています。

▼シフト ロック解除方法

プッシュ ボタン スタート装着車を除く

エンジン スイッチを“ON”または“ACC”の位置にし、ブレーキ ペダルを踏むと、シフト レバーの操作ができます。

プッシュ ボタン スタート装着車

電源を“ON”にし、ブレーキ ペダルを踏むと、シフト レバーの操作ができます。

アドバイス

- シフト レバーはブレーキ ペダルを踏みながらでないと、Ⓟレンジからほかのレンジへは動きません。
- 先にシフト レバー ボタンを押した状態で、ブレーキ ペダルを踏むと、シフト レバーが動かない場合があります。一度ボタンから手を離し、ブレーキ ペダルを先に踏んでから操作してください。

プッシュ ボタン スタート装着車を除く

- エンジン スイッチが"LOCK"の位置では、ブレーキ ペダルを踏んでもシフト レバーはⓅレンジからほかのレンジへは動きません。

プッシュ ボタン スタート装着車

- 電源が"ON"以外では、ブレーキ ペダルを踏んでもシフト レバーはⓅレンジからほかのレンジへは動きません。

○シフト ロック解除ボタン

プッシュ ボタン スタート装着車

シフト ロックを解除するためのボタンです。バッテリーあがりなどで、シフト レバーがⓅレンジからほかのレンジへ動かないときに使用します。

▼シフト ロック解除方法

ブレーキ ペダルを踏んだ状態で、シフト ロック解除ボタンを押しながら、シフト レバーを操作します。

- 必ずブレーキ ペダルを踏みながら操作してください。

オートマチック車の運転

シフト レバーの操作

シフト レバー部には、シフト レバーを動かすときに使用するシフト レバー ボタンが装着されています。

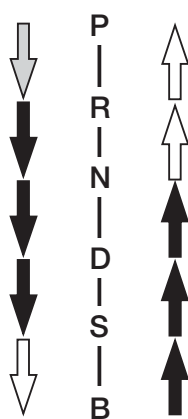
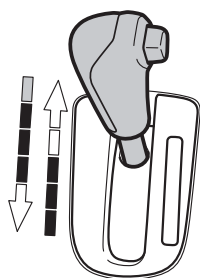
▼ 操作する前に

⚠警告

- Ⓟレンジから Ⓡレンジへシフト レバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、ブレーキ ペダルを踏みながら、シフト レバー ボタンを押して動かしてください。

各位置のはたらき

Ⓟレンジ	駐車するとき、エンジンを始動するとき、およびキーを抜くときの位置
Ⓡレンジ	車を後退させるときの位置（車が完全に止まってから入れてください）
Ⓝレンジ	一時停止などで動力を伝えない位置
Ⓓレンジ	通常の走行をする位置［前進］（速度に応じて無段階で自動的に変速されます）
Ⓢレンジ	上り坂や下り坂を走行するときの位置［前進］（エンジン ブレーキが必要なときの位置）
Ⓑレンジ	急な上り坂や下り坂を走行するときの位置［前進］（強いエンジン ブレーキが必要なときの位置）

シフト レバーの動かしかた

ブレーキ ペダルを踏みながらシフト レバー ボタンを押して動かします。

シフト レバー ボタンを押して動かします。

そのまま動かします。

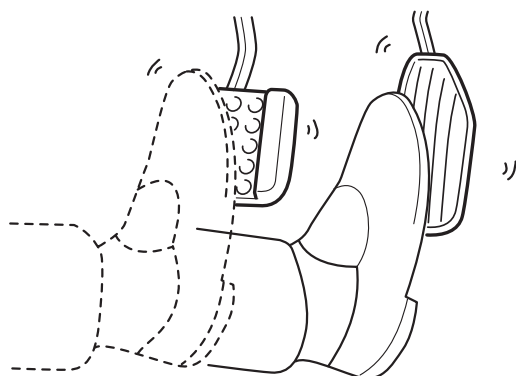
⚠警告

- ➡の操作は誤作動を防ぐため、シフト レバー ボタンを押さずに動かしてください。常にシフト レバー ボタンを押して操作していると、P・R・Bレンジに思いがけず入ることがあり、その場合、思わぬ事故の原因となり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 走行中にNレンジに入れないでください。エンジン ブレーキが全く効かず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が完全に止まらないうちにPレンジに入れないでください。また、前進走行中にRレンジ、および後退走行中にD・S・Bレンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転のしかた

エンジン始動前

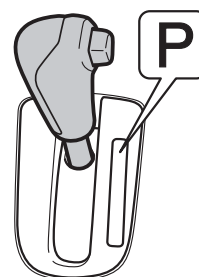
▼ 操作を行う前に

アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルの位置を右足で確認します。

⚠警告

- 踏み誤りを防ぐため、ブレーキ ペダルは右足で踏む習慣を身に付けてください。左足でのブレーキ操作は思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジン始動時

▼ 操作手順

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。
2. シフト レバーがⓅレンジにあることを確認します。
3. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
4. ブレーキ ペダルを踏んだまま、エンジン スイッチを“START”の位置にします。（プッシュ ボタン スタート装着車は、ブレーキ ペダルを踏んだままスイッチを押します。）

発進時

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- Ⓟレンジから Ⓡレンジへシフト レバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、ブレーキ ペダルを踏みながら、シフト レバー ボタンを押して動かしてください。
- アクセル ペダルを踏んだままシフト レバーの操作をしないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。

▼ 操作手順

1. ブレーキ ペダルを右足で踏んだままシフト レバーを前進であればⒹレンジに、状況に応じてⓈ、Ⓑレンジに、また後退のときはⓇレンジに入れます。
2. 駐車ブレーキを戻したあと、徐々にブレーキ ペダルから足を離し、アクセル ペダルをゆっくりと踏み込み発進します。

⚠警告

- 始動直後およびエアコン使用時は、自動的にエンジン回転が高くなり（アイドル アップ）、動こうとする力が強くなります。発進時にシフト レバー操作をするときはしっかりとブレーキ ペダルを踏んでください。
- マニュアル車は発進のスピードを半クラッチ操作とアクセル操作を併用して調整しますが、オートマチック車ではアクセル操作のみで行いますので、アクセル操作は特に慎重に行ってください。
- 切り返しなどでⒹレンジからⓇレンジ、ⓇレンジからⒹレンジと何度もシフト レバー操作をするときは、そのつどブレーキ ペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。
  トランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。また必ずシフト位置も確認してください。
- 急発進を防ぐためにⓅレンジからⓇレンジ、ⓃレンジからⒹレンジ、ⓃレンジからⓇレンジにシフト レバー操作をするときもブレーキ ペダルをしっかり踏んでから行ってください。

オートマチック車の運転

⚠注意

- シフト レバーがどの位置にあるかをシフト レバー部またはメーター内のインジケーターで確認してください。
- シフト レバーがⓅ、Ⓝレンジ以外の位置にあると、アクセル ペダルを踏まなくても動こうとする特性を持っています。（クリープ現象）
- 坂道発進時など、アクセル ペダルとブレーキ ペダルを同時に踏んで発進しないでください。故障の原因となります。

アドバイス

- シフト レバーをⓇレンジに入れると警告ブザーが鳴り、運転者にシフト レバーがⓇレンジにあることを知らせます。警告ブザーは車外の人には聞こえませんので注意してください。

▼ 坂道発進する場合

1. 駐車ブレーキがしっかりかかっていることを確認しながら、シフト レバーをⒹレンジに入れます。
2. 右足でアクセル ペダルをゆっくり踏み、車が動き出す感触を確認してから、駐車ブレーキを解除し、発進します。

走行時

▼ 操作手順

1. 通常はⒹレンジで走行します。
2. 急加速が必要な場合は、アクセル ペダルを踏み込みます。
3. 長い下り坂や急な下り坂など、強いエンジン ブレーキを必要とする場合は、路面状態やスピードに応じてⓈレンジまたはⒷレンジに切り替えます。

⚠警告

- 坂道などでは、シフト レバーをⒹ、Ⓢレンジまたは Ⓑレンジに入れたまま惰性で後退したり、Ⓡレンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 走行中はⓃレンジに入れないでください。エンジン ブレーキが全く効かなくなり、思わぬ事故の原因になります。
- 走行中にⓅレンジ、また前進走行中にⓇレンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損傷をあたえる原因となります。
- 滑りやすい路面やカーブ走行中では、急激なアクセル ペダルの操作はやめてください。急加速をするため、スリップしたり、カーブを曲がりきれず思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠警告

- 長い下り坂や急な下り坂をDレンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。
  このようなときに、フット ブレーキを使いすぎるとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
  Sレンジにしてエンジン ブレーキを併用してください。また、より強いエンジン ブレーキが必要な場合は、Bレンジに入れてください。
- ブレーキ ペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

- 走行中にアクセル ペダルとブレーキ ペダルを同時に踏んだりしないでください。走行中、アクセル ペダルを踏んでいるときにブレーキ ペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

アドバイス

- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセル ペダルを踏まずに、ブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。
- Dレンジの走行中に急加速を行うと、車速の上昇よりもエンジン回転数の上昇が早く感じられますが、オートマチック トランスミッションの変速制御によるもので問題ありません。

燃費向上のために

- 発進、加速はスムーズに行ってください。
  軽くアクセル ペダルを踏むだけでスムーズに加速します。

オートマチック車の運転

一時停止時

▼ 操作手順

1. シフト レバーは走行位置のままでブレーキ ペダルをしっかりと踏み続けます。
2. 停車が長びくときは、ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをⓃレンジに入れます。
3. 発進するときは、シフト レバーの位置を確認したあと、アクセル ペダルをゆっくりと踏み込みます。

⚠警告

- 上り坂での停止はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキ ペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
- 平坦路であっても、停車が長びくときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エアコン作動中は自動的にエンジン回転が高くなり、急にクリープ現象が強くなりますので、特にしっかりとブレーキ ペダルを踏んでください。

後退時

▼ 操作方法

車が完全に止まってからも、ブレーキ ペダルをしっかりと踏み続け、シフト レバーをⓇレンジに入れます。

⚠警告

- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるように注意してください。
- 少し後退したあとなどはⓇレンジに入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐⓃレンジに戻すよう習慣付けましょう。
- 切り返しなどでⒹレンジからⓇレンジ、ⓇレンジからⒹレンジと何度もシフト レバー操作をするときは、そのつどブレーキ ペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。また、シフト位置も忘れずに確認してください。

アドバイス

- シフト レバーをⓇレンジに入れると警告ブザーが鳴り、運転者にシフト レバーがⓇレンジにあることを知らせます。警告ブザーは車外の人には聞こえませんのでご注意ください。

駐車時

▼操作手順

1. 車を完全に止めます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをⓅレンジに入れます。
3. エンジン スイッチを“LOCK”の位置まで回してキーを抜きます。（プッシュ ボタン スタート装着車は、スイッチを押して電源を“OFF”にします）

⚠警告

- エンジンをかけたままで車から離れないでください。

⚠注意

- 必ず駐車ブレーキをかけてください。
- 車から離れるときはエンジン スイッチを“LOCK”の位置にしてキーを抜いてください。（プッシュ ボタン スタート装着車は、スイッチを押して電源を“OFF”にします）
バッテリーあがりの原因となります。
- Ⓟレンジでは車輪が固定されます。駐車するときは必ずⓅレンジにあることを確認してください。
- 車が完全に止まらないうちにⓅレンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損傷をあたえる原因となります。

アドバイス

プッシュ ボタン スタート装着車を除く

- キー インター ロック装置により、シフト レバーがⓅレンジ以外のときは、エンジン スイッチを“LOCK”の位置まで回すことができません。
（キー インター ロック→ 169 ページ）

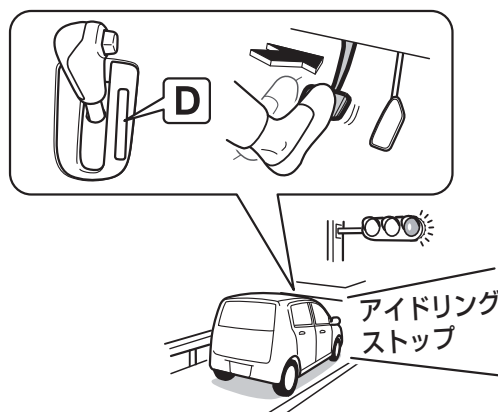
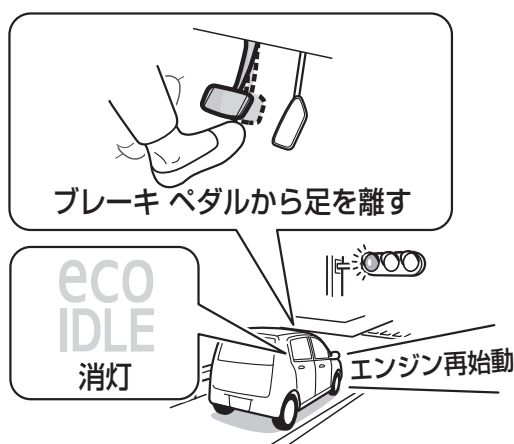
アイドリング ストップ システムの使いかた

eco IDLE*（エコ アイドル）

eco IDLEは、エンジン暖機後に信号待ちや渋滞などで減速した際、停車前（約7km/h）もしくは停車後に、燃費向上や排気ガス低減、アイドリング騒音低減のため、自動でエンジンを停止（アイドリング ストップ）、再始動させるシステムです。

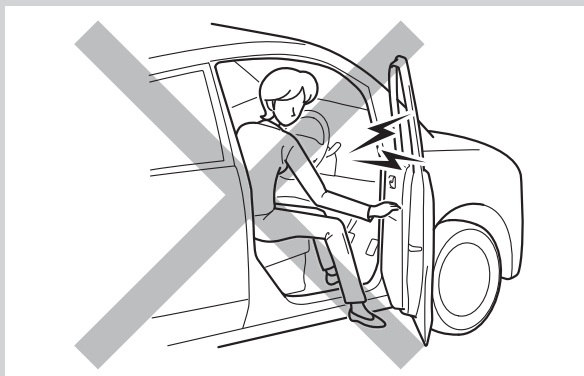
アイドリング ストップ、エンジンの再始動のしかた

1. 走行中にアイドリング ストップする条件を満たすと、eco IDLE表示灯が緑色に点灯します。
<スタンバイ状態>

2. Ⓓレンジのままブレーキ ペダルを踏み減速すると、停車前（約 7km/h）もしくは停車後に、アイドリング ストップします。
eco IDLE表示灯はアイドリング ストップ中も緑色に点灯し続けます。
<アイドリング ストップ状態>

3. ブレーキ ペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。
eco IDLE表示灯は消灯します。
<エンジン再始動>

4. しばらく走行して、再びアイドリング ストップする条件を満たすと、eco IDLE表示灯が緑色に点灯します。

* “eco IDLE”はダイハツ工業株式会社の登録商標です。（使用許諾済）

⚠警告

- アイドリング ストップ中は車外へ出ないでください。車外へ出ようと、運転席シート ベルトを外したり運転席ドアを開けたりすると、エンジンが再始動しますので、あわてずにブレーキ ペダルを踏み続けてください。
  ブレーキ ペダルから足を離すと車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  - シート ベルトとドアを元に戻すまで、警告ブザーが鳴り続けます。
  (警告ブザー→ 192 ページ)

- アイドリング ストップ中は、ブレーキ ペダルを踏んだまま、アクセル ペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。
- 長時間停車するときや車両から離れるときは、駐車ブレーキをかけ、エンジン スイッチを操作してエンジンを停止させてください。

⚠注意

eco IDLEを正常に作動させるために

- 下記の場合、eco IDLEが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
  - 運転席シート ベルトを着用していても、シート ベルト未装着警告灯が点滅するとき
  - 運転席シート ベルトを外していても、シート ベルト未装着警告灯が点滅しないとき
  - 室内照明のスイッチが“DOOR”のとき、運転席ドアを閉めても室内照明が点灯するとき
  - 室内照明のスイッチが“DOOR”のとき、運転席ドアを開けても室内照明が点灯しないとき

アイドリング ストップ システムの使いかた

アドバイス

アイドリング ストップ中の操作について

- アイドリング ストップ中に、シフト レバーをⒹからⓃレンジ（またはⓈ・Ⓑレンジ）に操作してもアイドリング ストップは継続します。
  ただし、シフト レバーをⓃレンジに操作したあと他のレンジに操作すると、エンジンが再始動します。
- 右左折や合流時など、アイドリング ストップ中に事前に発進準備をしたいときは、下記の操作で事前にエンジンを再始動することができます。
  - ブレーキ ペダルをすばやく増し踏みする
  - eco IDLE OFFスイッチを押す
  （eco IDLE OFFスイッチ→ 194 ページ）

アイドリング ストップ中のエアコンの作動について

- アイドリング ストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。
  通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
  - ブレーキ ペダルをすばやく増し踏みする
  - eco IDLE OFFスイッチを押す

システムの作動条件について

○スタンバイ条件

下記の条件をすべて満たすと、eco IDLE表示灯が緑色に点灯し、アイドリング ストップが可能な状態になります。

- eco IDLE OFFスイッチを押して、eco IDLEの作動を停止していないとき
  （eco IDLE作動停止中は、eco IDLE表示灯が橙色に点灯します）
- エンジンが十分に暖まっているとき
- トランスミッション オイルが十分に暖まっているとき
- エンジン冷却水温が高すぎないとき
- バッテリーが十分に充電されているとき
- エンジン始動後に約 10km/h以上でしばらく走行したあと
  （走行せずにアイドリング状態を続けていても、アイドリング ストップしません）
- シフト レバーがⒹレンジのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シート ベルトを着用しているとき
- 外気温が約 0℃以上のとき
  （メーター表示の外気温と異なる場合があります）
- フロント デフロスター スイッチが“OFF”のとき（オート エアコン装着車）
- 車内温度が快適なとき（オート エアコン装着車の冷房時）

アイドリング ストップ システムの使いかた

- システム（eco IDLE、エンジン電子制御、オートマチック トランスミッション、ABS、VSC、エアコン、電動パワー ステアリング）が正常なとき

アドバイス

- 下記の場合、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。
  - 車両を長期間使用しなかったときなど、バッテリーが放電しているとき
  - バッテリー交換などで、バッテリーの⊖端子をはずしたあと
  - 冷房初期（オート エアコン装着車）

○アイドリング ストップ条件

スタンバイ条件と下記の条件をすべて満たすと、eco IDLE表示灯が緑色に点灯したまま、停車前もしくは停車後にアイドリング ストップします。

アドバイス

- 停車前と停車後のアイドリング ストップ条件が異なるため、停車前にアイドリング ストップしなくても、停車後にアイドリング ストップすることがあります。

停車前アイドリング ストップ条件

- 車速が約 7km/hになったとき
- ブレーキ ペダルを踏んでいるとき
- アクセル ペダルを踏んでいないとき
- ライト スイッチが“OFF”のとき
- フロント ワイパー・ウォッシャー スイッチが“OFF”のとき
- ハンドルの切れ角が小さいとき
- 急減速していないとき
- ABS、VSCが作動していないとき

アドバイス

- 下記の場合、停車前アイドリング ストップしない場合があります。
  - ブレーキ ブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
  - ブレーキ ペダルを踏む力が弱いとき
  - 勾配のある坂道を走行しているとき
  - ゆるやかに減速しているとき

アイドリング ストップ システムの使いかた

停車後アイドリング ストップ条件

- 車両が停車しているとき
- ブレーキ ペダルを踏んでいるとき
- アクセル ペダルを踏んでいないとき
- ABS、VSCが作動していないとき

アドバイス

- 下記の場合、停車後アイドリング ストップしない場合があります。
  - ・ブレーキ ブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
  - ・ブレーキ ペダルを踏む力が弱いとき
  - ・急勾配の坂道で停車したとき

○エンジン再始動条件

アイドリング ストップ中に、下記のいずれかの操作を行うと、エンジンが再始動します。

- ブレーキ ペダルから足を離す
- ブレーキ ペダルをすばやく増し踏みする
- アクセル ペダルを踏む
- シフト レバーをⓇ・Ⓟレンジに操作する
- シフト レバーをⓃレンジに操作したあと、他のレンジに操作する
- eco IDLE OFFスイッチを押して、システム作動を停止する
- フロント デフロスター スイッチを"ON"にする（オート エアコン装着車）
- 運転席ドアを開ける
- 運転席シート ベルトを外す

アドバイス

エンジンの再始動について

● 下記の場合でも、アイドリング ストップ中にエンジンが再始動し、クリープ現象*が発生しますので、ブレーキ ペダルはしっかりと踏み続けてください。
- アイドリング ストップ中に、アイドリング ストップが可能な条件を満たさなくなった場合（eco IDLE表示灯は緑色に点滅後消灯）
  - ・ブレーキ ブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下したとき
  - ・坂道などで停止状態から車両が動き出したとき
  - ・停車前アイドリング ストップ中に下り坂などで加速したとき
  - ・バッテリーの放電量が多いとき
  - ・警告灯（エンジン、オートマチック トランスミッション、ABS、VSC&TRC）が点灯するなど、各システムに異常が発生したとき
  - ・エアコンの制御システムに異常が発生したとき（オート エアコン装着車）
  - ・冷房時はエアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき（オート エアコン装着車）
  - ・アイドリング ストップしてから約3分経過したとき

* エンジンがかかっているとき、シフト レバーがⓅ、Ⓝレンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセル ペダルを踏まなくてもゆっくりと車両が動き出す現象。

アドバイス

- アイドリング ストップ中に、eco IDLEシステムに異常が発生した場合、またはエンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期になった場合（eco IDLE表示灯は橙色に点滅）

アイドリング ストップ時間が短くなる場合

● 下記の場合、アイドリング ストップ時間が短くなる場合があります。
- 外気温が高く、エアコンを使用している状態で頻繁にアイドリング ストップしたとき（オート エアコン装着車）
- 電装品などの消費電力が大きいとき

エンジンが再始動しない場合

● 下記の場合、警告ブザーが鳴ってeco IDLE表示灯が点滅し、安全確保のためブレーキ ペダルから足を離しても、エンジンは再始動しません。
- アイドリング ストップ中にボンネットを開けたとき

（警告ブザー→ 192 ページ）

エンジン再始動時の電装品の動作について

● オーディオの音量が大きいなど、アイドリング ストップ中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時に下記の電源が一時的に“OFF”になることがあります。
- オーディオ
- カー ナビゲーション（別売）

● アイドリング ストップからエンジンが再始動すると、アクセサリー ソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。

アイドリング ストップ システムの使いかた

警告ブザー

アイドリング ストップ中に、運転席シート ベルトを外したり、運転席ドアやボンネットを開けたりすると、警告ブザーが鳴ります。

○運転席シート ベルトを外したとき

警告ブザー（断続音）が鳴り、eco IDLE表示灯が緑色に高速で点滅します。
エンジンが再始動します。

▼対処方法

運転席シート ベルトを確実に着用してください。警告ブザーが止まります。

○運転席ドアを開けたとき

警告ブザー（断続音）が鳴り、eco IDLE表示灯が緑色に高速で点滅します。
エンジンが再始動します。

▼対処方法

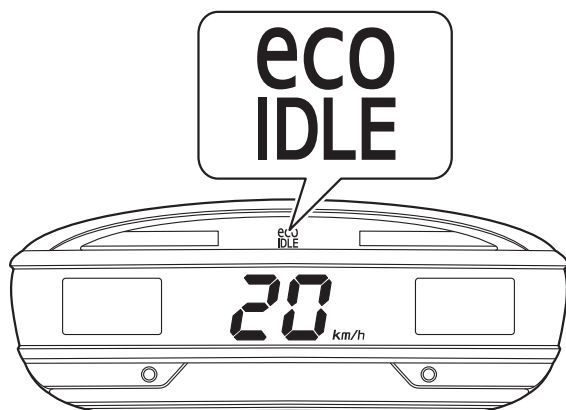
運転席ドアが開いていないかを確認し、確実に閉めてください。警告ブザーが止まります。

○ボンネットを開けたとき

警告ブザー（断続音）が数秒間鳴り、eco IDLE表示灯が緑色に高速で点滅します。
安全確保のため、通常のエンジン停止状態になります。（エンジン警告灯・充電警告灯・油圧警告灯も同時に点灯します）

▼対処方法

ボンネットが開いていないか確認し、確実に閉めてください。
シフト レバーをⓅレンジに操作してから、エンジン スイッチを操作して、エンジンを始動してください。

eco IDLE表示灯／警告灯

eco IDLEに関する操作状況、車両の状態、システムの異常をお知らせします。

○緑色点灯
- 電源を“ON”にしたとき
  （数秒後消灯）
- アイドリング ストップが可能な条件を満たしたとき
  <スタンバイ条件成立>
- アイドリング ストップ中

○消灯
- アイドリング ストップからエンジンが再始動したとき
- アイドリング ストップが可能な条件を満たしていないとき
  <スタンバイ条件不成立>

○緑色で低速点滅後、消灯
- アイドリング ストップ中に、アイドリング ストップが可能な条件を満たさなくなり、エンジンが再始動したとき

○緑色で高速点滅
アイドリング ストップ中に下記の状態になると、高速点滅すると同時に警告ブザーが鳴ります。
- 運転席シート ベルトを外したとき
- 運転席ドアを開けたとき
- ボンネットを開けたとき

（警告ブザー→ 192 ページ）

○橙色点灯
- eco IDLE OFFスイッチを押して、eco IDLE作動を停止したとき
  （eco IDLE OFFスイッチ→ 194 ページ）

○橙色点滅
- eco IDLEシステムに異常があるとき
- エンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期のとき

⚠注意

橙色に点滅した場合
- トヨタ販売店で点検を受けてください。

アイドリング ストップ システムの使いかた

メーター表示

アイドリング ストップ時間を、メーターのディスプレイに表示できます。
アイドリング ストップ時間自動表示の設定を“dSP On”にすると、eco IDLEによるアイドリング ストップ中に、自動で下記の表示に切り替わります。

○アイドリング ストップ時間表示

電源を“ON”にしてからのeco IDLEによるアイドリング ストップ時間を表示します。

（アイドリング ストップ時間→ 134 ページ）

○節約燃料表示

アイドリング ストップ時間の表示と連動して、節約燃料を表示します。

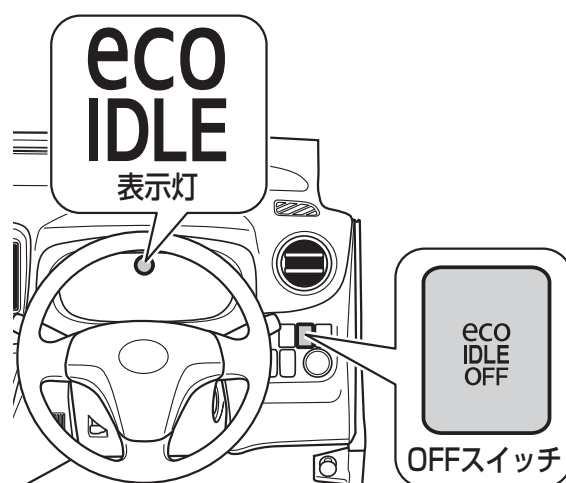
（節約燃料表示→ 138 ページ）

eco IDLE OFFスイッチ

eco IDLEの作動を停止したいときにスイッチを押します。

▼ 操作方法

スイッチを押すと、eco IDLEの作動停止状態になり、メーター内のeco IDLE表示灯が橙色に点灯します。
もう一度スイッチを押すと、eco IDLEが作動可能になり、eco IDLE表示灯が緑色に点灯します。
（アイドリング ストップが可能な条件を満たしていないときは、消灯します。）

（eco IDLE表示灯／警告灯 → 193 ページ）

アドバイス

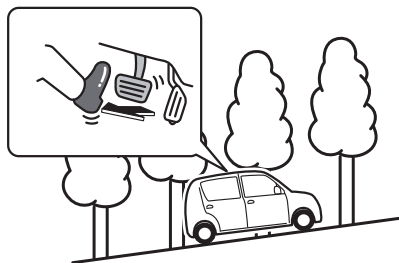
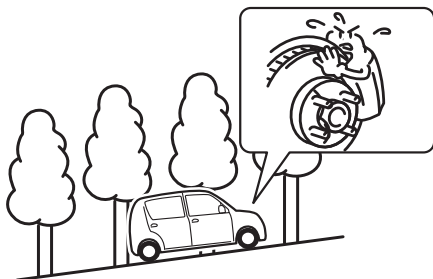
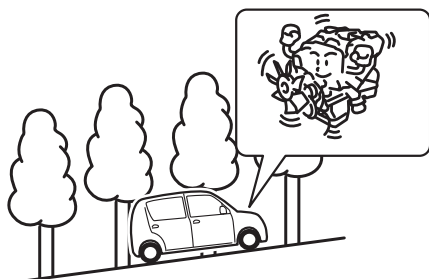
- アイドリング ストップ中に、スイッチを押すとエンジンが再始動し、eco IDLE作動停止状態になります。（eco IDLE表示灯は橙色に点灯します）
- eco IDLEはエンジン スイッチ操作によるエンジン始動をするたびに、作動可能状態に戻ります。

アイドリング ストップ システムの使いかた

ヒル スタート システム

アイドリング ストップからブレーキ ペダルをゆるめてエンジンが再始動する際、最長約 2 秒間ブレーキ力を保持するシステムです。
坂道発進時の後退を軽減します。
ただし、アイドリング ストップしていないときは作動しません。

▼ 作動の流れ

1. ブレーキ ペダルを踏む力をゆるめる

2. ブレーキ力保持

3. エンジン再始動

4. 発進

⚠警告

- ヒル スタート システムは、坂道で停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキ ペダルをゆるめると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキ ペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒル スタート システムを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
  常に周囲の状況を確認して、適切にシフト レバー、ブレーキ ペダル、アクセル ペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキ ペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

アイドリング ストップ システムの使いかた

⚠警告

- ゆるやかな上り坂で停車前（約7km/h）アイドリング ストップしたあと、車両が停止する前にアクセル ペダルを踏んで再加速しようとした場合、車両が後退することがあります。
  車両が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキ ペダル、アクセル ペダルを操作し、安全に発進してください。
- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または急な上り坂では、ヒル スタート システムが作動していても、車両が後退することがあります。駐車ブレーキをかけたりするなどして発進してください。

アドバイス

- ヒル スタート システムの作動により、下記の状態になることがありますが、異常ではありません。
  - ブレーキ ペダルの踏みごたえが変わる
  - ブレーキ ペダルが振動する
  - ブレーキから音が発生する
- ヒル スタート システムは、坂道だけではなく、平坦な道路でも作動します。

eco IDLE専用バッテリー

eco IDLE装着車は、高性能な専用バッテリーを搭載しています。
バッテリーを交換するときは、この車用のeco IDLE専用バッテリーと交換してください。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠注意

- 専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やeco IDLEが正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。eco IDLEが正常に作動しなくなります。

アドバイス

- バッテリーは定期的に充電することで、長持ちさせることができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

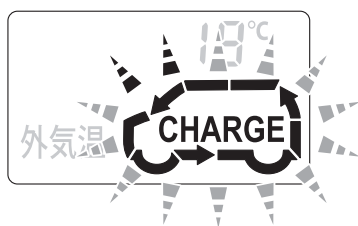
エコ発電制御

エコ発電制御

減速時の発電によってバッテリーを集中充電することにより、走行中（加速やクルージングなど）の発電を抑制、燃料消費量を低減させ、燃費を向上させる効果があります。

○発電状態表示

エコ ドライブ アシスト ディスプレイ付き車

エコ発電制御中、ディスプレイに発電状態を表示します。

（発電状態表示→ 139 ページ）

装備品の使いかた

車の装備品の使いかたについて説明しています。

■ 空調

■ オーディオ

■ 室内装備品

空調

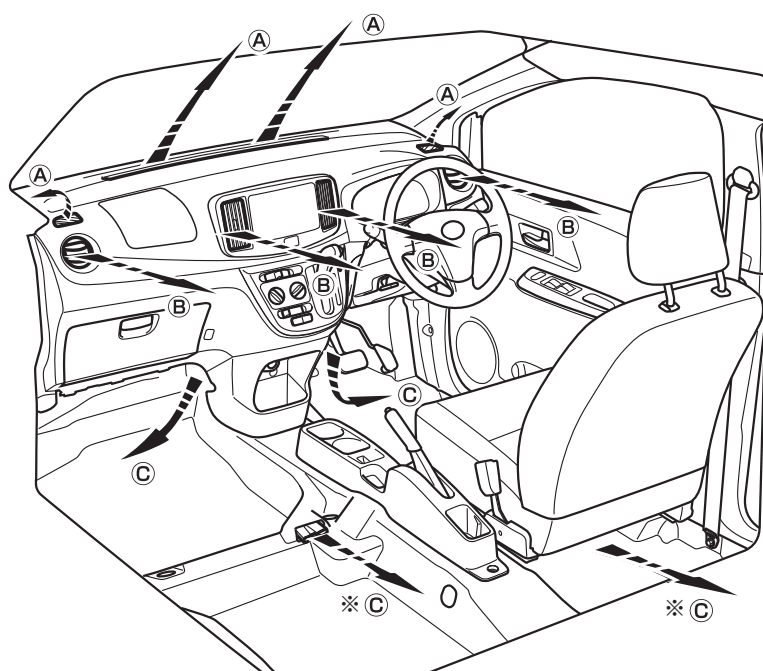
マニュアル エアコン

オプション/グレード別装備

室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。
コントロール パネルの操作により、吹き出し口から冷風、または温風が吹き出します。

▼吹き出し口の位置

※はタイプ別装備

⚠警告

- eco IDLEによるアイドリング ストップ中は、エアコンが作動しないため室内の湿度が上がってガラスが曇ることがあります。エンジンを再始動し、エアコンを作動させてください。

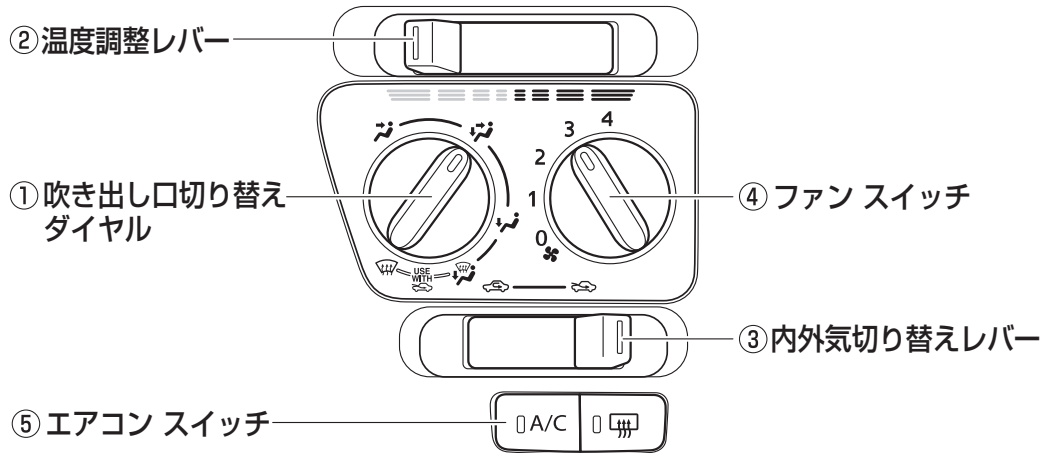
(ガラスの曇りを取るとき→ 207 ページ)

アドバイス

eco IDLEによるアイドリング ストップ中にエアコンを作動させるには

- アイドリング ストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
  - ブレーキ ペダルをすばやく増し踏みする
  - eco IDLE OFFスイッチを押す

(eco IDLE(エコ アイドル)→ 186 ページ)

マニュアル エアコン コントロール パネル

○各ダイヤル／レバー／スイッチの使いかた

①吹き出し口切り替えダイヤル

イラストの方向へ風が出てきます。風量は吹き出し口によって異なります。

ダイヤル	(顔)	(顔・足)	(足)	(足・窓)	(窓)
吹き出し口	Ⓑ	Ⓑ Ⓒ	Ⓒ (Ⓐ)	Ⓐ Ⓒ	Ⓐ

(　)は特に風量の少ないものを示します。

▼操作方法

ダイヤルを左右に回して、切り替えます。

⚠警告

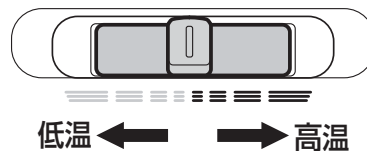
ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い温度で作動させている場合は、吹き出し口を(足・窓)、または(窓)に切り替えないでください。
  外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

アドバイス

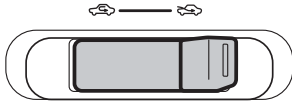
- このマークはガラスが曇ったときに使用する、の位置で、“外気導入”を使用していただくためのものです。“内気循環”にすると曇りが取れにくくなる場合があります。
- “外気導入”への切り替えは、内外気切り替えレバーで操作してください。
- このマークの位置でもダイヤルは止まりますが、この位置での使用はおすすめできません。ダイヤルは、、、、の位置に合わせて使用してください。

②温度調整レバー

風の吹き出し温度を調整します。

▼ 操作方法

レバーを左右に動かして、調整します。

③内外気切り替えレバー

内気循環、外気導入の切り替えを行います。

内気循環		外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。
外気導入		外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。

▼操作方法

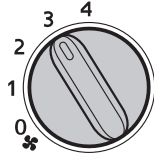
レバーを左右に動かして切り替えます。

アドバイス

- “内気循環”を長時間使用すると、ガラスが曇りやすくなります。通常は、“外気導入”を使用してください。
- 渋滞に巻き込まれたときや、トンネル内は、“内気循環”にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。
- ①のダイヤルが、またはのときに“内気循環”にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
  エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

④ファン スイッチ

吹き出し口からの風の強さを切り替えます。

スイッチにより 4 段階の切り替えができます。

▼ 操作方法

スイッチを回して操作します。

アドバイス

- “0”の位置にすると、ファンが停止します。

⑤エアコン スイッチ

冷房、除湿機能の作動と停止を行います。

▼ 操作方法

ファンが作動中のとき、スイッチを一度押すとエアコンが作動し、作動表示灯が点灯します。

もう一度押すとエアコンが停止し、作動表示灯が消灯します。

⚠警告

- 停車時（eco IDLEによるアイドリングストップ中は除く）の冷房効果を向上させるために、エンジン アイドリング回転を少し高くするアイドル アップ装置が付いています。アイドル アップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。
  冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかり踏んでください。
  （オートマチック車の運転 → 176 ページ）

アドバイス

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

風向きの調整

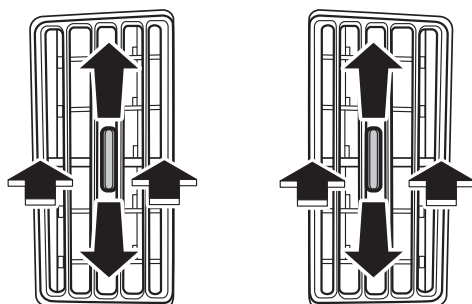
左右および中央の吹き出し口からの風向きの調整を行うことができます。

アドバイス

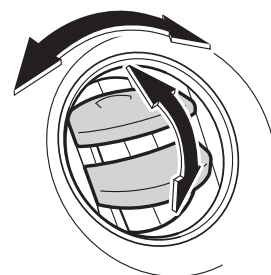
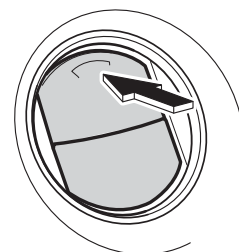
- 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

○中央吹き出し口

▼ 操作方法

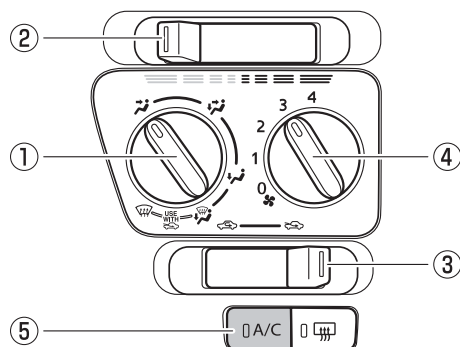
上下方向はツマミを動かして調整します。
左右方向は吹き出し口の端を押して調整します。

○左右吹き出し口

▼ 操作方法

カバーを動かして調整します。
カバーを一番下まで動かすと、吹き出し口を閉めることができます。

吹き出し口を開けるときは、くぼみ部分を押します。

マニュアル エアコンの使いかた

代表的な使用例におけるダイヤル、レバー、スイッチのセット位置を説明します。

○通常の冷房

室内を冷やしたいときに使用します。

①
② 低温側
③ 外気導入
④ お好みの位置
⑤ ON

アドバイス

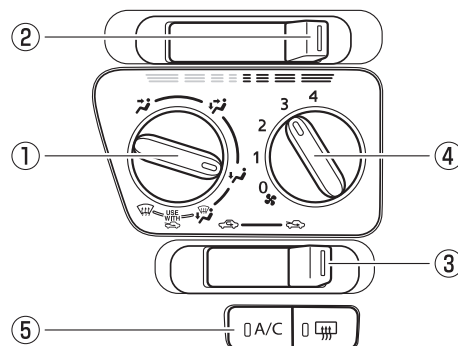
急速に冷房したいときは

- ②のレバーを最低温に、③のレバーを“内気循環”に、⑤のスイッチを作動させてください。
  ただし“内気循環”で長時間使用すると車内の空気が汚れます。換気のためときどき“外気導入”にしてください。
  冷えてきたら②のレバーを高温側に動かし、お好みの温度に調整してください。

車内の温度が高いときは

- 駐車のあと車内の温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

○通常の暖房

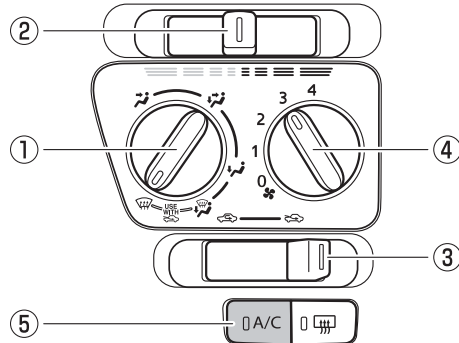
室内を暖めたいときに使用します。

①
② 高温側
③ 外気導入
④ お好みの位置
⑤ OFF

アドバイス

急速に暖房したいときは

- ②のレバーを最高温に、③のレバーを“内気循環”にしてください。
  ただし“内気循環”で長時間使用すると、ガラスが曇りやすくなりますので一時的にご使用ください。
  暖かくなってきたら②のレバーを低温側に動かし、お好みの温度に調整してください。

○ガラスの曇りを取るとき

寒冷時や、雨のときなどガラスが曇ったときに使用します。

①
② お好みの位置
③ 外気導入
④ お好みの位置
⑤ ON

⚠警告

ガラスの曇りを防止するために

- ②のレバーを最低温に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

アドバイス

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- ①のダイヤルをにすると、曇り取りと同時に足元にも送風されます。

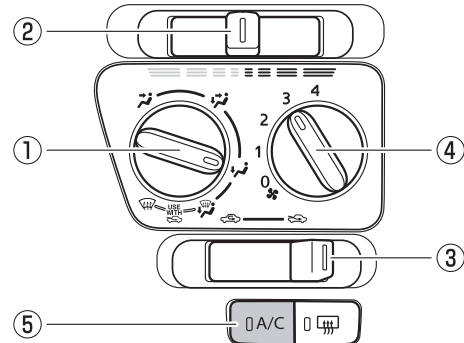
外気が汚れているときは

- 一時的に③のレバーを“内気循環”にしてください。

より早くガラスの曇りを取る場合

- ガラスの曇りを取る操作と併せて、下記の操作を行います。
  - ④のスイッチを操作して、風量を増す
  - ②のレバーを操作して、設定温度を上げる

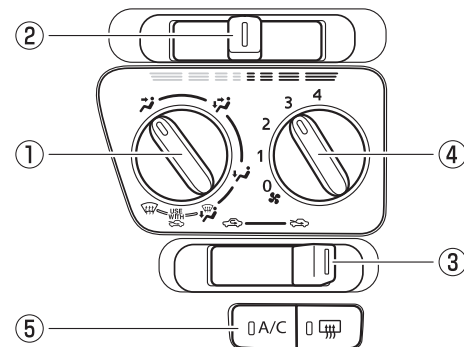
○除湿暖房するとき（曇り止め）

雨の日など湿気が多く、ガラスが曇りやすいときに使用します。

①
② お好みの位置
③ 外気導入
④ お好みの位置
⑤ ON

アドバイス

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

○換気するとき

導入された外気が中央および左右の吹き出し口から吹き出します。

①
② お好みの位置
③ 外気導入
④ お好みの位置
⑤ OFF

空調

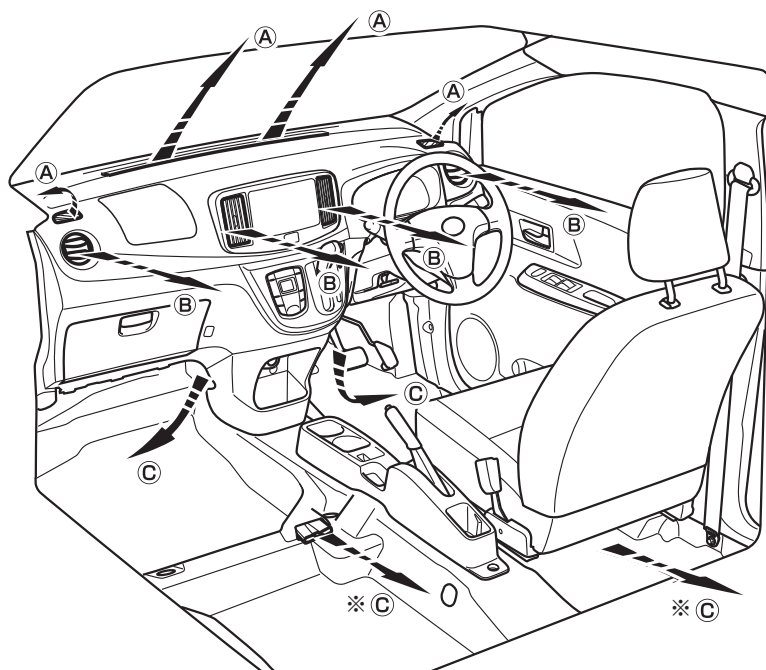
オート エアコン

オプション/グレード別装備

室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。
コントロール パネルの操作により、吹き出し口から冷風、または温風が吹き出します。

▼吹き出し口の位置

※はタイプ別装備

⚠警告

- eco IDLEによるアイドリング ストップ中は、エアコンが作動しないため室内の湿度が上がってガラスが曇ることがあります。エンジンを再始動し、エアコンを作動させてください。

（ガラスの曇りを取るとき→ 217 ページ）

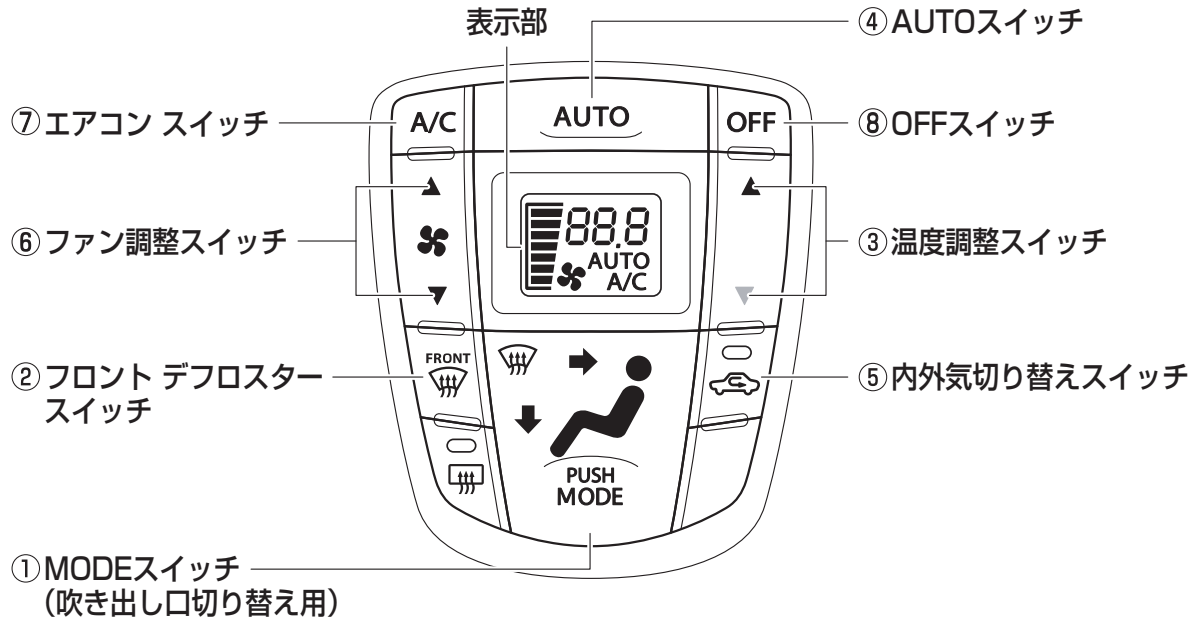
アドバイス

- エアコンの操作や室内温度により、eco IDLEによるアイドリング ストップをしない場合や、アイドリング ストップ中にブレーキ ペダルから足を離さなくてもエンジンが再始動することがあります。

eco IDLEによるアイドリング ストップ中にエアコンを作動させるには

- アイドリング ストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
  - ブレーキ ペダルをすばやく増し踏みする
  - eco IDLE OFFスイッチを押す

（eco IDLE（エコ アイドル）→ 186 ページ）

オート エアコン コントロール パネル

○各ダイヤル／スイッチの使いかた

①MODE（吹き出し口切り替え用）
　スイッチ

吹き出し口を選択します。

選択された吹き出し口がスイッチに表示されます。

選択された吹き出し口から風が出てきます。

風量は吹き出し口によって異なります。

表示				
吹き出し口	Ⓑ	Ⓑ Ⓒ	Ⓒ (Ⓐ)	Ⓐ Ⓒ

（　）は特に風量の少ないものを示します。

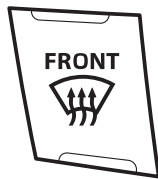
▼ 操作方法

スイッチを押すごとに、吹き出し口が「 → → → 」の順に切り替わります。

⚠警告

ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、吹き出し口を に切り替えないでください。
  外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

②フロント デフロスター スイッチ
ガラスの曇りを取ります。

▼操作方法

- スイッチを押すと自動的にエアコンが作動し、吹き出し口が切り替わります。同時に内外気切り替えが外気導入に切り替わり、MODEスイッチに“[defroster icon]”が表示されます。
- もう一度スイッチを押すと“[defroster icon]”が非表示になり、元の状態に戻ります。

⚠警告

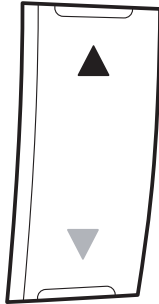
ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、スイッチを“ON”にしないでください。
  外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

アドバイス

- スイッチが“ON”のときは、eco IDLEによるアイドリング ストップをしません。
- eco IDLEによるアイドリング ストップ中にスイッチを“ON”にすると、エンジンが再始動します。

（eco IDLE（エコ アイドル）→ 186 ページ）

③温度調整スイッチ
室内の設定温度を調整します。
設定温度が表示部に表示されます。

▼ 操作方法
スイッチを押して調整します。
- 室内温度を高くするには▲側のスイッチ、低くするには▼側のスイッチを押します。

アドバイス

- 設定温度を 18℃～32℃の間で調整することができます。最大冷房にすると“LO”、最大暖房にすると“HI”の表示になります。

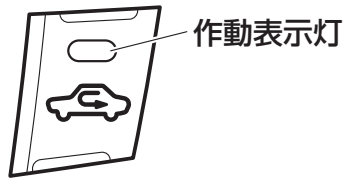
④AUTOスイッチ
スイッチを押すと、吹き出し口、風量、および内外気の切り替えが自動的に調整されます。

AUTO

▼ 操作方法
スイッチを押すと“ON”になります。
“ON”のときは表示部に“AUTO”が表示されます。

アドバイス

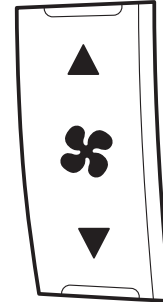
- AUTOスイッチが“ON”のときは、下記のようになります。
  - 吹き出し口、または風量を手動で調整すると、表示部の“AUTO”が表示されなくなりますが、調整した機能以外は自動調整のままとなります。すべての機能を自動調整に戻すときは、再度AUTOスイッチを押してください。
  - 吹き出し口がまたはで、冬場などの寒いときには、温風の準備が出来るまで、中央、左右、足元吹き出し口から風は出ません。
  - 吹き出し口がまたはで、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動します。
  - エアコン始動時に発生する臭いを抑えるため、エアコン始動直後は、しばらく風が出ない場合があります。
  - AUTOスイッチが“ON”のときで、eco IDLEによるアイドリング ストップ中は、風量が少なくなるように調整されることがあります。
    エンジンが再始動すると、風量は自動調整に戻ります。
    （eco IDLE（エコ アイドル）→ 186 ページ）

⑤内外気切り替えスイッチ
内気循環、外気導入の切り替えを行います。

- 内気循環
  外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。
- 外気導入
  外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。

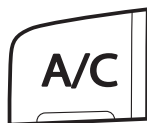
▼ 操作方法
スイッチを押して内気循環、外気導入を切り替えます。
- 作動表示灯が点灯している状態が“内気循環”
- 作動表示灯が消灯している状態が“外気導入”

アドバイス

- “内気循環”を長時間使用すると、ガラスが曇りやすくなります。通常は、“外気導入”を使用してください。
- 渋滞に巻き込まれたときや、トンネル内は、“内気循環”にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に“内気循環”または“外気導入”へ切り替わることがあります。
- エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
  エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

⑥ファン調整スイッチ
吹き出し口からの風の強さを調整します。
風量が表示部に表示されます。

▼調整方法
スイッチを押して調整します。

- 風量を強くするには▲側のスイッチ、弱くするには▼側のスイッチを押します。
- ファンを停止させたいときは、OFFスイッチを押します。

⑦エアコン スイッチ
冷房、除湿機能の作動と停止を行います。

▼ 操作方法
ファンが作動中のとき、スイッチを一度押すとエアコンが作動し、表示部に“A/C”が表示されます。
もう一度押すとエアコンが停止し、表示部の“A/C”が消灯します。

⚠警告

- 停車時（eco IDLEによるアイドリングストップ中は除く）の冷房効果を向上させるために、エンジン アイドリング回転を少し高くするアイドル アップ装置が付いています。アイドル アップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。
冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかり踏んでください。
（オートマチック車の運転→ 176 ページ）

アドバイス

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

⑧OFFスイッチ
空調機能の停止を行います。

▼ 操作方法
スイッチを押します。

風向きの調整

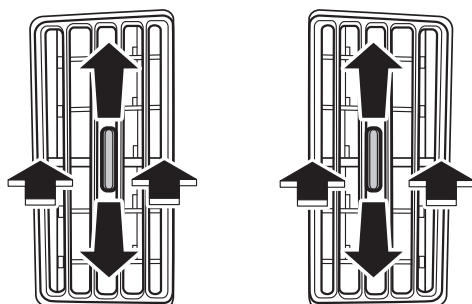
左右および中央の吹き出し口からの風向きの調整を行うことができます。

アドバイス

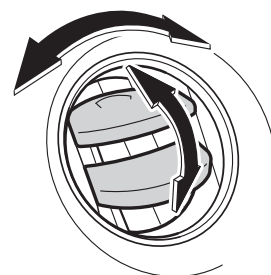
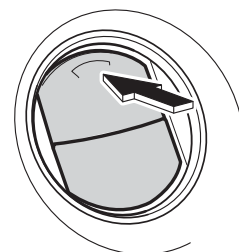
- 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

▼ 操作方法

上下方向はツマミを動かして調整します。
左右方向は吹き出し口の端を押して調整します。

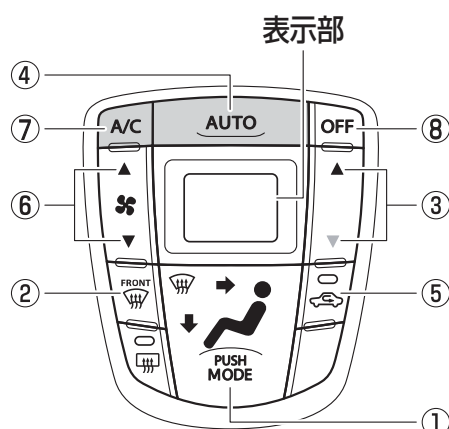
○中央吹き出し口

○左右吹き出し口

▼ 操作方法

カバーを動かして調整します。
カバーを一番下まで動かすと、吹き出し口を閉めることができます。

吹き出し口を開けるときは、くぼみ部分を押します。

オート エアコンの使いかた

代表的な使用例におけるスイッチのセット位置を説明します。

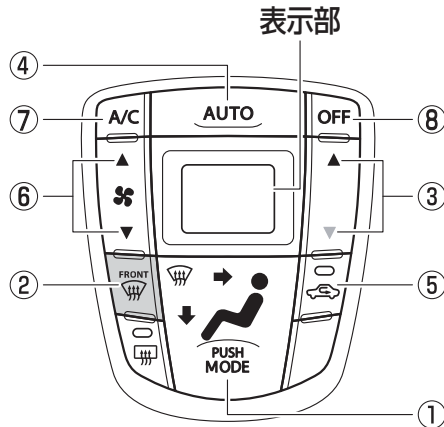
○通常の使いかた

室内温度を一定に保ちたいときに使用します。

① 操作不要	⑤ 操作不要
② OFF	⑥ 操作不要
③ お好みの温度	⑦ お好みの設定
④ ON	⑧ 操作不要

アドバイス

- ④のスイッチを“ON”にすることにより、状況に応じて①・⑤・⑥のスイッチが最適な状態に自動的に選択されます。
- 設定温度は25℃を目安に、お好みで調整してください。
  乗車直後の室内温度が高い（または低い）ときに、設定温度を25℃より極端に低く（または高く）調整しても、希望の室内温度になるまでの時間はほとんど変わりません。
- 冷房、除湿をするときは、⑦のスイッチを“ON”にします。

○ガラスの曇りを取るとき

寒冷時や、雨のときなどガラスが曇ったときに使用します。

① 操作不要	⑤ 操作不要（外気導入）
② ON	⑥ お好みの風量
③ お好みの温度	⑦ 操作不要
④ OFF	⑧ 操作不要

⚠警告

ガラスの曇りを防止するために

- ③のスイッチを最低温に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

アドバイス

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- ②のスイッチが“ON”のときは、eco IDLEによるアイドリング ストップをしません。
- eco IDLEによるアイドリング ストップ中に②のスイッチを“ON”にすると、エンジンが再始動します。
（eco IDLE（エコ アイドル）→ 186 ページ）

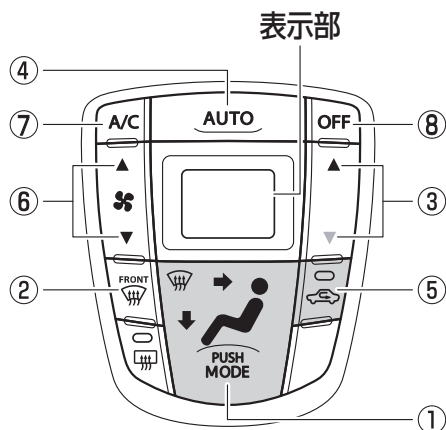
外気が汚れているときは

- 一時的に“内気循環”にしてください。

より早くガラスの曇りを取る場合

- ガラスの曇りを取る操作と併せて、下記の操作を行います。
  - ⑥のスイッチを操作して、風量を増す
  - ③のスイッチを操作して、設定温度を上げる

○換気するとき

導入された外気が中央および左右の吹き出し口から吹き出します。

①
② OFF
③ お好みの温度
④ OFF
⑤ 外気導入
⑥ お好みの風量
⑦ OFF
⑧ 操作不要

温度調節センサー

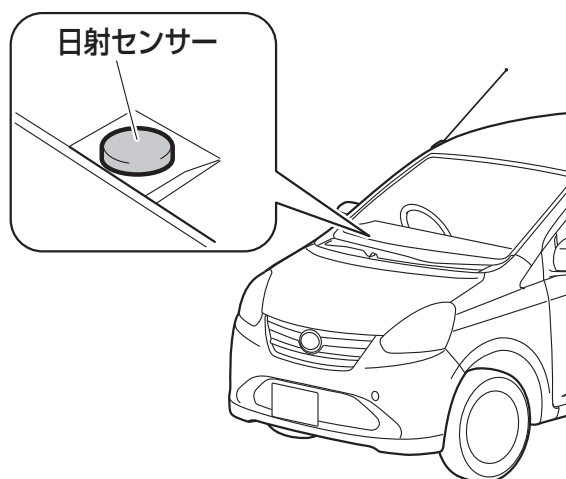
オート エアコンには、自動的に温度調節を行うために、日射センサーと内気センサーが取り付けられています。

アドバイス

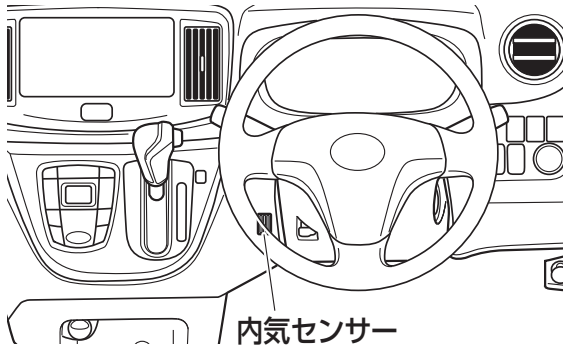
- 日射センサーの上に物を置いたり、内気センサーをシールなどでふさぐなどすると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

○日射センサー

日射量を検知します。

インストルメント パネル上部に取り付けられています。

○内気センサー

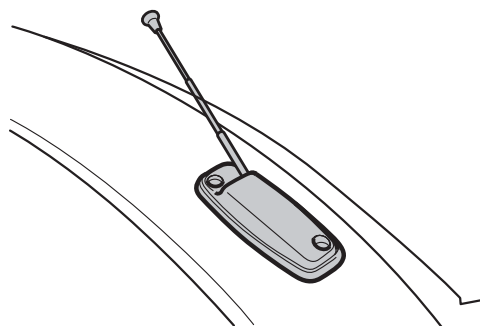
室内温度を検知します。

インストルメント パネル中央部（運転席側）に取り付けられています。

オーディオ

ピラー アンテナ

ラジオを受信するときは、アンテナをいっぱいまで伸ばしてください。

▼使用方法

使用するときは、アンテナの先を持っていっぱいに引き出します。収納するときは、アンテナの根元を持って少しずつ収納してください。

⚠警告

- 走行中に引き出し、収納などの操作をしないでください。運転のさまたげになるほか車外の物に当たったり、急ブレーキをかけたときけがをするおそれがあり危険です。

⚠注意

- 下記のようなときは、アンテナを収納してください。破損したり、変形したりする場合があります。
  - 自動洗車機使用時
  - ボデー カバーをかけるとき
  - 立体駐車場など屋根の低いガレージなどに入れるとき
  - 降雪時に長時間駐車するとき

オーディオの取り扱い

オプション/グレード別装

⚠警告

- 運転中は、車外の音が聞こえる程度の音量でお楽しみください。大きな音量を出すと車外の音が聞こえず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中にオーディオの操作をしないでください。運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

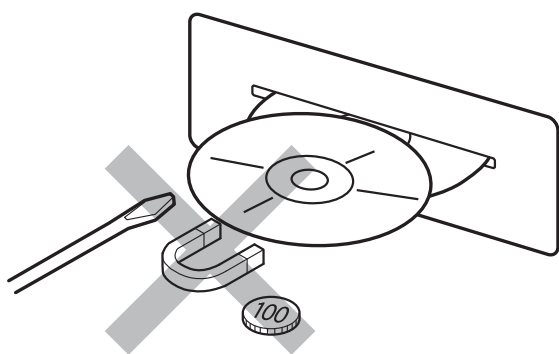
- エンジン停止時は、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーあがりを起こし、エンジンの始動ができなくなります。
- 水分や高温・多湿・ほこり・ゴミを嫌いますので、車内清掃や換気に十分注意してください。
- オーディオ本体のお手入れは、乾いた柔らかい布でふいてください。損傷の原因となるおそれがある固い布や、ベンジン・シンナー・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また、汚れがひどい場合には、柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し、軽くふき取ってください。
- 車内の温度に気を付けてください。極寒や酷暑のとき、特に夏期は車内の温度が大変高くなり、故障の原因となるおそれがありますので、車内の換気に注意し、適温で使用してください。

アドバイス

- オーディオを聞いているとき、室内または車の近くで携帯電話や無線機を使うと、ノイズ（雑音）が入ることがあります。
- ラジオの受信は、電波の強さが変化したり、電車・信号機などの障害物の影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

CDプレーヤーの取り扱い

⚠注意

- 挿入口に、指定されているCD以外の物や一度に 2 枚以上のCDを挿入したり、ドライバーなどの金属物や磁石などを近付けないでください。故障の原因となります。
  また、CDに磁石などを絶対に近付けないでください。

- CDを挿入して数秒すると、セットされずに戻ってくることがあります。この場合は、CDの異常が考えられますので、CDに異常がないかを確認してください。
- 取り出しボタンを押しても、CDが挿入されたまま取り出せないときは、プレーヤーの保護のため、機能が停止することがあります。この場合、トヨタ販売店にご相談ください。
- 車を降りるときは、必ずCDをオーディオ本体から取り出し、ケースに入れて、高温にならない場所に保管してください。

⚠注意

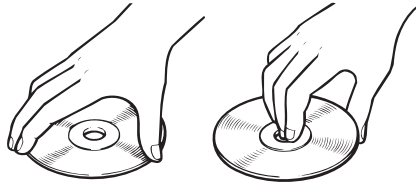
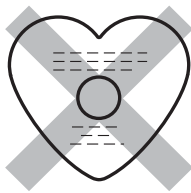
- CDを直射日光に長時間当てたり、挿入口に残した状態のまま長時間放置しないでください。また、高温・多湿な場所（インストルメント パネルの上やシートの上など）に長時間放置しないでください。CDがひずみ、使用できなくなるおそれがあります。
  従来のオーディオ レコードと同様にプラスチック製ですので、そりの原因となります。
  そり防止のため、必ずケースに入れ、直射日光の当たらない場所に保管してください。

アドバイス

- CDが挿入された状態でエンジンを始動すると、「カチッ」・「ウイーン」などという音が数回しますが、これは再生準備のための作動音で、故障ではありません。

CDの取り扱い

⚠注意

- CDを持つときは、信号面に触らないようにしてください。両端を挟むようにして持つか、中央の穴と端を挟んで持ってください。

- CDは内部で高速回転しますので、異常なCD（ハート型など異形のCD 、ヒビが入ったCDや大きくそったCD ）は使用しないでください。

- 記録部分に透明または半透明部分があるCDは、正常に出し入れや再生ができなくなるおそれがありますので、使用しないでください。
- ラベル面（印刷面）にも紙やシールなどを貼り付けたり、傷などを付けないようにしてください。
- CDに指紋やホコリが付いた場合でも、CDに記録された信号には直接影響しませんが、汚れにより、信号記録面からの反射光の明るさが低減して音質が低下したり、音飛びを起こすことがあります。

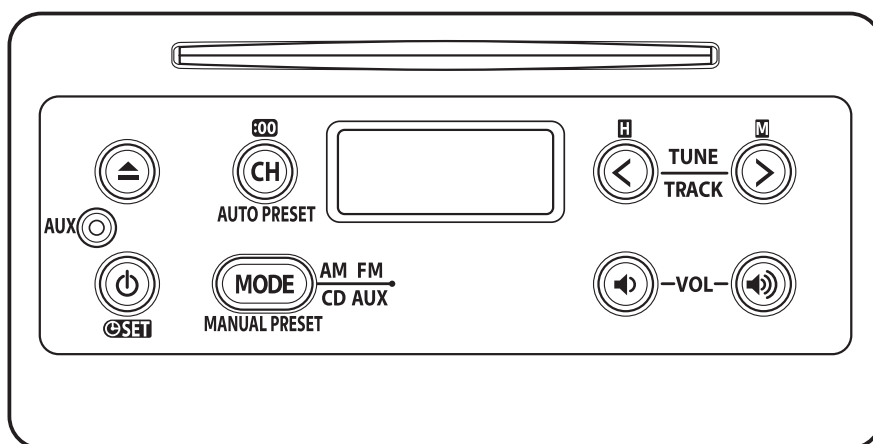
⚠注意

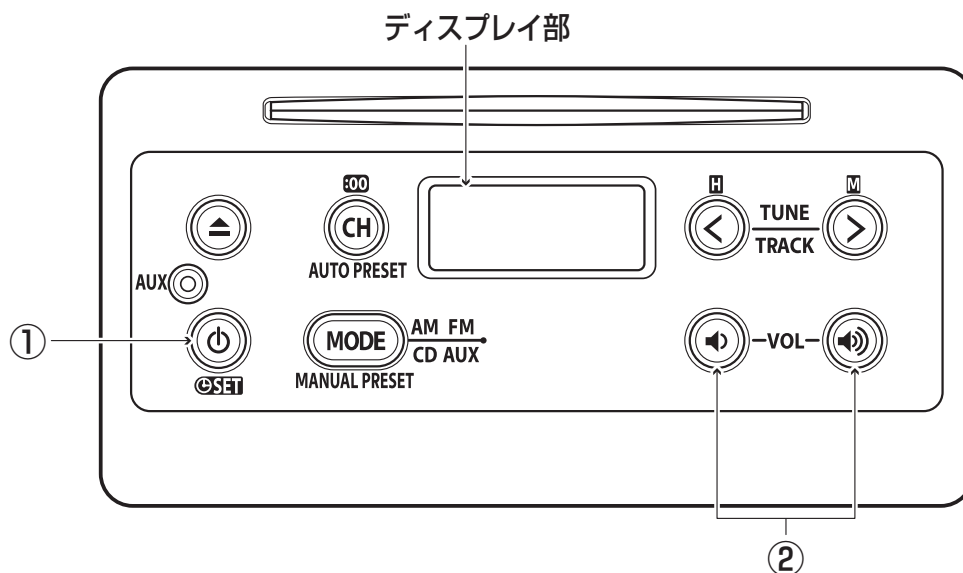
- CDが汚れたときは、柔らかい布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。
- レコード スプレー・帯電防止剤などは使用できません。またベンジン・シンナーなどの揮発性の薬品をかけると、表面が侵されることがありますので使用しないでください。

- 振動の激しい悪路を走行すると、音飛びを起こすことがあります。
- 真冬の車内は極度に冷えています。この状態で、ヒーターを入れてすぐに使用すると、CDや光学部品（プリズムやレンズなど）が曇って、正常に再生されないことがあります。
  CDが曇っているときは、柔らかい布でふいてください。
  光学部品が曇っているときは、１時間ほど放置しておけば自然に曇りが取れ、正常に再生されます。

オーディオ インデックス

インテグレートCD・AM/FM付ステレオ

(音量調整→ 225 ページ)
(ラジオの受信→ 226 ページ)
(CDの再生→ 230 ページ)
(AUX(外部入力接続)端子→ 236 ページ)

インテグレートCD・AM/FM付ステレオ

オプション/グレード別装備

① 電源ボタン
② 音量調整ボタン

音量調整

①電源ボタン

電源の“ON”・“OFF”ができます。

▼ 電源を入れるには

1. 車両の電源を“ON”または“ACC”にします。
   前回、車両の電源を“OFF”にしたときにオーディオの電源が入っていた場合は、自動的に電源が入ります。
2. ボタンを押します。
   ボタンを押すごとに、オーディオの電源が“ON”と“OFF”に切り替わります。

②音量調整ボタン

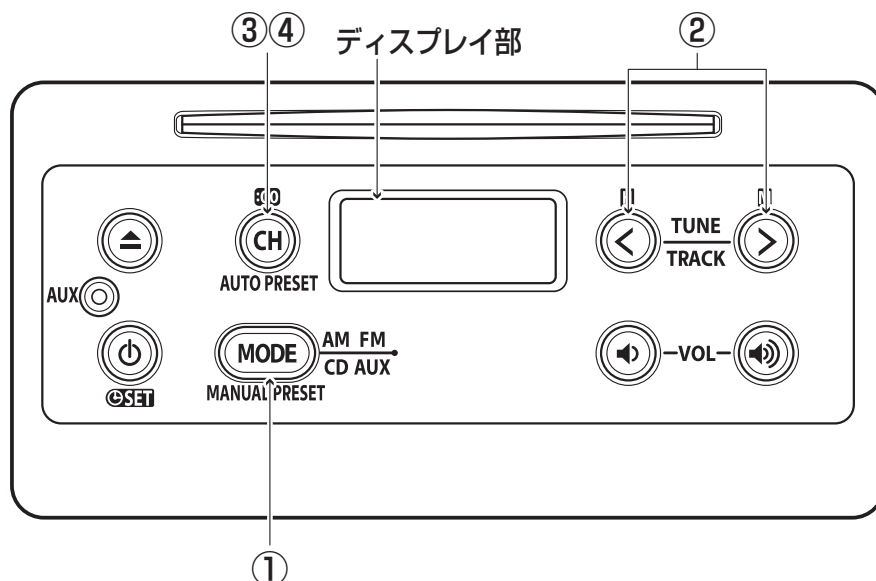
音量を調整することができます。

▼ 音量を調整するには

右側のボタンを押すと大きくなり、左側のボタンを押すと小さくなります。

アドバイス

- 音量調整は「0〜63」の範囲で調整できます。

ラジオの受信

① AM/FMボタン
② チューニング ボタン
③ プリセット ボタン
④ オート プリセット ボタン

○ラジオを受信するには

1. 車両の電源を“ON”または“ACC”にします。
   前回、車両の電源を“OFF”にしたときにラジオを受信していた場合は、自動的にラジオが受信されます。
2. AM / FMボタンを押して、AM・FM放送を選択します。

アドバイス

- CDが挿入された状態で、AUX（外部入力接続）端子にオーディオ ケーブルが接続されていると、AM / FMボタンを押すごとに「AM→FM→CD→AUX」の順に切り替わります。

3. チューニング ボタン、またはプリセット ボタンを押して、希望の周波数を選択します。

①AM/FMボタン

ラジオを受信することと、AM・FM放送の切り替えをすることができます。

▼ラジオを受信するには

- ボタンを押します。
- ラジオを聞いているときに、ボタンを押すと、AM / FMが切り替わります。
- ディスプレイ部に、選択したバンドが表示されます。

②チューニング ボタン
放送局の周波数を選択することができます。

▼手動で選択するには
ボタンを押して希望の周波数を選択します。

- 周波数を高い方に選択するには右側のボタン、低い方に選択するには左側のボタンを押します。
- ディスプレイ部に、受信周波数が表示されます。

▼自動で選択するには
ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

- 周波数を高い方に選択するには右側のボタン、低い方に選択するには左側のボタンを押します。
- 放送が受信されると、自動的に止まります。
- ディスプレイ部に、受信周波数が表示されます。

自動選択を止めるには、もう一度ボタンを押します。

アドバイス

- 受信感度が良く、ディスプレイ部に表示されている周波数に一番近い周波数が自動で選択されます。
- 山岳部や弱電界地域で自動選択を行った場合、受信できる周波数があっても、自動的に止まらないことがあります。この場合、手動選択を行ってください。

③プリセット ボタン
放送局の周波数をあらかじめ記憶させておくことにより、プリセット ボタンでその周波数を選択することができます。

アドバイス

- 自宅付近などで日頃よくお聞きになる放送局の周波数を記憶させておくと便利です。
- AM・FM各 6 局まで周波数を記憶させることができます。
- プリセット ボタンを押すたびに「CH1 → CH2 → CH3 → CH4 → CH5 → CH6 → CH1」とチャンネルが変わり、ディスプレイ部に表示されます。

▼ 周波数を記憶させるには

1. 記憶させる周波数を選択します。
2. AM/FMボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

3. ディスプレイ部の「CH」が点滅します。
4. 「CH」が点滅している間にプリセット ボタンで記憶させたいチャンネルを選択します。
5. もう一度AM/FMボタンを押して記憶させます。

▼ 記憶させた周波数を呼び出すには

プリセット ボタンを押すたびに、記憶されている周波数が選択されます。

④オート プリセット ボタン

自動で受信可能な周波数を、プリセットボタンに記憶させることができます。

旅先などで放送局の周波数がわからないときなどに便利です。

▼ 自動で周波数を記憶させるには

- ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。
- 記憶操作が終了すると、「ピッピ」と音がして、記憶した中で一番低い周波数が受信されます。

▼ 記憶させた周波数を呼び出すには

プリセット ボタンを押すたびに、記憶されている周波数が選択されます。

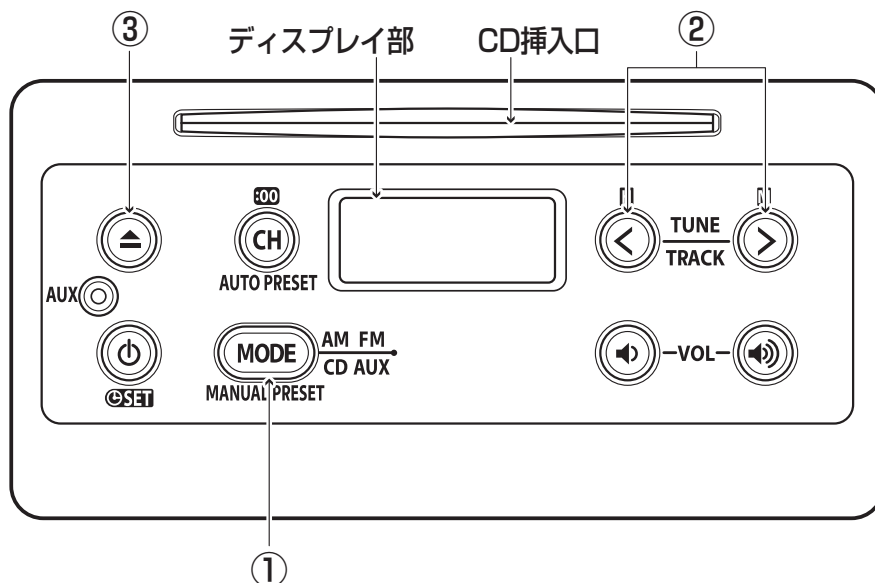
アドバイス

- オート プリセットをするごとに、現在受信状態の良い周波数が低い順に 6 局まで、プリセット ボタンに記憶されます。
  なお、オート プリセットをする前に記憶させていた周波数は消去されます。
- 受信周波数が 6 局未満のときは、受信することができた周波数だけが記憶されます。
  その場合、記憶されなかったチャンネルを選択すると、ディスプレイ部に「ーーーー」が表示されます。
- 地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で記憶されないことがあります。
  その場合、オート プリセットをする前に記憶させていた放送局がプリセット ボタンに記憶されたままになります。
- 同じ放送局からの受信でも、プリセット ボタンで選択し、記憶させた周波数とオート プリセットで記憶させた周波数は一致しないことがあります。
- オート プリセットによる記憶操作を同じ場所で繰り返しても、受信状態によっては、操作ごとに記憶される周波数が異なることがあります。

○プリセット ボタンに記憶させた周波数

アドバイス

- バッテリーやヒューズ交換などで、オーディオへの電力供給が断たれたときは、記憶させた周波数は消去され、初期設定の状態に戻ることがあります。
  この場合は、再度記憶させてください。

CDの再生

① CD/AUXボタン
② トラック ボタン
③ CD取り出しボタン

CDプレーヤーの使いかたについては、「オーディオの取り扱い」のページも併せてお読みください。

（オーディオの取り扱い→ 221 ページ）

⚠注意

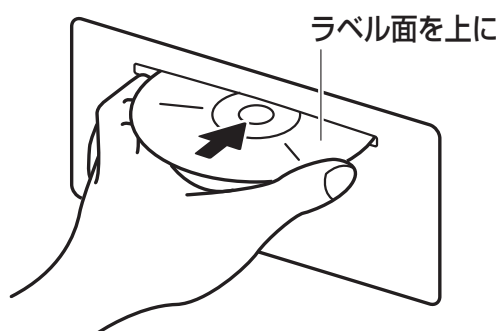
- Dual Discには対応していません。Dual Discを使用すると、機器の故障の原因になるおそれがあります。

アドバイス

- 下記のマークが付いているディスクを使用してください。

  - CD TEXTは表示されませんが、再生は可能です。
- 音楽用CD-R（CD-Recordable）・CD-RW（CD-ReWritable）に記録された音楽用データを再生できます。
  ただし、特性・傷・汚れなどにより再生できない場合があります。
- ディスクの状態（録音環境・データ内容）により再生できない場合があります。
- MP3・WMA・AAC方式で記録されたディスクには対応していません。
- CD-ROM・コピー プロテクト機能付ディスクには対応していません。
- 8cmCDには対応していません。

○CDを再生するには

1. 車両の電源を“ON”または“ACC”にします。
   前回、車両の電源を“OFF”にしたときにCDを再生していた場合は、自動的にCDが再生されます。
2. CDを挿入します。
   CDはラベル面を上にして挿入します。
   CDが挿入されているときは、CD/AUXボタンを押すと再生されます。

①CD/AUXボタン

CDを再生することができます。

▼ CDを再生するには

CDが挿入された状態で、ボタンを押します。

アドバイス

- CDが挿入された状態で、AUX（外部入力接続）端子にオーディオ ケーブルが接続されていると、CD/AUXボタンを押すごとに「AM→FM→CD→AUX」の順に切り替わります。

②トラック ボタン

曲の早送り・早戻しと、希望の曲の頭出しをすることができます。

▼ 早送り・早戻しをするには

ボタンを押し続けます。

- 早送りをするにはボタンの右側、早戻しをするにはボタンの左側を押します。
- ボタンを押している間、早送り（または早戻し）され、希望の位置で手を離すと、その位置から再生されます。

▼ 頭出しをするには

ボタンを曲数分だけ押して、希望の曲を選択します。

- 曲を進めるにはボタンの右側、曲を戻すにはボタンの左側を押します。

曲の再生中に

- ボタンの右側を押すと、次の曲が再生されます。
- ボタンの左側を押すと、その曲の始めに戻ります。このとき、もう一度ボタンを押すと、前の曲が再生されます。

③CD取り出しボタン
CDを取り出すことができます。

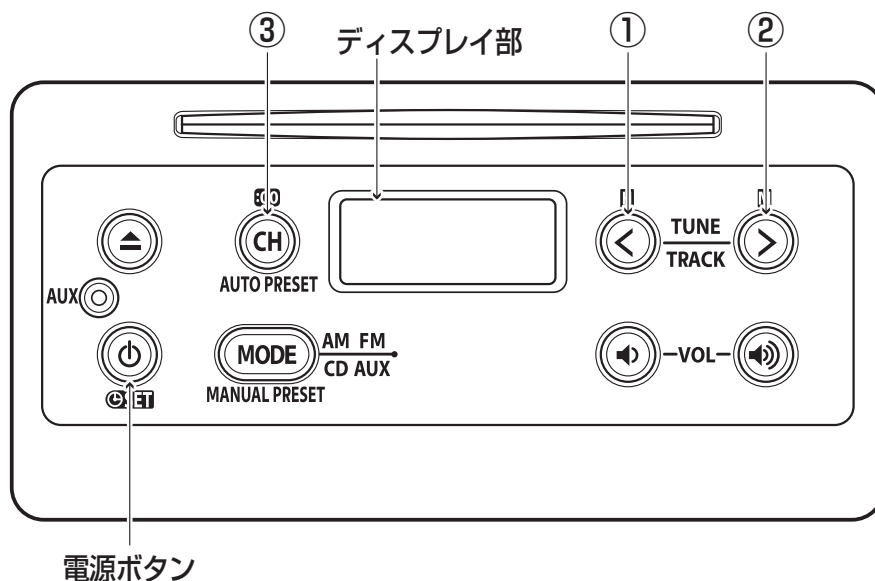
▼ CDを取り出すには
ボタンを押します。
- CDが取り出されると、CDが再生される前の状態に戻ります。

アドバイス
- 車両の電源を“OFF”にすると、CDを取り出すことができなくなるため、“OFF”にする前に取り出しボタンを押して、取り出してください。

○エラー メッセージ
ディスプレイ部にエラー メッセージが出た場合、下表にしたがって処置をしてください。

メッセージ	内容と処置
Err 1	CDが汚れているときや裏返しになっているとき、また対応していないCDが挿入されたときに表示されます。CDを確認してください。
Err 3	何らかの原因でCDプレーヤーが作動しないときに表示されます。挿入されているCDを取り出してください。
Err 4	CDプレーヤーに過剰な電流が流れて作動しないときに表示されます。挿入されているCDを取り出してください。
WAIT	CDプレーヤーの温度が高くなり、作動しないときに表示されます。温度が下がるまで、しばらくそのままお待ちください。

アドバイス
- 処置をしても、エラー メッセージが表示されたままの場合や機能が停止したままの場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

時刻の調整

① “時”調整ボタン
② “分”調整ボタン
③ 時刻合わせボタン

- オーディオの電源の“ON”・“OFF”に関わらず、車両の電源を“ON”または“ACC” にすると、ディスプレイ部に時刻が表示されます。

○時刻の調整

電源ボタンを押し続けて時計調整モードにしてから、各ボタンで調整します。
調整後、もう一度電源ボタンを押すと、時計の調整が完了します。

アドバイス

- バッテリーやヒューズ交換などで、オーディオへの電力供給が断たれたときは、初期設定の状態から時計の作動が開始されることがあります。この場合は、再度調整してください。

① “時”調整ボタン

時計の“時”表示を調整することができます。

▼ “時”表示を調整するには

1. 電源ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。
- 時計調整モードになります。
2. “時”調整ボタンを押します。
- ボタンを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
- ボタンを押し続けると、連続して数字が大きくなります。

② “分”調整ボタン

時計の“分”表示を調整することができます。

▼ “分”表示を調整するには

1. 電源ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

- 時計調整モードになります。

2. “分”調整ボタンを押します。

- ボタンを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
- ボタンを押し続けると、連続して数字が大きくなります。

③時刻合わせボタン

時報などに合わせて、“分”表示を「:00」にすることができます。

▼ “分”表示を「:00」にするには

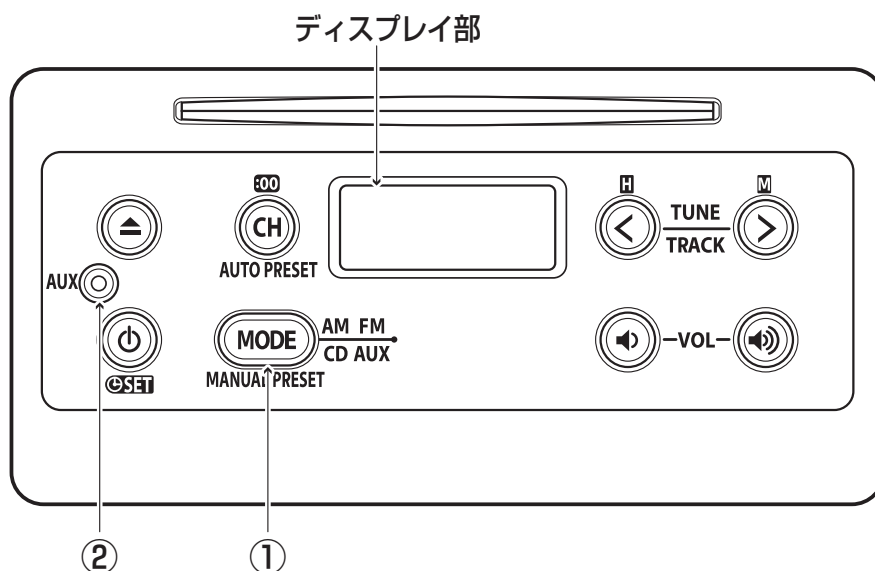
1. 電源ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

- 時計調整モードになります。

2. 時刻合わせボタンを押します。

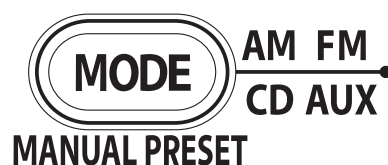
- “分”表示が「30」未満の数字のときは、“時”表示の数字が変わりません。
  例えば、10:20 は 10:00 になります。
- “分”表示が「30」以上の数字のときは、“時”表示の数字が切り上げられます。
  例えば、10:45 は 11:00 になります。

AUX（外部入力接続）端子

ポータブル オーディオなど市販の機器を接続して、その音声を車両のスピーカーで聞くことができます。

① CD/AUXボタン
② AUX端子

▼外部入力モードに切り替えるには

1. ポータブル オーディオをAUX（外部入力接続）端子に接続します。
   市販のオーディオ ケーブル（抵抗なし）を使用して、ポータブル オーディオを接続します。

2. CD/AUXボタンを押すと、ディスプレイ部に“AUX”と表示され、外部入力モードに切り替わります。

アドバイス

- AUX（外部入力接続）端子にオーディオ ケーブルが接続されていないと、外部入力モードに切り替わりません。
- CDが挿入された状態で、AUX（外部入力接続）端子にオーディオ ケーブルが接続されていると、CD/AUXボタンを押すごとに「AM→FM→CD→AUX」の順に切り替わります。

アドバイス

AUX（外部入力接続）端子について

- ステレオ ミニプラグ（3.5φ）が接続できます。オーディオ ケーブル（抵抗なし）、接続する機器の取扱説明書をよくお読みください。
- 接続する機器の電源は、機器の付属のバッテリーなどを使用してください。車に装着されているアクセサリー ソケットで充電しながら使用すると、雑音が出ることがあります。
- より良い音質で聞くには、接続する機器の音量を最大にして、オーディオ本体で音量を調整してください。
- 外部入力モード中に入力端子のプラグを抜いたり、接続する機器側のプラグを抜き差しすると、雑音が出ることがあります。

室内装備品

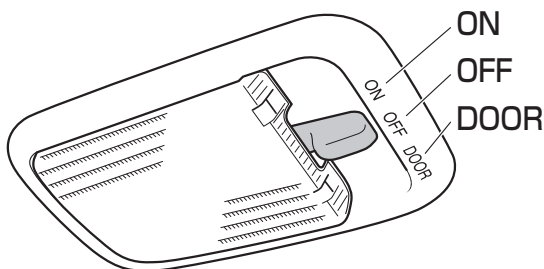
室内照明

ルーム ランプ

スイッチの位置によって、点灯、消灯の切り替えができます。

▼スイッチが“ON”のとき
ドアの開閉に関係なく点灯します。

▼スイッチが“OFF”のとき
ドアの開閉に関係なく消灯します。

▼スイッチが“DOOR”のとき
ドア連動機能により、点灯・消灯します。
（ドア連動機能→ 238 ページ）

ドア連動機能

室内照明とメーター内のエコ ドライブ アシスト照明（エコ ドライブ アシスト ディスプレイなし車）は、ドア操作、電源の操作に連動して、点灯・消灯します。

- 室内照明は、スイッチが“DOOR”のときに連動します。

（メーター→ 130 ページ）

アドバイス

- 室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

○タイマー機能

- すべてのドアが閉まっているとき、電源の操作により照明が点灯・消灯します。

電源	室内照明／ エコ ドライブ アシスト照明
ON	消灯
↓	↓
ACC または OFF	約15秒間点灯後に消灯
↓	↓
ON	消灯

- 電源が“OFF”または“ACC”のとき、下記の操作に連動して照明が点灯・消灯します。

▼ 運転席ドアの施錠・解錠

運転席 ドアロック	室内照明／ エコ ドライブ アシスト照明
施錠	消灯
↓	↓
解錠	約15秒間点灯後に消灯
↓	↓
施錠	消灯

▼ ドアの開閉

ドア	室内照明／ エコ ドライブ アシスト照明
全閉	消灯
↓	↓
いずれか開	点灯
↓	↓
全閉	約15秒後に消灯

○バッテリーあがり防止機能

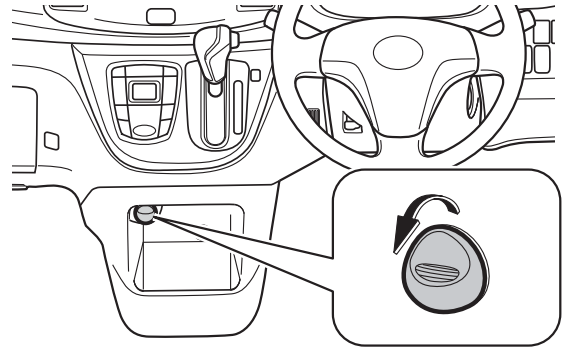
バッテリーあがり防止のため、自動的に室内照明とエコ ドライブ アシスト照明（エコ ドライブ アシスト ディスプレイなし車）を消灯する機能です。

- 電源が“OFF”または“ACC”で、ドアを開けたまま約 10 分が経過すると、自動的に消灯します。
- 再度、点灯させるには、すべてのドアを閉めるか、電源を“ON”にしてください。

アクセサリー ソケット

電化製品の電源用ソケットとして利用することができます。

▼ 使用方法

カバーを外し、電化製品の電源プラグを差し込んで使用します。

⚠注意

- 電気容量は、DC12Vで最大電流 10A（最大消費電力 120W）です。この容量以上の電化製品を使用しないでください。最大電気容量を超える電化製品を使用すると、ヒューズが切れるおそれがあります。
- エンジンを停止した状態で使用しないでください。バッテリーあがりのおそれがあります。また、エンジンがかかっていても、アイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。
- アクセサリー ソケットを使用しないときは、カバーを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。

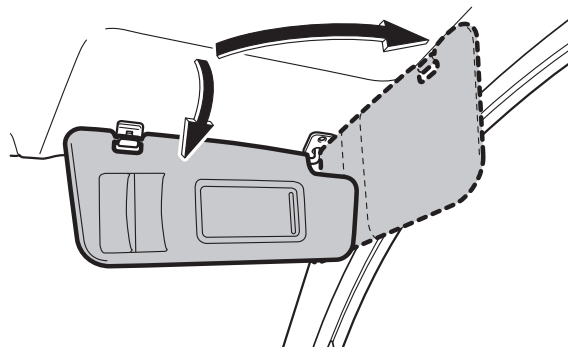
アドバイス

- アイドリング ストップからエンジンが再始動すると、アクセサリー ソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。
(eco IDLE（エコ アイドル）→ 186 ページ)
- 故障を防ぐため、電化製品はトヨタ純正用品をおすすめします。

サン バイザー

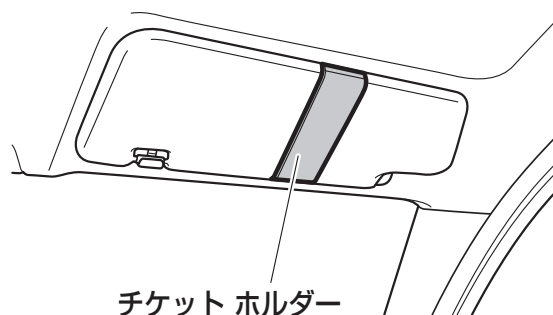
直射日光などでまぶしいときに使用します。側面に移動させて使用することもできます。

▼使用するときは

図中の矢印の方向に動かします。

⚠警告

- サン バイザーと天井の間に物を挟まないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり危険です。

チケット ホルダー

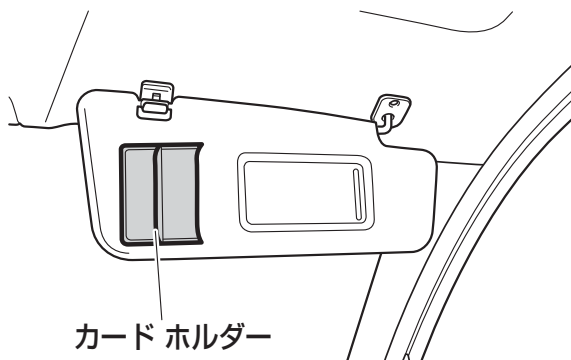
チケット類を収納することができます。

⚠警告

- チケット ホルダーにチケット類以外の物を入れないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり、危険です。

カード ホルダー

カード類を収納することができます。

⚠警告

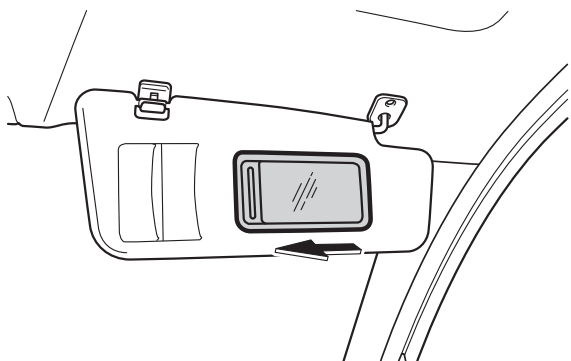
- カード ホルダーにカード類以外の物を入れないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり、危険です。

バニティー ミラー

鏡として使用できます。

⚠警告

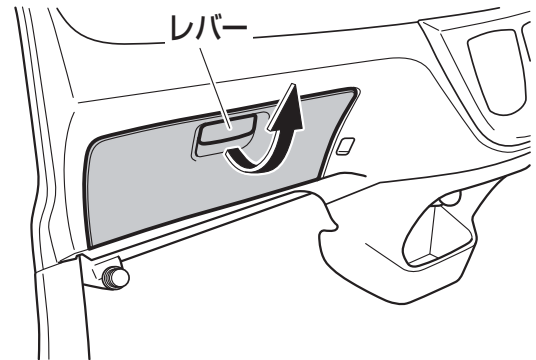
- 走行中は使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

▼使用方法

カバーを矢印の方向にスライドさせます。

グローブ ボックス

物入れとして利用できます。

▼開閉方法

- レバーを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。

⚠警告

- 走行中はグローブ ボックスを必ず閉めておいてください。急ブレーキをかけたときなどに、開いたカバーに体が当たるなどして重大な傷害を受けたり、収納している物が飛び出して、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップ ホルダー（前席）

ペット ボトルや缶ジュース、カップなどを置くときに便利です。

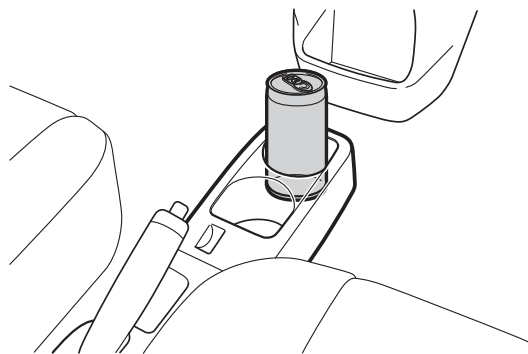
⚠警告

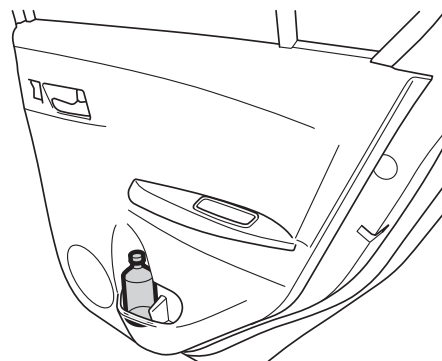
- 飲み物には、フタをするなどしてこぼさないように注意してください。振動で中身がこぼれるおそれがあります。
  特に温かい飲み物には、やけどを防ぐために必ずフタをしてください。
- カップ ホルダーには、ペット ボトルやカップ、飲料缶以外の物を置かないでください。急ブレーキをかけたときや、衝突したときなどに置いていた物が飛び出し、けがをするおそれがあります。

⚠注意

- 飲み物がこぼれたときはただちにふき取ってください。スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。

▼使用方法

そのままペット ボトルや缶ジュース、カップを置いて使用します。

ボトル ホルダー

ペット ボトルなどを置くときに便利です。
リヤ ドアにあります。

⚠注意

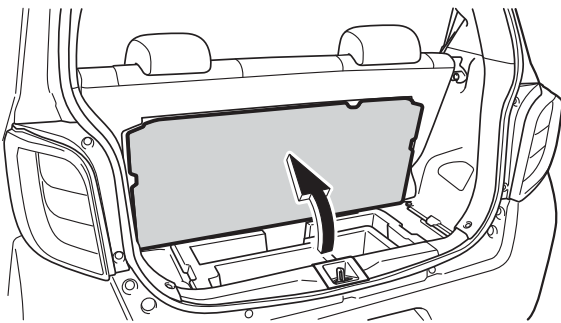
- 飲み物が入った栓をすることができない容器（缶やカップなど）を置かないでください。また、飲み物が入ったまま栓をしていないペット ボトルを置かないでください。
  ブレーキ時に、飲み物がこぼれるおそれがあります。

ラゲージ アンダー ボックス

収納スペースとして利用できます。
また、ジャッキ、工具などの格納場所になっています。

（格納場所→ 248 ページ）

▼使用方法

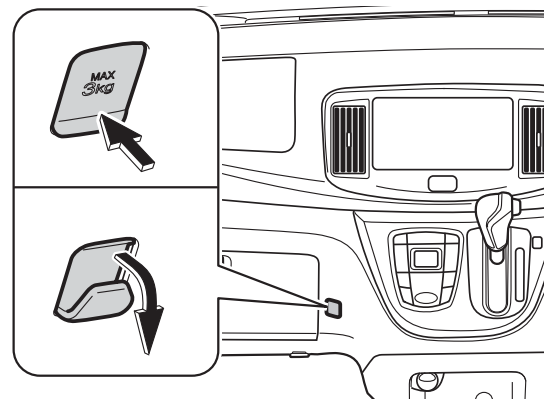
リヤ フロア ボードを持ち上げて使用します。

買い物フック

軽量の荷物や、袋をかけておくのに便利です。
インストルメント パネル中央（助手席側）にあります。

⚠注意

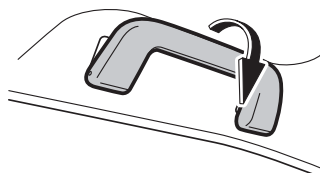
- **特に重たい物や、大きな物を買い物フックにかけないでください。**
  （最大荷重量約 3kg）
  フックが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

▼使用方法

- フックの下部を押さえ、反転させて使用します。
- 元に戻すときは、そのまま反転させフックを格納してください。

格納式アシスト グリップ

引き起こして使用できます。

▼使用方法

- 矢印の方向に引き起こします。
- 使用後は、自動的に元に戻ります。

⚠注意

- 特に重たい物や、大きな物を格納式アシスト グリップにかけないでください。格納式アシスト グリップが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

いざというときに

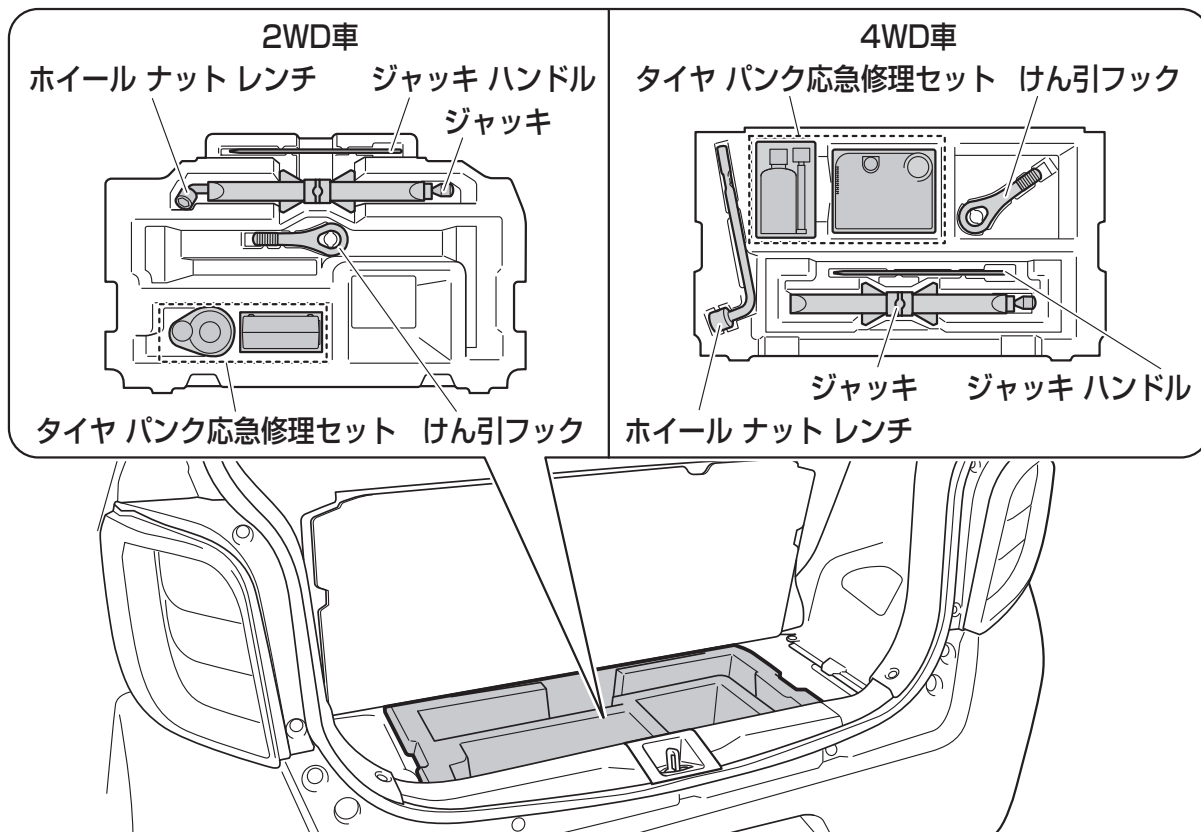
車載工具の使いかたや、車を運転するうえで
いざというときの処置の方法について
説明しています。

■ 工具類

■ いざというときの処置

工具類

格納場所

ラゲージ アンダー ボックスに収納しています。

⚠警告

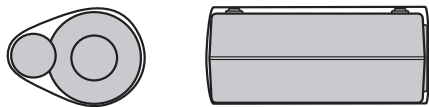
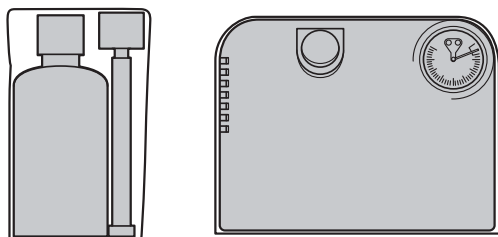
- ジャッキ、工具、タイヤ パンク応急修理セットは所定の位置にしっかり固定してください。室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具が体に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

○タイヤ パンク修理セット

使用するときは、袋から出してください。

⚠注意

- 収納するときは、上から見て下図になるように収納してください。誤った方向で収納すると、ラゲージ アンダーボックスに正しく収納することができず、飛び出すおそれがあります。

2WD車

4WD車

ジャッキの使いかた

⚠警告

- ジャッキ アップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- ジャッキ アップするときはジャッキの上や下に物を挟まないでください。
- ジャッキ アップするときは、必ず、駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをPレンジに入れて、輪止めをしてください。車が動き出すおそれがあり危険です。
- ジャッキは砂や石ころのない安定した平らなかたい場所を選んでセットしてください。ジャッキ アップしたとき、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車に備え付けのジャッキは、タイヤの交換およびタイヤ チェーンの脱着以外には使用しないでください。
- ジャッキ アップするときは、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをしてください。
- ジャッキは、セット位置以外にかけないでください。外れたり、車を損傷するおそれがあります。
- ジャッキ アップするときは、人や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキは、伸ばすほど不安定になります。タイヤが地面から 3cm以上離れないようにしてください。
- ジャッキ アップしているときは、エンジンをかけないでください。

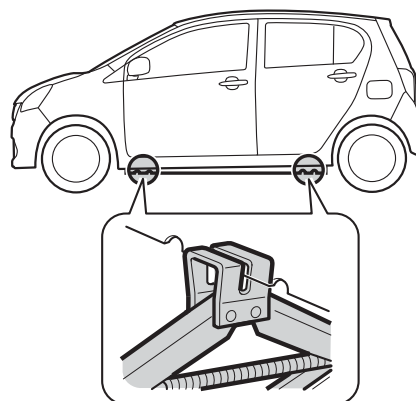
⚠警告

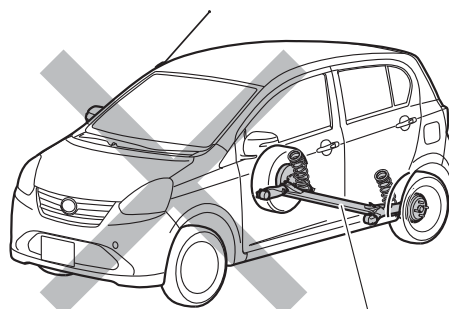
- タイヤのローテーション時などに、車載のジャッキを用いて、両車輪同時に上げるようなことはしないでください。接地しているタイヤが動き、車体がずれるおそれがあります。
- 車に備え付けのジャッキは、お客様のお車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。車を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキをセットする位置

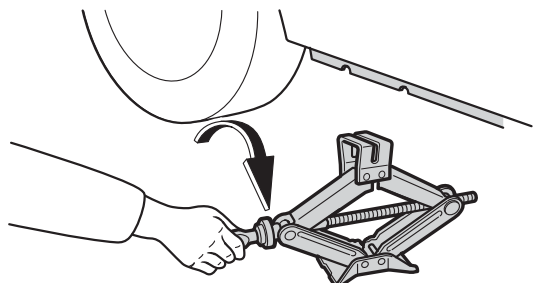
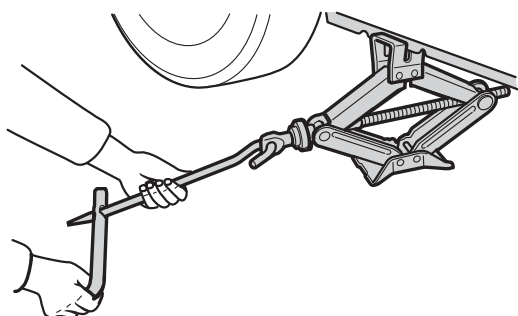
ジャッキは必ずジャッキ セット位置にセットしてください。

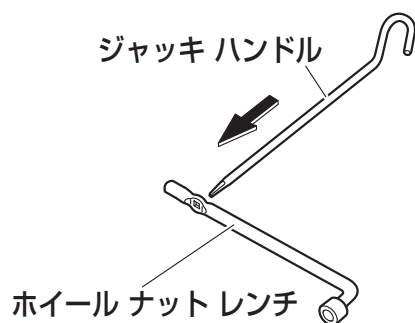
▼セットする位置

取り替えるタイヤに近いジャッキ セット位置にセットします。

⚠警告

- 2WD車はリヤ サスペンション ビームにジャッキをかけないでください。正しくジャッキ セット位置にセットしないと、車が損傷したり、けがをするおそれがあります。

ジャッキのかけかた

▼ 操作手順

1. ジャッキを手で回して、セット位置まで上げます。

2. ジャッキが確実にセット位置にかかっていることを確認し、ジャッキ ハンドルを使って、タイヤが地面から少し離れる位置まで車を持ち上げます。

アドバイス

- ジャッキ ハンドルは図のように組み立てて使用してください。

ガレージ ジャッキ（市販品）を使用する場合

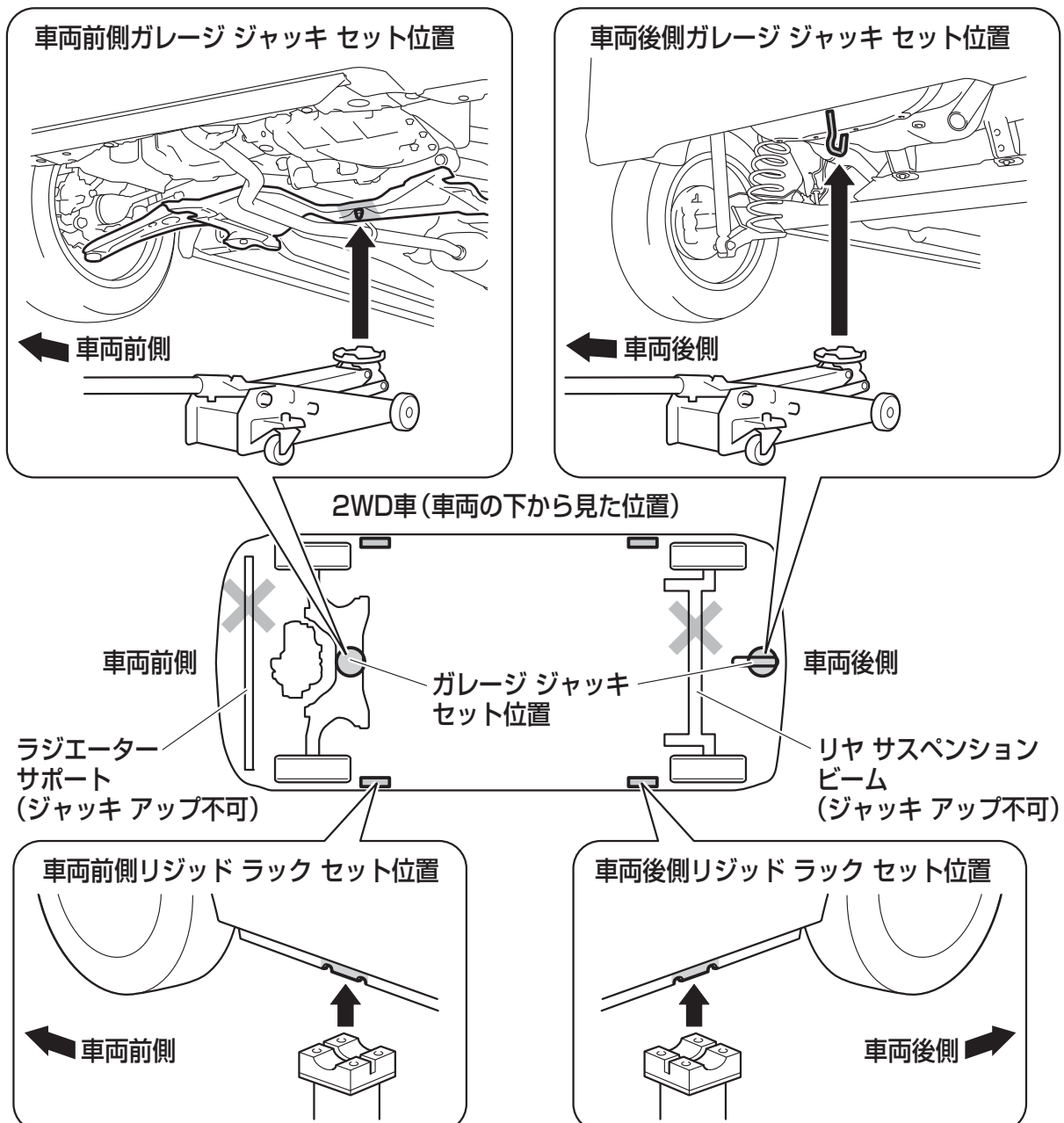
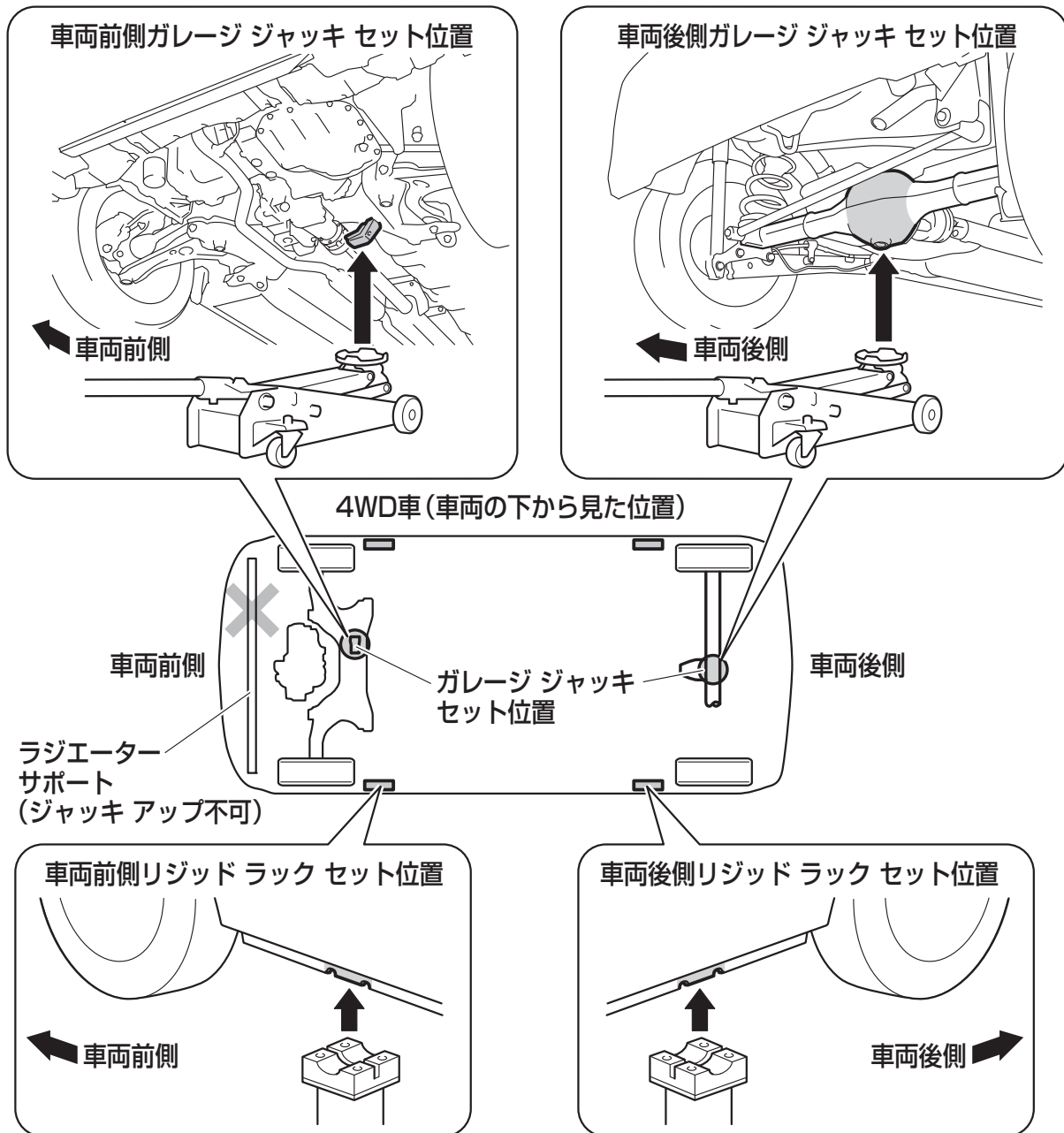
ガレージ ジャッキを使用する場合は、図のガレージ ジャッキ位置にセットしてジャッキ アップを行ってください。その際は、必ずリジッド ラック（市販品）をリジッド ラック セット位置にセットしてください。

⚠警告

- ガレージ ジャッキ、およびリジッド ラックは、必ず正しい位置にセットしてください。正しい位置にセットしてないと、車が損傷したり、けがをするおそれがあります。

2WD車

4WD車

車両前側ガレージ ジャッキ セット位置
車両前側
車両後側ガレージ ジャッキ セット位置
車両後側
4WD車（車両の下から見た位置）
車両前側
車両後側
ガレージ ジャッキ
セット位置
ラジエーター
サポート
（ジャッキ アップ不可）
車両前側リジッド ラック セット位置
車両前側
車両後側リジッド ラック セット位置
車両後側

いざというときの処置

エンジンがかからないとき

燃料カット システム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが止まってしまった場合、燃料カット システムが作動している可能性があります。燃料カット システムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

▼ エンジンを再始動するには

エンジンを再始動する際には電源を“OFF”または“ACC”に戻してから行ってください。

⚠警告

- 燃料漏れのおそれがあるとき、また、燃料のにおいがするときは、エンジンを再始動せずに、お近くのトヨタ販売店にご連絡ください。

スタック（立ち往生）したとき

スタックから脱出するには

ぬかるみや砂地、深雪路などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、下記の手順にしたがって脱出操作をしてください。

▼ 脱出操作をする前に

⚠警告

- 必ず周囲に他の車、物、または人がいないことを十分に確認してください。スタックから脱出する際に、車が前後に飛び出したり、あてがった石や木が飛散したりするおそれがあり危険です。
- シフト レバーを操作するときは、アクセル ペダルを踏んだまま操作しないでください。車が急発進したり、トランスミッションなどに重大な損傷をあたえるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

- アクセル ペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 数回試して脱出できないときは、脱出操作を中止し、けん引による救援を依頼してください。

（けん引されるとき→ 257 ページ）

アドバイス

VSC&TRC装着車

- TRCの作動で脱出しにくいときは、TRCを停止してください。

（VSC&TRC OFFスイッチ→ 160 ページ）

▼脱出手順

1. 駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをⓅレンジに入れ、エンジンを停止します。
2. タイヤ前後の土や雪などを取り除きます。
3. スリップしているタイヤの下に、石や木などをあてがい滑り止めにします。
4. エンジンを始動します。
5. シフト レバーをⒹレンジ、またはⓇレンジに確実に入れ、注意しながら、アクセル ペダルを軽く踏みます。

故障したとき

エンスト

安全な場所まで移動してください。
付近に人がいる場合は押してもらってください。

⚠注意

- 車を押す場合、シフト レバーはⓃレンジに入れてください。

アドバイス

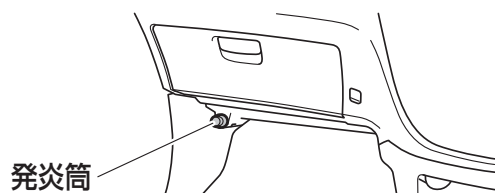
- 緊急を要する場合は発炎筒で合図してください。

○踏切内の場合
踏切内で動かなくなったり、脱輪などですぐ動かせない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。

発炎筒

発炎筒は高速道路や踏切内での故障など、非常事態が発生したときに使用する非常信号用具です。

▼設置場所

グローブ ボックス左下に設置されています。

⚠警告

- 非常用信号としてのみお使いください。
- お子さまに絶対触らせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 発炎筒を使うとき、顔や体に向けるとやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ガソリンなどの可燃物のそばで使用しないでください。引火してやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

- トンネル内では使用しないでください。煙で視界を悪くするので、トンネル内では非常点滅灯や懐中電灯で合図してください。

アドバイス

- 使用方法は、発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでください。
- 発炎筒を使うときは、非常点滅灯も点滅させてください。
- 発炎筒には有効期限がありますので、事前に確認しておいてください。

けん引されるとき

故障車の移動は、トヨタ販売店、またはJAFなどに依頼し、車両積載車で 4 輪とも持ち上げて運搬してください。
（別冊の「メンテナンス ノート」巻末のトヨタ サービス網、JAFロード サービスを参考にしてください。）

⚠警告

- 後輪だけを持ち上げたけん引は、車両が不安定になるので、行わないでください。
- 4 WD車の場合、前輪、または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。
  前輪、または後輪だけを持ち上げて運搬すると、駆動装置が損傷したり、車がレッカー車（台車）から飛び出すおそれがあります。

やむを得ず、ロープによるけん引をするときは、下記の警告、注意にしたがってください。

⚠注意

- 他車をけん引する能力はありません。車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。
- 下記の場合は、駆動系の故障が考えられるため、ロープによるけん引はせずにトヨタ販売店にご連絡ください。
  - エンジンはかかるが車が動かない
  - 異常な音がする

▼けん引を行う前に

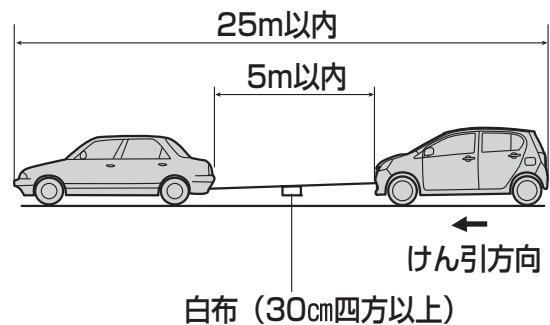
⚠警告

- けん引される車は、下記の事項を守って慎重に運転してください。通常と同じ感覚で運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  - できるだけ人や荷物をおろし、車体を軽くしてください。
  - 電源はハンドル ロックを解除させるために“ACC”にし、シフト レバーはⓃレンジにしてください。
  - エンジンが停止していると、いつもよりハンドル操作が重くなりますので、できるだけエンジンを始動してください。
    また、ブレーキの効きが悪くなりますので、通常より強めにブレーキ ペダルを踏んでください。

⚠注意

- ロープによるけん引をするときの速度は 30km/h以下、けん引距離は 50km以内にしてください。この速度・距離を超えると、トランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- プッシュ ボタン スタート スイッチが故障したときは、ハンドル ロックが解除できないため、ロープによるけん引はできません。
- 長い下り坂では、ブレーキが過熱して、効かなくなるおそれがありますので、レッカー車でけん引してください。

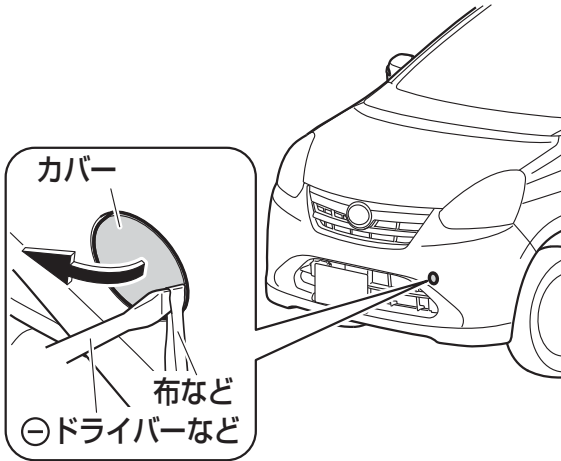
けん引の方法

前の車の制動灯に注意して、常にけん引ロープをたるませないように気を付けてください。
また、けん引ロープには必ず白い布（30㎝四方以上）を付けてください。

ロープをかける位置

ロープは必ず車体先端のフックにかけてください。

▼ けん引フックの取り付けかた

1. 傷付き防止のため、先端に布などを巻いた、カバーとバンパーのすき間に入る程度の薄刃の⊖ドライバーなどを用意します。

2. 用意した⊖ドライバーなどを図の位置の切りかきから差し込み、カバーを外します。

3. けん引フックを矢印の方向に回しながら差し込み、ホイール ナット レンチでしっかりと固定します。

アドバイス

- けん引が終わったら、けん引フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。

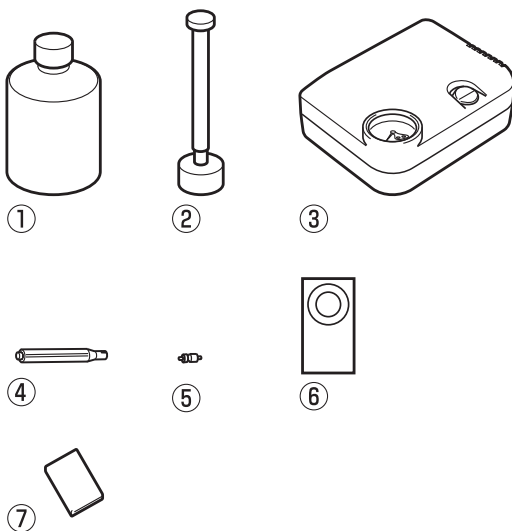
パンクしたとき

高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときは、ハンドルをしっかり持って、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

タイヤ パンク応急修理セット

タイヤ パンク応急修理セットは、タイヤがパンクしたとき、パンク穴をふさぐタイヤ パンク応急修理剤と空気を注入するタイヤ空気充填用コンプレッサーを用いて応急修理を行う際に使用します。

- タイヤ パンク応急修理セット装着車には、応急用スペア タイヤは装着されていません。
- タイヤ パンク応急修理セットは、応急時のタイヤ修理用です。応急修理後は、ただちにタイヤの交換、またはトヨタ販売店で、点検、修理を受けてください。

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤ パンク応急修理セットで応急修理を行うことができます。

①タイヤ パンク応急修理剤
②注入ホース
③タイヤ空気充填用コンプレッサー
④バルブ コア回し
⑤予備バルブ コア（ムシ）
⑥速度制限シール
⑦取扱説明書

⚠警告

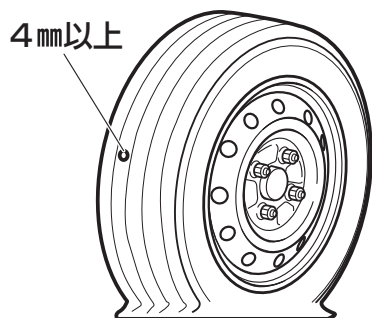
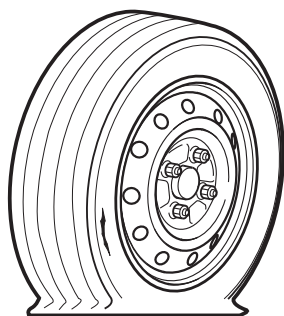
- タイヤ パンク応急修理剤は、飲用すると体に害があります。もし誤って飲用された場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- タイヤ パンク応急修理剤が、目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、ただちに水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
- タイヤ パンク応急修理セットは、指定の場所に格納してください。また、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。

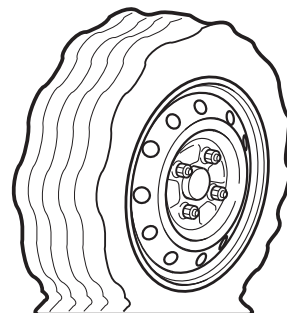
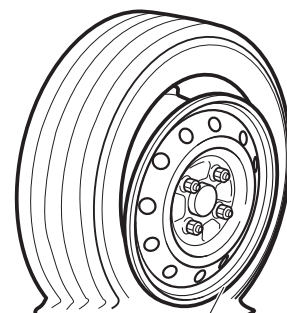
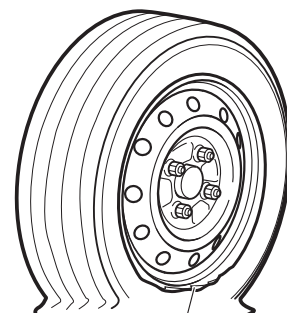
（格納場所→ 248 ページ）

⚠注意

- タイヤ パンク応急修理剤は衣服などに付着すると、取れなくなるおそれがありますので注意してください。
- タイヤ空気充填用コンプレッサーを使用する際、故障の原因となりますので下記のことをお守りください。
  - 10 分以上連続して使用しないでください。
  - 降雨時など、水がかからないようにしてください。
  - 砂ぼこりなどを吸い込ませないようにしてください。
  - 使用中に、動作が鈍くなったり、本体が熱くなったときはただちにスイッチを“OFF”にし、30 分以上放置してください。
  - 分解、改造などは絶対にしないでください。
  - 強い衝撃や圧力を加えないでください。

アドバイス

- タイヤの空気充填用コンプレッサーは、タイヤ空気充填専用です。そのほかの目的で使用しないでください。
- タイヤの空気充填用コンプレッサーはDC12V専用です。ほかの電源での使用はできません。
- タイヤ パンク応急修理剤の有効期限はボトルに表示しています。有効期限が切れる前に交換する必要がありますので、交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 下記のような場合は、タイヤ パンク応急修理セットによる応急修理ができません。トヨタ販売店またはJAFなどにご連絡ください。JAFロード サービスについては別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。
  - 約４㎜以上の切り傷や刺し傷

  - タイヤ サイド部がカットを受けた場合

アドバイス

  - ほとんど空気の抜けた状態で走行した場合

  - タイヤがリムから完全に外れている場合

  - リム部が破損している場合

- タイヤが 2 本以上パンクしている場合（修理剤はタイヤ 1 本分です）

タイヤの応急修理方法

⚠注意

- 路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる地面が硬くて平らな場所に移動してください。その際は非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。

アドバイス

- タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かずにそのまま応急修理してください。

タイヤ パンク応急修理セットはラゲージアンダー ボックスに格納しています。

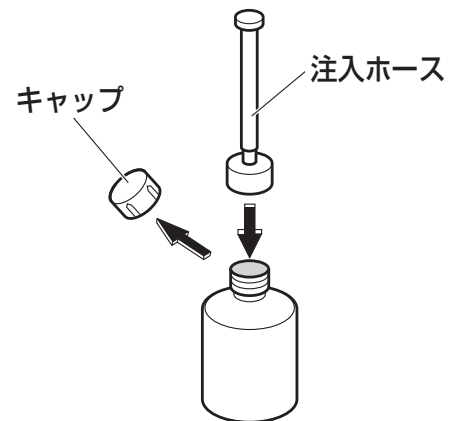
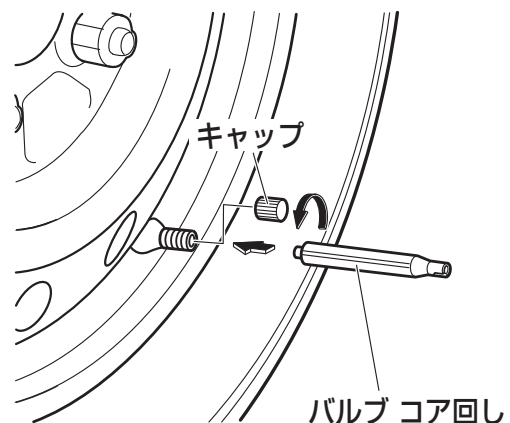
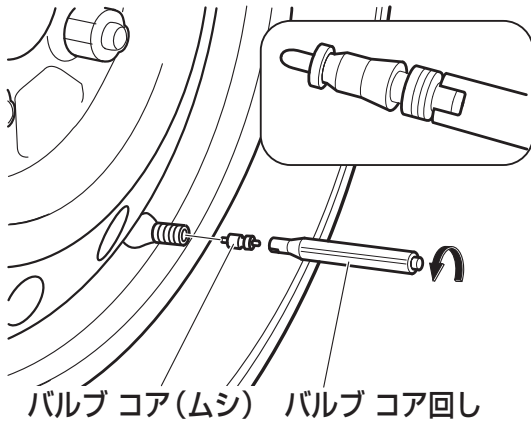
（格納場所→ 248 ページ）

▼使用方法

1. タイヤ パンク応急修理剤ボトルとタイヤ空気充填用コンプレッサーを取り出し、タイヤ パンク応急修理剤ボトルをよく振ります。

アドバイス

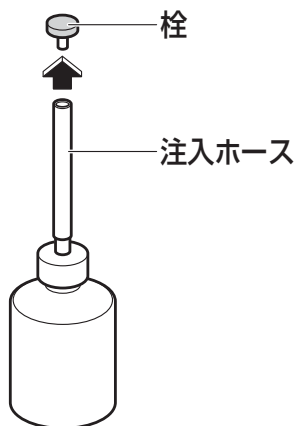
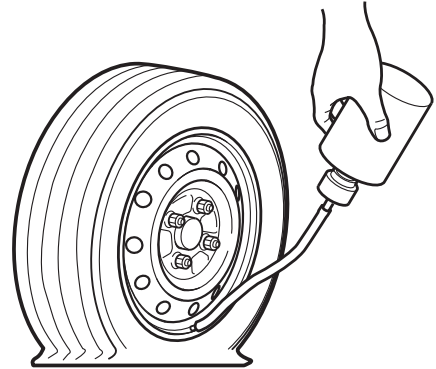
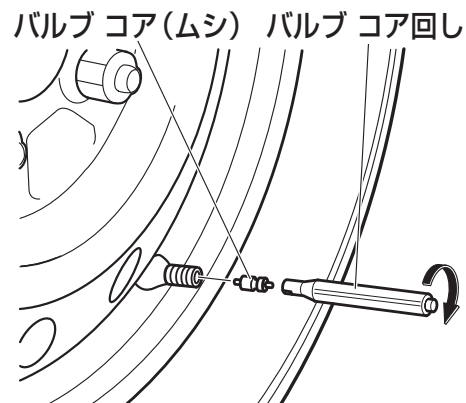
- タイヤ パンク応急修理剤ボトルは注入ホースをねじ込む前によく振ってください。

2. タイヤ パンク応急修理剤ボトルのキャップを外し、中ぶたをつけたまま注入ホースをタイヤ パンク応急修理剤ボトルにねじ込みます。
（注入ホースをねじ込むと中ぶたが破れます）

3. パンクしたタイヤのバルブからキャップを左に回して外します。
ビニール袋に入っているバルブ コア回しの後ろでバルブ内のバルブ コア（ムシ）を押し、タイヤの空気を完全に抜きます。

4. バルブ コア回しでバルブ コア（ムシ）を左に回して外します。

⚠警告

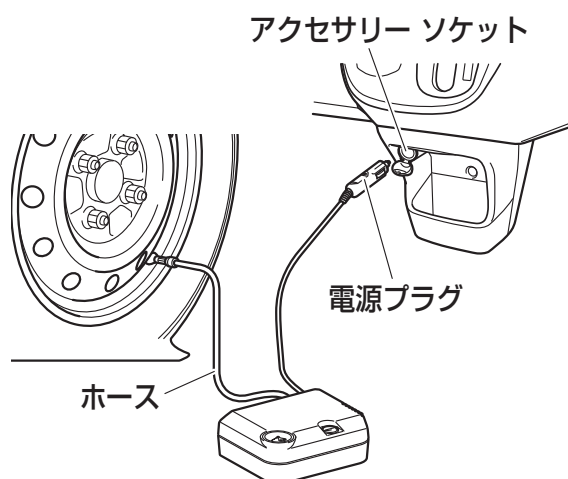
- バルブ コア（ムシ）を外すとき、タイヤに空気が残っているとバルブ コアが飛び出すことがあります。慎重に外してください。

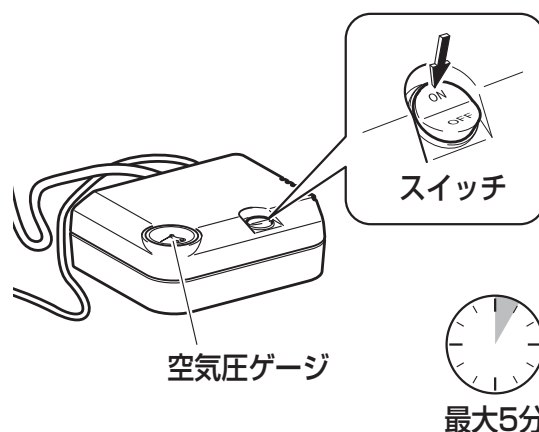
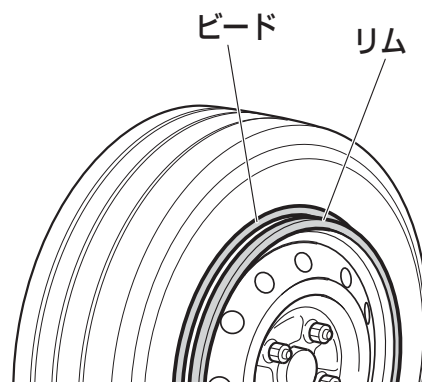
アドバイス

- バルブ コア（ムシ）は汚れないようにきれいなところに保管してください。

5. 注入ホースの栓を外し、注入ホースの先端をタイヤのバルブに差し込みます。

6. タイヤ パンク応急修理剤を逆さまにして持ち、手で何回も圧迫し、修理剤をすべてタイヤ内に注入します。

7. 注入し終わったら、注入ホースをタイヤ バルブから引き抜き、バルブ コア（ムシ）をタイヤ バルブにしっかりとねじ込みます。

アドバイス

- 空になったタイヤ パンク応急修理剤ボトルは、タイヤ交換、または恒久修理のときに修理剤の回収に使いますので、捨てずにトヨタ販売店までお持ちください。

8. タイヤ空気充填用コンプレッサーに格納されているホースと電源プラグを取り出します。
ホースをタイヤ バルブにしっかりとねじ込み、電源プラグを車両のアクセサリー ソケットに差し込みます。

9. 電源を“ACC”または“ON”にします。
10. タイヤの指定空気圧を確認します。
- 指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。

11. タイヤ空気充填用コンプレッサーのスイッチを入れ、コンプレッサーの空気圧ゲージで確認しながら、タイヤを指定空気圧まで昇圧してください。

- タイヤのビードがリムから外れている場合は、空気が漏れないようにリムとタイヤの隙間をなくすようにしてコンプレッサーを作動させてください。
（隙間がなくなれば空気圧が上がります）

⚠注意

- タイヤが膨らむとビードがリムにはまり込むので、指などを挟まないようにしてください。
- タイヤ空気充填用コンプレッサーは 10 分以上連続して使用しないでください。モーターが過熱し損傷するおそれがあります。

アドバイス

- **タイヤ空気圧を、指定の空気圧まで昇圧するには約 5 分程度必要です。もし、5 分以内に十分昇圧しないなら、ジャッキでタイヤを地面から浮かせて手で 2～3 回以上回し、タイヤ パンク応急修理剤をタイヤ全体にいきわたらせてから、再度昇圧操作を行ってください。**
  （ジャッキの使いかた→ 249 ページ）

- 5 分以内に指定の空気圧まで昇圧できない場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、タイヤ パンク応急修理剤で修理することができません。トヨタ販売店または、JAFなどにご連絡ください。

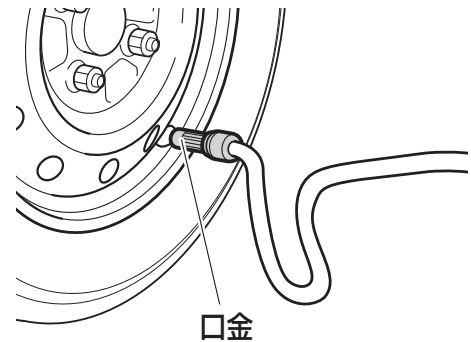
アドバイス

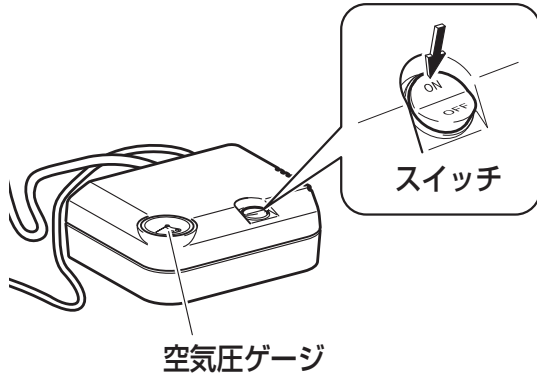
- **JAFロード サービスについては別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。**

12. 指定の空気圧まで昇圧できれば、タイヤ空気充填用コンプレッサーのスイッチをきってコンプレッサーを車両から取り外し、すみやかに走行してください。

- 急加速、急ブレーキ、急ハンドルをさけ、80km/h以下で慎重に運転してください。

アドバイス

- **空気を入れすぎた場合は、ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。**

13. 10 分間または 5 ㎞程度走行後、交通のさまたげにならない安全な場所に停車します。

14. タイヤ空気充填用コンプレッサーを車両に接続し、タイヤ空気圧を空気圧ゲージでチェックしてください。

アドバイス

- 空気圧を測定するときは、タイヤ空気充填用コンプレッサーのスイッチを一度“ON”にしてタイヤ空気充填コンプレッサーを作動させます。そのあと、スイッチを“OFF”にしてからタイヤ空気圧を確認してください。

- 空気圧が 130kPa以下に低下していたら、タイヤ パンク応急修理剤による修理はできません。走行を中止し、トヨタ販売店または、JAFなどにご連絡ください。

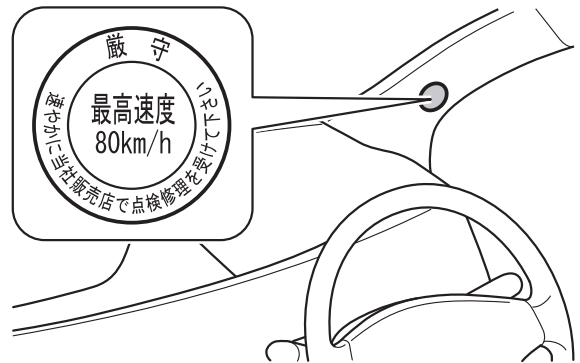
アドバイス

- JAFロード サービスについては別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

15. 空気圧が 130kPa以上であれば、パンク応急修理の完了です。
再度コンプレッサーのスイッチを入れ、指定空気圧まで昇圧してください。

アドバイス

- 必ず空気圧をチェックして応急修理の完了を確認してください。

16. 異常がなければ、付属の速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼り、急加速、急ブレーキ、急ハンドルをさけ、80km/h以下ですみやかにトヨタ販売店まで走行します。

⚠警告

- 速度制限シールは、ハンドルのパッド部などエアバッグ展開面に貼らないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、メーターやウインド ガラスなど、運転のさまたげになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

○応急修理後の処置

タイヤ パンク応急修理剤を使用したタイヤは、新しいタイヤに交換することをおすすめします。修理、再使用についてはトヨタ販売店にご相談ください。

アドバイス

- ホイールは、付着したタイヤ パンク応急修理剤を抜き取れば再使用できます。ただし、バルブ コア（ムシ）は新しい物と取り替えてください。
  こぼれたタイヤ パンク応急修理剤はふき取ってください。
- タイヤ パンク応急修理剤の空容器は、タイヤ交換時に、使用済みの修理剤の回収に使用しますので、トヨタ販売店までお持ちください。
- タイヤ パンク応急修理剤を使用した場合は、再び、新しい修理剤を車両に装備しておく必要がありますので、トヨタ販売店にご相談ください。
- 修理業者等にタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤ パンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

タイヤ パンク応急修理セットの点検

いざというとき使用できるようにタイヤ パンク応急修理セットの各部品は日常点検を実施してください。

- タイヤ パンク応急修理剤の有効期限の確認
- アクセサリー ソケット電源の確認
  （電化製品を使用するなどして、作動で点検してください）
- タイヤ空気充填用コンプレッサー作動の確認
  （タイヤ空気充填用コンプレッサーの電源プラグをアクセサリー ソケットに差し込み、電源を“ACC”または“ON”にします）

いざというときの処置

バッテリーあがりの処置

下記のような症状が見られるとバッテリーあがりが考えられます。

- スターターが回らない。
- スターターが回っても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ヘッド ランプがいつもより暗い。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。
- キー フリー システム装着車の電子カード キーでドアが解錠しない。

⚠警告

- バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは、確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

- バッテリーを交換するときは、この車用のeco IDLE専用バッテリーと交換してください。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やeco IDLEによるアイドリング ストップが正常に作動しなくなる原因となります。

  (eco IDLE専用バッテリー → 196 ページ)
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。eco IDLEによるアイドリング ストップが正常に作動しなくなります。

  (eco IDLE専用バッテリー → 196 ページ)

アドバイス

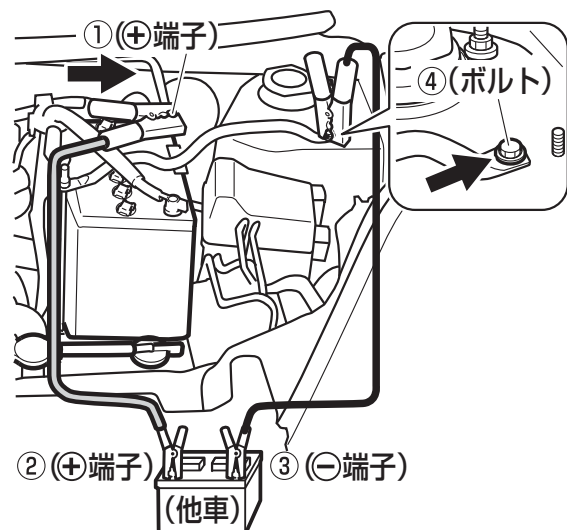
- バッテリーあがりを防ぐために下記のことをお守りください。
  - エンジンを止めたままライトをつけたり、オーディオを長時間使用しない。
  - エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不要な電装品の電源を切る。
- バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充をしてください。
- バッテリーを交換したとき、新しいバッテリーは、バッテリーを設置するトレイの車両後方側に設置してください。

▼ 処置を行う前に

⚠警告

- 火気をバッテリーに近付けないでください。バッテリーから発生する可燃ガスに引火、爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- バッテリー液が万一皮膚や目に付いてしまったら、その箇所を多量の水で十分洗浄して、ただちに医師の診断を受けてください。バッテリー液には希硫酸が含まれており、毒性、腐食性があります。
- 処置の手順でブースター ケーブルをバッテリーあがり車のバッテリーの⊖端子に接続しないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃ガスに引火する危険があります。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしないでください。バッテリーの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。
- ブースター ケーブルを接続するとき、⊕端子と⊖端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、引火する危険があります。

▼ 処置の手順

1. バッテリーの⊕端子のカバーを外し、ブースター ケーブルを図の番号順で接続します。
   ①バッテリーあがり車の⊕端子
   ②他車の⊕端子
   ③他車の⊖端子
   ④下記の箇所（アースにつなぐ）

2. 電源側の車（他車）を始動し、少しエンジン回転を高めに保ちます。
3. バッテリーあがり車のエンジンを始動します。
4. ブースター ケーブルを接続順序の逆で外します。

⚠注意

- 押しがけによる始動はできません。
- 必ず 12Vバッテリー車と接続してください。
- ケーブル接続の際には、ブースターケーブルを矢印の方向にして、⊕端子に接続させてください。
  また、⊕端子をボデー金属部や⊖端子に接触させたり、逆に接続しないでください。
- ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように、接続には十分注意してください。

オーバー ヒートの処置

下記の状態がオーバー ヒートです。

- 水温警告灯が赤色に点滅・点灯し、警告ブザーが鳴ったとき
- ボンネットから蒸気が立ちのぼり、エンジンの出力が低下したとき

車を安全な場所に止め、下記の処置をしてください。

▼ 処置を行う前に

⚠警告

- 水温が高いときは、ラジエーター キャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーター キャップにかかっているので、蒸気や熱湯が吹き出し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。突然、ファンが回転するため、手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 処置の手順

1. ボンネットから蒸気が出ていたら、エンジンを止めて、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。蒸気が出なくなったらエンジンを始動しボンネットを開け、風通しを良くします。
2. ボンネットから蒸気が出ていなければ、エンジンをかけたままボンネットを開け、風通しを良くします。

3. 1 または 2 の処置を行ったあと、エンジン ルームをチェックします。エンジン ルーム内が下記のような状態であれば、ただちにエンジンを止めてトヨタ販売店にご連絡ください。
   - 冷却ファンが回転していないとき
   - ホース類などから蒸気や熱湯が漏れているとき
   - ラジエーター リザーバー タンクの水がないとき
   - ファン ベルトが切れているとき
4. 水温警告灯が消灯し、警告ブザーが止まったらエンジンを止めます。
5. エンジンが十分に冷えてから冷却水の量、ファン ベルトのゆるみ、ラジエーターのコア（放熱部）の著しい汚れやゴミの付着の有無などを点検します。
6. 冷却水が不足しているときは、補給します。冷却水の補給は、別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

⚠注意

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

アドバイス

- オーバー ヒートを防止するため、日頃から冷却水の量と冷却水の漏れがないかを点検するように心がけてください。（冷却装置、冷却水の点検は別冊の「メンテナンス ノート」参照）

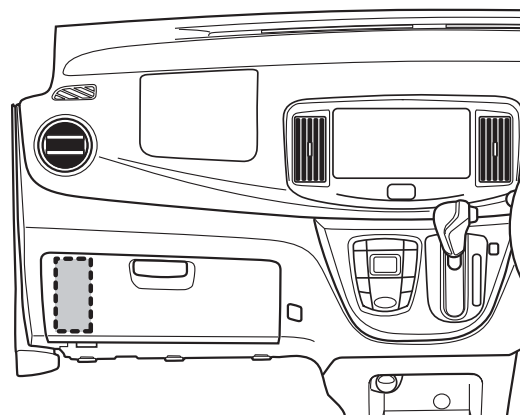
ヒューズの交換

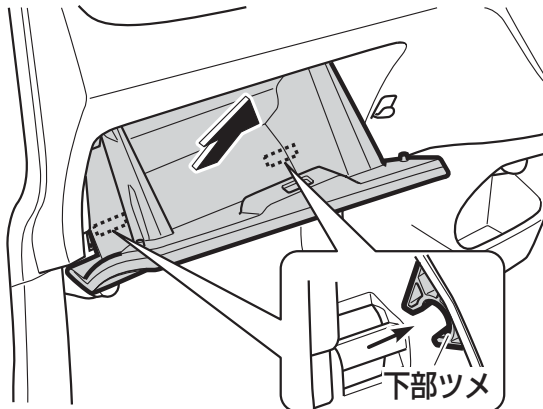
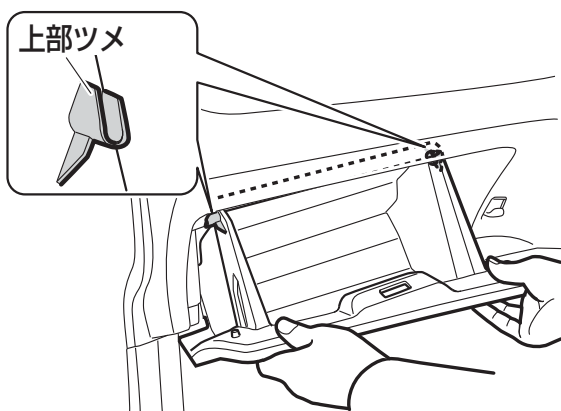
ランプが点灯しない場合や、電気系統の装置がはたらかない場合は、ヒューズ切れが考えられます。点検、交換を行ってください。
下記の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

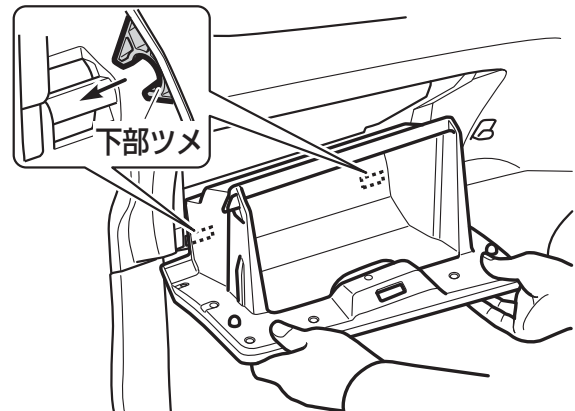
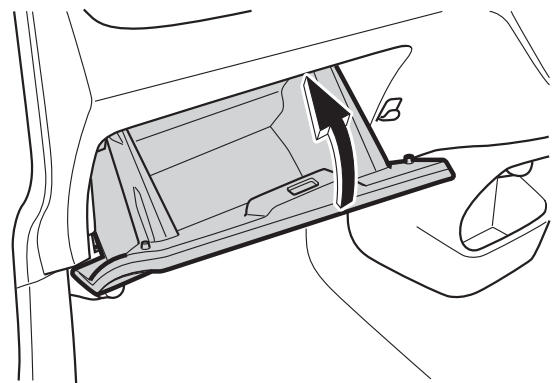
- 交換しても再びヒューズが切れるとき
- 交換しても電気系統の装置が働かないとき

ヒューズの位置

○インストルメント パネル
　ヒューズ ボックス

グローブ ボックス奥に設置されています。

▼ グローブ ボックスの取り外しかた

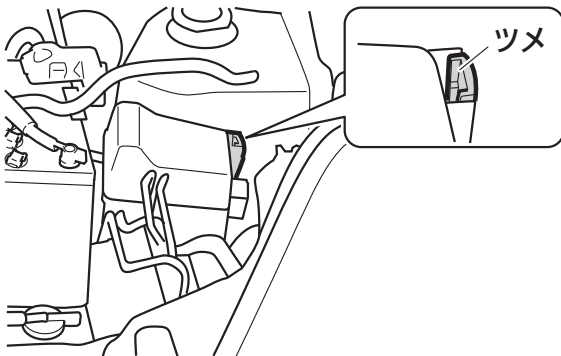
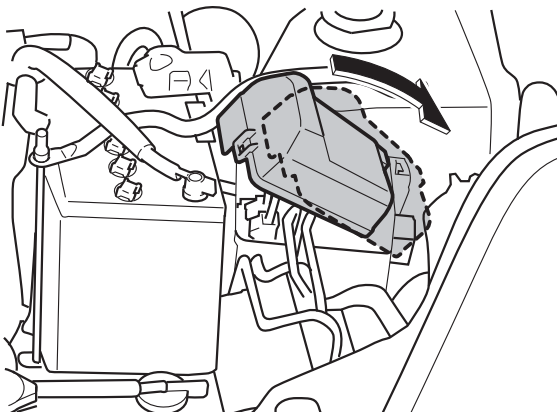
1. 電源を“OFF”にします。
2. グローブ ボックスを開けます。
3. グローブ ボックスを矢印の方向へ引き上げて下部ツメを外します。

4. 上部ツメがひっかからないように、少し傾けながら、グローブ ボックスを取り外します。

▼ グローブ ボックスの取り付けかた

1. グローブ ボックスの下部ツメを取り付けます。

2. グローブ ボックスを矢印の方向に押し込みます。

アドバイス

- グローブ ボックスを取り付けるときは、十分にかん合していることを確認してから、ボックスを閉めてください。下部ツメのかん合が不十分なままだと、ボックスが開かなくなります。

○エンジン ルーム ヒューズ ボックス

▼取り外しかた

1. 電源を"OFF"にします。
2. カバー横のツメを押しながら、カバーを浮かせます。

3. カバーを傾けた状態で、矢印の方向に押し込んだあと、手前に抜き取ります。

▼取り付けかた

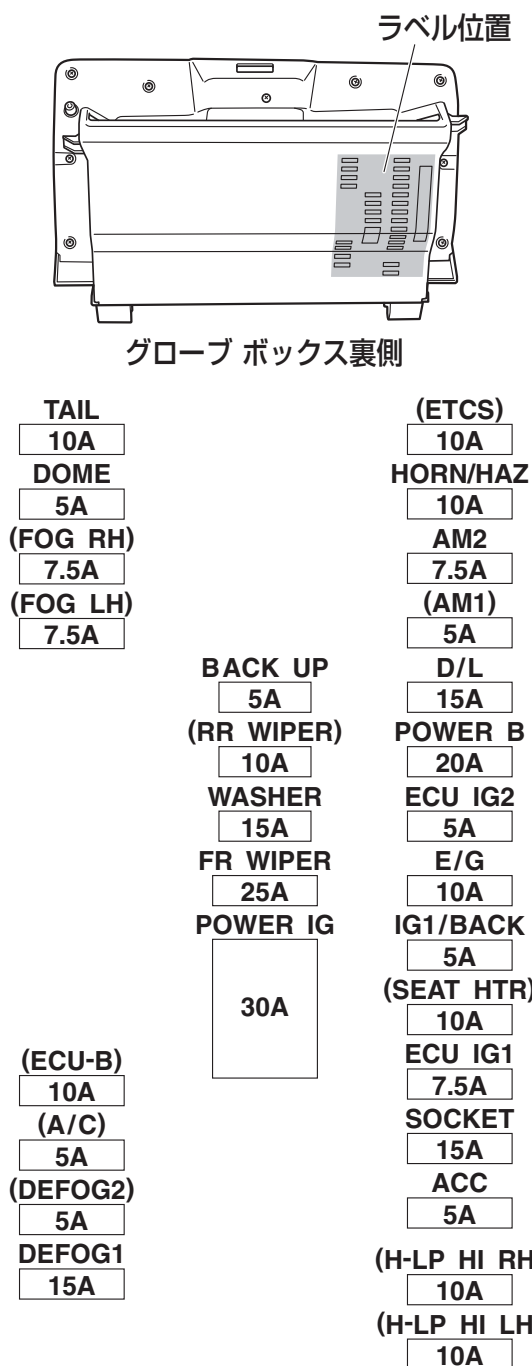
取り外すときと逆の手順で行います。

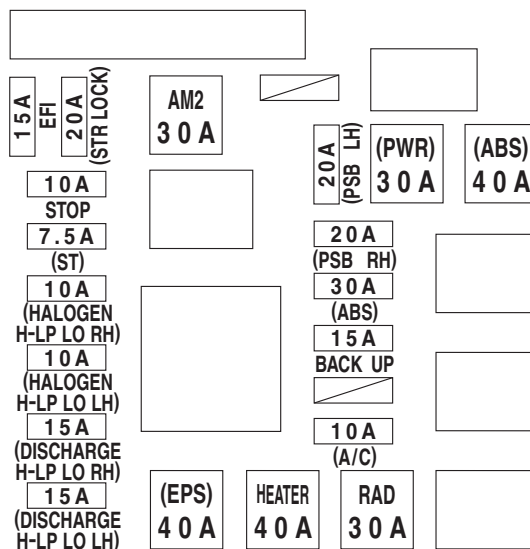
ヒューズ ボックス

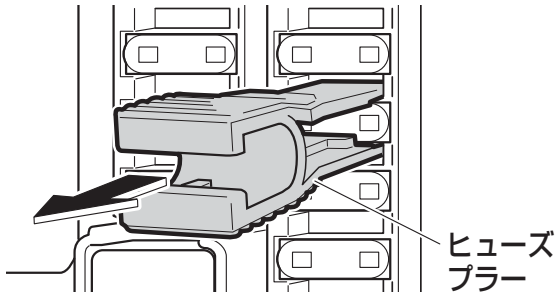
ヒューズ ボックスのラベルに各ヒューズのアンペア数と受け持つ装置の名称を表示しています。
ヒューズは、ラベル表示にしたがって交換してください。

○インストルメント パネル
　ヒューズ ボックス

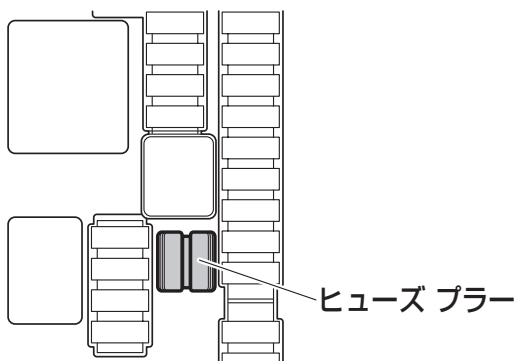
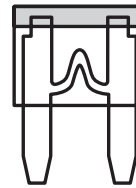
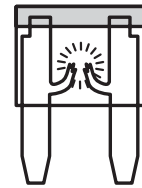
▼ラベル位置

グローブ ボックスの裏側に表示されています。

○エンジン ルーム ヒューズ ボックス

ヒューズ ボックスのカバーに表示されています。

ヒューズの点検と交換

1. 備え付けのヒューズ プラーを使用して、ヒューズを挟んで外します。

アドバイス

ヒューズ プラーの位置

- インストルメント パネル ヒューズボックス内にあります。

2. 取り外したヒューズを点検し、切れている場合は、規定容量のヒューズと交換してください。ヒューズが切れていないときはほかに原因が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

（正常）　（切れているとき）

⚠警告

- 規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱、損傷し、火災につながるおそれがあり危険です。

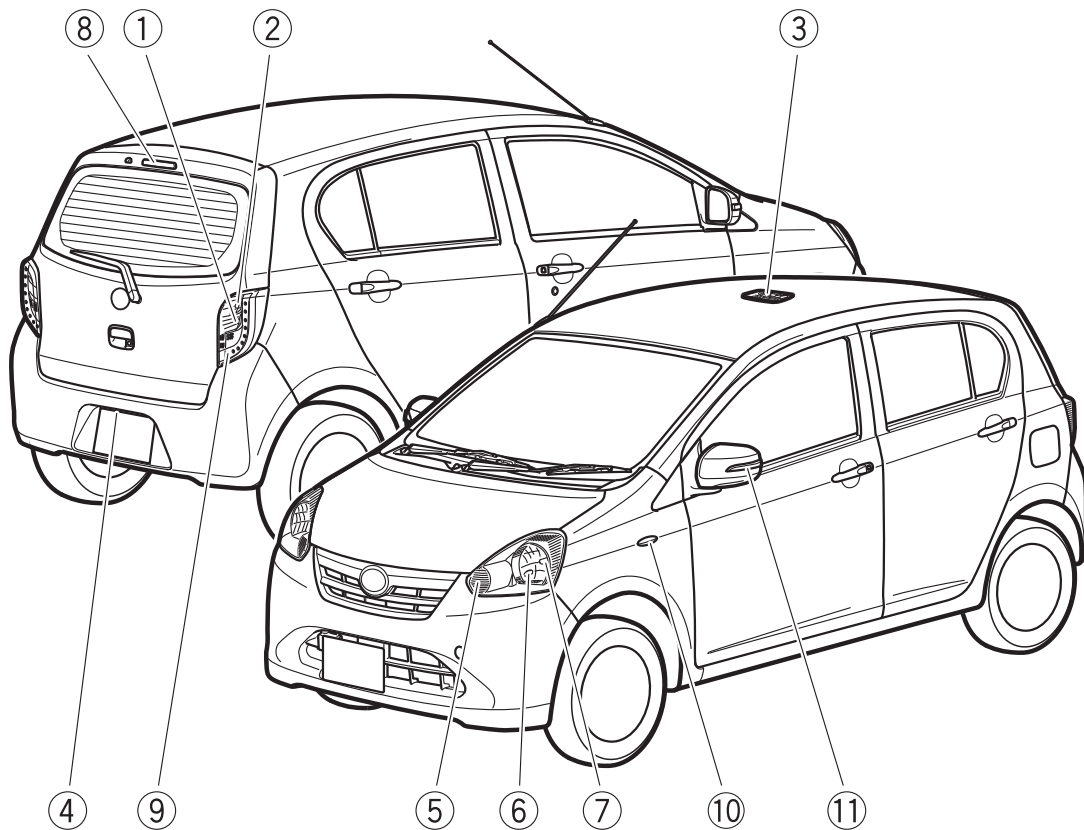
⚠注意

- 交換してもすぐに切れてしまうときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）交換

ヒューズが切れていないにも関わらず、ランプが点灯しないときは、電球切れが考えられますので、電球を点検し、切れている場合は電球を交換してください。

- 電球の交換作業に不慣れな方や、部品などの破損が心配な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 電球の交換作業をするときに必要な工具は、カー用品店などでご購入することができます。

グレードの違い、注文装備も記載しています。

ランプ		電球(バルブ)	
		W(ワット)数	タイプ
①	後退灯	16	T16
②	後面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21	S25(アンバー)
③	ルーム ランプ	8	T10
④	番号灯	5	T10
⑤	前面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21	T20(アンバー)
⑥	車幅灯	5	T10
⑦	前照灯	60/55	H4

下記の電球の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。
⑧ハイマウント ストップ ランプ(LED)
⑨制動灯 兼 尾灯(LED)
⑩側面方向指示灯 兼 非常点滅灯(ドア ミラー ターン ランプ装着車以外)
⑪側面方向指示灯 兼 非常点滅灯(LED)
(ドア ミラー ターン ランプ装着車)

アドバイス

- LEDを使用しているランプは、電球のみの交換をすることができません。トヨタ販売店にご相談ください。
- 側面方向指示灯 兼 非常点滅灯(ドア ミラー ターン ランプ装着車以外)は、レンズセット交換になるため、電球のみの交換をすることができません。トヨタ販売店にご相談ください。

交換の手順

⚠警告

- 電球を交換するときは、ランプを消灯させ電球が冷えている状態で行ってください。電球が熱い状態で、電球やその周辺を触ると、やけどをするおそれがあり危険です。
- 電球および電球固定具の取り付けが不完全な場合、発熱や発火、および水入りなどによる故障、レンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を修理、分解しないでください。感電により、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

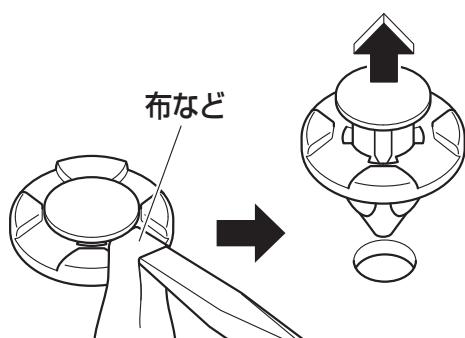
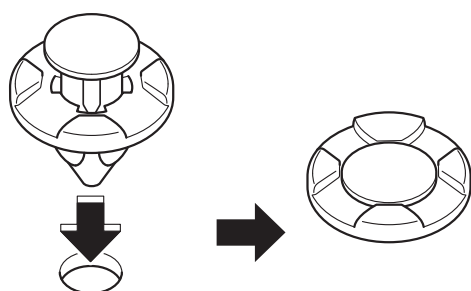
⚠注意

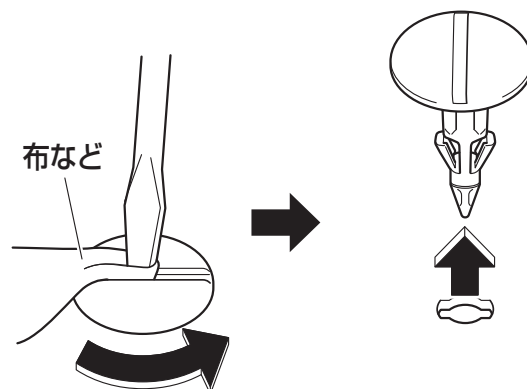
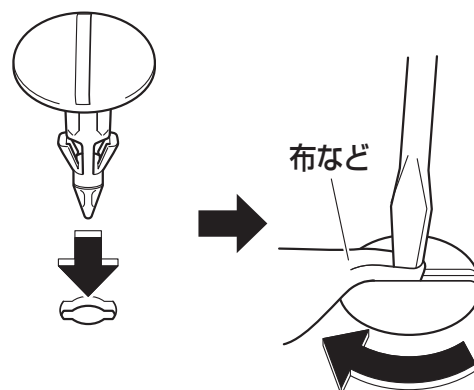
- 同じワット数の電球以外は使用しないでください。過熱などにより故障の原因になります。
- 同じバルブ色の電球以外は使用しないでください。道路運送車両の保安基準に適合しない場合があります。
- ⊖ドライバーなどを使用するときは、布などを巻いてください。クリップ、レンズなどに傷が付くおそれがあります。
- ランプ本体やレンズを取り外すときは、ボデーに傷を付けないように注意してください。
- ネジなどでレンズを取り付けるときは、締めすぎないようにしてください。レンズを破損するおそれがあります。
- 前照灯用のハロゲン電球は、ガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷を付けたりすると破損して、ガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。
  また、電球のガラス部は、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。油脂が付着すると、発熱による早期電球切れを起こします。
- 電球を交換しても点灯しない場合は、電球切れ以外の理由が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

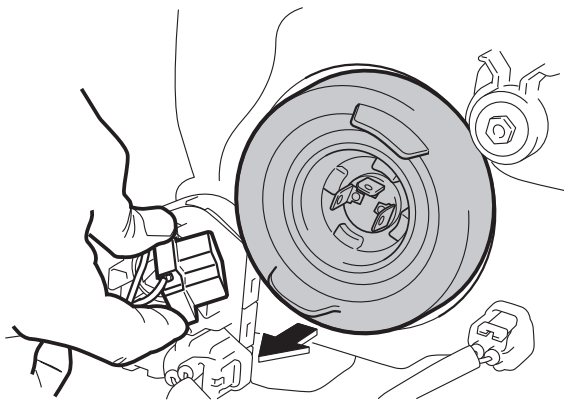
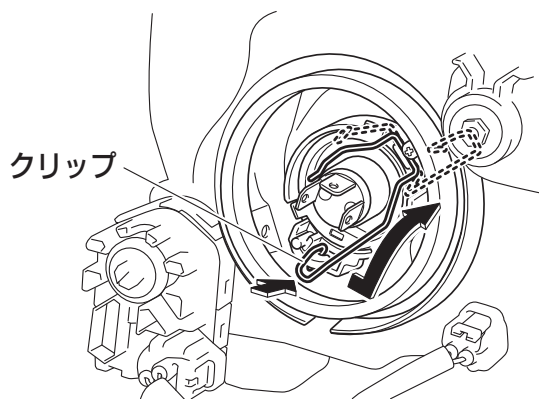
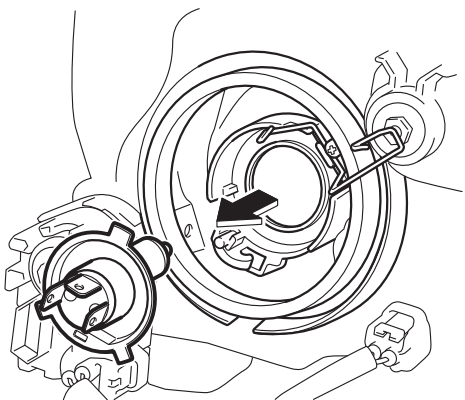
- ヘッド ランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店にご相談ください。

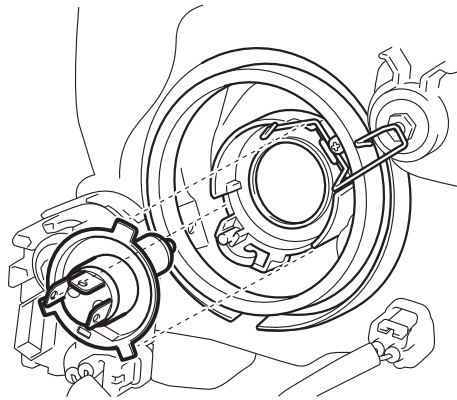
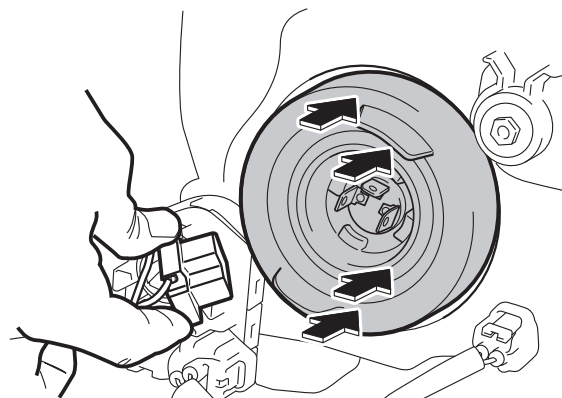
クリップの取り付け、取り外しについて

- クリップ タイプⒶ
  - 取り外すときは、⊖ドライバーで中央部を浮かしたあと、クリップ全体を引っ張ります。

  - 取り付けるときは、取り外した状態のまま差し込み、中央部を押し込みます。

アドバイス

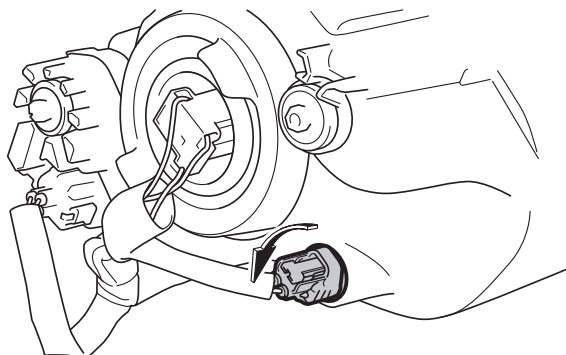
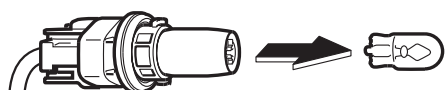
- クリップ タイプⒷ
  - 取り外すときは、ドライバーで矢印の方向へ 90° 回して取り外します。

  - 取り付けるときは、差し込んでからドライバーで矢印の方向へ 90° 回して取り付けます。

○前照灯

▼取り外し手順

1. コネクターを取り外したあと、カバーを取り外します。

2. クリップを矢印の方向に外します。

3. バルブを取り外します。

▼取り付け手順

1. バルブの突起部をヘッド ランプ本体の溝にはめ込みます。

2. クリップを確実にフックに取り付け、バルブを固定します。
3. 矢印の方向にカバーを押さえて、確実にカバーを取り付けたあと、コネクターを取り付けます。

○車幅灯

▼取り外し手順

1. ソケットを回して取り外します。

2. ソケットから電球を引き抜きます。

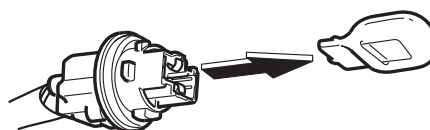
▼取り付け手順

逆の手順で行います。

○前面方向指示灯 兼 非常点滅灯

車両右側

▼取り外し手順

1. ソケットを回して取り外します。

2. ソケットから電球を引き抜きます。

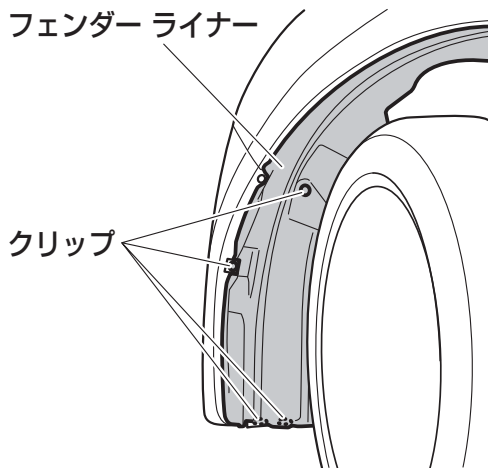
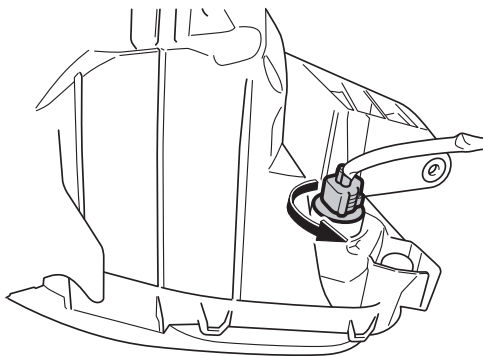
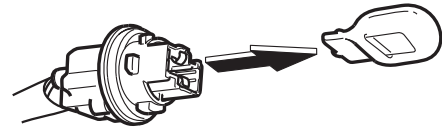
▼取り付け手順

逆の手順で行います。

車両左側

車両左側の前面方向指示灯 兼 非常点滅灯はエンジン ルームから交換できないため、フェンダー ライナーをめくって交換してください。

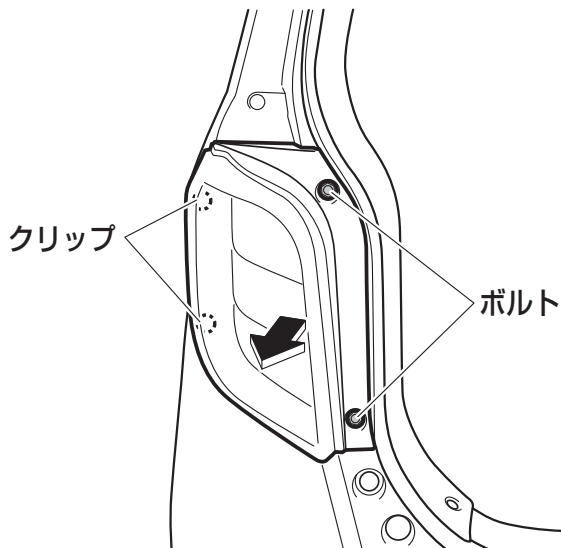
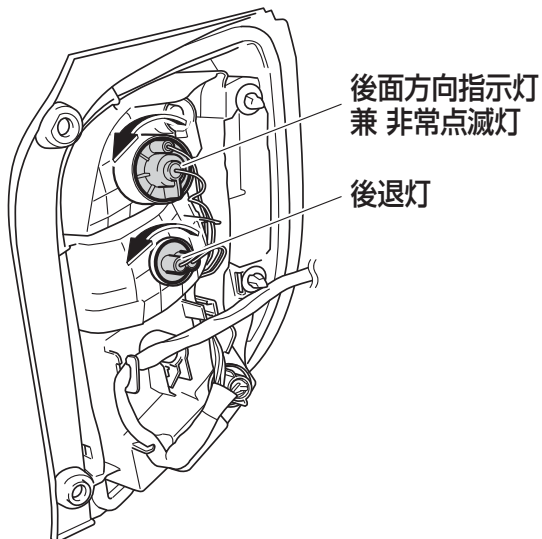
▼ 取り外し手順

1. ハンドルを右に、いっぱいまで回します。
2. クリップ（4 個）を取り外し、バンパーとフェンダー ライナーの間に手が入るくらいフェンダー ライナーをめくります。

3. ソケットを回して取り外します。

4. ソケットから電球を引き抜きます。

▼ 取り付け手順

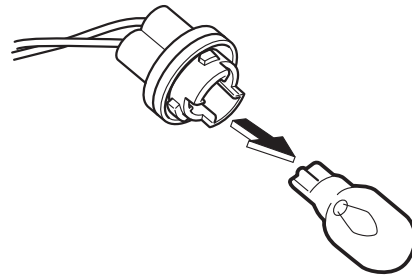
逆の手順で行います。

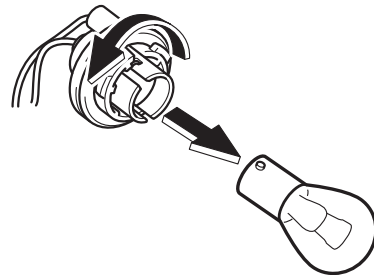
○リヤ コンビネーション ランプ

▼取り外し手順

1. バック ドアを開けます。
2. ボルト（2本）を取り外します。
3. 車両後方にランプ本体を引いて、車両からランプ本体を取り外します。

4. 交換する電球のソケットを回して取り外します。

5. 電球を取り外します。

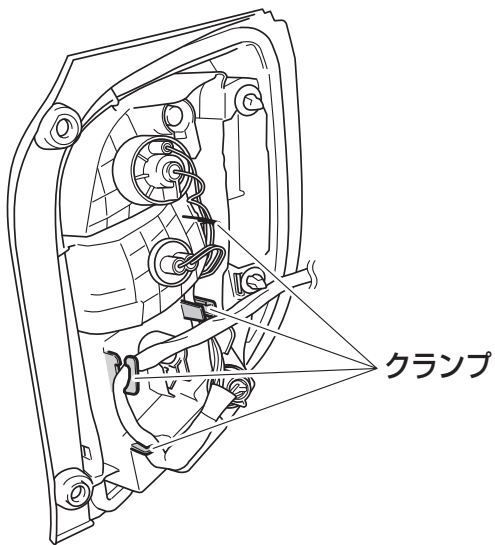
後退灯

ソケットから電球を引き抜きます。

後面方向指示灯 兼 非常点滅灯

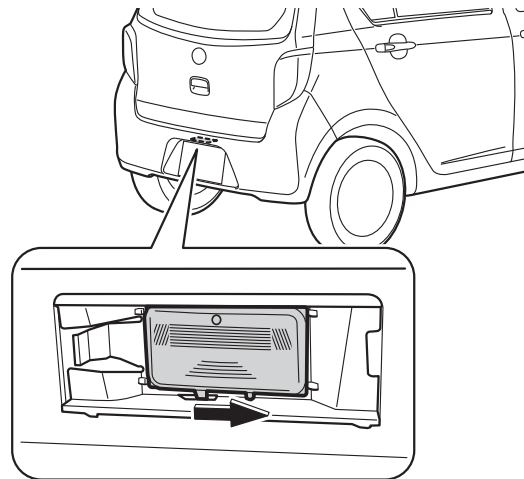
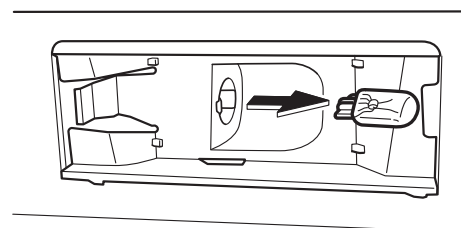
電球を押しながら回して、ソケットから抜き取ります。

▼取り付け手順

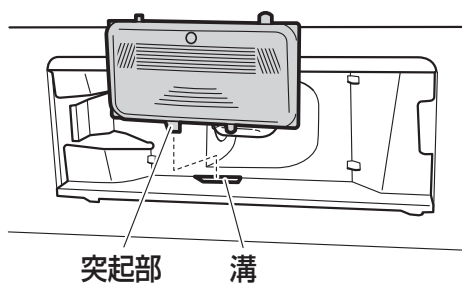
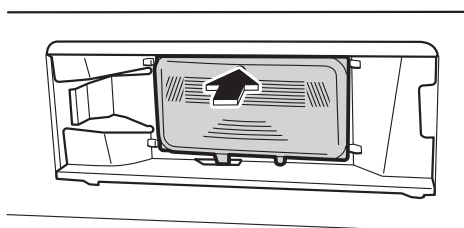
逆の手順で行います。

⚠注意

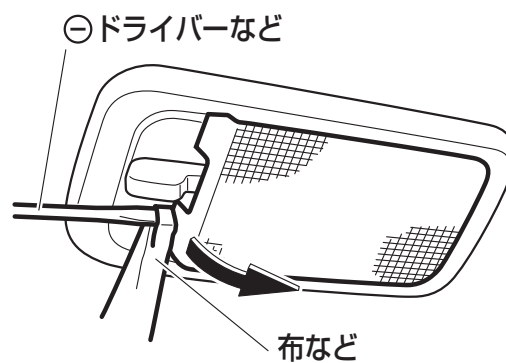
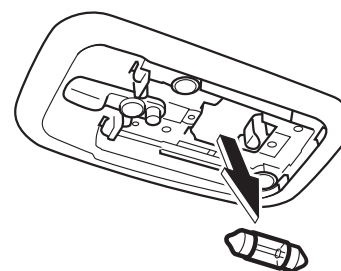
- ランプ本体を取り付けるときは、必ず配線をクランプに取り付けてください。
  クランプに取り付けていないと配線が車体に挟み込まれ、損傷するおそれがあります。

○番号灯

▼取り外し手順

1. レンズを矢印の方向にスライドさせて取り外します。

2. 電球を引き抜きます。

▼取り付け手順

1. 電球を取り付けます。
2. レンズの突起部をランプ本体の溝に入れます。

3. レンズを矢印の方向に押して取り付け、確実に固定されたことを確認します。

○ルーム ランプ

▼取り外し手順

1. ⊖ドライバーを差し込んで、カバーを取り外します。

2. 電球を取り外します。

▼取り付け手順

逆の手順で行います。

電子カード キーが使用できないとき

キー フリー システム装着車

電池の消耗などにより、電子カード キーが使用できない場合は、メイン キー、または電子カード キー（エマージェンシー キー）を使用してドアの施錠、解錠、およびエンジン スイッチの操作を行うことができます。

⚠警告

- 電池の消耗などにより、電子カード キーが使用できない場合でも、発信機は電波を発信していますので、植込み型心臓ペース メーカー、および植込み型除細動器を使用されている方は、車室外発信機・車室内発信機から約 22 cm以内に近づかないようにしてください。

（発信機→ 90 ページ）

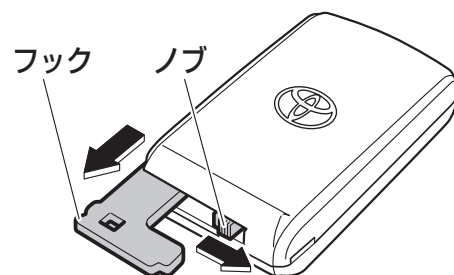
アドバイス

- ここで説明しているエンジンのかけかたは一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。

（キーの電池交換→ 290 ページ）

エマージェンシー キーの取り出しかた

▼取り出しかた

電子カード キーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、電子カード キーから、エマージェンシー キーのフック部を引いて取り出します。

アドバイス

- 使用後は、エマージェンシー キーを必ず電子カード キーに格納しておいてください。

ドアの施錠、解錠

▼ 操作を行う前に

アドバイス

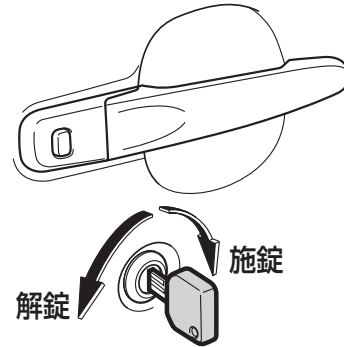
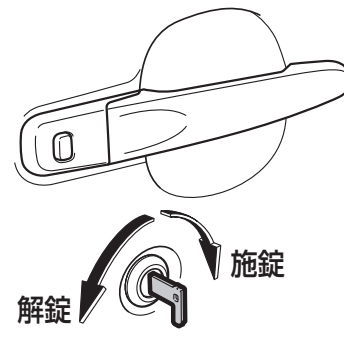
セキュリティ アラームがセットされている場合

- 電子カード キー以外でドアを解錠してドアを開けると、セキュリティ アラームの警報が作動します。
  警報が作動した場合は、ただちに次項「エンジンのかけかた」の手順 1～3 にしたがって、キーを認識させてください。警報が停止します。
  （セキュリティ アラーム → 103 ページ）
  （エンジンのかけかた→ 288 ページ）

▼ 操作方法

キーを確実に差し込んでから回します。

キーを車両前側に回すと施錠され、後ろ側に回すと解錠されます。

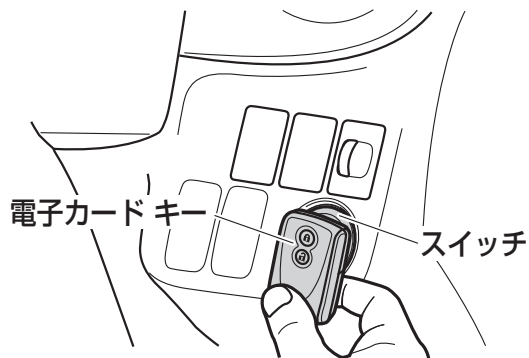
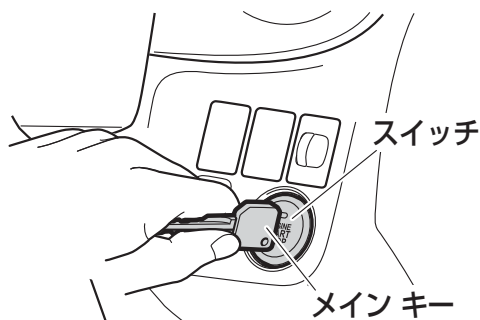
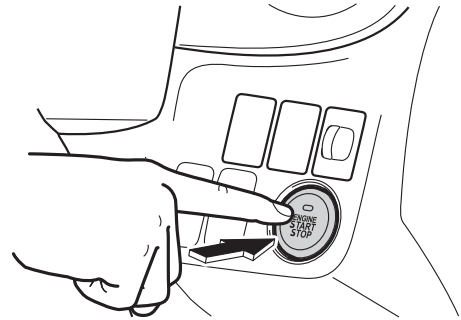
メイン キー

エマージェンシー キー

エンジンのかけかた

▼ 操作方法

1. シフト レバーがⓅレンジにあるのを確認し、ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、キーを図のようにプッシュ ボタン スタート スイッチに接触させます。

● 電子カード キーは、裏面のトヨタ マーク付近をスイッチの中心に接触させます。

3. キーが認識されて、「ピー」というブザー音が鳴り、スイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。

電子カード キー

メイン キー

4. キーの認識後、約 4 秒以内にスイッチを押すと、エンジンが始動します。

▼ エンジンの停止方法

通常のエンジン停止方法と同様に、シフト レバーをⓅレンジに入れてスイッチを押します。

（エンジンの停止→ 168 ページ）

▼ 電源の切り替え方法

「エンジンのかけかた」の手順 4 で、ブレーキ ペダルから足を離してエンジンスイッチを押します。
スイッチを押すごとに
「OFF→ACC→ON→OFF」の順に電源が切り替わります。

アドバイス

● 下記の状態になると、スイッチを押してもエンジンの始動（電源の切り替え）はできません。もう一度はじめからやり直してください。
  • キーの認識後、約 4 秒以上経過した
  • 電源を“OFF”にした

● 手順通りに操作をしてもエンジンが始動できないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

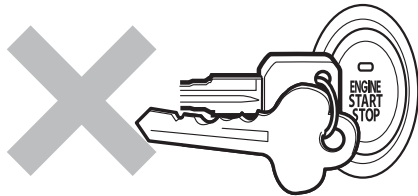
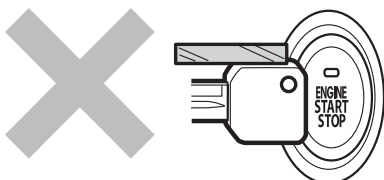
アドバイス

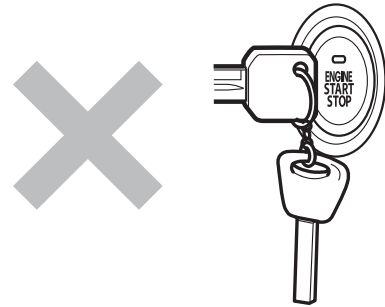
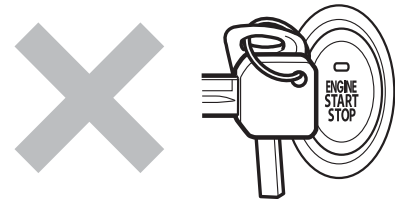
ハンドル ロックを解除するには

- エンジンの始動操作をしたときに、スイッチの作動表示灯が緑色に点滅したときは、ハンドル ロックが解除されていないため、エンジンの始動ができません。
  ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

メイン キーでエンジンのスイッチ操作を行う場合

- 下記のような状態では、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンのスイッチ操作ができない場合があります。
  - キー グリップに金属製のリングをのせたままのとき

  - キー グリップにほかのキーの金属部が接しているとき

  - キー グリップに金属製の物が接しているとき

アドバイス

- メイン キーがほかの車両のイモビライザー機能用キー（信号発信機内蔵の物）と近いとき

- メイン キーがほかの車両のイモビライザー機能用キー（信号発信機内蔵の物）と重なっているとき

キーの電池交換

- インジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。
- 電池は、お客様自身で交換できますが、破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

電池の残量確認

キー フリー システム装着車

電子カード キーの電池の残量を確認できます。

▼確認方法

電子カード キーの電池を取り外して、再度取りつけてください。

(電子カード キー→ 292 ページ)

インジケーターの点滅で、電池の残量を確認できます。

▼電池が消耗していないときは

インジケーターが 4 回点滅します。

▼電池が消耗しているときは

約 6 秒間、インジケーターが高速点滅します。

電子カード キーが使用できなくなる前に、電池を交換してください。

(電子カード キー→ 292 ページ)

アドバイス

- 電池が切れているとき、インジケーターは点滅しません。
- 電源を“OFF”にしたときに、車内で「ピッピッピッ」と警告ブザーが鳴った場合も、電池が消耗しています。
(警告ブザー、メーター表示による警告 → 94 ページ)

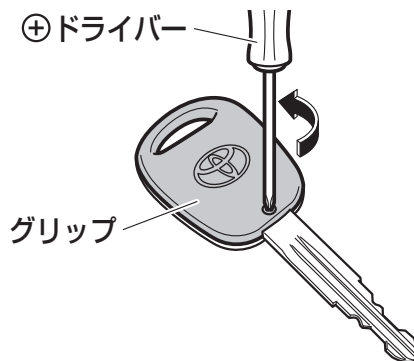
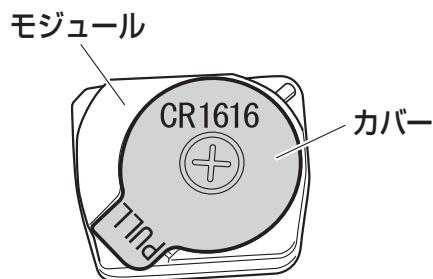
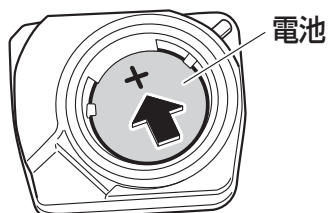
メイン キー

キーレス エントリー装着車

▼ 使用電池について

使用電池は「CR1616（3V）」です。

▼ 交換方法

1. 小さい⊕ドライバーで、ネジ（1本）を外して、グリップを外します。

2. モジュールの裏側のカバーを外します。

3. 矢印の方向にスライドさせて、電池を取り出し、新しい電池と交換します。

⚠警告

- 取り出した電池や部品を（特にお子さまが）飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

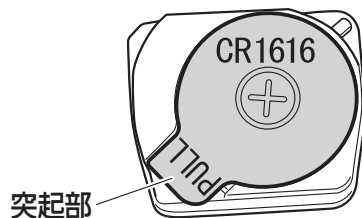
⚠注意

- 電池以外の部品に触れたり、動かしたりしないでください。
- 新しい電池は⊕極を上側にして取り付けてください。
- 電池挿入部の電極を曲げたり、モジュール内部に水やほこりなどが入らないように注意してください。

▼ 交換したあと

1. カバーとモジュール、およびグリップを逆の手順で取り付けます。
2. スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認します。

⚠注意

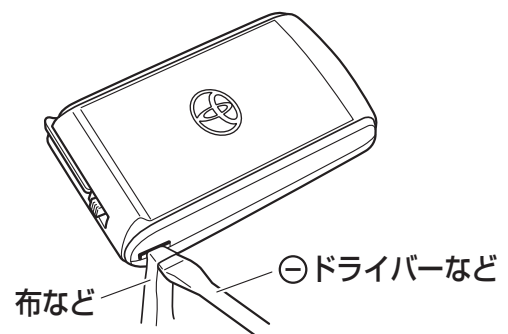
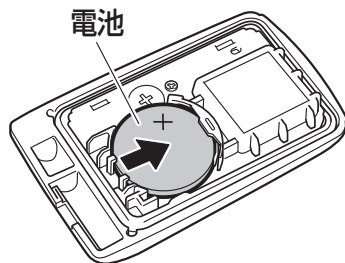
- **カバーをはめ込むときは、突起部からはめ込み、全体を均等に押さえてください。カバーが確実にはめ込まれていないと、水、ほこりなどが入り、故障の原因になるおそれがあります。**

電子カード キー

キー フリー システム装着車

▼ 使用電池について

使用電池は「CR2032（3V）」です。

▼ 交換方法

1. 傷付き防止のため、先端に布などを巻いた、くぼみに入る程度の薄刃の⊖ドライバーなどを用意します。
2. 用意した⊖ドライバーなどをくぼみに差し込み、電子カード キーのカバーを外します。

3. 矢印の方向にスライドさせて、電池を取り出し、新しい電池と交換します。

⚠警告

- 取り出した電池や部品を（特にお子さまが）飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

- 電池以外の部品に触れたり、動かしたりしないでください。
- 新しい電池は⊕極を上側にして取り付けてください。
- 電池挿入部の電極を曲げたり、内部に水やほこりなどが入らないように注意してください。
- 基板などの内部部品を取り出さないでください。

▼ 交換したあと

1. カバーを逆の手順で取り付けます。
2. スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認します。

キーを閉じ込めたとき

キーを閉じ込めたときは、JAFなどを呼んでください。
別冊の「メンテナンス ノート」巻末のJAFロード サービスのご案内を参照してください。

▼ キーをなくした場合

キーレス エントリー装着車

キー ナンバーを最寄りのトヨタ販売店にご連絡ください。

アドバイス

- キーの閉じ込みで困らないために下記の習慣を心がけてください。
  - 日頃からキーを使ってロックしてください。
  - バッグなどにスペア キーを入れておいてください。

キー フリー システム装着車

保管していたメイン キー（または電子カード キー）とキー ナンバー プレートを最寄りのトヨタ販売店にお持ちください。

アドバイス

- 電子カード キー使用時は特にキーを閉じ込めやすくなります。ドアを施錠する際は、必ず電子カード キーを携帯していることを確認するか、キーレス操作で施錠を行ってください。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、下記の手順で車両を停止させてください。

○緊急停止方法

1. ブレーキ ペダルを両足でしっかりと踏み続けます。

⚠警告

- **ブレーキ ペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。**

2. シフト レバーをⓃレンジに入れます。

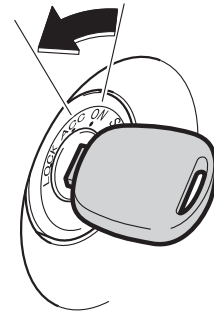
▼シフト レバーがⓃレンジに入った場合

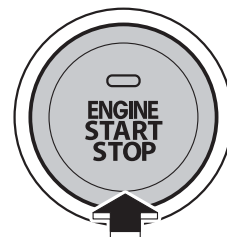
3. 減速後、車を安全な道路脇に停めて、エンジンを停止します。

▼シフト レバーがⓃレンジに入らない場合

4. ブレーキ ペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。
5. エンジンを停止します。

プッシュ ボタン スタート装着車以外

エンジン スイッチを“ACC”の位置にして、エンジンを停止します。

プッシュ ボタン スタート装着車

スイッチを 3 秒以上押し続けるか、3 回以上連打して、エンジンを停止します。

3秒以上押す、または3連打する

6. 車を安全な道路脇に停めます。

⚠警告

走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

- ブレーキの効きが悪くなりハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、可能な限り減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

事故が起きたとき

交通事故が起きたときはあわてずに下記の処置を取りましょう。

▼処置の方法

1. ただちに車を止めます。車を道のはしに停車し、昼夜問わず非常用表示板を立てるなどの必要な処置を取ります。
2. 負傷者を救護します。人命救助が第一です。負傷者があれば救急車を呼んだり、最寄りの救急病院などへ運ぶなどして救護します。
3. 警察へ事故の報告をします。最寄りの警察署または派出所へ事故を報告して警察官の指示にしたがいます。この届出は法令で義務付けられています。
4. 相手方の確認とメモをします。氏名、住所、電話番号などをメモしておきます。
5. 購入した販売会社と保険会社へ連絡します。

車のお手入れ

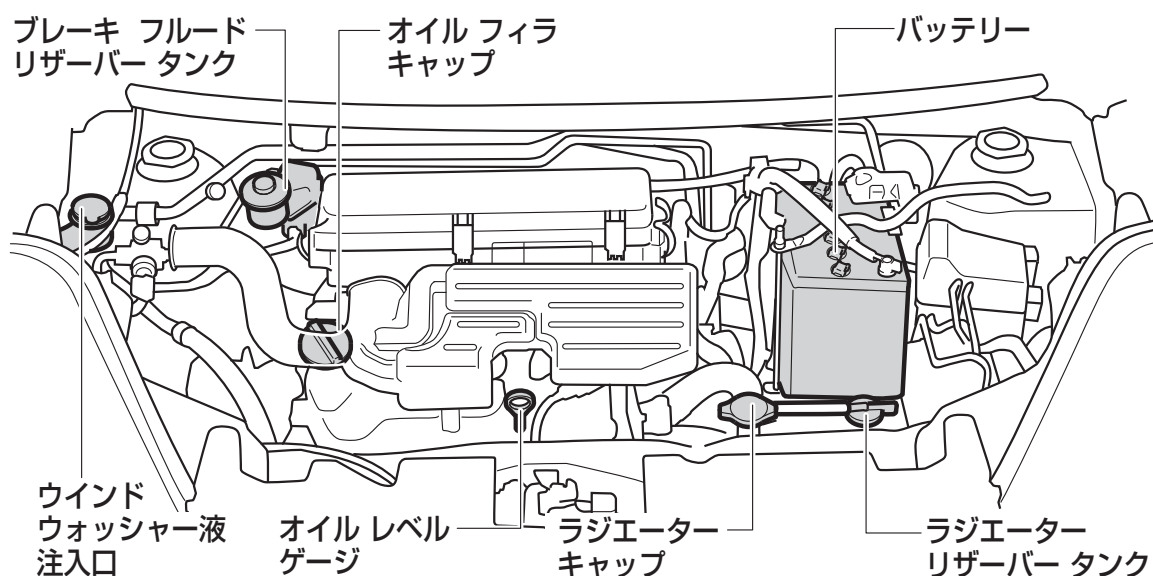
車の整備、お手入れの方法について
説明しています。

■ 車のお手入れ

車のお手入れ

車を安全、快適にご使用いただくには、日頃のお手入れが大切です。点検方法などは、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますので、参照してください。

エンジン ルーム

グレードの違い、注文装備も記載しています。

⚠注意

- エンジン ルーム周辺に人がいるときは、プッシュ ボタン スタートの操作をしないでください。エンジンが始動すると、けがをするおそれがあります。

消耗品の補給、交換

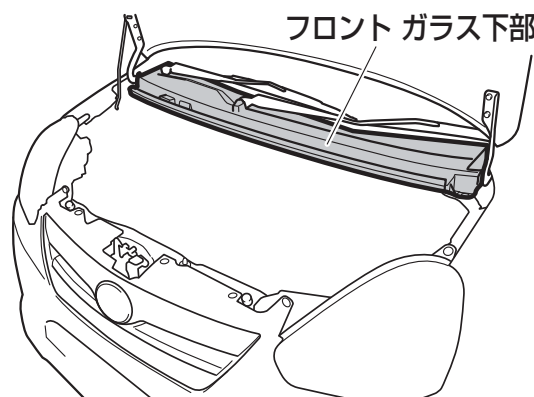
消耗品の補給、交換などは、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますので、参照してください。

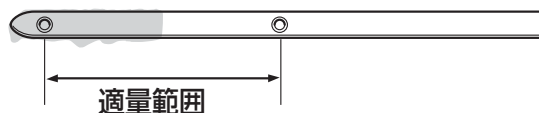
⚠警告

- エンジン ルームは大変高温になっていることがあるため、下記のことをお守りください。
  - やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
  - 点検したあとは、エンジン ルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジン ルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- オイルを点検・交換するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。
  オイルが付着したときは、ただちに拭き取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

- エンジン ルームを点検するときは、フロント ガラス下部周辺に物を置かないでください。エンジン内部に物が落下し、故障につながるおそれがあります。

車のお手入れ

エンジン オイル

エンジン オイルの量を定期的に点検してください。

オイル レベル ゲージ

⚠注意

- エンジン オイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをするはたらきがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。

アドバイス

- 外気温が低いときに、オイル フィラ キャップの裏側や、オイル注入口にエンジン オイルが白いクリーム状になって付着していることがあります。
  これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジン オイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機等で水分が蒸発すると解消します。
  この現象によるエンジン オイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありません。

冷却水

▼冷却水の点検について

ラジエーター リザーバー タンクの側面の目盛りで行ってください。
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

⚠警告

- 水温が高いときは、ラジエーター キャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーター キャップにかかっているので、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。ファンが回転するため、手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車のお手入れ

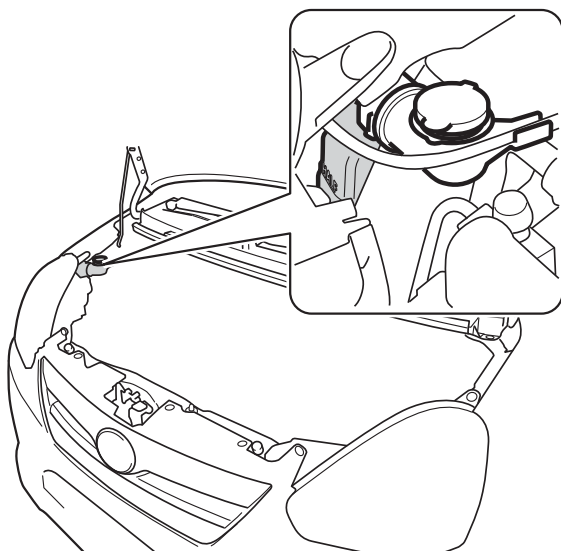
ウインド ウォッシャー液の補給

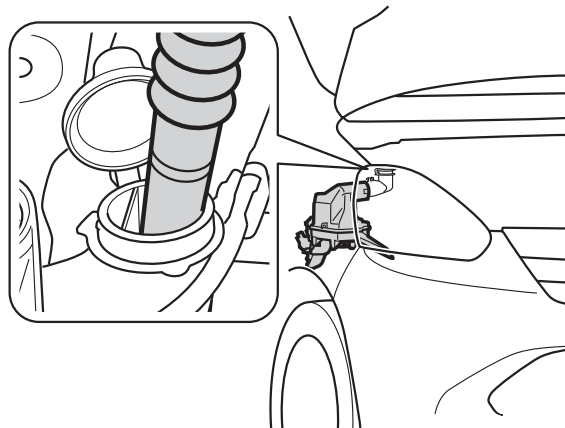
ウォッシャー液の量を定期的に点検してください。ウォッシャー液が不足しているときは、トヨタ純正ウインド ウォッシャー液を補給します。

アドバイス

- ウインド ウォッシャー液はトヨタ純正をおすすめします。ウォッシャー液の濃度の使い分けと注意事項はウォッシャー液の容器に記載されています。
- ウインド ウォッシャー タンクはフロント、リヤ兼用です。

▼ 点検のしかた

ウォッシャー タンクの側面から、液面を目視により確認します。

▼ 補給のしかた

ウォッシャー タンクのキャップを外し、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

⚠警告

- エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときはウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあり危険です。

⚠注意

- ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみや目づまりになるおそれがあります。

アドバイス

- ウォッシャー液をあふれるほど入れないでください。

車のお手入れ

タイヤの点検

タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧の点検は、最低でも月に1回行ってください。
タイヤが冷えているときに、タイヤ ゲージで空気圧が規定値にあるかを点検してください。
空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。
（タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。）

⚠警告

- 指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗や早期摩耗します。高速走行時にスタンディング ウェーブ現象*によりタイヤがバースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

- タイヤが冷えているときとは、一般道路で走行距離が 1km以下の場合、または 3 時間以上駐車している状態のことをいいます。
- タイヤが暖まっているときは、タイヤの中の空気が膨張しているので、約 20～30kPa（0.2～0.3 {kgf/cm^2} ）空気圧が高くなっています。この場合、誤って空気圧を下げないようにしてください。

タイヤの亀裂、損傷

タイヤの側面や接地部全周に亀裂や損傷がないかを点検してください。
また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検してください。

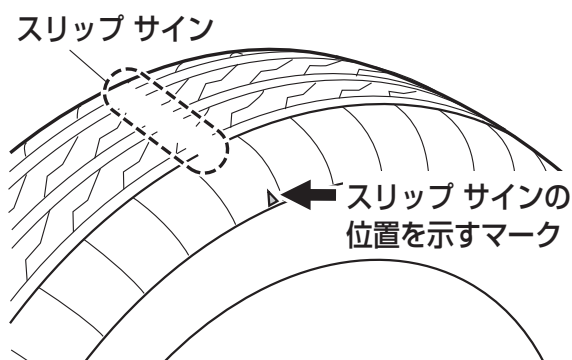
⚠警告

- タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。
- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
  また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横滑りするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、トヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。

* 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

車のお手入れ

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

タイヤの溝の深さに不足がないかをスリップ サイン（摩耗限度表示）により点検してください。
また、タイヤの接地面全周に極端にすり減っている箇所がないかを点検してください。

⚠警告

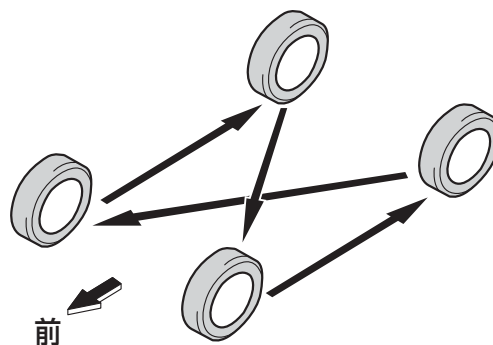
- 摩耗限度を超えたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップ サイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロ プレーニング現象*により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。摩耗限度を超えたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

* 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

タイヤのローテーション

タイヤは同じ位置で長く走ると、それぞれ異なった減りかたをします。これを防ぐために、タイヤの位置をローテーションしてください。
ローテーションは 5,000km走行ごとに行ってください。

▼ ローテーションのしかた

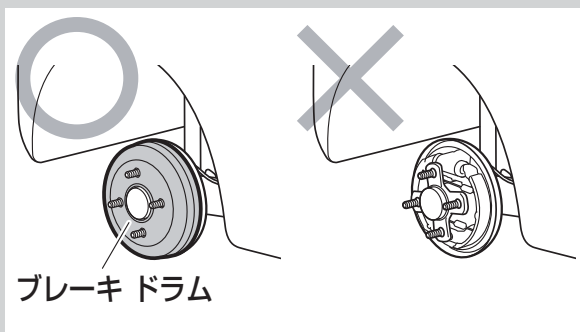
図の順にローテーションしてください。
（タイヤ交換→ 304 ページ）

アドバイス

- タイヤ パンク応急修理セット装着車では、応急用スペア タイヤを利用してタイヤのローテーションができません。トヨタ販売店にご相談ください。

タイヤ交換

▼交換作業を行うにあたって

⚠警告

- ジャッキ アップした車の下にもぐらないでください。万一、ジャッキが外れると身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- 駐車ブレーキは、必ずしっかりとかけてください。駐車ブレーキをかけずに後輪タイヤを取り外すと、まれにブレーキ ドラムがタイヤと一緒に外れることがあります。タイヤを外したあとは、ブレーキ ドラムが外れていないことを確認してください。
  ブレーキ ドラムが外れたままタイヤを交換すると、ブレーキが効かず思わぬ事故につながるおそれがあり大変危険です。

- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると、車両の安定性が損なわれたり、制動距離が長くなるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、ABSが正常に作動しないことがあります。

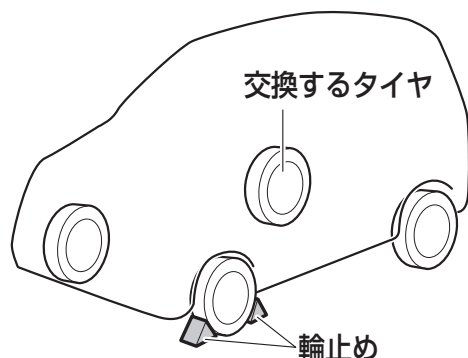
⚠警告

- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド パターン（溝模様）の物を装着してください。
- この車専用以外のホイールを使用しないでください。専用以外のホイールを使用すると、走行装置やブレーキ装置に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。
- アルミ ホイール装着車は、トヨタ純正アルミ ホイール専用品以外のナットは使用しないでください。走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。
- 傷、変形がある物は再使用しないでください。

⚠注意

- タイヤの空気圧を確認してください。
  （タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- 車を交通のさまたげにならず安全に作業できる平らな場所に移動させて作業を行ってください。
- パンクなどにより路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならない場所に寄せ、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。
- 人は車から降り、重い荷物は車から降ろしてください。

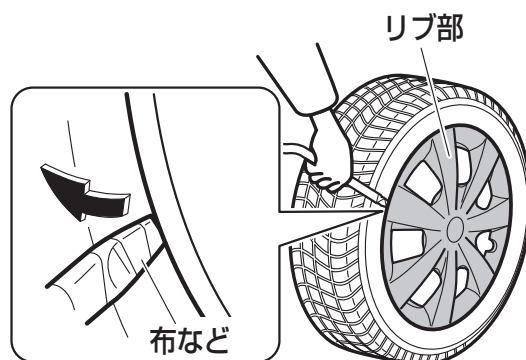
交換の手順

1. 駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンは停止し、シフト レバーをⓅレンジの位置にします。
2. 交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めを置きます。

アドバイス

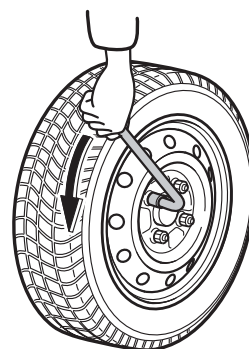
- 輪止めは、トヨタ販売店で購入できますので、トヨタ販売店にご相談ください。
- 輪止めが無い場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

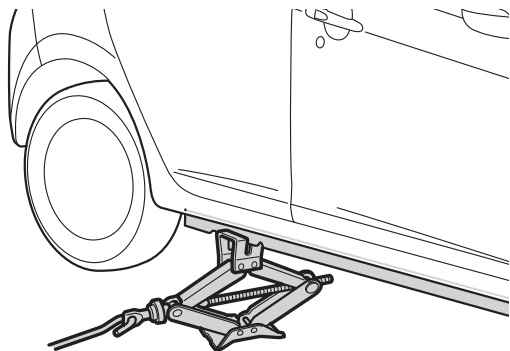
3. 工具、ジャッキを取り出します。

（格納場所→ 248 ページ）
（ジャッキの使いかた→ 249 ページ）

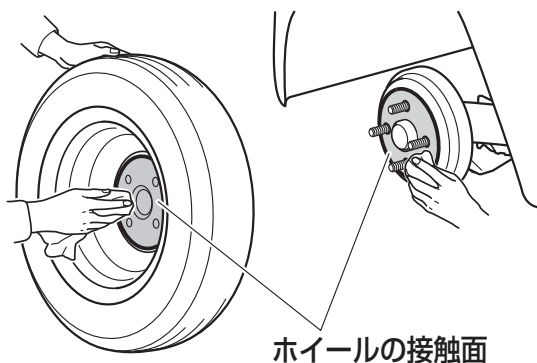
4. フル ホイール キャップ装着車は、傷付き防止のため、先端に布などを巻いたジャッキ ハンドルを穴の開いていない部分（リブ部）に差し込み、タイヤを支点にしてフル ホイール キャップを外します。

⚠注意

- キャップは手で外さないでください。けがをするおそれがあります。
- ホイール キャップを外すとき力を入れすぎないでください。けがをしたり、ボデーなどを傷付けるおそれがあります。
- ジャッキ ハンドルは必ず穴の開いていない部分（リブ部）に差し込んでください。ホイール キャップが割れるおそれがあります。

5. ホイール ナット レンチでホイール ナットを左に回し、手で回るくらいまでゆるめます。

車のお手入れ

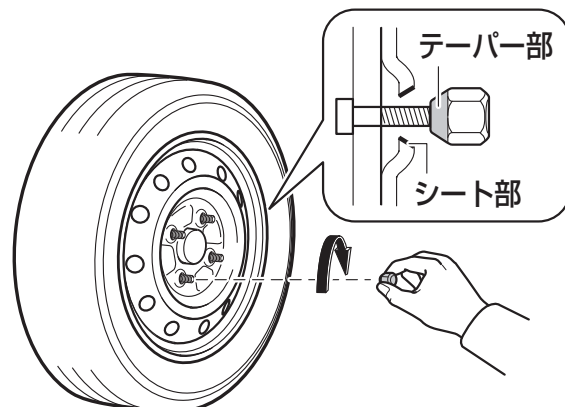
6. タイヤと路面が少し離れるまでゆっくりとジャッキ アップし、車体を上げます。
(ジャッキの使いかた→ 249 ページ)

7. 4 個のホイール ナットを外し、タイヤを外します。

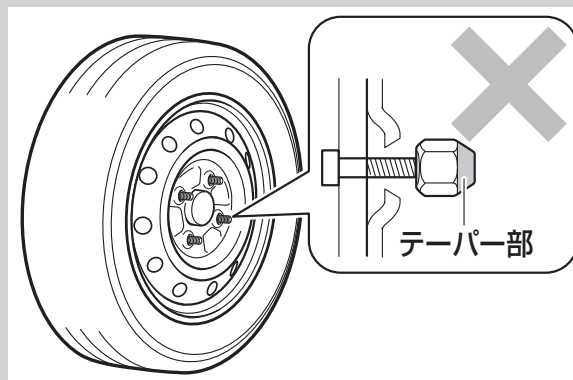
- タイヤを地面に置くときは、傷が付かないように、ホイール意匠面を上向きに置いてください。

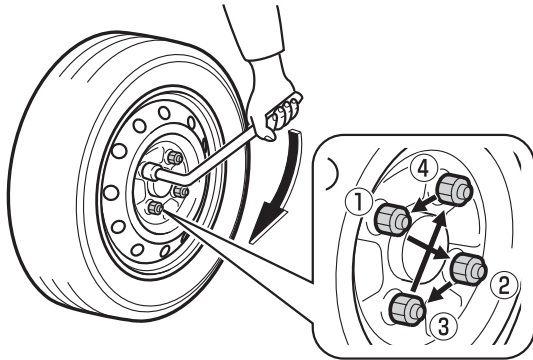
8. 取り付けるタイヤのホイールの接触面の汚れをふき取ります。

⚠注意

- タイヤを取り付けるときに、ホイールの取り付け部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

9. タイヤを取り付けます。

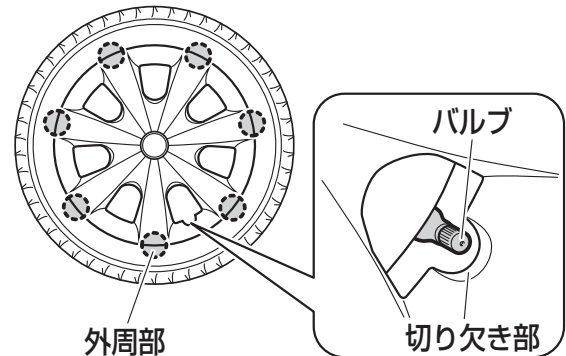
10. ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまで、ナットを右に回して仮締めします。

⚠警告

- 必ずナットのテーパ―部を内側にして取り付けてください。テーパ―部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- ナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損したり、ホイールが損傷するおそれがあります。

11. タイヤが地面につくまで車体をおろし、ホイール ナットを均等に対角線の順にホイール ナット レンチで 2、3度にわたり十分締め付けます。

⚠注意

- ホイール ナット レンチを足で踏んだり、パイプを継ぎたしたりしないでください。必要以上に締め付けると、ボルトが破損するおそれがあります。
  - 締付力（ホイール ナット レンチ先端にて）：440～590N｛45～60kgf｝
  - 締付トルク：103N･m ｛1,050kgf･cm｝

12. フル ホイール キャップ装着車は、フル ホイール キャップを取り付けます。

- タイヤのバルブとフル ホイール キャップの切り欠き部を合わせ、フル ホイール キャップの外周部を押して取り付けます。

13. 工具、ジャッキ、タイヤを片付けます。
14. 走行後ホイール ナットのゆるみがないことを点検します。

⚠注意

- タイヤを脱着したときは、しばらく走行したあと、再度ホイール ナットにゆるみがないことを確認してください。
- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランスの点検をトヨタ販売店で受けてください。

車のお手入れ

室内のお手入れ

ビニール、レザー、プラスチック、布材の汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてお使いください。洗浄後、残った洗剤分は真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。室内側のウインド ガラスも、こまめにふいておきましょう。汚れたままにしておくと、取れにくくなる場合があります。

⚠警告

- シート ベルトを清掃するときは、必ず中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。中性洗剤以外を使用すると、ベルトが弱くなり万一のときに正常なはたらきをしないことがあります。

⚠注意

- シートの下など見えにくい場所や狭い場所に手を入れるときは、けがをしないように十分注意してください。
- ベンジン、ガソリン、シンナーなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。
- 各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。
- 乾燥は直射日光をさけ、風通しが良く、ほこりの立たない日陰で行ってください。素材のいたみを早める原因となります。
- リヤ ウインド ガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。

エアコンのお手入れ

エアコン ガス

エアコン ガスは新冷媒HFC134a（R134a）を使用しています。地球環境保全のため、大気放出しないでください。

アドバイス

- エアコン ガスの補充、エアコンの修理をする場合はトヨタ販売店にご相談ください。

クリーン エア フィルター

オプション/グレード別装備

エアコンには、車外から進入する粉じんなどを除去し、車内を快適な空気に保つクリーン エア フィルターが取り付けられています。快適にお使いいただくため定期的な交換をおすすめします。

- フィルターの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 交換の目安は20,000km（大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所は10,000km）です。

⚠注意

- エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

ボデー、塗装面のお手入れ

塗装面など車体の外観を美しく保つために、洗車、ワックスがけを月１回程度の割合で定期的に行ってください。また、長時間屋外で駐車するときは、ボデー カバーを付けるように心がけましょう。
車体にほこりや異物などを付けたままにしておきますと、塗装面の劣化や車体、部品の腐食を早めたり、化学変化による塗装面の変色やはん点の発生などの原因になります。
下記の場合は早めに洗車をしてください。

- 海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ばい煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所に駐車したとき
- コール タール、花粉、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき
- ほこり、泥などで著しく汚れたとき

アドバイス

- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは、特に車体の下回り、足回りを念入りに洗車してください。
- 塗装の飛石傷やかき傷は、腐食の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
- 保管、駐車は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しくお手入れを行ってください。

洗車

▼洗車の手順

1. 十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗います。汚れのひどい箇所はカー シャンプー液または中性洗剤で洗い、水で完全に洗い落とします。
2. 水が乾かないうちにふき取ります。

⚠警告

- 故意に空気取り入れ口やエンジン ルーム内の電気部品に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障の原因になります。
- 洗車後や水たまり走行後は低速でブレーキ ペダルを軽く踏んでブレーキが正常にはたらくことを確認してください。ブレーキ パッドがぬれていると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで数回ブレーキ ペダルを軽く踏んでください。

⚠注意

- 高温の湯で洗車すると樹脂部品などが損傷するおそれがあります。
- 下回り足回りを洗うときは手をけがしないように注意してください。
- ランプのレンズ表面をワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤でふいたり、硬いブラシでこすらないでください。レンズが破損したり、劣化を早めるおそれがあります。

車のお手入れ

アドバイス

- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤を使用すると、車体の色によっては色落ちの原因になることがあります。

○自動洗車機を使用するとき

⚠注意

- エアコン コントロール パネルの内外気切り替えレバー、またはスイッチで“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。
- ミラー、アンテナは格納し、前側から洗車してください。
- ときによりブラシの傷が付き、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。

○高圧洗車機を使用するとき

⚠注意

- ドア ガラスやドア周りなどの開閉部分に洗車ノズルを向けると、車内に水が入ることがあります。

<u>キー フリー システム装着車</u>

- フロント ドア アウター ハンドル、およびバック ドア アウター ハンドル下側のスイッチ周辺に洗車ノズルの先端を近付けすぎないようにしてください。水圧によりスイッチが破損するおそれがあります。

ワックスがけ

月に一回程度または水をはじかなくなったときに行ってください。

▼ワックスをかける前に

塗装面の汚れを水洗いし、水分を十分にふき取ってから日陰または車体表面が体温以下になっているときに行ってください。ワックスはトヨタ純正カー ワックスをおすすめします。

⚠注意

<u>キー フリー システム装着車</u>

- フロント ドア アウター ハンドル、およびバック ドア アウター ハンドル下側のスイッチ周辺にワックスが付着したときは、鋭利なもので清掃しないでください。スイッチが変形して操作のさまたげになるおそれがあります。

アドバイス

- 塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くなったりムラになることがあります。
- 研磨剤（コンパウンド）入りのワックスを使用すると、車体の色によっては色落ちの原因になることがあります。

樹脂部分のお手入れ

樹脂塗装部品（バンパーなど）にガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。十分に水洗いをしたあとただちに柔らかい布でふき取ってください。

アドバイス

- 樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、トヨタ販売店にご相談ください。不適当な塗料を使用すると塗膜をいためます。

アルミ ホイールのお手入れ

オプション/グレード別装備

アルミ ホイールはボデーの洗車と同じ要領で行い、ボデーと同じワックスでワックスがけをしてください。

⚠警告

- アルミ ホイールにワックスがけをする際は、ホイール ナットの座面にワックスを付着させないように注意してください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損したり、ホイールが損傷するおそれがあります。

ワイパーの交換

⚠警告

- ワイパー ブレード、ラバーを取り外したときは、ワイパー アームを倒さないでください。ウインド ガラスやボンネットに傷が付くおそれがあります。

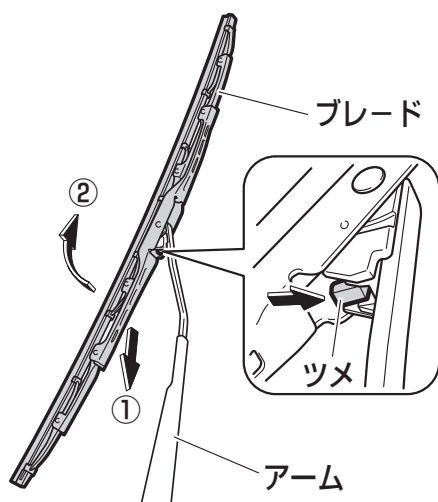
⚠注意

- ワイパー ブレード、ラバーはトヨタ純正をおすすめします。トヨタ純正以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- 傷んだワイパー ブレード ラバーを使用し続けると、ウインド ガラスを傷付けるおそれがあります。拭きむらがある場合は、早めに交換してください。
- フロント ワイパー アームを起こすときは、必ず運転席側のワイパー アームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパー アームから戻してください。
- 起こしたワイパー アームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。離れた位置から戻すと、ワイパー アームが変形したり、ウインド ガラスに傷が付くおそれがあります。
- 確実に取り付けられていることを確認してからワイパーを作動させてください。ウインド ガラスに傷が付くおそれがあります。

フロント ワイパー

○ワイパー ブレード

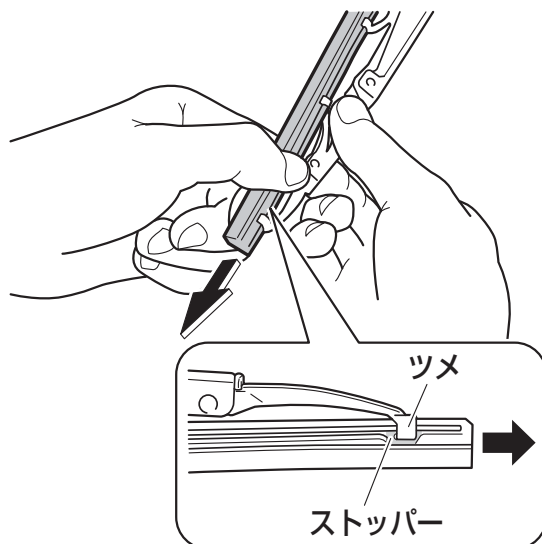
▼取り外しかた

1. アームを起こします。
2. ブレードをツメが見える角度まで傾けます。
3. ツメを押しながら、ブレードを矢印①の方向に引いたあと、矢印②の方向に抜き取ります。

▼取り付けかた

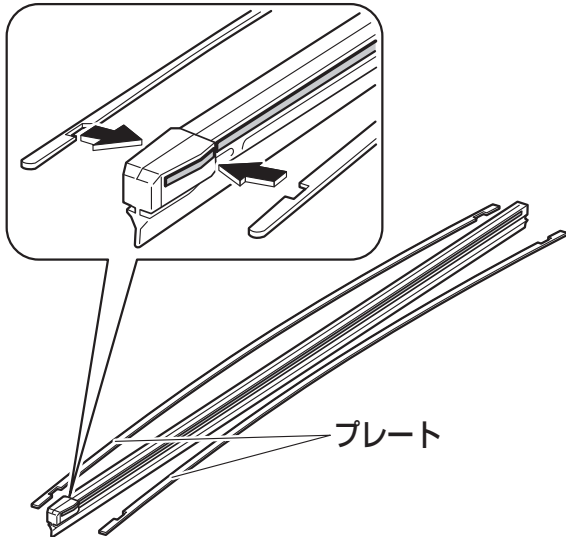
- ブレードをアームに取り付けます。
- ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。

○ワイパー ブレード ラバー

▼取り外しかた

1. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引きます。

2. そのままラバーをブレードから引き抜きます。

▼取り付けかた

1. ラバーからプレートを取り外します。
2. ラバーを取り替えます。
3. プレートの反りの向きに注意して、プレートをラバーに差し込みます。

4. ストッパーがない側からラバーをブレードに挿入します。
5. 取り付けたとき、ストッパーのある側が運転席側になるようにしてください。

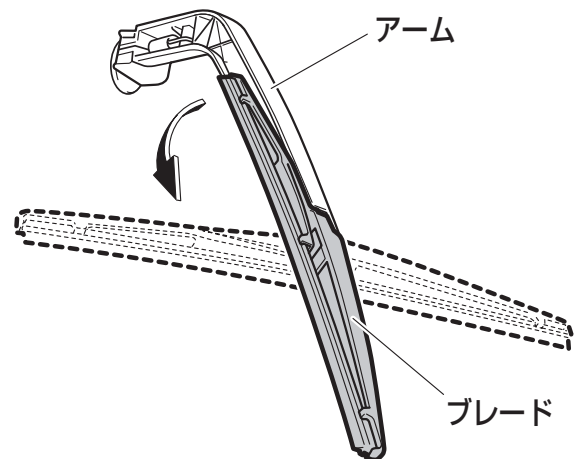
⚠注意

- ラバーのストッパーにブレードのツメを確実に挿入してください。ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。

リヤ ワイパー

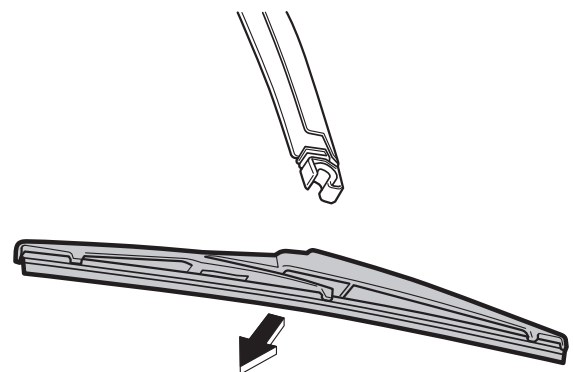
○ワイパー ブレード

▼取り外しかた

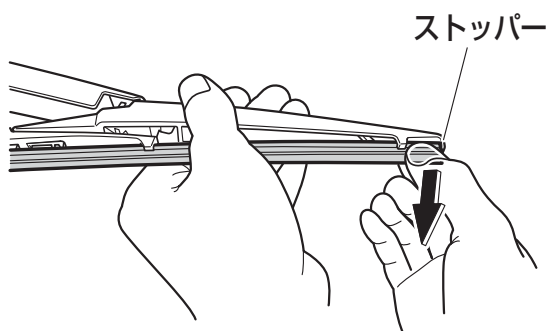
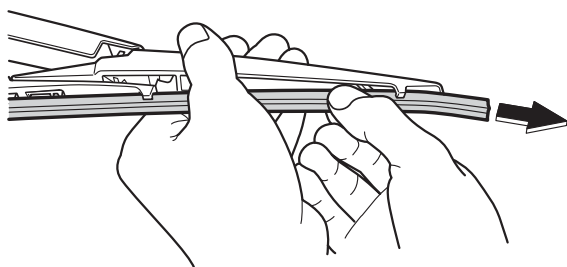
1. アームを起こします。
2. ブレードを矢印の方向に回し、アームと垂直にします。

3. ブレードを矢印の方向に引いて、アームからブレードを引き抜きます。

▼取り付けかた

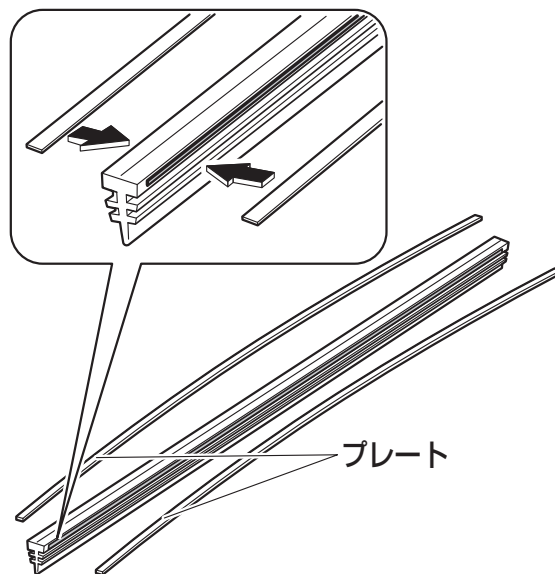
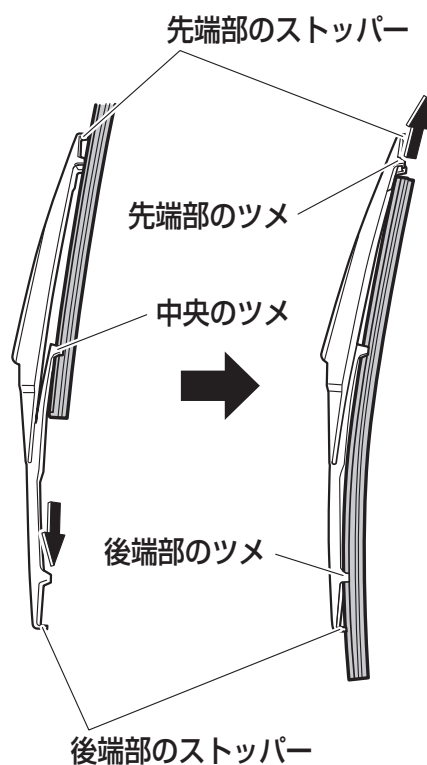
逆の手順で行います。

車のお手入れ

○ワイパー ブレード ラバー

▼取り外しかた

1. ラバーを手前に引いて、ブレードの先端部のストッパーから取り外します。

2. ラバーをブレードから引き抜きます。

▼取り付けかた

1. ラバーからプレートを取り外します。
2. ラバーを取り替えます。
3. プレートの反りの向きに注意して、プレートをラバーに差し込みます。

車のお手入れ

4. ブレードの中央のツメからラバーを挿入します。
5. ブレードの後端部のツメにラバーを通し、さらにラバーを挿入して、後端部のストッパーを通過させます。
6. 先端部のツメにラバーを通し、先端部のストッパーまで挿入します。
7. 後端部のツメにラバーが確実に挿入されていることを確認してください。

⚠注意

- ブレードのツメをラバーに確実に挿入してください。ウインド ガラスに傷が付くおそれがあります。

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪時、寒冷時に必要となる
運転知識について説明しています。

■ 積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かってのお手入れ

点検方法などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下しエンジン始動やキー フリー システム（オプション/グレード別装備）に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジン オイル

冬期はオイルの劣化が激しくなります。指定グレードのエンジン オイルを、早めに交換してください。

冷却水

冷却水の凍結を防ぐためにクーラント（不凍液）の濃度の確認をトヨタ販売店に依頼してください。

ウインド ウォッシャー液

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

寒冷地用ワイパー ブレード

降雪期に使用する寒冷地用ワイパー ブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。
寒冷地用ワイパー ブレードは、トヨタ販売店で各車指定のブレードをご購入ください。

アドバイス

- 高速走行時は、通常のワイパー ブレードよりウインド ガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合は速度を落として走行してください。

積雪、寒冷時の取り扱い

走行前点検と準備

走行前点検の際に下記の点検も行ってください。

足回りなどの着氷

車の下回りをのぞいて、足回りなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうかも確認してください。

車体への積雪

屋根に積もった雪は、走行する前に取り除いてください。走行時、ガラス面に落下すると視界のさまたげとなり危険です。

⚠注意

- 氷結している部分を無理に取り除くと塗装などをいためる場合がありますので注意してください。

ドアの凍結

ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア周りのゴムがはがれたり、破損するおそれがあります。ぬるま湯をかけて氷をとかしてください。開けたあとは水分をよくふき取ってください。不十分ですとまた凍結することがあります。

ウインド ガラスの凍結

凍結しているときは、ぬるま湯をかけて氷をとかし、水分をよくふき取ってください。

⚠注意

- 氷をとかすときはぬるま湯を使用し、熱湯はかけないでください。ウインド ガラスが割れるおそれがあります。
- フロント ウインド ガラスに付いた氷を取り除くために、氷をたたいて割らないでください。フロント ウインド ガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

ワイパーなどの凍結

ワイパー、ドア ミラー、ドア ガラスなどが凍ったり、雪が固まって動かないときは、ぬるま湯をかけて氷や雪をとかし、水分をふき取ってください。

⚠注意

- 凍結したまま、または雪が固まったままワイパー、ドア ミラー、ドア ガラスなどを無理に作動させると、ワイパー ゴムを損傷したり、モーターなどが故障するおそれがあります。

乗車時の注意

靴にこびりついた雪は、乗車時によく落としてください。ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。また、床面などが加湿状態となり、腐食の原因となります。

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の走行

雪道、凍結路を走るときはタイヤ チェーンまたはスノー タイヤを装着してください。

⚠警告

- 積雪時は、スピードを控えめにしてください。路面が凍結している可能性が高く、大変スリップしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  チェーン装着車、スノー タイヤ装着車、また 4WD車、ABS装着車であっても慎重な運転をしてください。

タイヤ チェーンの装着

前輪駆動車ですので、チェーンは前 2 輪に装着します。 4 WD車も前 2 輪に装着します。

- チェーンはサイズに合った物を使用してください。
- トヨタ純正品のチェーンのご使用をおすすめします。
  トヨタ純正品以外のチェーンの中には、使用すると車体に当たり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

積雪、寒冷時の取り扱い

⚠注意

- タイヤ チェーンは車のタイヤのサイズに合った、トヨタ純正品または指定サイズの物を使用してください。サイズの合わないチェーンを使用すると、ブレーキ配管や車体を破損し、危険です。
- タイヤ チェーンの取り付けは各タイヤ チェーン付属の取扱説明書にしたがって行ってください。
- タイヤ チェーン装着時は 30km/h以上で走行しないでください。タイヤ チェーンにかかる負担が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。
- 取り付け作業は雪上などをさけ交通のさまたげにならない安全で平らな場所で行ってください。必ず駐車ブレーキをかけ、非常点滅灯を点滅させ、人や荷物は降ろし、停止表示板も使用してください。
- 作業をするときは、車体端部などでけがをしないように注意してください。
- VSC装着車は、チェーン装着時VSCが正確に作動しない場合があります。
- タイヤ チェーンを装着するとホイール キャップやアルミ ホイールに傷が付くおそれがあります。ホイール キャップ装着車はホイール キャップを取り外した状態で、タイヤ チェーンを装着してください。

スノー タイヤの装着

⚠警告

- スノー タイヤ装着時も、4 輪とも必ず標準タイヤと同じ指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド パターン（溝模様）の物を装着し、指定の空気圧で走行してください。
- 地方により条例の違いがありますので、その地区の条例にしたがってください。

積雪、寒冷時の取り扱い

走行中の点検と注意

ブレーキの凍結

積雪、寒冷時ではブレーキ装置に付着した水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキ ペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

⚠注意

- 万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

雪道、凍結路の注意

⚠注意

- 雪道や凍結路では、急加速、急減速、急ブレーキ、急ハンドルをさけてください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。

走行中の雪の付着

雪道走行時、タイヤ ハウス裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。ときどき異常のないことを確認してください。ランプ類などは、走行中に雪のために暗くなることがあるので、ときどき異常のないことを確認してください。

パンク時の対応

タイヤ パンク応急修理セットで応急修理をしてください。

（タイヤ パンク応急修理セット → 260 ページ）

積雪、寒冷時の取り扱い

走行後の取り扱い

駐車方法

屋外に駐車するときは、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて止めてください。
エンジンが冷えすぎると、始動しにくくなることがあります。
また、ワイパー アームは起こしてください。寒さでワイパーがガラスに凍りついたり、雪の重みでアーム取り付け部がこわれることがあります。

⚠警告

- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

- フロント ワイパー アームを起こすときは、必ず運転席側のワイパー アームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパー アームから戻してください。

アドバイス

- 寒冷時は駐車ブレーキをかけるとブレーキ装置が凍結して駐車ブレーキが解除できなくなるおそれがあります。
駐車ブレーキをかけずにシフト レバーをⓅレンジに入れて、輪止めをしてください。
- 軒下や樹木の下での駐車はさけてください。落雪で車体を損傷するおそれがあります。
- 降雪時に長時間駐車するときは、ピラー アンテナを収納してください。
（ピラー アンテナ→ 220 ページ）

積雪、寒冷時の取り扱い

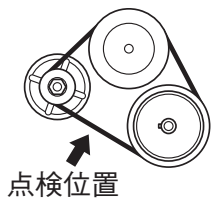
洗車方法

凍結防止剤をまいた道路を走行したときは、早めに下回りと足回りを洗車してください。放置すると腐食の原因となります。洗車後は凍結防止のため水分をよくふき取ってください。

アドバイス

- ドアのキー挿入口やドア周りのゴム部の水分は特によくふき取ってください。

格納方法

長時間使わないで屋外に放置しておくときは、塗装面の保護とドア周りの凍結を防ぐために、ボデー カバーを使用してください。

⚠警告

- エンジンの冷えすぎを防ぐために毛布でおおったり、フロント グリルに段ボールや、新聞紙を挟み込まないでください。これがもとで燃え出す危険があります。

サービス データ

項　目		サービス データ	
点火プラグ	メーカー	NGK	デンソー
	プラグ型式	ILKR6F11 （イリジウム プラグ）	SXU20HPR11 （イリジウム プラグ）
ファン ベルト	たわみ量（㎜） 押力98N{10㎏f}時	7.6〜9.3（点検時） 点検位置	
アイドリング回転数（rpm）		800	
ブレーキ ペダル	遊び（㎜）	0.5〜3.0	
	床板とのすき間（㎜） （踏力294N{30㎏f}時）	77.0以上（2WD車）、79.1以上（4WD車）	
駐車ブレーキ	引きしろ（操作力196N{20㎏f}時）	4〜7ノッチ	
バッテリー		M-42	
フューエル タンク	容量（ℓ）（無鉛ガソリン使用）	30（2WD車）、34（4WD車）	
ウォッシャー タンク	容量（ℓ）	1.5	

項目			サービス データ
エンジン オイル	使用オイルと交換時期		・トヨタ純正モーター オイルSAE0W-20＊1 （API分類SN/RC、ILSAC規格GF-5） ・トヨタ純正モーター オイルSAE5W-30 （API分類SN/RC、ILSAC規格GF-5） ・トヨタ純正モーター オイルSAE0W-20 （API分類SM/EC、ILSAC規格GF-4） ・トヨタ純正モーター オイルSAE5W-30 （API分類SM/EC、ILSAC規格GF-4） 6か月ごとまたは、10,000kmごと（5,000kmごと＊2）のどちらか早い方
	交換量（ℓ）	オイル交換時	約2.7
		オイルとオイルフィルター（オイルクリーナー）交換時	約2.9
オイル フィルター（オイル クリーナー）	交換時期		10,000kmごと（5,000kmごと＊2）
トランスミッション オイル	交換時期		50,000kmごと
	使用オイル		トヨタ純正CVTフルードTC
	交換量（ℓ）		約2.4（ドレン）、約5.7（全容量）
トランスファ オイル	交換時期		100,000kmごと
	使用オイル		トヨタ純正ハイポイド ギヤ オイルSX SAE85W-90 （API分類GL-5）
	交換量（ℓ）		約0.57

＊1 0W-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

＊2 シビア コンディション条件での定期交換の場合
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

⚠注意

オートマチック車のトランスミッション オイルを交換する場合

- トヨタ純正オイル（トヨタ純正CVTフルードTC）のみご使用ください。ほかのオイルを使用したり、混合して使用すると、故障するおそれがあります。
  オイルの交換については、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

項	目	サービス データ
リヤ デファレンシャル オイル	交換時期	30,000kmまたは2年（初回は3年）
	使用オイル	トヨタ純正ハイポイド ギヤ オイルSX SAE85W-90（API分類GL-5）
	交換量（ℓ）	約0.81
ブレーキ オイル	交換時期	2年ごと（初回は3年）
	使用オイル	トヨタ純正 ブレーキ フルード2500H
エアクリーナー エレメント	交換時期	40,000kmごと（20,000kmごと*）
冷却水（除くリザーバータンク）	交換時期	2年ごと（初回は3年）
	使用液	トヨタ純正スーパー ロングライフ クーラント
	規定濃度（%）	30（寒冷地50）
	全容量（ℓ）	約2.8

＊　シビア コンディション条件での定期交換の場合
　　詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

タイヤ サイズ	タイヤ空気圧（空車時：kPa{kgf/㎠}）				タイヤの溝の深さ（㎜）	タイヤ ローテーション時期
	前 輪		後 輪			
	一般	高速	一般	高速		
155/65R14	260{2.6}				1.6以上	5,000kmごと

さくいん

ア

イ

ウ

エ

オ

カ

キ

ク

ケ

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

チ

ツ

テ

ト

ナ

ニ

ネ

ハ

ヒ

フ

ヘ

ホ

マ

ミ

メ

ユ

ヨ

ラ

リ

ル

レ

ロ

ワ

3

4

A

C

E

F

I

L

S

T

V

W

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール **0800-700-7700**

オープン時間　365日　9：00～18：00

所在地　〒450 - 0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp